

筑波大学博士（言語学）学位請求論文

日本語連体修飾節を中国語に訳す為の

翻訳パターンの作成

—被修飾語の意味役割に基づく新提案—

谷 文詩

2019年度

目次

| | |
|---------------------------------------------------------------|----|
| 第1章 序章 | 1 |
| 1.0 本章概要 | 1 |
| 1.1 研究背景 | 1 |
| 1.2 目的と研究方法 | 8 |
| 1.3 本論文の用語 | 9 |
| 1.4 本論文の構成 | 10 |
| 第2章 先行研究と本論文の位置付け | 12 |
| 2.0 本章概要 | 12 |
| 2.1 連体節に関する日中対照研究 | 12 |
| 2.2 日本語の連体修飾節を中国語に訳す方法に関する研究 | 17 |
| 2.3 フローチャートで日中翻訳規則を検討する研究 | 20 |
| 2.4 先行研究の問題点 | 21 |
| 2.5 本論文の位置付け | 24 |
| 第3章 「分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について①：内の関係連 体節 | 28 |
| 3.0 本章概要 | 28 |
| 3.1 はじめに | 28 |
| 3.2 考察対象 | 30 |
| 3.3 内の関係連体節の翻訳パターン | 31 |
| 3.4 内の関係連体節の翻訳パターンの適用条件について | 34 |
| 3.4.1 被修飾語の主節動詞・連体節動詞に対する「従属の度合」と翻訳パターンの選択に ついて..... | 36 |
| 3.4.1.1 日本語における名詞の動詞に対する「従属の度合」について | 36 |

| | |
|-----------------------------------------------------|------------|
| 3.4.1.2 被修飾語の連体節動詞・主節動詞に対する従属度合と各翻訳パターンの選択 | 38 |
| 3.4.2 パターンⅢの適用条件について | 48 |
| 3.4.3 パターンⅠとパターンⅡの適用条件について | 54 |
| 3.4.3.1 連体節と主節との時間的關係と翻訳パターンの適用条件 | 55 |
| 3.4.3.2 「眼前描写」・「非眼前描写」機能と翻訳パターンの適用条件 | 61 |
| 3.5 内の關係連体節の翻訳アプローチ | 66 |
| 3.6 内の關係連体節の翻訳アプローチについての検証 | 79 |
| 第4章 「分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について②：命題補充型連体節 | 109 |
| 4.0 本章概要 | 109 |
| 4.1 はじめに | 109 |
| 4.2 考察対象 | 111 |
| 4.3 命題補充型連体節の翻訳パターン | 113 |
| 4.4 命題補充型連体節の翻訳パターンの適用条件について | 117 |
| 4.4.1 「訳文でも、日本語原文における被修飾語が残るか否か」を決定づける条件について | 117 |
| 4.4.2 「訳文でも、日本語原文における被修飾語が名詞の役割を果たすか否か」を決定づける条件について | 121 |
| 4.4.3 パターンⅠの適用条件について | 123 |
| 4.4.4 パターンⅡとパターンⅢの適用条件について | 128 |
| 4.5 命題補充型連体節の翻訳アプローチ | 133 |
| 4.6 命題補充型連体節の翻訳アプローチについての検証 | 135 |
| 第5章 「非分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について | 153 |
| 5.0 本章概要 | 153 |
| 5.1 はじめに | 153 |
| 5.2 日本語における連体節の節長と非分訳法の適用条件について | 155 |

| | |
|--------------------------------------------------------------------|------------|
| 5.2.1 コーパス構成..... | 156 |
| 5.2.2 日中連体節の節長の傾向と非分訳法の適用条件..... | 157 |
| 5.3 被修飾語の連体節動詞に対する意味役割と非分訳法の適用条件 | 159 |
| 5.3.1 連体節の形成の可能性に関する格の順位について | 159 |
| 5.3.2 短い内の関係連体節構文の翻訳パターンについて | 164 |
| 5.3.2.1 与格関係の内の関係連体節構文について | 165 |
| 5.3.2.2 随格関係の内の関係連体節構文について | 169 |
| 第6章 日本語連体修飾節の翻訳アプローチの検証 ——内の関係連体節と命題補充型連 体節について—— | 171 |
| 6.0 本章概要 | 171 |
| 6.1 日本語連体修飾節の翻訳アプローチ | 171 |
| 6.2 日本語連体修飾節の翻訳アプローチについての検証 | 194 |
| 第7章 終章 | 196 |
| 付録1 翻訳アプローチの有効性を検証するために用いた日本語原文とその訳文..... | 206 |
| 付録2 母語話者による各訳文の品質評価..... | 211 |
| 参考文献..... | 213 |

謝 辞

本研究を遂行し学位論文をまとめるにあたり、多くのご支援とご指導を賜りました、指導教官である矢澤真人教授に深謝の意を表しております。また、本論文作成に当たり、審査委員として多くのご助言をいただきました、白井啓介教授、沼田善子教授、橋本修准教授には深く感謝いたしております。

本論文の校閲におきましては、多くのご支援を賜りました菅野倫匡博士に深く感謝しております。筑波大学日本語学研究室の各位には研究遂行にあたり日頃より有益なご討論ご助言をいただき、ここに感謝の意を表しております。

検証アンケート調査にご協力いただいた皆様にこころから感謝いたしております。

最後に、これまで自分の思う道を進むことに対し、温かく見守りそして辛抱強く支援してくださった両親と彼氏に対しては深い感謝の意を表して押します。

本研究は中国国家留学資金の助成を受けたものであります。

凡 例

用語の記号：

「」：本論文で用いる日本語の専門用語、引用する言葉、および特別に強調する言葉は全て「」で示す。

“”：本論文で用いる中国語の専門用語、引用する言葉、および特別に強調する言葉は全て「」で示す。

用例の記号：

()：用例の前の括弧に入れた番号は章ごとに改める。

()：用例の後の括弧は出典を示す。

【】：用例の後の【】号は中国語文の逐語訳される日本語文を示す。

____：用例・引用中の下線は(特に断らない限り)筆者によるものである。

？：用例は不自然であることを示す。

第1章 序章

1.0 本章概要

序章となる本章では、日本語の連体節を中国語に訳す方法に関する研究の背景を概観した上で、先行研究のどのような点に課題が残されているのか、また、どのような目的を設定することでそれらの課題を克服できるかという点について述べる。1.1 では、本論文の研究背景、1.2 では本論文の目的と研究方法について説明する。また、1.3 では、本論文で用いる基本的な用語について言及する。1.4 では、本論文の構成について説明する。

1.1 研究背景

日中両言語には、名詞性修飾成分が共に存在するため、日本語の「連体修飾節+被修飾語」構文は中国語の「連体修飾節+被修飾語」構文にそのまま対応する可能性がある。日中翻訳分野において、そのまま対応可能とは、日本語の「連体修飾節+被修飾語」構文を、その連体修飾関係を変えずに中国語の「連体修飾節+被修飾語」構文に訳せるということである。

しかし、実際には、どのような場合であっても、日本語の「連体修飾節+被修飾語」構文を中国語の「連体修飾節+被修飾語」構文にそのまま訳せるわけではなく、以下のように中国語の「連体修飾節+被修飾語」構文に訳せる場合と訳せない場合が生じる。(1a)は訳せる例であり、(2a)、(3a)、(4a)は訳せない例である。

(1a) 先週スーパーで買ったパンはもう腐った。(作例)¹

(1b) 上周在超市买的面包已经腐坏变质了。(筆者訳)²

¹ 本論文では、出典を明記しない用例はすべて作例である。

² 本論文では、出典を明記しない訳文はすべて筆者訳である。

(2a) 山田さんが二百万円を貸した男は行方不明になった。

(2b) ? 山田借给 200 万日元的男人失踪了。

(3a) 今現在、医者は体内の毒素を吸収する薬を使い、下剤と併せて排出を試みているという。³

(『半落ち』)

(3b) ? 据说，现在，医生使用吸收体内毒素的药，配合泻药一起，试着排出体外。

(4a) 櫻井は、医師のだらしなく開いた口から、ふわふわと小人が数人、中空を駆け上がる幻覚を見た。

(『散歩する侵略者』)

(4b) ? 櫻井看见了有几个小人从医生张开的嘴巴里飘出来，飘到半空中的幻覚。

このような問題について、日中翻訳分野では、短い日本語の連体修飾節(以下、「連体修飾節」を「連体節」と略すこととする)は中国語の連体節に訳せるが、長い日本語の連体節は中国語の連体節に訳しにくいという認識がある(周 1984 ; 遠藤ほか 1990 ; 孔 2004)。しかし、(2a)、(3a)は長い連体節とは認めがたいものであるにも拘わらず、中国語の連体節には訳せず、その原因については先行研究ではまだ明らかにされていない。この点は改めて検討する必要がある。

日本語の「連体節+被修飾語」構文を中国語の「連体節+被修飾語」構文に訳すという方法は、先行研究では「直訳」と言われる。翻訳の方略については、直訳と意識、分訳と非分訳の対立があり、『日本国語大辞典(第二版)』によれば、直訳とは、「外国語を、その字句・語法に忠実にしたがって一語一語をたどるように翻訳すること」である。また、意識とは、「原文の一語一語にとらわれなくて、全体の意味をくみ取って訳すこと」である(『日本国語大辞典(第二版)』)。

本論文では、日本語の連体節を中国語に訳す方法という枠の中で翻訳の方略を検討する。ここで検討される「直訳」の定義は、上のものとは異なり、「起点テキストを、自立語だけ

³ 原文は「今現在、体内のグランドキソンを吸収する薬を使い、下剤と併せて排出を試みているという」である。ここは、便宜のため、「医者」という主語を加えて、機械翻訳サイトが識別できない「グランドキソン」を「毒素」に変えた。

に忠実にしたがって一語一語をたどるように訳すこと」になる。目標テキスト(以下、「訳文」)の語法は起点テキスト(以下、原文)と完全に一致しないことがある。すなわち、日本語の「連体節+被修飾語」構文を中国語の「連体節+被修飾語」構文には訳さないことがある。「意識」の定義は『日本国語大辞典(第二版)』に掲載されているものと同じである。例えば、(5b)、(6b)のような訳文は、本論文では「直訳」で訳されたものと認め、(7b)のような訳文は「意識」と認められる。

(5a) 先週スーパーで買ったパンはもう腐った。

(再掲(1a))

(5b) 上周在超市买的面包已经腐坏变质了。

(再掲(1b))

| | | | | |
|------|----|-------|-----|----|
| (5c) | 先週 | スーパーで | 買った | パン |
| | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| | 上周 | 在超市 | 买的 | 面包 |

(6a) 今現在、医者は体内の毒素を吸収する薬を使い、下剤と併せて排出を試みているという。

(再掲(3a))

(6b) 现在，医生正在使用药物吸收体内的毒素，并尝试结合泻药促进排出。

【逐語訳：？今現在、医者は薬を使って、体内の毒素を吸収する。そして、下剤と併せて排出を試みている。】⁴

| | | | | |
|------|-----|-----|------|----|
| (6c) | 体内の | 毒素を | 吸収する | 薬 |
| | ↙ | ↘ | ↘ | ↙ |
| | 药物 | 吸收 | 体内的 | 毒素 |

⁴ 【】の中の日本語文はその上の中国語文に対する逐語訳である。本論文では、逐語訳は直訳と異なり、原文の字句・語法に忠実にしたがって一語一語をたどるように訳す方法であり、やや不自然な日本語になる場合がある。そのことを断っておく。

(7a) 壁に掛けられている時計は十一時を廻っている。

(『翼ある闇』)

(7b) 壁钟的指针已越过十一点。

(《有翼之暗》)

【逐語訳：掛け時計の指針はもう十一時を超えた。】

(7c) 壁に 掛けられている 時計

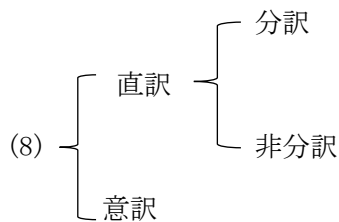


壁钟

【逐語訳：掛け時計】

(5a)の日本語の原文では、連体節部分が「先週スーパーで買った」であり、被修飾語が「パン」である。(5a)の日本語の「連体節+被修飾語」構文は、(5b)の中国語の「連体節+被修飾語」構文に訳されている。また、(5c)に示したように、日本語の「連体節+被修飾語」構文における自立語は忠実に中国語に訳されている。(6a)の日本語の原文では、連体節部分が「体内の毒素を吸収する」であり、被修飾語が「薬」である。この日本語の「連体節+被修飾語」構文は、(6b)の中国語の兼語文構文に訳されている。訳文は構文が原文とは異なっているが、(6c)に示したように、原文における自立語は忠実に中国語に訳されている。したがって、(5b)、(6b)のような訳文は、本論文では共に「直訳」で訳されたものと認められる。一方、(7a)の日本語の原文では、連体節部分が「壁に掛けられている」であり、被修飾語が「時計」である。この日本語の「連体節+被修飾語」構文は、(7b)のように1つの中国語の単語“壁钟「掛け時計」”に訳されている。訳文は構文が原文と異なっているうえに、(7c)に示したように、原文における自立語も忠実に中国語に訳されておらず、省略されているものがある。(7b)のように「原文の一語一語にとらわれなくて、全体の意味をくみ取って訳してある」訳文は、本論文では「意訳」で訳されたものと認められる。

一方、分訳は日中翻訳技法の1つであり、一つのクローズやセンテンスをいくつかに分割して訳す方法である(遠藤 1989)。本論文で取り扱う「分訳」とは、日本語の「連体節+被修飾語」構文における修飾関係を保たずに、中国語に訳す方法である。また、(8)に示したように、分訳と非分訳は直訳の下位概念である。



(5b)、(6b)の2つとも直訳の方法で訳された訳文であるが、(5b)は、日本語原文の連体修飾関係が保たれたまま日本語の「連体節＋被修飾語」構文が中国語の「連体節＋被修飾語」構文に訳されていることから、非分訳の方法で訳されたものと認められる。また、(6b)は、日本語の「連体節＋被修飾語」構文が中国語の兼語文構文に訳され、原文の連体修飾関係が保たれていないことから、分訳の方法で訳されたものと認められる。

また、周(1984)、遠藤ほか(1990)、孔(2004)などは日本語の「連体節＋被修飾語」構文を中国語に訳す方法を提出しているが、現在もなお、機械翻訳においても人間による翻訳においても、日本語の「連体節＋被修飾語」構文を中国語に訳すと、不自然な訳文が出てくることがある。

(9a) 今現在、医者は体内の毒素を吸収する薬を使い、下剤と併せて排出を試みているという。

(再掲(3a))

(9b) ? 据悉，目前医生正在使用吸收体内毒素的药物，但配合泻药进行排放。

(網易有道機械翻訳サイト(以下、「有道」)⁵⁾

【逐語訳：? 今現在、医者は体内の毒素を吸収する薬を使い、しかし下剤と併せて排出する。】

(9c) 目前，医生使用药物吸收体内的毒素，并试图将其与泻药一起排出。

(Google 機械翻訳サイト(以下、「Google」)⁶⁾

【逐字訳：? 今現在、医者は薬を使い、体内の毒素を吸収し、そして、下剤と併せて排出を試みている】

⁵⁾ <http://fanyi.youdao.com> 訳文は2019年02月11日に得たものである。

⁶⁾ <https://translate.google.co.jp/> 訳文は2019年02月11日に得たものである。

(9d) ? 目前, 医生正在使用吸收体内毒素的药物, 并与泻药一起进行排泄。

(TexTra 機械翻訳サイト(以下、「TexTra」)⁷)

【逐語訳：? 今現在、医者は体内の毒素を吸収する薬を使い、そして、下剤と併せて排出する。】

(10a) 櫻井は、医師のだらしなく開いた口から、ふわふわと小人が数人、中空を駆け上がる幻覚を見た。

(再掲(4a))

(10b) ? 櫻井从医生随意打开的嘴巴里，看到有几个轻飘飘的小矮人在空中翱翔，并有幻覚。

(有道⁸)

【逐語訳：? 櫻井は、医師のだらしなく開いた口から、ふわふわと小人が数人、中空を駆け上がるのを見て、幻覚がある。】

(10c) ? 櫻井，从不修边幅张口医生，看到蓬松和儿童是几个人，跑起来空心的幻覚。

(Google⁹)

【逐語訳：? 櫻井は、口がだらしなく開いた医師から、「ふわふわ」と「子供が数人である」を見て、ランニングしている中空の幻覚。】

(10d) ? 櫻井看到了从医师开着的嘴里飘溜溜的小狗几人，中空的幻覚。

(TexTra¹⁰)

【逐語訳：? 櫻井は、医師の開いた口から、ふわふわと犬が数人、中空の幻覚を見た。】

(11a) 案の定、缶コーヒーを片手に持ち、もう片方の手をポケットに突っ込んだままレジに近付いている男性がいた。

(『コンビニ人間』)

(11b) ? 果不其然，有个单手拿拿着罐装咖啡，另一只手插在口袋里，正往收银台走去的男人。

(《人间便利店》)

⁷ <https://mt-auto-minhon-mlt.ucri.jgn-x.jp/content/demo/> 訳文は 2019 年 02 月 12 日に得たものである。

⁸ 訳文は 2019 年 03 月 20 日に得たものである。

⁹ 訳文は 2019 年 03 月 20 日に得たものである。

¹⁰ 訳文は 2019 年 03 月 20 日に得たものである。

(11c) 果然不出所料，有位男子一只手拿着罐装咖啡，另一只手插在口袋里走向收银台。

(有道¹¹)

【逐語訳：案の定、ある男性が缶コーヒーを片手に持ち、もう片方の手をポケットに突っ込んだままレジに近付いている。】

(9a)の日本語の連体節構文について、「有道」と「TexTra」は非分訳法で訳し、訳文は不自然なものとなっているが、「Google」は非分訳法を適用せず、元の連体修飾関係を保たない「分訳法」で訳し、自然な訳文となっている。また、(10a)の日本語の連体節構文について、「Google」と「TexTra」は非分訳法で訳し、訳文は不自然なものとなっており、「有道」は分訳法で訳し、訳文は不自然なものとなっている。さらに、自然な訳文であったはずの「Google」による(9a)の訳文は2019年03月20日に、構文が一変し、“目前，医生使用吸收体内毒素的药物，并尝试将它们与泻药一起排出”という不自然な中国語文に置き換わった。つまり、分訳法で訳すパターンから非分訳法で訳すパターンになったということである。これは、日本語の連体節構文を中国語に訳す場合に機械翻訳サイトがどのような構文的な特徴を持つ日本語の連体節構文を非分訳法で訳し、どのような構文的な特徴を持つ日本語の連体節構文を分訳法で訳すのかという点について、まだ解決を見ていないということを示している。

これに加えて、(11a)の日本語の連体節構文については人間による翻訳では非分訳法によって訳されているが、この訳文は分訳法によって訳された機械翻訳サイトによるものと比べて違和感がある。これは、中国人の日本語学習者にとって、非分訳法を適用する日本語の連体節構文の特徴も分訳法を適用する日本語の連体節構文の特徴もまだ明らかになっていないということを示している。

本論文では、構文的・意味的な面から、日本語の連体節構文を中国語に訳すパターンと各パターンの適用条件を分析し、日本語の連体節構文の中訳アプローチの提案を試みる。

¹¹ 訳文は2019年03月20日に得たものである。

1.2 目的と研究方法

本論文は言語学の観点を取り入れ、フローチャートの形で日本語の連体節の中国語に訳すアプローチを提案することを目的とする。従来の翻訳手順は訳者自身の経験と語感に依存するが、本論文が提唱する翻訳アプローチは、客観的な言語学の研究成果に基づいたものである。経験的な翻訳手順と異なり、言語学の観点を取り入れた翻訳アプローチは、翻訳の経験が豊かではない中国人の日本語学習者・中国語の語感が鋭敏ではない日本人の中国語学習者にとって、把握しやすい翻訳の方法である。また、機械翻訳をはじめ、精密な意味構造を提示することが必要となるプロセスにおいて、個人的な経験・語感に依存する翻訳方法は不十分であり、何らかの方法によって構文情報を形式化する必要がある。言語学の観点を取り入れた翻訳アプローチはその構文情報を形式化することに支援すると考えられる。具体的に言えば、本論文では(12)に示した2点を目的とする。

(12a) 日本語の連体節構文を中国語に訳すパターンについて、これまでの研究において明らかにされてこなかった点を補完する。

(12b) 各翻訳パターンの適用条件を分析し、日本語の連体節構文の中国語に訳すアプローチを提案する。

(12a)については、「分訳法」に属している翻訳パターンを補完することとする。この内容は主として第3章3節と第4章3節において検討する。これに先立って、まずは、日本語の連体節構文を中国語に訳す方法に関する先行研究を取り上げ、批判的に検討する。さらに、人間の翻訳した訳文を大量に観察し、その中に出てくる翻訳手法を抽出し、一般化される翻訳パターンを提出する。翻訳パターンを分類する際にはMECEの原則に則り、「分訳」という手法を1つまたは2つの要因により相互に排他的ないくつのパターンに分け、完全な分訳法に属する翻訳パターンの集合を構成する。

(12b)については、主として、第3章4節、第4章4節と第5章で扱う。機械翻訳に資する翻訳アプローチとするためには、判断の条件は客観的なものが望ましいと考えられる。したがって、本論文では、被修飾語が文における意味役割に注目し、各翻訳パターンの適用条件を分析する。

1.3 本論文の用語

ここでは本論文で用いる主要な用語について、具体的な例とともに確認しておく。

(13) 本論文で使用する主要な用語

連体修飾節(あるいは、「連体節」): 述語以外、少なくとも1つの文を構成する成分が含まれる連体成分。

被修飾語: 連体節を受ける名詞・名詞句。

連体修飾節構文(あるいは、「連体節構文」): 連体節と被修飾語を合わせた全体。

連体修飾関係: 連体節が被修飾語を修飾する関係。

連体節動詞: 被修飾語を直接の項とする連体節における述語動詞。

主節動詞: 被修飾語を直接の項とする主節における述語動詞。

分訳法: 直訳法の下位概念である。日本語における連体修飾関係を保たずに、中国語に訳す方法。また、日本語文における自立語の増減はない。

非分訳法: 直訳法の下位概念である。日本語における連体修飾関係を保ったまま中国語に訳す方法。また、日本語文における自立語の増減はない。

原文(あるいは、「起点テキスト」): 中国語に訳される日本語文のこと。

訳文(あるいは、「目標テキスト」): 日本語文から訳される中国語文のこと。

(14a) 今現在、医者は体内の毒素を吸収する薬を使い、下剤と併せて排出を試みているという。 (再掲(3a))

(14b) ? 目前, 医生正在使用吸收体内毒素的药物, 并与泻药一起进行排泄。 (再掲(3b))

(14c) 吸收 体内毒素 的 药物
吸収する 体内の毒素 連体節マーク 薬

(14d) 目前, 医生使用药物吸收体内的毒素, 并试图将其与泻药一起排出。 (再掲(6b))

(14e) 药物 吸收 体内的毒素
薬 吸収する 体内の毒素

「連体節」は、(14a)の下線部「体内の毒素を吸収する」に相当する。述語動詞の「吸収する」以外には動詞が支配する対象格の項である「体内の毒素」がある。「被修飾語」は(14a)の二重下線部「薬」に相当する。連体節と被修飾語を合わせた「体内の毒素を吸収する薬」は「連体節構文」である。「体内の毒素を吸収する」と「薬」との修飾関係は「連体修飾関係」である。「連体節動詞」は(14a)の連体節における述語の役を果たす「吸収する」である。被修飾語の「薬」は「吸収する」が支配する主格の項を補っている。「主節動詞」は(14a)の「使い」に相当する。被修飾語の「薬」は「使い」が支配する対象格の項を補っている。(14a)の主節における述語動詞「試みている」は、被修飾語の「薬」と直接的な従属関係がないため、本論文では「主節動詞」とは認めない。

(14b)は(14a)を「非分訳法」で訳した訳文である。日本語原文における連体修飾関係「体内の毒素を吸収する+薬」はそのまま“吸收体内毒素的+药物”のような連体修飾関係を持つ中国語文に訳されている。また、(14c)に示したように、中国語訳文の連体節構文は、日本語原文の連体節構文と比べて付属語である連体節マーク“的”だけを加え、自立語の増減がない。(14d)は(14a)を「分訳法」で訳した訳文である。日本語原文における連体修飾関係「体内の毒素を吸収する+薬」は保たれず、“药物+吸收+体内毒素”のような「主語+述語+目的語」構文に訳されている。また、(14e)に示したように、中国語訳文の連体節構文は、日本語原文の連体節構文と比べて自立語の増減がない。

1.4 本論文の構成

本論文は、以下のような構成となっている。

第1章 序章

第2章 先行研究と本論文の位置付け

第3章 「分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について①：内の
関係連体節

第4章 「分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について②：命題
補充型連体節

第5章 「非分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について

第6章 日本語連体修飾節の翻訳アプローチの検証

——「内の関係連体節」と「命題補充型連体節」について——

第7章 終章

第1章(本章)では、本論文がどのような問題意識のもとで研究に取り組み、それらの課題に対して、どのような方法によって解決を試みるのかを示す。

第2章では、日本語の連体節構文を中国語に訳す方法に関する先行研究を概観し、批判的に検討を加える。また、本論文の位置付けと意義を示す。

第3章と第4章では、日本語の連体節構文を中国語に訳す場合について、「分訳法」の下位分類である翻訳パターンを提出し、各パターンの適用条件を分析する。第3章では、日本語における内の関係連体節を注目し、3つの翻訳パターンを提出し、翻訳パターンの選択と被修飾語の連体節動詞・主節動詞に対する従属の度合、被修飾語の主節動詞・連体節動詞に対する意味役割との関係を分析する。第4章では、日本語における外の関係の一種である命題補充型連体節に注目し、3つの翻訳パターンを提出し、翻訳パターンの選択と被修飾語の持つ命題形式、被修飾語の対訳語の品詞の種類との関係を分析する。

第5章では、従来の「短い日本語連体節構文は非分訳法で訳せる」という認識を問い直し、日本語の連体節の節長(節の長さ)と翻訳パターンの選択との関係を分析し、短くても非分訳法で訳せない日本語の連体節の構文的・意味的特徴を検討する。

第6章では、「内の関係連体節」と「命題補充型連体節」について、日本語連体節構文の中国語に訳す翻訳規則をまとめ、フローチャートの形で中訳アプローチを提案する。また、中国語母語話者を対象に、アンケート調査を実施し、提案する翻訳アプローチの有効性を検証する。

第7章は、終章であり、これまで検討してきた内容をまとめ、本論文全体の総括を行う。本論文の成果がもたらす学術的な意義についても本章で取り上げる。最後に、残された課題と今後の展望を述べる。

第2章 先行研究と本論文の位置付け

2.0 本章概要

本章では、日本語の連体節を中国語に訳す方法に関する先行研究を検討し、先行研究のどのような点に課題が残されているのか、本論文の位置付けはどのようなものであるのかについて述べる。2.1 では、連体節に関する日中対照研究について検討する。2.2 では、日本語の連体節を中国語に訳す方法に関する研究について説明する。また、2.3 では、フローチャートを用いて日中翻訳規則を検討した研究について検討する。2.4 では、先行研究のどのような点に課題が残されているのかについて整理する。2.5 では、本論文の位置付けについて改めて述べる。

2.1 連体節に関する日中対照研究

連体節に関する日中対照研究として、山田(1999)、孫(2009)、堀江ほか(2009)、Wangほか(2009)、楊(2011)などがある。本節では堀江ほか(2009)と孫(2009)を代表的な研究として取り上げる。

堀江ほか(2009)はパラレルコーパスの分析に基づき、日本語の連体節と中国語の連体節の質的・量的相違を解明し、日中両言語における連体節構文が異なる機能的な分布を有することを提示した。

堀江ほか(2009)は、(1a)～(1c)に示したように、連体節をその機能によって、「限定的修飾節」「情報付加的修飾節」「補足的修飾節」という3種類に分類した。

(1a) 昨日聞いた話が面白かった。

(1b) 鯨が好きな日本人が嫌われている。

(1c) 首相が辞職したニュースを聞いた。

(堀江ほか2009: 67、下線は筆者による)

(1a)の連体節は被修飾語の指示領域を限定する「限定的修飾節」でる。(1b)の連体節は被修飾語に情報を付加する「情報付加的修飾節」である。(1c)の連体節は被修飾語の意味内容を補う「補足的修飾節」である。

また、堀江ほか(2009)は、日本語小説『こころ』と『キッチン』から連体節を789例抽出し、その中国語訳本《心》と《厨房》における訳文とを対照し、各種類の日本語連体節を中国語に訳した場合に訳文が連体節になる割合を調査した。堀江ほか(2009)のデータを整理したものが表1である。日本語の連体節を中国語の連体節に訳した場合を「Jo=Ct」(Japanese original novel=Chinese translated version)と記し、日本語の連体節を中国語の連体節に訳さなかった場合を「Jo≠Ct」と記す。

表1 日本語小説と中国語訳本の連体節の対応(『こころ』と『キッチン』)

| 対応関係 | 限定的修飾節 | 情報付加的修飾節 | 補足的修飾節 | 合計 |
|-------|----------------------------|--------------|-------------|--------------|
| Jo=Ct | 74.24% (268) ¹² | 31.68% (96) | 28.80% (36) | 50.70% (400) |
| Jo≠Ct | 25.76% (93) | 68.32% (207) | 71.20% (89) | 49.30% (389) |
| 合計 | 100% (361) | 100% (303) | 100% (125) | 100% (789) |

表1に示したように、789例の日本語の連体節のうち、中国語の連体節に訳されたものは、400例であり、全体の50.70%に占めている。内訳を見ると、日本語の「限定的修飾節」が中国語の連体節に訳された割合は74.24%(268/361)であり、「情報付加的修飾節」が中国語の連体節に訳された割合は31.68%(96/303)であり、「補足的修飾節」が中国語の連体節に訳された割合は28.80%(36/125)である。表1のデータについて、堀江ほか(2009)は日本語の小説において生起する連体節の数が、中国語の訳文では半分あるいはそれ以下の数に減ってしまう傾向が見られ、この傾向は特に「情報付加的修飾節」と「補足的修飾節」において著しいと指摘した。

また、堀江ほか(2009)は、日本語の「限定的修飾節」が中国語の連体節に訳されやすく、「情報付加的修飾節」と「補足的修飾節」が中国語の連体節に訳されにくいという傾向は奥津(2007)で提出された「連体修飾」と「連用修飾」の平行性に関係すると述べた。

¹² ()の中には例文の数である。

奥津(2007)が指摘したように、日本語の連体修飾構文と連用修飾構文の間には、(2)～(5)に示すような平行的な関係が見られる。日本語の連体節を中国語に訳す場合、「限定的修飾節」に関しては高い対応関係を見せるが、「情報付加的修飾節」と「補足的修飾節」になると、中国語は「連体修飾構文」よりも、平行的な「連用修飾構文」を選択する傾向が高い(堀江ほか2009:71)。

(2) 順接

連体修飾：裸のジョンが生の肉を食べている。

連用修飾：ジョンが裸で生の肉を食べている。

(3) 逆接

連体修飾：甘いものが好きな田中先生がなんと酒を飲んでいる。

連用修飾：田中先生は甘いものが好きなのに、なんと酒を飲んでいる。

(4) 理由

連体修飾：塩辛い漬物は健康によくない。

連用修飾：漬物は塩辛いから健康によくない。

(5) 条件

連体修飾：酒を飲んだドライバーは運転してはいけない。

連用修飾：ドライバーは酒を飲んだら運転してはいけない。

(いずれも奥津 2007:257、下線は筆者による)

(6a) 私のことばを聞いたお嬢さんは、おおかた K を軽蔑するとでもとったのでしょうか。

(堀江ほか 2009:68、『ころ』)

(6b) ? 听了我的话的小姐大概以为我看不起 K 吧。

(堀江ほか 2009:68)

【逐語訳：私のことばを聞いたお嬢さんは、おおかた私が K を軽蔑すると思ったでしょう。】

(6c) 大概是 小姐听了我的话，以为我看不起 K 吧。

(堀江ほか 2009:68)

【逐語訳：おおかたお嬢さんは私のことばを聞いて、私が K を軽蔑すると思ったでしょう。】

(7a) 雑誌をひもで縛る作業に専念した。

(堀江ほか 2009 : 68、『キッチン』)

(7b) ?索性着手把报刊用绳子捆扎起来的工作。

(堀江ほか 2009 : 68)

【逐語訳：新聞、雑誌をひもで縛る作業にいっそ着手した。】

(7c) 索性着手把报刊用绳子捆扎起来。

(堀江ほか 2009 : 68)

【逐語訳：新聞、雑誌をひもで縛ることにいっそ着手した。】

(6a)における連体節は情報付加的修飾節であり、(7a)における連体節は補足的修飾節である。(6a)、(7a)のような日本語の連体節は、(6b・c)と(7b・c)に示すように、中国語の連体節に訳すよりも、連体修飾関係を保たず中国語に訳すほうが一般的である。

一方、孫 (2009) は(8)のような特定の人物や物事を表す名詞に付く非制限的連体節を考察対象に、認知言語学の背景化理論の面から、中国語の連体節に訳せない日本語の非制限的連体節の特徴を分析した。

(8) 柏木や令嬢と別れた私は、宿の娘と共に、東屋の丘から北へ降り、また東のほうへ迂回してゆく緩い坂を登った。

(孫 2009 : 3、『金閣寺』)

孫 (2009) は、被修飾語が特定の人物や物事である日本語の非制限的連体節を中国語の連体節に訳せるか否かという問題が、連体節の長さ、被修飾語と連体節との格関係(内の関係か外の関係か)及び連体節の接近可能性階層に直接関わらず、連体節の背景化の度合いと密接な関係があると主張した。

認知言語学では、人間が言語情報を受けるとき相対的に重要な情報と認識するものを「図(figure)」と呼び、それほど重要ではない情報と認識するものを「地(ground)」と呼ぶ。図は前景化された(foregrounding)対象であり、関心の焦点となっている。それに対し、地は背景化された(backgrounding)対象であり、関心の焦点からはずれ、前景化の対象を補足する機能を担うものである。連体節と主節との関係は図地関係である。連体節は、主節

の内容を理解するための付加的情報を提供し、背景化したものと考えられる。主節は、背景化した連体節と比べ、相対的に前景化したものと考えられる。(孫 2009 : 46-47)

また、孫 (2009) は、益岡 (1995) が提出した日本語の非制限的連体節の分類¹³に基づき、背景化理論の面から、中国語の連体節に訳せない日本語の非制限的連体節の特徴を分析し、背景化が高い日本語の非制限的連体節は中国語の連体節に訳すことができ、背景化が低いものは中国語の連体節に訳しがたいという結論を示した。

主節と直接的な意味関係がない連体節は背景化の度合いが高いものであり、主節に対する情報付加の「付帯状況」、主名詞¹⁴に対する情報付加の類が含まれ、中国語の連体節に翻訳することができる。

主節と直接的な意味関係がある連体節は背景化の度合いが低いものであり、主節に対する情報付加の「対比逆接」、「原因・理由」、「継起」と情報付加ならざる類が含まれ、中国語の連体節に翻訳しにくい。

(孫 2009 : 71-72)

しかし、堀江ほか (2009)、孫 (2009) などの日中対照研究は一部の日本語の連体節を非分訳によって中国語に訳せない現状とその原因に着目してはいるものの、具体的な翻訳方法には触れていない。

¹³ 益岡 (1995) は日本語連体節の「非制限的用法」を「述定的装定」と「情報付加の機能」の2種類に分け、「情報付加の機能」をさらに「主節の事態に対する情報付加」(対比・逆接、継起、原因・理由、付帯状況など)と「被修飾語に対する情報付加」の2つの系列に分けている。

¹⁴ 本論文で「被修飾語」と称する。

2.2 日本語の連体修飾節を中国語に訳す方法に関する研究

日本語の連体節を中国語に訳す方法に着目した先行研究は数多くあるが、ここでは、孔(2004)、遠藤ほか(1990)を取り上げる。

孔(2004)は、日本語の連体修飾を中国語に訳す方法が2種類あると指摘した。

(9a) 短的定语可以直接照译。

(10a) 较长的递加定语多数要后移。

【(9a) 短い連体節を訳す場合にはその修飾関係を変えず、そのまま中国語に訳す。

(10a) 長い連体節を訳す場合には修飾関係を変える場合と変えない場合があり、一般的には、連体修飾成分を被修飾語の後に移動し、補文に訳す。(筆者訳)】

(孔 2004:86-87)

(9b) 人々によく知られた歌。

(9c) 人人都知道的歌。

(10b) なんでも沙翁劇の權威だという偉い先生が、毎日のように現われて、旦那と何やら打合せをしている。

(10c) 有一位了不起的先生, 据说是研究莎士比亚戏剧的权威, 每天都来和老板商量什么。

((9b)～(10c)のいずれも孔 2004:86-88)

(9c)は(9a)の方法で(9b)を訳して得た中国語訳文である。日本語における連体修飾関係は変えずに連体節である「人々によく知られた」を“人人都知道的”に訳し、これが被修飾語“歌”(「歌」)を修飾している。(10c)は(10a)の方法で(10b)を訳して得た中国語訳文である。日本語における連体節「なんでも沙翁劇の權威だという」は“据说是研究莎士比亚戏剧的权威”に訳し、被修飾語「偉い先生」の対訳語である“了不起的先生”の後ろに移動し、補文に訳してある。

また、孔(2004)は日本語の長い連体節を訳す方法として、具体的に(11)～(14)の4つ

を挙げている。

(11a) 不变语序，直接连译

(12a) 定语提位，代指下连

(13a) 先抓主干，后理分枝（定语）

(14a) 部分定语不变，部分定语后置

【(11a) 連体節の修飾関係を変えず、そのまま中国語に訳す。

(12a) 連体節を先に独立したセンテンスに訳し、そのあと主節の内容を訳す。

(13a) 主節を先に訳し、それから連体節の部分を訳す。

(14a) 連体節を2つに分けて、一方は修飾部分として被修飾語の前に残し、もう一方は補文に訳す。(筆者訳)】

(孔 2004:133-139)

(11b) 彼らは、日本の独立を可能にするような強力な国家を作るために必要な措置は、
それに対していかなる困難が予想されても断行していった。

(11c) 这些领导者们，对于建立一个足以使日本获得独立的强大国家所必需的措施即使
设想会遇到多大的困难，也要断然实行。

(12b) いつも現場にあって、このような体験をくり返している筆者は、何かの本に書か
れてあった「ある種の真鍮、銅については広範囲の研究の結果、黒味づけを保証
する一般的の法則はない」という言葉に全く同感と申す外はない。

(12c) 有的书写道：“对于某些黄铜和铜进行多方研究的结果，没有找出保证其染黑的一
般规律”。笔者经常在现场工作，经过反复体验，完全同意这种说法。

(13b) ちか女は戦後いち早くそれを売って、その金で大森に麻布の邸宅に較べると何
分の一かに過ぎないが、ともかく建坪 60 坪ほどの家を買った。別棟の洋館もあ
り、荒れてはいたが芝生の庭もあった。

(13c) 战后，知加女士很快就把它们卖掉，用那笔钱在大森买了一座宅子。跟麻布区的公
馆比起来，不过是几分之一，但好歹也有六十坪的建筑面积。单另还有一所洋房，
还有个带草坪的院子，虽然已经荒芜了。

(14b) やがて、かれの前に霜降のがいとうを着た①黒の中折をかぶった②、せいの高い③やせすぎな④一人の⑤紳士が現れた。

(14c) 不大功夫，在他面前出现了一位⑤个子高高③、身材枯瘦的④绅士，这位绅士身穿一件雪花呢大衣①，头戴一顶黑礼帽②。

((11b)～(14c)のいずれも孔 2004:133-139)

(11c)は(11a)の方法で(11b)を訳して得た中国語訳文である。日本語における連体修飾関係を変えず、連体節である「日本の独立を可能にするような強力な国家を作るために必要な」を“建立一个足以使日本获得独立的强大国家所必需的”に訳し、これが被修飾語“措施”(「措置」)を修飾している。(12c)は(12a)の方法で(12b)を訳して得た中国語訳文である。日本語における連体節「何かの本に書かれてあった「ある種の眞鍮、銅については広範囲の研究の結果、黒味づけを保証する一般的の法則はない」という」を“有的书写道：‘对于某些黄铜和铜进行多方研究的结果，没有找出保证其染黑的一般规律’”に訳し、これは独立したセンテンスとして、主節の前に置かれている。(13c)は(13a)の方法で(13b)を訳して得た中国語訳文である。日本語における連体節「麻布の邸宅に較べると何分の一かに過ぎないが、ともかく建坪60坪ほどの」を“跟麻布区的公馆比起来，不过是几分之一，但好歹也有六十坪的建筑面积”に訳し、これは独立したセンテンスとして、主節の後に置かれている。(14c)は(14a)の方法で(14b)を訳して得た中国語訳文である。短い連体修飾成分③④⑤は訳文でも連体修飾成分として、被修飾語“紳士”(「紳士」)を修飾している。一方、長い連体節①②は補文に訳した。

遠藤ほか(1990)は長い日本語の連体節を中国語に訳す方法について、(15)～(17)の3つを挙げている。

(15)長い連体修飾語をそのまま訳して中国語でも長い連体修飾語とする。

(16)長い連体修飾語を述語とし、その中心語を主語として、独立したセンテンスにする。そして、そのあとに適当なことばでそれを受けて話をつづける。

(17)中心語(またはプラス短い連体修飾語)をさきに出し、長い連体修飾語は適当な言葉(使わない場合もある)で中心語を受けてそれを補足説明する形として処理する。

(遠藤ほか1990: 65-69)

しかし、孔(2004)と遠藤ほか(1990)などの日本語の連体節を中国語に訳す方法に着目した先行研究は、翻訳パターンを提示しているが、どのような特徴を持つ日本語文がどの翻訳パターンに当てはまるかという点については、訳者自身の経験のみに依っているという現状がある。

2.3 フローチャートで日中翻訳規則を検討する研究

譙(2016)は、日本語の授受補助動詞構文を対象とし、それに関する日中翻訳規則を考察し、翻訳のフローチャートを作成した。譙(2016)は、対訳コーパスのデータに基づき、日本語の授受補助動詞構文を「テヤル」、「テクレル」、「テモラウ」構文に分け、言語学の立場から授受補助動詞構文に関する日中翻訳の傾向とその原因を究明し、フローチャートの形で授受補助動詞構文の翻訳アプローチを提案した。「現代日本語書き言葉均衡コーパス」からランダムに抽出された実例をフローチャートに沿って訳した訳文について、中国語母語話者の検証の結果、「自然な訳文」と認められる割合が90%を超えたから、その翻訳規則及びフローチャートの有効性が証明されたと述べている。

譙(2016)は、日本語学の理論と日中翻訳実践とを結びつける試みであり、従来の先行研究における問題点の解決に加え、日本語の授受補助動詞構文の日中翻訳の効率の向上や今後授受補助動詞構文を機器翻訳する際の訳文の品質の向上にも資するものと考えられる。また、譙(2016)は、フローチャートの形で日中翻訳アプローチを提案するという研究方法の利点と実行可能性を示した。その利点は(18)～(19)に示す通りである。

(18)ある要因が翻訳規則に影響を与えられるか否かを判断できる。

(19)翻訳規則に影響を与える要因を重複なく・漏れなく挙げられる。

本論文は、譙(2016)の研究方法を参照し、言語学の立場から日本語の連体節構文を中国語に訳すパターンと各パターンの適用条件を分析し、フローチャートの形で日本語の連体節構文の中訳アプローチの提案を試みる。

2.4 先行研究の問題点

従来の連体節に関する日中対照研究及び日本語の連体節を中国語に訳す方法に着目した研究では、具体的な翻訳方法を適用する日本語の連体節が持つ統語的・意味的な特徴を分析するものが極めて少ない。日中対照研究では日中両言語の連体節の構造上の違いに注目し、違いが生じる具体的な表現とその原因については理論的に説明しているが、具体的な翻訳方法には触れていない。また、中国人の日本語学習者が翻訳作業をするときに、そのような理論的なものを翻訳の現場に活かすことは困難である。他方、翻訳方法に関する研究では日本語の連体節全般を対象に翻訳方法を提出してきたが、各翻訳方法を適用する日本語連体節の特徴についてはまだ明らかにされていない。

孔(2004)と遠藤ほか(1990)で提出された日本語の連体節を中国語に訳す方法に基づくと、図1に示すような翻訳アプローチが得られる。

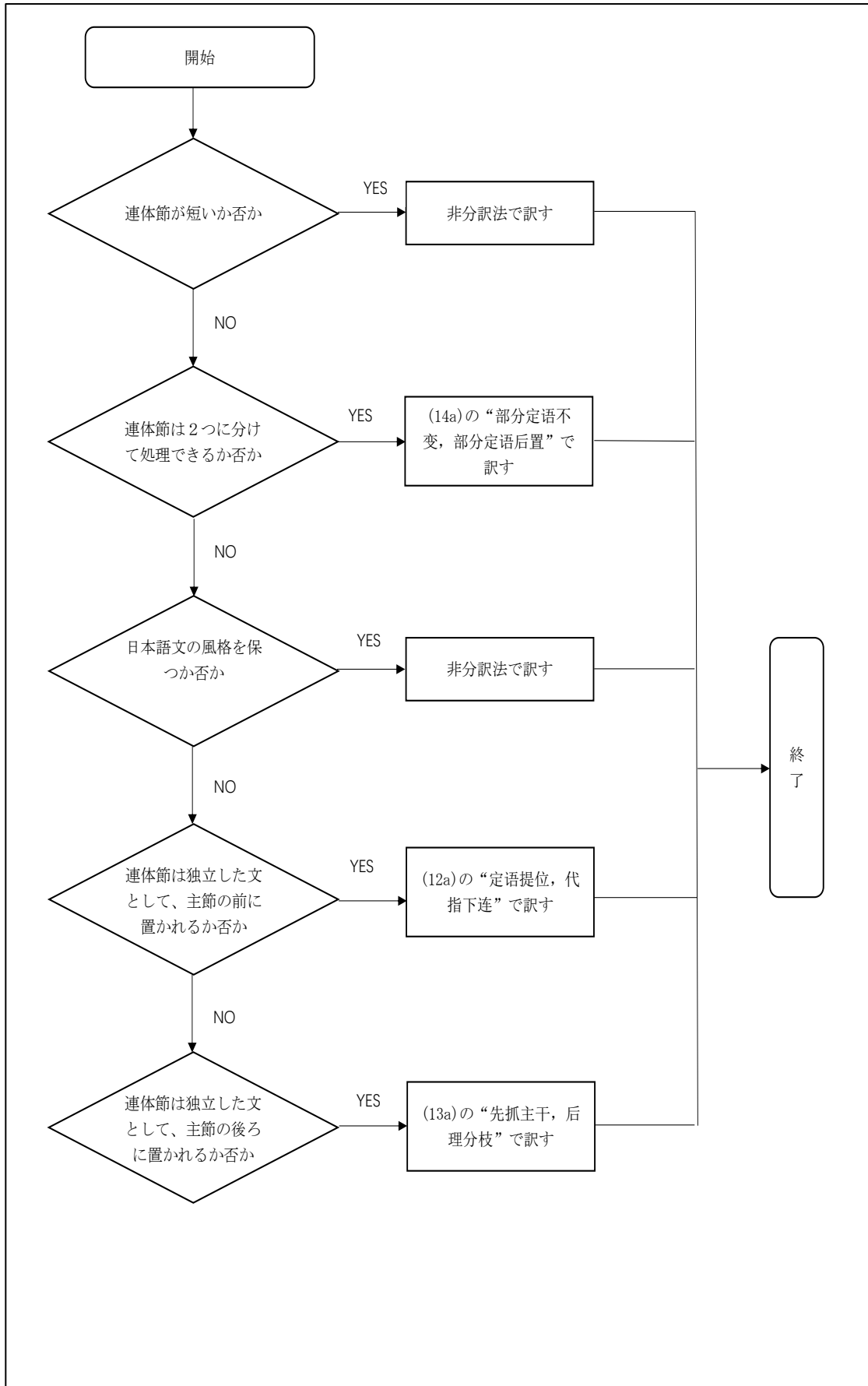


図1 日本語の連体節を中国語に訳すための翻訳アプローチ

(20a)のような日本語の連体節は、図1の翻訳アプローチに基づき中国語に訳すと、得られた訳文が自然であるとは認められない。

(20a)のらりくらしやられているうちに、出入簿に記入された時間だって改竄される恐れがある。

『半落ち』

(20a)における連体節を「短い」と認めるならば、図1の翻訳アプローチに基づく非分訳法で訳すことになる。その場合の訳文は、(20b)であり、これは自然な中国語とは言えない。

(20b)？在被拖住的这段时间里，有连记在出入簿上的时间都会被篡改的担心。

また、(20a)における連体節は2つに分けられないから、(14a)の“部分定语不变，部分定语后置”という方法で訳すこともできない。したがって、非分訳法で訳せば不自然な中国語文になるから、「原文の風格を保つか否か」の条件については、「NO」を選ばなければならない。さらに、「連体節は独立文として、主節の前に置かれるか否か」の条件については、「YES」を選ぶと、(12a)の“定语提位，代指下连”で訳すことになる。その場合の訳文は、(20c)であり、これも自然な中国語とは言えない。

(20c)？连记在出入簿上的时间都会被篡改。在被拖住的这段时间里，有这样的担心。

【逐語訳：出入簿に記入された時間だって改竄される。のらりくらしやられているうちに、そういう恐れがある。】

また、「NO」を選ぶと「連体節は独立文として、主節の後ろに置かれるか否か」というステップに入って、(13a)の“先抓主干，后理分枝”で訳すことになる。その場合の訳文は、(20d)であり、これも自然な中国語とは言えない。

(20d) ? 在被拖住的这段时间里，有这样的担心。连记在出入簿上的时间都会被篡改。

【逐語訳：のりくりやられているうちに、そういう恐れがある。出入簿に記入された時間だって改竄される。】

(20a)～(20d)が示すように、先行研究に基づいて考案した日本語の連体節を中国語に訳すための翻訳アプローチにしたがっても、自然な訳文が得られない日本語文が存在している。このような問題を解決するためには、翻訳アプローチをさらに検討する必要がある。

本論文では、日本語学分野及び日中対照研究分野の理論と翻訳作業における翻訳パターンを結びつけるという点に重きを置き、言語学の研究成果に基づきつつ、各翻訳パターンを適用可能な日本語の連体節が持つ統語的・意味的な特徴を分析し、どのような特徴を持つ日本語文がどの翻訳パターンに当てはまるかという問題について検討した。本論文の成果は機械翻訳による訳文の品質向上と翻訳教育の発展に資するものになることが期待されている。

2.5 本論文の位置付け

翻訳作業は、人間による翻訳作業と機械による翻訳作業との2種類に分けられる。また、人間による翻訳作業については、原文に対する再創作であるとも言われる。これは同じ原文でありながら、その訳文が、翻訳の目的、読者のタイプ、訳者自身の好みや能力によって、異なることになるからである。その点から見れば、すべての訳者が同一の翻訳の方法を選出し、同一の訳文を訳出するのは非現実的なことであり、そのようなことは提唱すべきではないと考えられる。また、すべての訳者が同じ訳文を訳出するのが現実ではないように、すべての訳者の翻訳能力や、経験が同じレベルであるとも考えることも非現実的である。当然、能力が高い訳者や、経験が豊かな訳者は、翻訳アプローチの支援を必要とせずとも、自然な訳文に訳すことができる。一方、日中翻訳の初心者は、能力や経験が不足しているため、翻訳アプローチの支援がないと、日本語の「負の転移」の影響を受け、日本語の原文と構文が同じである中国語の訳文に訳す傾向がある。その訳文には当然ながら中国語の文法規則に合致しないものや、読者が理解しにくいものが含まれることになる。翻訳の初心者に対しては明確で把握しやすい翻訳の規則にしたがって訳すことを通して、自

分自身の翻訳の能力を向上させるということが必要がある。本論文で検討する日本語連体節を中国語に訳す翻訳アプローチは、その明確で把握しやすい日中翻訳の規則のひとつとなるものである。

従来の日本語連体節の中訳に関する先行研究は、日中両言語における連体節の構文上の異同や、日本語の連体節を中国語に訳す方法に着目している。翻訳の各方法がどのような統語的・意味的な特徴を持つ日本語の連体節に適用できるのかという問題を検討した研究は極めて少ない。つまり、目下のところ、どのような特徴を持つ日本語文がどの翻訳方法に当てはまるかという点については、訳者自身の経験のみに依っているという現状がある。そのため、訳者は以下のような負の循環に陥ってしまうことになる。初心者である訳者が、自然な訳文に訳せる程度にまで、翻訳の能力を向上させるためには、正しく翻訳の方法を選択し、その方法にしたがって訳すということが不可欠である。また、正しく翻訳の方法を選択するには、一定の翻訳の能力と経験が必要となる。しかし、初心者である訳者は、翻訳の能力が十分ではないからこそ、翻訳の方法についての支援を必要とするが、その能力が不足しているために、翻訳の方法を正しく選用できないということになる。翻訳の方法を正しく選用できないならば、自然な訳文に訳出せず、翻訳の能力を向上させることもできない。また、翻訳の能力を向上させることができなければ、翻訳の方法を正しく選用することができない。このように、先行研究で提出された翻訳の方法は訳者自身の経験や能力に依存するものであり、翻訳の初心者にとっては十分なものとは言えないという問題がある。

訳者自身の経験や能力に依る翻訳の方法と比べ、本論文が提唱する翻訳アプローチは、客観的な言語学の知見をはしごととして使用し、初心者である訳者と翻訳規則や翻訳方法を結びつけるものである。訳者は、自身の経験や能力が十分でなくとも、直感ではなく、言語学の知見に基づいて、ある日本語の連体節をどのように中国語に訳すべきかを判断できる。

本論文が言語学の研究成果に基づいた翻訳アプローチを提唱するのは、すべての訳者が同一の訳文に訳すという結果を実現するためではなく、実行可能で把握しやすい日本語の連体節に対する翻訳の規則を提供し、翻訳の支援として、初心者である訳者の翻訳能力の向上に資することにある。翻訳作業において、この翻訳アプローチは道具であり、過程であって結果ではない。

機械による翻訳作業については言語学のルールに基づいて翻訳を行うルールベース機

械翻訳と、対訳データによる作成したモデルに基づいて翻訳を行うコーパスベース機械翻訳の2種類に大きく分けられる。また、コーパスベース機械翻訳は統計的機械翻訳とニューラル機械翻訳に代表される。現在の機械翻訳の実態から見ると、日本語の連体節に対する日中翻訳は不十分であり、誤る割合が高い。誤りの原因の1つは構文上の誤りである。訳文に構文上の誤りがあるのは、作成した言語学のルールやモデルに問題があるということである。

先行研究では、日本語の連体節を中国語に訳す方法のみを提出し、各方法の適用条件についてまだ明らかにされていないため、翻訳支援としては不十分なものであると考えられる。一方、本論文が言語学の研究成果に基づいて提出した日本語連体節の中国語に訳すアプローチについては、翻訳のパターンと各パターンの適用する条件の両方が備えているがゆえに、訳者が翻訳作業を効率的かつ高品質に行うための翻訳支援として十分なものとなることが期待される。

繰り返しにはなるが、同じ原文でありながらも訳者の好みや翻訳の能力、翻訳の目的、読者のニーズによって、訳文が異なるということは何ら問題ではない。本論文で提出する翻訳アプローチにしたがって得られる訳文は様々な可能性のうちの1つであり、唯一の正解であるということをも主張するものではない。

一方、本論文で提唱する言語学の要因に基づき構築する翻訳アプローチは、2010年代の日本語・中国語の文法規則・言語観念を基準にして検討されたものであるが、今の翻訳学理論システムの中で主流となっている「多元文化システム」とは矛盾しないということは特筆する必要がある。

多元文化システム理論とは、翻訳文学が多元システムの中で主要な位置を占める場合、翻訳者は起点言語(原文)を訳出する際、目標言語(訳文)における既存の規範やモデルを求めめるのではなく、異化的翻訳方法を取り、起点言語に極めて近い翻訳テキストを生み出すべきであるというものであり、これが機能する場合として次の3例を提示している。

- (21) 多元システムがまだ確立されておらず、新文学が成立される過程にあるとき。
- (22) 小国の文学がほかの大国の文学に圧倒されているようなとき。
- (23) 文学史の重要な転換期、あるいは文学の真空状態が到来したとき。

(Munday 著、鳥飼監訳 2009 : 167-170)

また、この多元文化システム理論を背景にして、異化 (foreignization) 方略と、同化 (domestication) 方略のうち、異化 (foreignization) 方略を重視するべきだと主張する研究もある。その代表的なものが Venuti (1998) である。それによれば、言語学的アプローチでは、目標言語における現状に立脚するため、起点言語による影響や変容を許容しない傾向が強いことから、文化の革新や変容における翻訳の役割を不当に制限するとの批判がある (Venuti 1998)。¹⁵

翻訳学の分野にこのような傾向があることから、言語学的アプローチは日中翻訳の領域において現今最も欠けている部分であり、機械翻訳のような精密な意味構造を提示することが必要となるプロセスの発展につれて、これをさらに進化させることこそが重要と考えられる。本論文で提唱する言語学的な翻訳アプローチは、訳者を支援するツールであり、このアプローチによって訳出される訳文は、更に利用者が自身のニーズによって修正することができる。この翻訳アプローチの役割は、訳文を訳出し、目標言語の変容を推し進めることではなく、読者が日本語文を理解した上で、中国語母語話者に対し理解しやすい訳文を提供し、日本語と中国語の構文上の違いによる障害を減少させるということである。

¹⁵ 多元文化システム理論・Venuti の主張を紹介する部分については、直接の御指導を戴いた文教大学文学部中国語中国文学科教授白井啓介先生に深謝する。

第3章 「分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について①：内の関係連体節

3.0 本章概要

本章では、日本語の内の関係連体節を対象に、分訳法で中国語に訳す場合の翻訳パターンと各パターンの適用条件について分析し、内の関係連体節を分訳法によって中国語に訳すアプローチを提案する。3.1 では、機械翻訳サイトで日本語の内の関係連体節を中国語に訳す場合の問題点を示す。3.2 では、本章での検討対象について述べる。3.3 では、内の関係連体節を分訳法で中国語に訳す場合の3つの翻訳パターンを提出する。3.4 では、その3つの翻訳パターンについてそれぞれの適用条件を分析する。3.5 では、フローチャートの形で、内の関係連体節を分訳法で中国語に訳すアプローチを提案する。3.6 では、前節で提出される翻訳アプローチを検証する。

3.1 はじめに

機械翻訳サイトを用いると、(1a)、(1b)に示した「内の関係」の連体節（以下、「内の関係連体節」）は(2a)、(2b)のように訳出される。

(1a) 死んだもののように畳の上に投げ出されている人形を見た。

（『一握の砂 悲しき玩具』¹⁶）

(1b) 死んだものように畳の上に投げ出されている人形が笑った。

（(1a)を一部改変）

(2a) ? 就像死了一样，看到被扔在榻榻米上的人偶¹⁷。

（有道）

【逐語訳：？（ある人が）畳の上に投げ出されている人形を死んだように見た。】

¹⁶ 用例は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）による。

¹⁷ (2a)、(2b)は2018年10月11日に網易有道機械翻訳サイトによって得られた訳文である。

(2b) ? 像死了一样扔在榻榻米上的人偶笑了起来。

(有道)

【逐語訳： ? 死んだもののように畳の上に投げ出した人形が笑った。】

(2a)、(2b)はともに自然な訳文とは言えない。しかし、不自然になる原因は異なっている。(2a)が不自然なのは“就像死了一样”(「死んだように」)が“人偶”(「人形」)の状態を表しているのではなく、“看到”(「見た」)の<動作主>である人の状態を表しているからであり、構文的な問題を含んでいる。一方、(2b)が不自然なのは、「投げ出されている」が“扔”(非受身表現)に訳されていることに起因し、これを“被扔”(受身表現)に修正すると比較的自然的な訳文になる。

(1a)と(1b)は同じ内の関係連体節であるが、(3a)と(3b)に示すように主節における被修飾語の意味役割が異なっている。

(3a) 死んだもののように畳の上に投げ出されている人形を見た。

(再掲(1a))

<対象>主節動詞

(3b) 死んだもののように畳の上に投げ出されている人形が笑った。

(再掲(1b))

<動作主>主節動詞

(4a) ? 就像死了一样， 看到 被扔在榻榻米上的人偶。

(再掲(2a))

死んだように 見た 畳の上に投げ出されている人形

<付加成分> 主節動詞 内の関係連体節<対象>

(4b) ? 像死了一样扔在榻榻米上的人偶 笑了起来。

(再掲(2b))

死んだように畳の上に投げ出されている人形 笑った

内の関係連体節<動作主> 主節動詞

(2a)、(2b)を(3a)、(3b)に対応させて見ると(4a)、(4b)のようになり、主節における被修飾語の意味役割によって、機械翻訳サイトが異なる翻訳アプローチで内の関係連体節を訳している可能性が示唆される。

以上のような現象について、本章は、被修飾語の意味役割の面から、内の関係連体節を中国語に訳すアプローチを検討する。

3.2 考察対象

本章での検討対象は、(5)～(7)3つの条件を満たす連体節とする。

(5) 内の関係連体節である。

(6) 主節における述語が動詞・動詞句である。

(7) 連体節における述語が動詞・動詞句である。

(8a) 太郎がテレビを壊した可能性

(8b) 太郎が壊したテレビは高い。

(8c) 浪人生活が長かった太郎

(8d) 太郎が買ったテレビは壊れた。

すなわち、(8a)のような「外の関係」の連体節は(5)によって、内の関係であっても(8b)のようなものは(6)によって、内の関係であっても(8c)のようなものは(7)によって、それぞれ対象から除かれ、(8d)のような内の関係連体節を本章の考察対象とする。

3.3 内の関係連体節の翻訳パターン

翻訳は柔軟性を持つ作業であり、同じく内の関係連体節構文であっても、訳者によって訳文の構文が異なる可能性がある。しかしながら、多くの用例を観察すると、日本語の内の関係連体節を中国語に訳す場合、登場率の高い翻訳パターンはいくつかある。本節では、『半落ち』¹⁸など5つの小説における内の関係連体節と中国語版における訳文を分析し、内の関係連体節を中国語に訳すパターンについて検討する。

先行研究でこれまで検討されてきた内の関係連体節の翻訳パターンは「非分訳法」と「分訳法」の2種類であるが、(9c)、(10c)に示すように、同じく「分訳法」で訳された訳文も構文が異なることから、「分訳法」を細分化する必要があると考えられる。

(9a) 天井からはオレンジ色の硝子のフリルがついたランプが垂れ下っている。

(『翼ある闇』)

(9b) 内の関係連体節+¹⁹被修飾語&²⁰主節動詞(日本語原文)

(9c) 天花板上悬着灯，灯上覆有橙色的玻璃褶边灯罩。

(《有翼之暗》)

【逐語訳：天井からはランプが垂れ下って、ランプの上にはオレンジ色の硝子のフリルがついた。】

(9d) 主節動詞&被修飾語/²¹内の関係連体節動詞&被修飾語(中国語訳文)

(10a) 駅前のショッピングモールで買ったケーキを食べながら、皆の顔を見て懐かしい懐かしいと連呼するユカリに皆が笑った。

(『コンビニ人間』)

(10b) 内の関係連体節+被修飾語&主節動詞(日本語原文)

¹⁸ 『半落ち』『秘密』『コンビニ人間』『博士の愛した数式』『翼のある闇』

¹⁹ 本論文では、「+」はその前後の成分が連体修飾関係を持っていることを示している。

²⁰ 本論文では、「&」はその前後の成分が格関係を持っていることを示している。

²¹ 本論文では、「/」はその前後の成分が格関係を持っていないことを示している。

(10c) 由香里一边品尝着车站前购物中心买来的蛋糕，一边盯着大家的脸，连连说“好怀念好怀念”，大家都笑了。

（《人间便利店》）

【逐語訳：ユカリが駅前のショッピングモールで買ったケーキを食べながら、皆の顔を見て懐かしい懐かしいと連呼した。皆が笑った。】

(10d) 被修飾語&内の関係連体節動詞/主節動詞(中国語訳文)

内の関係連体節における述語動詞（以下、「連体節動詞」）と主節における述語動詞（以下、「主節動詞」）はともに被修飾語によって補い得る項を持っている。「分訳法」は、連体節動詞と主節動詞が持つその項の補い方の違いによってさらに細分化することができる。

(11) 被修飾語を主節動詞の項に優先的に補う。

パターンⅠ：{内の関係連体節+被修飾語}²²&主節動詞（日本語）

⇒主節動詞&被修飾語/内の関係連体節動詞(&被修飾語)²³（中国語）

(12) 被修飾語を連体節動詞の項に優先的に補う。

パターンⅡ：{内の関係連体節+被修飾語}&主節動詞（日本語）

⇒内の関係連体節動詞&被修飾語/主節動詞(&被修飾語)²⁴（中国語）

(13) 被修飾語を主節動詞の項にも連体節動詞の項にも補う。

パターンⅢ：{内の関係連体節+被修飾語}&主節動詞（日本語）

⇒主節動詞&被修飾語&連体節動詞（中国語）

パターンⅠは、被修飾語を主節動詞の項に優先的に補う翻訳パターンであり、(14b)に見るように、日本語における被修飾語の“灯”（「ランプ」）を主節動詞の“悬着”（「垂れ下っている」）の〈対象〉の項に補い、主節の“天花板上悬着灯”（「天井からはランプが垂れ下っている」）は先に訳されている。また、内の関係連体節部分の“覆有橙色的玻璃褶边

²² 本論文では、「{ }」はその中の連体節と被修飾語が1つの名詞的な成分として、主節動詞の項に補うということを示している。

²³ ここでの「()」は、場合によって、中の被修飾語が省略されることもあるということを示している。

²⁴ ここでの「()」は、場合によって、中の被修飾語が省略されることもあるということを示している。

灯罩”(「オレンジ色の硝子のフリルがついた」)は独立した文として、主節の後ろに置かれている。

(14a)天井からはオレンジ色の硝子のフリルがついたランプが垂れ下がっている。

(再掲(9a))

(14b)天花板上悬着灯，灯上覆有橙色的玻璃褶边灯罩。

(再掲(9c))

【逐語訳：天井からはランプが垂れ下って、ランプの上にはオレンジ色の硝子のフリルがついた。】

(14c)主節動詞&被修飾語/内の関係連体節動詞&被修飾語(再掲(9d))

パターンⅡは、被修飾語を内の関係連体節動詞の項に優先的に補う翻訳パターンであり、(15b)に見るように、日本語における被修飾語の“红色记事本”(「赤い手帳」)を連体節動詞の“翻看”(「捲り返した」)の<対象>の項に補い、連体節の表す内容である“佐瀬又一页页地仔细翻看红色记事本”(「(佐瀬が)改めて一頁ずつ丹念に捲り返した赤い手帳」)は独立した文として先に訳されている。また、主節の“里面果然贴着女孩那羞怯的笑脸”(「赤い手帳に、少女のはにかんだ笑顔が貼ってあった」)は連体節の後ろに置かれている。

(15a)(佐瀬が)改めて一頁ずつ丹念に捲り返した赤い手帳に、少女のはにかんだ笑顔が貼ってあった。

(『半落ち』)

(15b)佐瀬又一页页地仔细翻看红色记事本，里面果然贴着女孩那羞怯的笑脸。

(《半落》)

【逐語訳：佐瀬が改めて一頁ずつ丹念に赤い手帳を捲り返し、中にはやっぱり少女のはにかんだ笑顔が貼ってあった。】

(15c)連体節動詞&被修飾語/主節動詞

パターンⅢは、被修飾語を主節動詞の項にも内の関係連体節動詞の項にも補う翻訳パターンであり、(16b)に見るように日本語における被修飾語の“药物”(「薬」)は主節動詞の“用”(「使い」)の<対象>の項に補い、更に連体節動詞の“吸收”(「吸収する」)の<動

作主>の項にも補っている。

(16a) 今現在、体内のグランドキソンを吸収する薬を使い、下剤と併せて排出を試みている
という。

(『半落ち』)

(16b) 現在正在用药物吸收体内的除草剂，并结合泻药来促进排出。

(《半落》)

【逐語訳：今現在、薬を使って体内のグランドキソンを吸収し、下剤と併せて排出を
試みている。】

(16c) 主節動詞&被修飾語&連体節動詞

3.4 内の関係連体節の翻訳パターンの適用条件について

3.3節では、日本語の内の関係連体節を中国語に訳すパターンを(17)～(19)の3種類に分けた。

(17) パターンⅠ：{内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒主節動詞&被修飾語/内の関係連体節動詞(&被修飾語) (中国語)

(再掲(11))

(18) パターンⅡ：{内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒内の関係連体節動詞&被修飾語/主節動詞(&被修飾語) (中国語)

(再掲(12))

(19) パターンⅢ：{内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒主節動詞&被修飾語&連体節動詞 (中国語)

(再掲(13))

このパターンⅠ、Ⅱ、Ⅲはいずれも「分訳法」に属しているが、(20)や(21)に示すように、適用条件は異なっている。ここでは、被修飾語の主節動詞・連体節動詞に対する「従属の度合」と被修飾語の意味役割の2つの面から、パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲの適用条件について分析を試みる。

(20a) 子分が瀕死の状態にあると報を受けた組長は、すつくと立ちあがった。

(『舟を編む』、一部改変²⁵)

(20b) 黒道老大收到消息说自己的手下正命悬一线，霍地站了起来。

(パターンⅡ)

【逐語訳：組長は、子分が瀕死の状態にあると報を受け、すつくと立ちあがった。】

(20c) ? 黒道老大霍地站了起来，收到消息说自己的手下正命悬一线。

(パターンⅠ)

【逐語訳：?組長は、すつくと立ちあがって、子分が瀕死の状態にあると報を受けた。】

(21a) 園長は、月に一度か二度、学校帰りの少女に寄り添って歩く派手な服装の女を目撃していた。

(『半落ち』)

(21b) 园长每月总有一两次看到一个穿着华丽的女人走在放学回来的少女身旁。

(パターンⅢ)

【逐語訳：園長は、月に一度か二度、一人の派手な服装の女が学校帰りの少女に寄り添って歩くのを目撃していた。】

(21c) ? 一个穿着华丽的女人走在放学回来的少女身旁，园长每个月总有一两次看到。

(パターンⅡ)

【逐語訳：一人の派手な服装の女が学校帰りの少女に寄り添って歩いている。園長は、月に一度か二度目撃していた。】

²⁵ 原文は、「子分が瀕死の状態にあると報を受けた組長は、すつくと立ちあがって言った。「おまえら、なにをボサッとしちよるんじゃ！ドス持ってこい！やつを犬死にさせちゃあいかなぜよ！」」である。

3.4.1 被修飾語の主節動詞・連体節動詞に対する「従属の度合」と翻訳パターンの選択について

3.3 節で触れた通り、翻訳パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲは、連体節動詞と主節動詞がそれぞれ持つ項のどちらに被修飾語を優先的に補うのかという基準によって分類されている。ここでは、その優先順位について被修飾語と連体節動詞、被修飾語と主節動詞の従属の度合との関係から考察を試みる。

3.4.1.1 日本語における名詞の動詞に対する「従属の度合」について

仁田（1980）は、動詞が中心である動詞文において、動詞に従属する成分は格成分、状況成分、付加成分があり、この三者は同じような強弱において従属しているのではないと述べた。また、仁田（1980）はその従属の度合のあり方を2つに分けている。

動詞に従属していくと言っても、その従属成分の動詞に対する従属の度合のあり方には、大きく次の二つが考えられる。【Ⅰ】従属していく成分の生起のあり方でもが、あらかじめ動詞によって決定されている。これらの成分は、意味論的に見て、動詞の有する語義構造に既に包含されていた成分であると考えられる。【Ⅱ】それに対して、動詞に従属してはいるものの、その生起のあり方をあらかじめ指定しておくことのできないもの、共起関係の成立において従属成分に主導権があると考えられるもの。【Ⅰ】は強い従属を示し、【Ⅱ】は弱い従属を示している。

（仁田 1980 : 23-24）

格成分が動詞の意味している行為を成立させるために参与している「項」を言語表現化した内的要素であり、状況成分がその行為の成立している外的背景を表しているのに対して、付加成分は、行為を行われる際の行為のあり方を様々の観点から述べた付加的局面である。

（仁田 1980 : 42）

「動作主」「対象」「あい方」(存在文を考えれば「場所(位置)」)が、全ての動詞に対して、その共起のあり方をあるいは共起の不可能性までもあらかじめ指定されているのに対し、「場所(着点)」「場所(離点)」「場所(空間)」「原因」「手段」などは、ある動詞群にあつては他の動詞群よりもより明確に要求されるというに止どまる。前者三つ(「場所(位置)」を加えれば四つ)を、上位の格および格成分と呼び、後者を、下位の格および格成分と呼ぶ。

(仁田 1980 : 28-29)

仁田(1980)で論じられている「従属の度合」に基づき、表1に各成分の動詞に対する従属の度合のレベル表を作成した。

表1²⁶ 各成分の動詞に対する従属の度合表

| | | | | | | |
|------|-----------|-----------|---------------------------------|------|------------------|-------------------|
| 強い従属 | 格成分 | 上位 格成分 | 動作主 | レベル1 | ↑ 強 ↓ 弱 | 従属 の 度 合 |
| | | | 対象、相手 | レベル2 | | |
| | | | 位置(存在動詞) | レベル3 | | |
| | | 下位 格成分 | 着点(移動動詞)、離点(移動動詞)、空間(動作動詞)、原因、… | レベル4 | | |
| | | | 手段 | レベル5 | | |
| 弱い従属 | 状況成分、付加成分 | | レベル6 ²⁷ | | | |

レベル1は一番従属の度合が強いレベルであり、レベル6は一番従属の度合が弱いレベルである。本論文では、上述の仁田(1980)の「従属の度合」の理論に基づき、被修飾語の主節動詞・連体節動詞に対する従属の度合を6つに分けられ、そのレベルの強弱と翻訳パターンの適用条件と関係があるか否か、どのような関係を持つかという2つの問題について、検討する。

²⁶ 表1は仁田(1980:23-32)の内容に基づき、筆者が整理したものである。

²⁷ 本論文では、動詞と直接関係しない所有格がレベル6と認められる。

3.4.1.2 被修飾語の連体節動詞・主節動詞に対する従属度合と各翻訳パターンの選択

翻訳パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲの適用条件と被修飾語の連体節動詞・主節動詞に対する従属の度合との関係について本論文では以下の(22)～(24)という3点の仮説について検討を試みる。

- (22) 被修飾語の連体節動詞に対する従属の度合が、被修飾語の主節動詞に対する従属の度合より強い場合、被修飾語は連体節動詞と優先的に結合する傾向がある。すなわち、パターンⅡで訳されやすい。
- (23) 被修飾語の連体節動詞に対する従属の度合が、被修飾語の主節動詞に対する従属の度合より弱い場合、被修飾語は主節動詞と優先的に結合する傾向がある。すなわち、パターンⅠで訳されやすい。
- (24) 被修飾語の連体節動詞に対する従属の度合が、被修飾語の主節動詞に対する従属の度合と同じレベルである場合、被修飾語は主節動詞と連体節動詞のいずれか一方と優先的に結合する傾向が見られない。すなわち、パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲのいずれで訳しても自然な訳文が得られる。

(22)～(24)の3点の仮説を検証する為、本節では『半落ち』²⁸など5つの小説から、日本語の内の関係連体節を760例抽出し、当該の小説の中国語版における訳文の翻訳パターンについて考察した。まず、760例の例文から、非分訳や意識の方法で訳されたものを取り除き、128例の日本語の内の関係連体節を得た。そのうち、パターンⅠで訳された文は18例、パターンⅡで訳された文は78例、パターンⅢで訳された文は32例であった。また、パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲで訳された日本語の内の関係連体節について、さらに連体節動詞に対する被修飾語の従属の度合のレベル(以下、「従属レベル(連体節)」)、主節動詞に対する被修飾語の従属の度合のレベル(以下、「従属レベル(主節)」)を分析し、分類した結果を表2に示す。

²⁸ 『半落ち』: 全書
『コンビニ人間』: 全書
『秘密』: 1～13章
『博士の愛した数式』: 1～4章
『翼のある闇』: 1～4章

表2 各翻訳パターンについての従属レベル(連体節)と従属レベル(主節)の組合せ表

| | | 従属レベル(主節) | パターンⅠ | パターンⅡ | パターンⅢ | 合計 |
|----------------|------|-----------|-----------------|-----------------|-----------------|----|
| 従属レベル (連体節) | レベル1 | レベル1 | 2 | 28 | 0 | 30 |
| | | レベル2 | 1 ²⁹ | 23 | 25 | 49 |
| | | レベル3 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | | レベル4 | 0 | 2 | 1 ³⁰ | 3 |
| | レベル2 | レベル6 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| | | レベル1 | 1 | 1 ³¹ | 0 | 2 |
| | | レベル2 | 8 | 12 | 4 ³² | 24 |
| | | レベル3 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | レベル4 | 0 | 3 | 0 | 3 | |

- ²⁹ (1) 原文：さらに本にはもう一つ、彼の気を引きつける事例が書かれていた。(『秘密』)
 (1)について、従属レベル(連体節)が従属レベル(主節)より強いから、(32)の結論によって、パターンⅡで訳すということになるはずだが、訳文はパターンⅠで訳した。これは(1)が眼前描写の連体節であり、従属レベル(連体節)と従属レベル(主節)の強弱関係の他に、主節の表す事態と連体節の表す事態との時間的な関係も翻訳パターンの選択に影響する要因の1つであるということであるから。詳細は3.4.2.2節を参照する。
- ³⁰ (2a) 原文：大学を出て、そのままアルバイトを続けると言ったときも、ほとんど世界と接点がなかった少し前の私に比べれば大変な成長だと、応援してくれた。(『コンビニ人間』)
 (2b) 訳文：当我说大学毕业还打算继续做兼职的时候也一样，他们觉得相比我之前与社会几乎毫无交集的情况，已经是很了不起的成长了，对我很支持。(《人间便利店》)
 3.5節の結論((118)～(121))によって、(2a)のように連体節動詞に対する被修飾語の意味役割が<動作主・経験者>であり、主節動詞に対する被修飾語の意味役割が<対称>である連体節はパターンⅢを適用できないようになるはずである。ここで適用できるのは主節動詞「比べる」の対訳語“相比”が構文上の特殊性を持っているということからである。このような主節動詞の構文上の特殊性に関わる問題は今後の研究で検討する予定である。
- ³¹ (3) 原文：弁護士に「適合者がいれば助かったか」と問われた梶は「確実に助かったと思います」と言葉に力を込めた。(『半落ち』)
 (3)について、従属レベル(主節)が従属レベル(連体節)より強いから、(32)の結論によって、パターンⅠで訳すということになるはずだが、訳文はパターンⅡで訳した。これは(3)が眼前描写の連体節であり、従属レベル(連体節)と従属レベル(主節)の強弱関係の他に、主節の表す事態と連体節の表す事態との時間的な関係も翻訳パターンの選択に影響する要因の1つであるということであるから。詳細は3.4.2.2節を参照する。
- ³² (4) 原文：私はふとさっき出てきたコンビニの窓ガラスに映る自分の姿を眺めた。(『コンビニ人間』)
 (5) 原文：はっきりしていることは、藤崎の台詞によって救われた者など一人にもいないということだった。(『秘密』)
 (6) 原文：それは見事に外れたが、一番上の封書に書かれた女名前を目にして、母に触らせなかった別の理由に嫌でも思い当たった。(『半落ち』)
 (7) 原文：佐瀬検事に直じか当たりにする前に、会っておきたい人物がいた。(『半落ち』)
 (4)～(7)の日本語文について、3.5節の結論((118)～(121))によって、パターンⅢを適用できないようになるはずである。ここで適用できるのは主節動詞の対訳語が構文上の特殊性を持っているということである。このような主節動詞の構文上の特殊性に関わる問題は今後の研究で検討する予定である。

表 2(続) 各翻訳パターンについての従属レベル(連体節)と従属レベル(主節)の組合せ表

| | | 従属レベル(主節) | パターン I | パターン II | パターン III | 合計 |
|----------------|-------|-----------|--------|-----------------|-----------------|-----|
| 従属レベル (連体節) | レベル 3 | レベル 2 | 2 | 1 ³³ | 2 ³⁴ | 5 |
| | | レベル 3 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | | レベル 6 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | レベル 4 | レベル 2 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| | | レベル 3 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | | レベル 4 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | | レベル 5 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | 合計 | | 18 | 78 | 32 | 128 |

続いて、連体節動詞に対する被修飾語の意味役割(以下、「意味役割(連体節)」)と主節動詞に対する被修飾語の意味役割(以下、「意味役割(主節)」)の動詞に対する従属の度合のレベルの強弱について調査した。その結果を表 3 と表 4 に示す。なお、ここでは便宜的に、意味役割(連体節)が意味役割(主節)より動詞に対する従属の度合が強い場合、「意味役割(連体節) > 意味役割(主節)」と記し、意味役割(主節)より動詞に対する従属の度合が弱い場合、「意味役割(連体節) < 意味役割(主節)」と記した。また、両者の動詞に対する従属の度合が同じレベルなら、「意味役割(連体節) = 意味役割(主節)」と記した。

³³ (8)原文：自分がいなくなった場所があつという間に補完され、コンビニは明日からも同じように回転していくんだろうと思う。(『コンビニ人間』)

(8)について、従属レベル(主節)が従属レベル(連体節)より強いから、(32)の結論によって、パターン I で訳すということになるはずだが、訳文はパターン II で訳した。これは(8)が眼前描写の連体節であり、従属レベル(連体節)と従属レベル(主節)の強弱関係の他に、主節の表す事態と連体節の表す事態との時間的な関係も翻訳パターンの選択に影響する要因の 1 つであるということであるから。詳細は 3.4.2.2 節を参照する。

³⁴ (9)原文：「なんだ変な気持ち。自分の写真が置いてある仏壇を見るのって」(『秘密』)

(10)原文：藤林圭吾は窓際の席に座り、猥雑なネオンサインの流れる車窓をぼんやりと見つめていた。
(9)～(10)の日本語文について、3.5 節の結論((118)～(121))によって、パターン III を適用できないようになるはずである。ここで適用できるのは主節動詞の対訳語が構文上の特殊性を持っているということである。このような主節動詞の構文上の特殊性に関わる問題は今後の研究で検討する予定である。

表3 「従属の度合」の強弱と翻訳パターンを選択(翻訳パターン別に)

| | パターンⅠ | パターンⅡ | パターンⅢ |
|--------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 意味役割(連体節)>意味役割(主節) | 1 ³⁵ (5.56%) | 34 (43.59%) | 26 (81.25%) |
| 意味役割(連体節)<意味役割(主節) | 7 (38.89%) | 2 ³⁶ (2.56%) | 2 ³⁷ (6.25%) |
| 意味役割(連体節)≒意味役割(主節) | 10 (55.55%) | 42 (53.85) | 4 ³⁸ (12.5%) |
| 合計 | 18 (100.00%) | 78 (100.00%) | 32 (100.00%) |

表4 「従属の度合」の強弱と翻訳パターンを選択(「従属の度合」の強弱関係別に)

| | 意味役割(連体節)>意味 役割(主節) | 意味役割(連体節)<意味 役割(主節) | 意味役割(連体節)≒意味 役割(主節) |
|-------|------------------------|------------------------|------------------------|
| パターンⅠ | 1 (1.64%) | 7 (63.64%) | 10 (17.85%) |
| パターンⅡ | 34 (55.74%) | 2 (18.18%) | 42 (75%) |
| パターンⅢ | 26 (42.62%) | 2 (18.18%) | 4 (7.15%) |
| 合計 | 61 (100.00%) | 11 (100.00%) | 56 (100.00%) |

表3は各翻訳パターンについて、意味役割(連体節)と意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合の強弱関係を考察するものである。その強弱関係の分布からみると、各翻訳パターンは明らかな相違があるということになる。これは意味役割(連体節)と意味役割(主節)の強弱関係はパターンⅠ、Ⅱ、Ⅲの適用可否に影響を与えると考えられる。

18例のパターンⅠで中国語に訳された内の関係連体節の中で、「意味役割(連体節)≒意味役割(主節)」のものは10例(55.55%)であり、「意味役割(連体節)<意味役割(主節)」のものは7例(38.89%)である一方、「意味役割(連体節)>意味役割(主節)」のものはわずか1例(5.56%)である。これは「意味役割(連体節)>意味役割(主節)」の連体節をパターンⅠで中国語に訳す場合、訳文が不自然になる確率はより高いことを示している。

78例のパターンⅡで中国語に訳された内の関係連体節の中で、「意味役割(連体節)≒意味役割(主節)」のものは42例(53.85%)であり、「意味役割(連体節)>意味役割(主節)」の

³⁵ 注(29)に参照。

³⁶ 注(31)、(33)に参照。

³⁷ 注(34)に参照。

³⁸ 注(32)に参照。

ものは7例(38.89%)である一方、「意味役割(連体節)〈意味役割(主節)」のものはわずか2例(2.56%)である。これは「意味役割(連体節)〈意味役割(主節)」の連体節をパターンⅡで中国語に訳す場合、訳文が不自然になる確率はより高いことを示している。

32例のパターンⅢで中国語に訳された内の関係連体節の中で、「意味役割(連体節)〉意味役割(主節)」のものは26例(81.25%)である一方、「意味役割(連体節)〈意味役割(主節)」のものはわずか2例(6.25%)であり、「意味役割(連体節)≒意味役割(主節)」のものは4例(12.5%)である。これは「意味役割(連体節)〉意味役割(主節)」の連体節をパターンⅢで中国語に訳す場合、訳文が自然になる確率はより高いことを示している。

表4は意味役割(連体節)と意味役割(主節)の強弱関係の面から、各翻訳パターンの分布を考察するものである。

まず、61例の「意味役割(連体節)〉意味役割(主節)」の連体節の中で、パターンⅡで中国語に訳されたものは34例(55.74%)であり、パターンⅢで訳されたものは26例(42.62%)である一方、パターンⅠで訳されたものはわずか1例(1.64%)である。これは(22)の「意味役割(連体節)の動詞に対する従属の度合が、意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合より強い場合、パターンⅡで訳されやすい」という仮説を裏付けるものである。

(25a) 駅前のショッピングモールで買ったケーキを食べながら、皆の顔を見て懐かしい懐かしいと連呼するユカリに皆が笑った。

(再掲(10a))

(25b) 連体節動詞 項:〈動作主〉 被修飾語 主節動詞 項:〈相手〉

(25c) 由香里一边品尝着车站前购物中心买来的蛋糕，一边盯着大家的脸，连连说“好怀念好怀念”，大家都笑了。

(再掲(10c))

【逐語訳：ユカリが駅前のショッピングモールで買ったケーキを食べながら、皆の顔を見て懐かしい懐かしいと連呼した。皆が笑った。】

(25a) において連体節動詞は「食べる」、「見る」、「連呼する」の3つ³⁹であり、被修飾語「ユカリ」はこの3つの動詞に対する意味役割が<動作主>である一方、主節動詞「笑う」に対する意味役割は<相手>である。<動作主>は<相手>よりも動詞に対する「従属の度合」が強い。そのため、(25a) はパターンⅡで訳出することによって自然な訳文 (25c) が得られているのだと考えられる。

次に、11 例の「意味役割(連体節)<意味役割(主節)」の連体節の中で、パターンⅠで中国語に訳されたものは一番多くて、7 例で 63.64%を占めている。これは(23)の「意味役割(連体節)の動詞に対する従属の度合が、意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合より弱い場合、パターンⅠを適用できる」という仮説を一定程度裏付けているとも言える。

(26a) 天井からはオレンジ色の硝子のフリルがついたランプが垂れ下っている。

(再掲(9a))

(26b) 連体節動詞 項:<着点> 被修飾語 主節動詞 項:<対象>

(26c) 天花板上悬着灯，灯上覆有橙色的玻璃褶边灯罩。

(再掲(9c))

【逐語訳：天井からはランプが垂れ下って、ランプの上にはオレンジ色の硝子のフリルがついた。】

(26a) の場合、連体節動詞は「つく」、主節動詞は「垂れ下がる」であり、被修飾語「ランプ」の連体節動詞に対する意味役割は<着点>、主節動詞に対する意味役割は<対象>である。<対象>に比べ、<着点>は動詞に対する従属の度合が弱い。そのため、(26a) はパターンⅠで訳出することによって自然な訳文 (26c) が得られているのだと考えられる。

最後に、56 例の「意味役割(連体節)≒意味役割(主節)」の連体節の中で、パターンⅡで中国語に訳されたものは一番多くて、42 例で 75%を占めている。一方、パターンⅢで訳されたものはわずか 4 例 (7.15%) である。パターンⅡで訳した訳文が圧倒的に多いということは、「意味役割(連体節)≒意味役割(主節)の場合には、パターンⅡで訳しやすい」という

³⁹ 「買った」は「ケーキ」を修飾し、「ユカリ」と直接の関係を持っていないから、ここで連体節動詞と認めないことにする。

傾向が表し、(24)の「意味役割(連体節)の動詞に対する従属の度合が、意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合と同じレベルである場合、パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲのいずれで訳しても自然な訳文が得られる」という仮説を裏付けるものになっているとは言えない。このような連体節の翻訳パターンについての詳細な検討は後述する。

ここまで被修飾語が連体節動詞と主節動詞に対して持つ意味役割と翻訳パターンとの対応関係について分析してきたが、ここからは被修飾語の意味役割が連体節動詞に対しては<動作主・経験者>、主節動詞に対しては<対象>となる文に注目したい。仁田(1980)によれば、<動作主・経験者>と<対象>では前者の方が動詞に対する従属の度合が強く、その点に鑑みれば、訳出されるパターンとして最多になるのはパターンⅡであることが予測される。確かにパターンⅡによって自然な訳文となっている例もある。

(27a) 今現在、体内のグラントキソンを吸収する薬を使い、下剤と併せて排出を試みている
という。

(再掲(16a))

(27b) 連体節動詞 項：<動作主> 被修飾語 主節動詞 項：<対象>

(27c) 現在正在用药物吸收体内的除草剂，并结合泻药来促进排出。

(再掲(16b))

(パターンⅢ)

【逐語訳：今現在、薬を使って体内のグラントキソンを吸収し、下剤と併せて排出を試みている。】

しかし、必ずしもパターンⅡが選択されるというわけではない。(27a)において連体節動詞は「吸収する」であり、被修飾語「薬」は連体節動詞との意味関係が<動作主>である一方、主節動詞「使う」と被修飾語「薬」の意味関係は<対象>である。<動作主>は<対象>よりも動詞に対する「従属の度合」が明らかに強いことから(22)に基づいてパターンⅡで訳すと自然な訳文が得られるはずだが、訳者はパターンⅢを選択した。

これは、被修飾語の意味役割が連体節動詞に対しては<動作主・経験者>、主節動詞に対しては<対象>となる文とパターンⅢの間に、動詞に対する従属の度合とは異なる構文的な近接性を認めることができることによるものと考えられる。この点に深く関係するのが、中

国語の「兼語文」構文、及び「主語＋述語」が一つの塊として目的語になる構文(以下、「主述フレーズ⇒目的語」構文)である。

中国語の兼語文の特徴について、劉ほか(1983)は以下のように説明している。

兼語句の謂語是由一个动宾短语和一个主谓短语套在一起构成的，谓語中前一个动宾短语的宾语兼作后一个主谓短语的主語。如“你請他来”这个句子，主語是“你”，謂語中动宾短语“請他”的“他”也是后边的主謂短语“他来”的主語，这种句子叫兼語句，“他”叫兼語。兼語句的第二个动词与主語不存在主謂关系，即兼語句謂語中的两个动词不共用一个主語。

(劉ほか 1983 : 708⁴⁰)

【兼語文とはひとつの「動詞＋目的語」で構成する動目フレーズと「主語＋述語」で構成する主述フレーズが一部重なり合った形で述語ができていものである。即ち兼語文の述語において、前の動目フレーズの目的語は後ろの主述フレーズの主語を兼ねている。例えば、“你請他来”（彼に来てもらいなさい）という文において、主語は“你”であり、述語は動目フレーズ“請他”と主述フレーズ“他来”が重なり合ったものである。ここでの“他”は、動目フレーズの目的語であると同時に主述フレーズの主語でもあるという二つの役割を兼ね備えており、兼語と呼ばれる。また、述語中では、動詞“請”のみが全文の主語“你”と主述関係にあり、二番目の動詞“来”は“你”とは主述関係はない。即ち、兼語文では述語中の二つの動詞は主語を共通にしない。(相原ほか (1991 : 602) による訳文を一部改変)】

⁴⁰ 引用のページ番号は劉ほか(2004)による。以下同様。

(28a) 你 请 他 来。

(劉ほか 1983 : 708)

<動作主 1> 動詞 1 <対象>

<動作主 2> 動詞 2

(28b) あなたが彼に来てもらいなさい。

(相原ほか 1991 : 602)

(28a) の兼語文では、中国語文の述語部分は“请”（「…してもらおう」）ではなく、“请他来”（「彼に来てもらいなさい」）である。ここで注目すべきは、“他”（「彼」）（兼語）が動詞“请”（「…してもらおう」）（動詞 1）の<対象>、且つ動詞“来”（「来る」）（動詞 2）の<動作主>になっていることである。

また、中国語には (29) のような「主述フレーズ⇒目的語」構文がある。

(29a) 我 看见 他 哭了。

<動作主 1> 動詞 1 <対象>

<動作主 2> 【動詞 2】

(29b) 私は彼が泣いていたのを見た。

(29) では、中国語文の述語部分は“看见”であり、目的語は“他哭了”である。ここでは、“他”（「彼」）が目的語フレーズの動詞“哭了”（「泣いていた」）（動詞 2）の<動作主>、且つ述語動詞“看见”（見た）（動詞 1）の<対象>となっている。

なお、(28) の兼語文と (29) の「主述フレーズ⇒目的語」構文はよく似ているが、劉ほか(1983)は(30)のように主に音声上のポーズによって識別できると指摘している。

兼語句中兼語与前边的动词结合得很紧，不能停顿，而主谓短语作宾语的句子，可在谓语动词后边有短暂停顿。

(劉ほか 1983 : 716)

【兼語文では、兼語とその直前の動詞は結びつきが強く、間にポーズを置くことはできない。これに対し、主述フレーズが目的語になっている文は述語動詞の後

に短いポーズを置くことができる。(相原ほか (1991 : 609) による訳文を一部改変)】

(30a) × 你请 / 他来。(兼語文)

(再掲 (28a))

【逐語訳：あなたが彼に来て/もらいなさい】

(30b) 我看见 / 他哭了。(「主述フレーズ⇒目的語」構文)

(再掲 (29a))

【逐語訳：私は彼が泣いていたのを/見た。】

(30a) は兼語文であり、“请”(「…してもらおう」)(動詞 1)と“他”(「彼」)(兼語)の間にポーズを置くことはできない。一方(30b)は「主述フレーズ⇒目的語」構文であり、“看见”(見た)(動詞 1)と“他”(「彼」)の間にポーズを置くことができる。

また、(28)と(29)には1つの共通点がある。それは、ある名詞が動詞1の<対象>であると同時に、動詞2の<動作主・経験者>になっているということである。これは、先に見たパターンⅢで訳出されやすい日本語文の特徴と一致している。したがって、そのような特徴を持つ日本語を訳出する際には、同様の特徴を持つ中国語の兼語文や「主述フレーズ⇒目的語」構文に訳すことで自然な訳文を得ることができるのである。

以上の分析の結果から得られた結論は(31)～(34)の通りである。

(31) 翻訳パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲの適用可否は意味役割(連体節)・意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合の強弱と関係がある。

(32) 「意味役割(連体節)>意味役割(主節)」となる日本語の場合、パターンⅡで訳すと自然な訳文が得られる可能性が高い。「意味役割(連体節)<意味役割(主節)」となる日本語の場合、パターンⅠで訳すと自然な訳文が得られる可能性が高い。

(33) 「意味役割(連体節)≒意味役割(主節)」となる日本語の場合、パターンⅡで訳すと自然な訳文が得られる可能性が高い。

(34) 日本語原文において被修飾語と連体節動詞の意味関係が<動作主>(あるいは<対象>)であり、かつ被修飾語と主節動詞の意味関係が<対象>(あるいは<動作主>)である場合にはパターンⅢで訳すと、パターンⅡより自然な訳文が得られる。

しかし、128 例のデータの中に、「意味役割(連体節)〈意味役割(主節)〕であるにも拘らずパターンⅡで訳した例と「意味役割(連体節)〉意味役割(主節)〕であるにも拘らずパターンⅠで訳した例がある。これは意味役割(連体節)・意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合の強弱の他に、また翻訳パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲの適用可否を影響する要因があるということを示している。

3.4.2 パターンⅢの適用条件について

パターンⅢでは、被修飾語を主節動詞の項にも内の関係連体節動詞の項にも補う翻訳パターンであり、(36c)に見るように被修飾語は主節動詞が支配する〈対象〉の位置に置かれると共に、連体節動詞が支配する〈動作主〉の位置に置かれる。

(35) パターンⅢ: {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒主節動詞&被修飾語&連体節動詞 (中国語)

(再掲(13))

(36a) 今現在、体内のグラントキソンを吸収する薬を使い、下剤と併せて排出を試みているという。

(再掲(16a))

(36b) 連体節動詞: 項 〈動作主〉 被修飾語 主節動詞: 項 〈対象〉

(36c) 现在正在用药物吸收体内的除草剂，并结合泻药来促进排出。

(再掲(16b))

【逐語訳：今現在、薬を使って体内のグラントキソンを吸収し、下剤と併せて排出を試みている。】

(36d) 主節動詞: 項 〈対象〉 被修飾語: 兼語 連体節動詞: 項 〈動作主〉】

(37a) 你 请 他 来。

(再掲(28a))

<動作主 1> 動詞 1 <対象>

<動作主 2> 動詞 2

(37b) あなたが彼に来てもらいなさい。

(再掲(28b))

(38a) 我 看见 他 哭了。

(再掲(29a))

<動作主 1> 動詞 1 <対象>

<動作主 2> 【動詞 2】

(38b) 私は彼が泣いていたのを見た。

(再掲(29b))

3. 4. 1. 2 節で触れたように、パターンⅢで訳された中国語の訳文は、「兼語文」構文、あるいは「主述フレーズ⇒目的語」構文である。したがって、パターンⅢを適用するためには日本語の連体節構文において、連体節動詞と被修飾語、主節動詞と被修飾語の意味関係が、中国語の「兼語文」構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文における動詞 1(以下、「主動詞」)とある名詞(以下、「二重役割名詞」)、動詞 2(以下「副動詞」)と二重役割名詞の意味関係とそれぞれ一致していることは必要条件となっている。具体的には、①意味役割(連体節)が<動作主・経験者>であり、且つ意味役割(主節)が<対象>である連体節構文、あるいは②意味役割(連体節)が<対象>であり、且つ意味役割(主節)が<動作主・経験者>である連体節構文しかパターンⅢを適用できないということである。

(39a) 啓子を殺害した梶は、昨日中央署に自首してきた。

(『半落ち』、一部改変⁴¹)

連体節動詞：項 <動作主> 主節動詞：項 <動作主>

⁴¹ 原文は「四日夜に啓子を殺害した梶は、その三日後の七日朝、つまり昨日になって中央署に自首してきた」であり、ここでは便宜的に一部を省略した。

(39b) ? 昨天来中央警局自首梶杀了启子。

(パターンⅢ)

語順：主節動詞(主動詞)：項 <動作主> 被修飾語(二重役割名詞) 連体節動詞(副動詞)：項 <動作主>

(39c) ? 杀了启子梶昨天来中央警局自首。

(パターンⅢ)

語順：連体節動詞(副動詞)：項 <動作主> 被修飾語(二重役割名詞) 主節動詞(主動詞)：項 <動作主>

(39d) 梶杀了启子，昨天来中央警局自首。

(パターンⅡ)

語順：被修飾語 連体節動詞：項 <動作主> 主節動詞：項 <動作主>

中国語では格マーカーがないため、語順によって動詞とそれが支配する名詞の意味関係が示されている。「主動詞＋二重役割名詞＋副動詞」構文を成立させる条件は「主動詞に対する二重役割名詞の意味役割が<対象>であり、且つ副動詞に対する二重役割名詞の意味役割が<動作主・経験者>である」ということである。(39a)では、被修飾語「梶」(“梶”)の連体節動詞「殺害した」(“杀了”)に対する意味役割と主節動詞「自首してきた」(“自首”)に対する意味役割のいずれもが<動作主・経験者>であるから、この三者の中国語における語順は“梶(“梶”)＋杀了(“殺害した”)”、“梶(“梶”)＋自首(“自首してきた”)”となる。したがって、(39b)のような“自首(“自首してきた”)＋梶(“梶”)”、(39c)のような“杀了(“殺害した”)＋梶(“梶”)”はいずれも非文になる。

(40a) ぐにやりと首を曲げて目を閉じている小鳥を囲んで、他の子供たちは泣いていた。

(『コンビニ人間』)

連体節動詞：項 <動作主> 主節動詞：項 <対象>

(40b) ? 其他孩子围着小鸟软绵绵地歪着脖子，闭着双眼，都哭了。(パターンⅢ)

語順：主節動詞(主動詞)：項 <対象> 被修飾語(二重役割名詞) 連体節動詞(副動詞)：項 <動作主>

【逐語訳：他の子供たちは小鳥を囲んで、首を曲げて、目を閉じて、泣いていた。】

(40c) 小鸟软绵绵地歪着脖子，闭着双眼，其他孩子围着它，都哭了。 (パターンⅡ)

(《人間便利店》)

語順：被修飾語&連体節動詞：項 <動作主> / 主節動詞：項 <対象>&被修飾語(代名詞)

【逐語訳：小鸟は首を曲げて、目を閉じていた。他の子供たちはそれを囲んで、泣いていた。】

(41a) ぐにやりと首を曲げて目を閉じている小鳥を見て、他の子供たちは泣いていた。

((40a)を一部改変)

連体節動詞：項 <動作主> 主節動詞：項 <対象>

(41b) 其他孩子看见小鸟软绵绵地歪着脖子，闭着双眼，都哭了。 (パターンⅢ)

語順：主節動詞(主動詞)：項 <対象> 被修飾語(二重役割名詞) 連体節動詞(副動詞)：項 <動作主>

【逐語訳：他の子供たちは小鳥が首を曲げて、目を閉じているのを見て、泣いていた。】

既に述べた通り、「日本語における主節動詞(あるいは連体節動詞)に対する名詞の意味役割が対象であり、且つ連体節動詞(あるいは主節動詞)に対する名詞の意味役割が動作主・経験者である」という条件(条件1)はパターンⅢの必要条件であるが、十分条件ではない。

(40a)のように、連体節動詞「曲げて、閉じている」(“歪着、闭着”)に対する被修飾語「小鳥」(“小鸟”)の意味役割が<動作主>で、主節動詞「囲んで」(“围着”)に対する被修飾語「小鳥」(“小鸟”)の意味役割が<対象>であるにも拘わらず、これをパターンⅢで訳すと、(40b)のように「他の子供たちは首を曲げて、目を閉じて」となり、訳文の意味が一変してしまうこともある。

(40a)の主節動詞「囲んで」(“围着”)を「見て」(“看见”)に替えると、(41a)になる。(40a)と(41a)は主節動詞のみが違い、他の成分が全て同じである。(41a)がパターンⅢで訳された訳文である(41b)は、自然な中国語文である。すなわち、いずれも条件1を満たす(40a)と(41a)のうち、(40a)にパターンⅢが適用できず、(41a)には適用できるということは(40a)の主節動詞が適切ではないということを示唆している。

事実、中国語の「兼語文」構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞は任意の動詞で成立するわけではない。劉ほか(1983)は「主述フレーズ⇒目的語」構文における主

動詞の特徴を(42)のように述べている。なお、以下では訳文のみを示してある。また、(43)はその例である。

(42) 主述フレーズ⁴²が目的語になる場合、動詞は通常、感覚や心理活動を表すものである。例えば、“说”“想”“看”“听”“觉得”“认为”“以为”“记得”“忘”“忘记”“知道”“相信”“认识”“希望”“赞成”“反对”“同意”“发现”“指出”“建议”など。主述フレーズそのものが表すのは一つの事柄である。

(劉ほか 1983、相原ほか(1991:380)による訳文を一部改変)

(43a) 我们看到她的短发已经变成两条长辫子了。

(43b) 彼女のおかっぱ髪がすでに二本の長いおさげに変わっているのを我々は目にした。

(劉ほか 1983、訳文は相原ほか(1991:380)による)

また、劉ほか(1983)は「兼語文」構文における主動詞を(44)～(48)の5つに分けている。

(44) 使役の意味を表すもの。例：“使”“让”“叫”“请”“派”“强迫”“吩咐”“打发”“促使”“使得”“要求”“迫使”“催促”“要”等使役の意味を表す動詞。兼語の後の語句が表す動作・行為または状態は前の動詞が表す動作・行為によって引き起こされるものである。また、許可あるいは禁止の意味を表す動詞。

(45) 呼称あるいは認定の意味を表すもの。例：“称”“叫”“骂”“选”“选举”“推选”“认”“认为”等呼称あるいは認定の意味を表す動詞。

(46) 愛憎、好悪等の意味を表すもの。例：“喜欢”“讨厌”“爱”“恨”“嫌”“佩服”“钦佩”“欣赏”“赞扬”“原谅”等心理活動を表す動詞。

(47) “有”あるいは“没有”であるもの。

(48) 肯定を表す“是”であるもの。

(劉ほか 1983、相原ほか(1991: 603-605)による訳文を一部改変)

⁴² 本論文における「主語+述語」フレーズを指している。

(49a) 她们跳舞跳得好，大家又请她们跳了一遍。

(49b) 彼女達はとてもうまく踊ったので、皆はもう一度彼女達に踊ってもらった。)

(50a) 我认您做我的师傅吧！

(50b) 私に親方と呼ばせて下さい。

(51a) 大家都嫌他说话啰嗦。

(51b) 皆彼の話しかたがくどく要領を得ないのを嫌がっている。

(52a) 有个人心眼儿特别好。

(52b) 非常に親切な人がいた。

(53a) 是风把门吹开了。

(53b) 風でドアが開いたんだ。

(劉ほか 1983、相原ほか(1991: 603-605)による訳文を一部改変)

中国語の「兼語文」構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文に訳し、自然な訳文を得るためには、日本語の内の関係連体節における主動詞(被修飾語が<対象>の項に補う動詞)が中国語において(42)、(44)、(45)、(46)、(47)、(48)のようなタイプの動詞であることが1つの前提となっている。すなわち、(54)～(59)のような6つのタイプ以外の動詞であるならば、パターンⅢを適用できないということである。

(54) 知覚や感覚を表現する知覚動詞。例：見る、聞く、見える、聞こえる等。

(55) 心理を表す動詞。例：賛成する、反対する等。

(56) 使役を表す動詞。例：要請する、命令する等。あるいは、副動詞(被修飾語が<動作主>の項に補う動詞)の表す動作・行為・状態を引き起こす動詞。⁴³

(57) 呼称あるいは認定の意味を表すもの。例：推薦する等。

(58) 愛憎・好悪等の意味を表すもの。例：嫌う、愛する等。

(59) 存在を表す動詞。例：ある、いる、存在する。

⁴³ 例：「今現在、体内のグランドキソンを吸収する薬を使い、下剤と併せて排出を試みているという。」副動詞(被修飾語が<動作主>の項に補う動詞)の表す動作「吸収」は、主動詞(被修飾語が<対象>の項に補う動詞)「使う」によって引き起こされるということである。

3.4.3 パターン I とパターン II の適用条件について

パターン I は、被修飾語を主節動詞の項に優先的に補う翻訳パターンであり、(61b)に見るように被修飾語は主節に置かれ、内の関係連体節部分は独立した文として、主節の後ろに置かれている。

(60) パターン I: {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒主節動詞&被修飾語/内の関係連体節動詞(&被修飾語) (中国語)

(再掲(11))

(61a) 天井からはオレンジ色の硝子ガラスのフリルがついたランプが垂れ下がっている。

(再掲(9a))

(61b) 天花板上悬着灯，上面覆着橙色的玻璃褶边灯罩。

(再掲(9c))

【逐語訳：天井からはランプが垂れ下って、ランプの上にはオレンジ色の硝子のフリルがついた。】

パターン II は、被修飾語を内の関係連体節動詞の項に優先的に補う翻訳パターンであり、(63b)に見るように被修飾語は内の関係連体節の中に戻され、内の関係連体節部分は独立した文として、主節の前に置かれている。

(62) パターン II: {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒内の関係連体節動詞&被修飾語/主節動詞(&被修飾語) (中国語)

(再掲(12))

(63a) 駅前のショッピングモールで買ったケーキを食べながら、皆の顔を見て懐かしい懐かしいと連呼するユカリに皆が笑った。

(再掲(10a))

(63b) 由香里一边品尝着车站前购物中心买来的蛋糕，一边盯着大家的脸，连连说“好怀念好怀念”，大家都笑了。

(再掲(10c))

【逐語訳：ユカリが駅前のショッピングモールで買ったケーキを食べながら、皆の顔を見て懐かしい懐かしいと連呼した。皆が笑った。】

このように、パターンⅠとパターンⅡの違いは、被修飾語は連体節動詞の項に優先的に補うか主節動詞の項に優先的に補うかということである。その優先順位は連体節内容と主節内容との前後位置に関わっている。連体節内容と主節内容との前後位置に影響を与える要因は、パターンⅠとパターンⅡの適用条件を左右するものである。以下では、その要因について分析する。

3.4.3.1 連体節と主節との時間的關係と翻訳パターンの適用条件

内の関係連体節構文について、連体節動詞がル形を取る時、連体節と主節との時間的關係の解釈には①主節が連体節に時間的に先行する事態を表す（以下、「主節→連体節」）、②連体節が主節に時間的に先行する事態を表す（以下、「連体節→主節」）、③主節と連体節の事態が同時に生起する（以下、「連体節＝主節」）という3つがある(大島 2008)。

(64) 翌日の仕事に使う道具を用意した。(「主節→連体節」)

(65) このレストランに来る人は必ずハンバーグを注文した。(「連体節→主節」)

(66) 彼は一生懸命チラシを配る/配っている彼女を手伝った。(「連体節＝主節」)

(いずれも大島 2008 : 102)

また、連体節動詞がタ形を取る時、連体節と主節との時間的關係の解釈には①主節が連体節に時間的に先行する事態を表す（以下、「主節→連体節」）、②連体節が主節に時間的に先行する事態を表す（以下、「連体節→主節」）という2つがある(大島 2011)。

(67) 太郎が着た服は花子が作りました。(「主節→連体節」)

(68) 太郎が提出したレポートは田中先生が採点しました。(「連体節→主節」)

(いずれも大島 2011 : 63)

大島(2008)と大島(2011)が述べた内容をまとめると、内の関係連体節構文において、連体節と主節との時間的関係の解釈には(69)～(71)の3つがあるということになる。

(69) 主節が連体節に時間的に先行する事態を表す。(「主節→連体節」)

(70) 連体節が主節に時間的に先行する事態を表す。(「連体節→主節」)

(71) 主節と連体節の事態が同時に生起する。(「連体節＝主節」)

(72a) 青木ヶ原樹海で自殺した彼は、タクシーでそこへ行った。(主節→連体節)

(72b) 他坐出租车去青木原树海，在那里自杀了。(パターンⅠ)

【逐語訳：彼がタクシーで青木ヶ原樹海へ行って、そこで自殺した。】

(72c) ? 他在青木原树海自杀了，坐出租车去那里。(パターンⅡ)

【逐語訳：?彼が青木ヶ原樹海で自殺し、タクシーでそこへ行った。】

(73a) 来週東京ドームでコンサートを行う彼は、昨日自殺した。(主節→連体節)

(73b) 他昨天自杀了，(原本) 下周要在东京巨蛋开演唱会。(パターンⅠ)

【逐語訳：彼が昨日自殺した。来週東京ドームでコンサートを行う(つもりだった)。】

(73c) 他(原本) 下周要在东京巨蛋开演唱会，昨天自杀了。(パターンⅡ)

【逐語訳：彼が来週東京ドームでコンサートを行う(つもりだった)が、昨日自殺した。】

(72a)には、「彼が青木ヶ原樹海で自殺した」と「彼がタクシーで青木ヶ原樹海へ行った」という2つの事態がある。被修飾語の「彼」は、連体節において取っている格が主格であり、連体節動詞「自殺した」に対する意味役割も<動作主>である。また、主節において取っている格も主格であり、主節動詞「行った」に対する意味役割が<動作主>である。この2つの事態の時間的前後関係は言語外的知識に基づいて判断できる。「彼がタクシーで青木ヶ原樹海へ行った」という事態は必ず「彼が青木ヶ原樹海で自殺した」より先行するから、(72a)における連体節と主節との時間的関係は「主節→連体節」である。また、「青

木ヶ原樹海で自殺した」という連体節の有無に関わらず、「彼」という名詞の指示対象は一定しており、(72a)は非限定的な連体節である。

(73a)には、「彼が来週東京ドームでコンサートを行う」と「彼が昨日自殺した」という2つの事態がある。被修飾語の「彼」は、連体節において取っている格が主格であり、連体節動詞「行う」に対する意味役割は〈動作主〉である。また、主節において取っている格も主格であり、主節動詞「自殺した」に対する意味役割も〈動作主〉である。この2つの事態の時間的前後関係は、「来週」と「昨日」という時間を表す名詞に基づいて判断できる。

「彼が来週東京ドームでコンサートを行う」という事態は「彼が昨日自殺した」より先行するから、(73a)における連体節と主節との時間的關係は「主節→連体節」である。また、「来週東京ドームでコンサートを行う」という連体節の有無に関わらず、「彼」という名詞の指示対象は一定しており、(73a)は非限定的な連体節である。

構文的な面から見れば、(72a)と(73a)は(74)～(77)の4つの共通点を持っている。

(74) 被修飾語が連体節において取っている格と主節において取っている格は同じである。連体節において取っている格は主格であり、主節において取っている格も主格である。

(75) 被修飾語が連体節動詞に対する意味役割と主節動詞に対する意味役割は同じである。連体節動詞に対する意味役割は動作主であり、主節動詞に対する意味役割も動作主である。

(76) 主節と連体節との時間的な関係は同じである。主節の表す事態は連体節の表す事態より先行する。

(77) いずれも非限定的な連体節である。

しかし、翻訳パターンの面から見れば、(72a)と(73a)は(78)、(79)の相違点がある。

(78) (72a)はパターンⅠのみを適用でき、パターンⅡで訳すと、不自然な文になる。すなわち、中国語において、連体節の事態と主節の事態の現れる順番が一定しており、先に生起する事態が前に、後で生起する事態が後ろに置かれている。この前後位置は交換できない。

(79) (73a)はパターンⅠとパターンⅡのいずれも適用できる。すなわち、中国語において、連体節の事態と主節の事態の現れる順番が決まっていない。この前後位置は交換できる。

(74)により、被修飾語が連体節において取っている格と主節において取っている格は連体節内容と主節内容との前後位置に直接的な影響を与えているとは認められない。(75)により、被修飾語が連体節動詞に対する意味役割と主節動詞に対する意味役割は連体節内容と主節内容との前後位置に直接的な影響を与えているとは認められない。(77)により、連体節の「限定・非限定の機能」は連体節内容と主節内容との前後位置に直接的な影響を与えているとは認められない。(78)により、主節と連体節との時間的な関係は連体節内容と主節内容との前後位置に影響を与えているとは認められるが、(76)と(79)に照らして見れば、後続する事態が先行する事態の前に置かれると不自然な訳文になるとは必ずしも言えない。

(72a)の訳文は、連体節事態と主節事態の前後位置を交換できない一方で、(73a)の訳文は、連体節事態と主節事態の前後位置を交換できる。その原因は、2つの事態が生起する時間の前後関係ではなく、その時間の間の密接さにあると考えられる。

(80a) 青木ヶ原樹海で自殺した彼は、タクシーでそこへ行った。(主節→連体節)

(再掲(72a))

(80b) 他坐出租车去青木原树海，在那里自杀了。(パターンⅠ)

(再掲(72b))

【逐語訳：彼がタクシーで青木ヶ原樹海へ行って、そこで自殺した。】

(80c) ? 他在青木原树海自杀了，坐出租车去那里。(パターンⅡ)

(再掲(72c))

【逐語訳：?彼が青木ヶ原樹海で自殺し、タクシーでそこへ行った。】

(81a) タクシーで青木ヶ原樹海へ行った彼は，そこで自殺した。(連体節→主節)

(81b) 他坐出租车去青木原树海，在那里自杀了。(パターンⅡ)

【逐語訳：彼がタクシーで青木ヶ原樹海へ行って、そこで自殺した。】

(81c) ? 他在青木原樹海自杀了, 坐出租车去那里。(パターン I)

【逐語訳：? 彼が青木ヶ原樹海で自殺し、タクシーでそこへ行った。】

まず、(80a) と (81a) には、いずれも「彼が青木ヶ原樹海で自殺した」と「彼がタクシーで青木ヶ原樹海へ行った」という 2 つの事態がある。「彼がタクシーで青木ヶ原樹海へ行った」という事態は必ず「彼が青木ヶ原樹海で自殺した」より先行するから、(80a) における連体節と主節との時間的關係は「主節→連体節」であり、反対に (81a) における連体節と主節との時間的關係は「連体節→主節」である。また、「彼がタクシーで青木ヶ原樹海へ行った」と「彼が青木ヶ原樹海で自殺した」という 2 つの事態は継起し、生起する時間は隣接的な關係を持っている。このように連体節と主節の事態の生起する時間が隣接的な關係を持つ場合、時間的な順序が、独立した文として訳される連体節内容の位置を決めている。(81a) のように連体節の事態が先行する場合には、パターン II を適用し、被修飾語を連体節動詞の項に優先的に補って、連体節部分を独立した文に訳し、主節の前に置く。このような場合にはパターン I で訳すと、不自然な訳文になる。一方 (80a) のように主節の事態が先行する場合には、パターン I を適用し、被修飾語を主節動詞の項に優先的に補って、連体節部分を独立した文に訳し、主節の後に置く。このような場合にはパターン II で訳すと、不自然な訳文になる。

(82a) 来週東京ドームでコンサートを行う彼は, 昨日自殺した。(主節→連体節)

(再掲(73a))

(82b) 他昨天自杀了, (原本) 下周要在东京巨蛋开演唱会。(パターン I)

(再掲(73b))

【逐語訳：彼が昨日自殺した。来週東京ドームでコンサートを行う(つもりだった)】

(82c) 他 (原本) 下周要在东京巨蛋开演唱会, 昨天自杀了。(パターン II)

(再掲(73c))

【逐語訳：彼が来週東京ドームでコンサートを行う(つもりだった)が、昨日自殺した。】

(83a) 先週東京ドームでコンサートを行った彼は, 昨日自殺した。(連体節→主節)

(83b) 他昨天自杀了, 上周(还)在东京巨蛋开了演唱会。(パターン I)

【逐語訳：彼が昨日自殺した。先週東京ドームでコンサートを行った。】

(83c) 他上周(还)在东京巨蛋开了演唱会, 昨天自杀了。(パターンⅡ)

【逐語訳：彼が先週東京ドームでコンサートを行った。昨日自殺した。】

次に、(82a)では主節の表す事態「彼が昨日自殺した」が連体節の表す事態「彼が来週東京ドームでコンサートを行う」より先行していることから、主連体節と主節との時間的關係は「主節→連体節」である。しかし、(80a)とは異なり、(82a)における「彼が昨日自殺した」と「彼が来週東京ドームでコンサートを行う」の2つの事態は時間的な間隔が長く、生起する時間の中に隣接的な関係を持っているとは認められない。中国語においては、2つの事態が長い時間を隔てて生起する場合、それらが現れる順序は制限が厳しくないから、独立した文として訳される日本語の連体節を主節の前に置いても後に置いても不自然とはならない。すなわち、パターンⅠとパターンⅡのいずれも適用できるということである。

なお、3.4.1節では、連体節の翻訳パターンの選択と、被修飾語と主節動詞の従属の度合との関係について分析した。「意味役割(連体節)＞意味役割(主節)」の場合には連体節をパターンⅡで訳し、「意味役割(連体節)＜意味役割(主節)」の場合には連体節をパターンⅠで訳し、「意味役割(連体節)＝意味役割(主節)」の場合には連体節をパターンⅡで訳しやすいという傾向が見られることは既に述べた通りである。

したがって、連体節の表す事態と主節の表す事態が長い時間を隔てて生起する場合、上記の傾向を反映する翻訳パターンを選択すると、自然な訳文が得られる。

(84a) コンサートを行っている彼は、突然ステージから飛び降りた。(主節＝連体節)

(84b) 他正在开演唱会, 突然从舞台上跳了下来。(パターンⅡ)

【逐語訳：彼がコンサートを行って、突然ステージから飛び降りた。】

(84c) ? 他突然从舞台上跳了下来, 正在开演唱会。(パターンⅠ)

【逐語訳：?彼が突然ステージから飛び降りた。コンサートを行っていた。】

すなわち、(84a)における主節の表す事態「彼が突然ステージから飛び降りた」と連体節の表す事態「彼がコンサートを行っている」が同時に生起する。(33)の結論によって、「意味役割(連体節)＝意味役割(主節)」の場合、(84b)のようにパターンⅡで訳すと、自然な訳文が得られる確率が高い。

3.4.3.2 「眼前描写」・「非眼前描写」機能と翻訳パターンの適用条件

日本語における内の関係連体節の意味的な役割については「限定的用法」と「非限定的用法」の2つに大きくは分けられる(寺村 1983、金水 1986)。

(85) 限定的用法：

被修飾名詞が指示対象とするある実体の集合の中から、ある特徴をもつ部分集合を取り出すための修飾。

(寺村 1983 : 114⁴⁴、一部省略)

限定とは、修飾される名詞の表す集合を分割し、その真部分集合を作り出す働き。

(金水 1986 : 606、一部省略)

(86) 非限定的用法：

ある特定の対象について、ある情報を付け加えるための修飾。

(寺村 1983 : 115、一部省略)

非限定的な連体成分の機能は、背景、理由、詳細説明などの情報を主文に付加する所にある。

(金水 1986 : 607、一部省略)

(87) 軽い会釈をして、男性客が差し出した缶コーヒーを受け取る。

(『コンビニ人間』)

(88) 電話を切った志木は短い息を吐いた。

(『半落ち』)

(87)は限定的連体節の例であり、(88)は非限定的連体節の例である。(87)では、「缶コーヒー」という集合の中から、「男性客が差し出した」特定の缶コーヒーを取り出して問題にしており、「缶コーヒー」という名詞の指示対象が限定されている。これに対して、(88)では、「電話を切った」という連体節の有無に関わらず、「志木」という名詞の指示対象は一定している。連体節は被修飾語を限定しておらず、情報を付加していると言える。

⁴⁴ 引用のページ番号は寺村(1992)による。以下同様。

更にソムキャット(2002)は「非限定的用法」の連体節を、疑問のスコープに入り得るか否かにより、「眼前描写」と「非眼前描写」の2種類に分けている。疑問のスコープに入り得るものは「眼前描写」の連体節であり、入り得ないものは「非眼前描写」の連体節である。この「眼前描写」の連体節とは「話し手が視点をおく場面(以下「眼前」と呼ぶ)に存する状況や生起した事態(あるいは、そのように想定される状況・事態)をそのまま描写するもの」(ソムキャット 2002:98)である。

また、ソムキャット(2002)は「眼前描写」の連体節の意味的な特徴を(89)、(90)のようにまとめた。

(89)連体節の示す内容は、主名詞の持つ恒常的な属性ではなく、当該場面で新たに生起した一時的な事態であり、また

(90)連体節は主節と密接な関係をもって、一つの場면을構成する。

(ソムキャット 2002:103)

すなわち、(90)における「密接な関係」は、連体節と主節は「時間的」と「意味的」という2つの面で密接な関わりを持つということである。「時間的」な面で「密接な関係」があるというのは、連体節の表す事態の生起時が、主節のそれと時間的に「同一」か「隣接」的な関係があるということである(ソムキャット 2002:101)。また、「意味的」な面で「密接な関係」があるというのは、連体節が主節の事態に対し「順接」を表し、主節の事態との意味的な関係が単純であるということである(ソムキャット 2002:103)。

(91a) おでんを食べた父親が突然テーブルをひっくりかえした。

(ソムキャット 2002:103)

(91b) おでんを嫌いだった父親が今日テーブルをひっくりかえした。

(92a) 昨日機嫌良くおでんを食べた父親が今日テーブルをひっくりかえした。

(ソムキャット 2002:103)

(92b) 控え室に戻ろうとした私は、直接そこを出て家に帰った。

(ソムキャット 2002:103)

(91a)における連体節の事態「父親がおでんを食べた」は被修飾語の恒常的な性質ではなく、一時的な事態であり、かつ主節の事態「父親が突然テーブルをひっくりかえした」と継起的に生起する。すなわち、連体節の事態と主節の事態は生起時が隣接的な関係を持っている。(89)により、(91a)は「眼前描写」の連体節である。一方、(91b)における連体節の事態「おでんを嫌いだった」は被修飾語の「父親」の恒常的な性質を表すから、(90)により、「非眼前描写」の連体節であると判断できる。(92a)における連体節の事態「昨日父親が機嫌良くおでんを食べた」と主節の事態「父親が今日テーブルをひっくりかえした」については、「昨日」と「今日」があることから、2つの事態の生起時が切り離され、時間的に密接な関係を持っていないと判断できる。(90)により、(91b)は「非眼前描写」の連体節である。(92b)における連体節の事態「私が控え室に戻ろうとした」と主節の事態「私直接そこを出て家に帰った」は「逆接」という意味的な関係であるから、(90)により、(92b)は「非眼前描写」の連体節であると判断できる。

ソムキャット(2002)は「非限定的な連体節」という枠の中において「眼前描写」と「非眼前描写」について検討しているが、「限定的な連体節」にも「眼前描写」と「非眼前描写」というような区別がある。

(93) 青木ヶ原樹海で自殺した男は、タクシーでそこへ行った。

(94) 来週東京ドームでコンサートを行う歌手は、昨日自殺した。

(93)と(94)は2つとも限定的連体節の例である。(93)では、「男」という集合の中から、「青木ヶ原樹海で自殺した」という特徴を持っている特定の男を取り出して問題にしており、「男」という名詞の指示対象が限定されている。(93)と同様に、(94)では、「歌手」という集合の中から、「来週東京ドームでコンサートを行う」という特徴を持っている特定の歌手を問題にしており、被修飾語の指示対象が限定されている。

(93)における連体節の事態「青木ヶ原樹海で自殺した」は被修飾語の恒常的な性質ではなく、一時的な事態であり、かつ主節の事態「男がタクシーでそこへ行った」と継起的に生起し、2つの事態が時間的に密接な関係を持っている。連体節の事態は新たに生起した一時的な事態であり、主節の事態と生起時は密接な関係を持っているから、ソムキャット(2002)が論じた「眼前描写」の連体節の特徴に合致し、「眼前描写」の連体節と認められ

る。

一方、(94)は「非眼前描写」の連体節である。(94)における連体節の事態「歌手が来週東京ドームでコンサートを行う」と主節の事態「歌手が昨日自殺した」という2つの事態の生起時が切り離され、時間的に密接な関係を持っていないから、「眼前描写」の連体節とは認められない。

前節でも触れた通り、日本語における連体節の事態と主節の事態のどちらが中国語において先に現れるのかという点は、パターンⅠとパターンⅡの選択に密接な関わりを持っている。中国語において、連体節の事態と主節の事態との現れる順番が変わると文が不自然になる場合には連体節の事態が先行するならば、パターンⅡを適用し、主節の事態が先行するならば、パターンⅠを適用する。また、そもそも中国語において、連体節の事態と主節の事態との現れる順番が変わっても、文が不自然ではない場合、パターンⅠとパターンⅡのいずれも適用できる。

このように連体節の事態と主節の事態との現れる順番を入れ替え得るかは、2つの事態が時間的に密接な関係を持つか否かということと関係がある。すなわち、「眼前描写」か「非眼前描写」かと関わりがあるということである。「眼前描写」の連体節については、その事態と主節の事態が一つの場面を構成するから、中国語において、時間的な前後関係に沿って現れないと、訳文が不自然になってしまう。「非眼前描写」の連体節は、その事態と主節の事態が一つの場面を構成しないから、中国語において、時間的な前後関係に沿って現れなくても問題が生じない。

(95a) 青木ヶ原樹海で自殺した彼は、タクシーでそこへ行った。(主節→連体節)

(再掲(72a))

(95b) 他坐出租车去青木原树海，在那里自杀了。(パターンⅠ)

(再掲(72b))

【逐語訳：彼がタクシーで青木ヶ原樹海へ行って、そこで自殺した。】

(95c) ? 他在青木原树海自杀了，坐出租车去那里。(パターンⅡ)

(再掲(72c))

【逐語訳：？彼が青木ヶ原樹海で自殺し、タクシーでそこへ行った。】

(96a) 青木ヶ原樹海で自殺した男は、タクシーでそこへ行った。(主節→連体節)
(再掲(93))

(96b) 那个男人坐出租车去青木原树海，在那里自杀了。(パターンⅠ)

【逐語訳：あの男がタクシーで青木ヶ原樹海へ行って、そこで自殺した。】

(96c) ? 那个男人在青木原树海自杀了，坐出租车去那里。(パターンⅡ)

【逐語訳：?あの男が青木ヶ原樹海で自殺し、タクシーでそこへ行った。】

(97a) 来週東京ドームでコンサートを行う彼は、昨日自殺した。(主節→連体節)
(再掲(73a))

(97b) 他昨天自杀了，(原本) 下周要在东京巨蛋开演唱会。(パターンⅠ)

(再掲(73b))

【逐語訳：彼が昨日自殺した。来週東京ドームでコンサートを行う(つもりだった)。】

(97c) 他 (原本) 下周要在东京巨蛋开演唱会，昨天自杀了。(パターンⅡ)

(再掲(73c))

【逐語訳：彼が来週東京ドームでコンサートを行う(つもりだった)が、昨日自殺した。】

(98a) 来週東京ドームでコンサートを行う歌手は、昨日自殺した。(主節→連体節)
(再掲(94))

(98b) 那个歌手昨天自杀了，(原本) 下周要在东京巨蛋开演唱会。(パターンⅠ)

【逐語訳：あの歌手が昨日自殺した。来週東京ドームでコンサートを行う(つもりだった)。】

(98c) 那个歌手 (原本) 下周要在东京巨蛋开演唱会，昨天自杀了。(パターンⅡ)

【逐語訳：あの歌手が来週東京ドームでコンサートを行う(つもりだった)が、昨日自殺した。】

(95a)と(96a)は「眼前描写」の連体節の例であり、(97a)と(98a)は「非眼前描写」の連体節の例である。また、(95a)と(97a)は非限定的な連体節の例で、(96a)と(98a)は限定的な連体節の例である。

(95a)における連体節の事態「木ヶ原樹海で自殺した」と主節の事態「彼がタクシーでそ

こへ行った」とは時間的に密接な関係を持っており、「眼前描写」の連体節であると判断できる。この連体節の事態と主節の事態は、「彼はタクシーで青木ヶ原樹海へ行って、そこで自殺した」という場面を描いているから、中国語において、この2つの事態の現れる順番が生起する時間の順序と異なっていると、「彼は青木ヶ原樹海で自殺し、タクシーでそこへ行った」という文になり、不自然なものになってしまう。「主節→連体節」の順序で訳さなければならないから、パターンⅠのみ適用することができ、パターンⅡを適用することはできない。限定的な連体節である(96a)も同様に、「主節→連体節」という2の事態の生起時の前後関係で、翻訳パターンを選択する。

一方、(97a)における連体節の事態「彼が来週東京ドームでコンサートを行う」と主節の事態「彼が昨日自殺した」との間には時間的に長い間隔があるから、「非眼前描写」の連体節であると判断できる。連体節の事態と主節の事態は、別々の場面を描いているから、中国語において、この2つの事態の現れる順番が生起する時間の順序と異なっても、訳文は不自然にはならない。すなわち、パターンⅠとパターンⅡのいずれも適用できるということである。同様に、限定的な連体節である(98a)もパターンⅠとパターンⅡのいずれも適用することができる。

3.5 内の関係連体節の翻訳アプローチ

ここまで日本語における内の関係連体節を中国語に訳すパターンと各パターンの適用条件を検討してきた。内の関係連体節の翻訳パターン(分訳法)はパターンⅠ、Ⅱ、Ⅲの3種類である。パターンⅠは被修飾語を主節の持つ項に優先的に補うパターンである。パターンⅡは被修飾語を連体節の持つ項に優先的に補うパターンである。パターンⅢは被修飾語を主節の持つ項と連体節の持つ項に同時に補うパターンである。

翻訳パターンⅢの適用可否を影響する要因は主節動詞・連体節動詞に対する被修飾語の意味役割、主節動詞・連体節動詞のタイプという2つである(3.4.2節)。

翻訳パターンⅠと翻訳パターンⅡの適用可否を影響する要因は主節動詞・連体節動詞に対する被修飾語の従属の度合の強弱(3.4.1節)、主節・連体節の表す事態の時間的な関係(3.4.3.1節)、連体節が眼前描写の連体節であるか否か(3.4.3.2節)という3つである。眼前描写の連体節は、連体節の表す事態と主節の表す事態が密接な時間的な関係を持ち、1つの

場面を構成している。中国語において、このような2つの事態を、事態の生起する時間の順序で記述するのは一般的であるから、眼前描写の連体節の翻訳パターンの適用可否を影響する要因は、主節動詞・連体節動詞に対する被修飾語の従属の度合の強弱と、主節・連体節の表す事態の時間的な関係という2つである。非眼前描写の連体節は、連体節の表す事態と主節の表す事態が密接な時間的な関係を持たない、別々の場面を描いている。中国語において、このような2つの事態の現れる順番が生起する時間の順序と異なっても、文は不自然にはならないから、非眼前描写の連体節の翻訳パターンの適用可否を影響する要因は主節動詞・連体節動詞に対する被修飾語の従属の度合の強弱という1つである。

それぞれのパターンの適用条件を改めて整理すると以下ようになる。

まず、パターンⅠの適用条件は(99)～(101)の3つである。

(99)連体節が「眼前描写」の連体節であり、主節は連体節に時間的に先行する事態を表している。

(100)連体節が「眼前描写」の連体節であり、主節と連体節の事態が同時に生起し、意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合が意味役割(連体節)の動詞に対する従属の度合よりレベルが強い。

(101)連体節が「非眼前描写」の連体節であり、意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合が意味役割(連体節)の動詞に対する従属の度合よりレベルが強い。

次に、パターンⅡの適用条件は(102)～(106)の5つである。

(102)連体節が「眼前描写」の連体節であり、主節に時間的に先行する事態を表している。

(103)連体節が「眼前描写」の連体節であり、主節の事態と同時に生起し、意味役割(連体節)の動詞に対する従属の度合が意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合よりレベルが強い。

(104)連体節が「眼前描写」の連体節であり、主節の事態と同時に生起し、意味役割(連体節)の動詞に対する従属の度合が意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合とレベルが同じである。

(105)連体節は「非眼前描写」の連体節であり、意味役割(連体節)の動詞に対する従属の度合が意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合よりレベルが強い。

(106)連体節は「非眼前描写」の連体節であり、意味役割(連体節)の動詞に対する従属の度が意味役割(主節)の動詞に対する従属の度合とレベルが同じである。

最後に、パターンⅢの適用条件は(107)～(110)の4つである。

(107)意味役割(連体節)が<動作主・経験者>であり、意味役割(主節)が<対象>である。且つ、主節動詞は兼語文構文における主動詞の条件を満たす。

(108)意味役割(連体節)が<動作主・経験者>であり、意味役割(主節)が<対象>である。且つ、主節動詞は「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たす。

(109)意味役割(連体節)<対象>であり、意味役割(主節)が<動作主・経験者>である。且つ、連体節動詞は兼語文構文における主動詞の条件を満たす。

(110)意味役割(連体節)<対象>が<対象>であり、意味役割(主節)が<動作主・経験者>である。且つ、連体節動詞は「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たす。

更に上述の3つの翻訳パターンの適用条件に基づき、以下に日本語における内の関係連体節を中国語に訳すアプローチを提案する(図1～図10)。アプローチにおける割合は3.4.1.2節で触れた分訳法で訳された128例の日本語の内の関係連体節構文を、翻訳アプローチの各条件に従って得たものである。

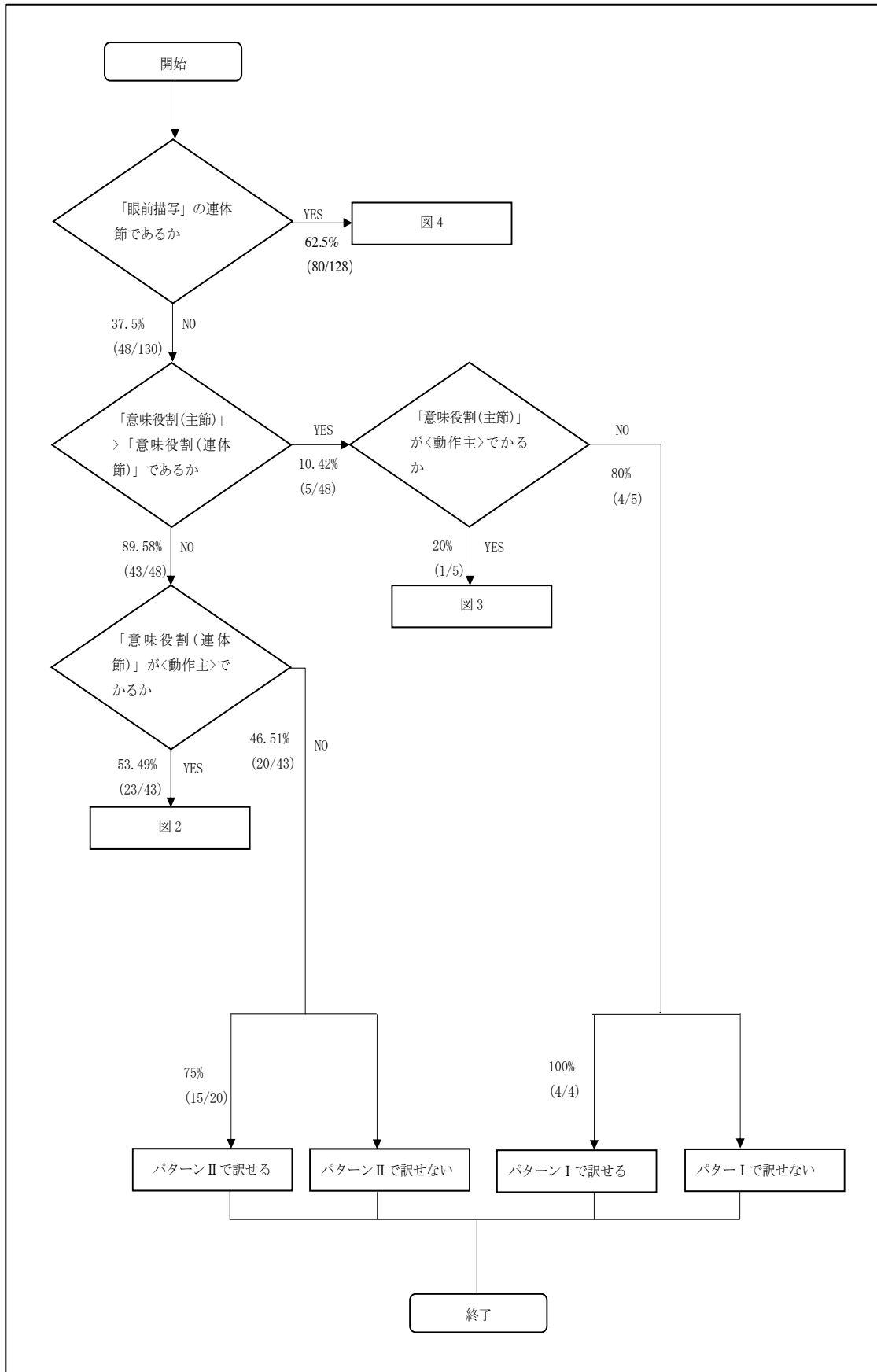


図1 内の関係連体節の中国語に訳すアプローチ

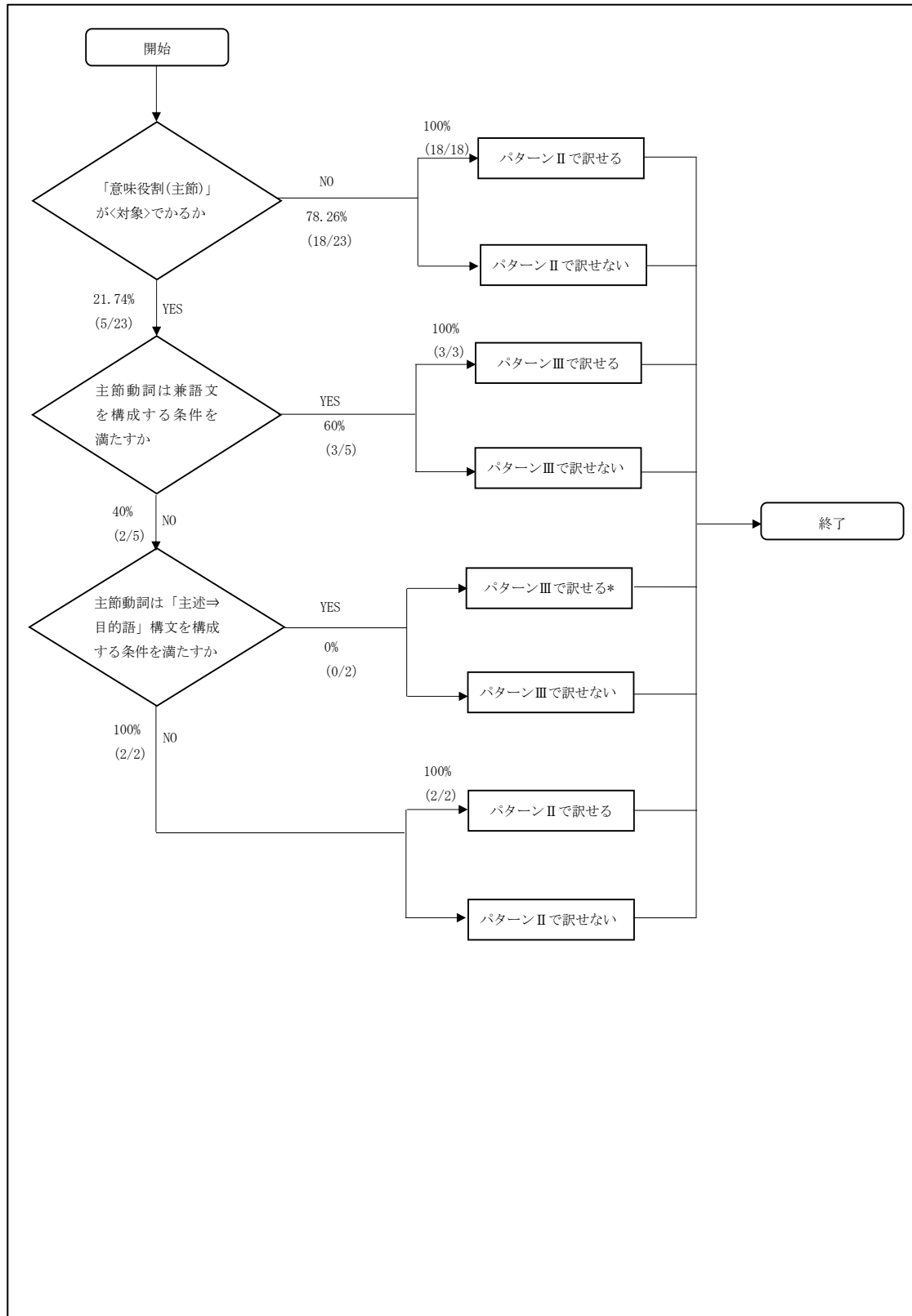


図2 内の関係連体節の中国語に訳すアプローチ (図1から続く)⁴⁵

⁴⁵ 「*」が付いている結果は、128例の中に実例がないが、理論的にはその翻訳パターンで訳すならば、自然な訳文が得る確率が高いことを示している。

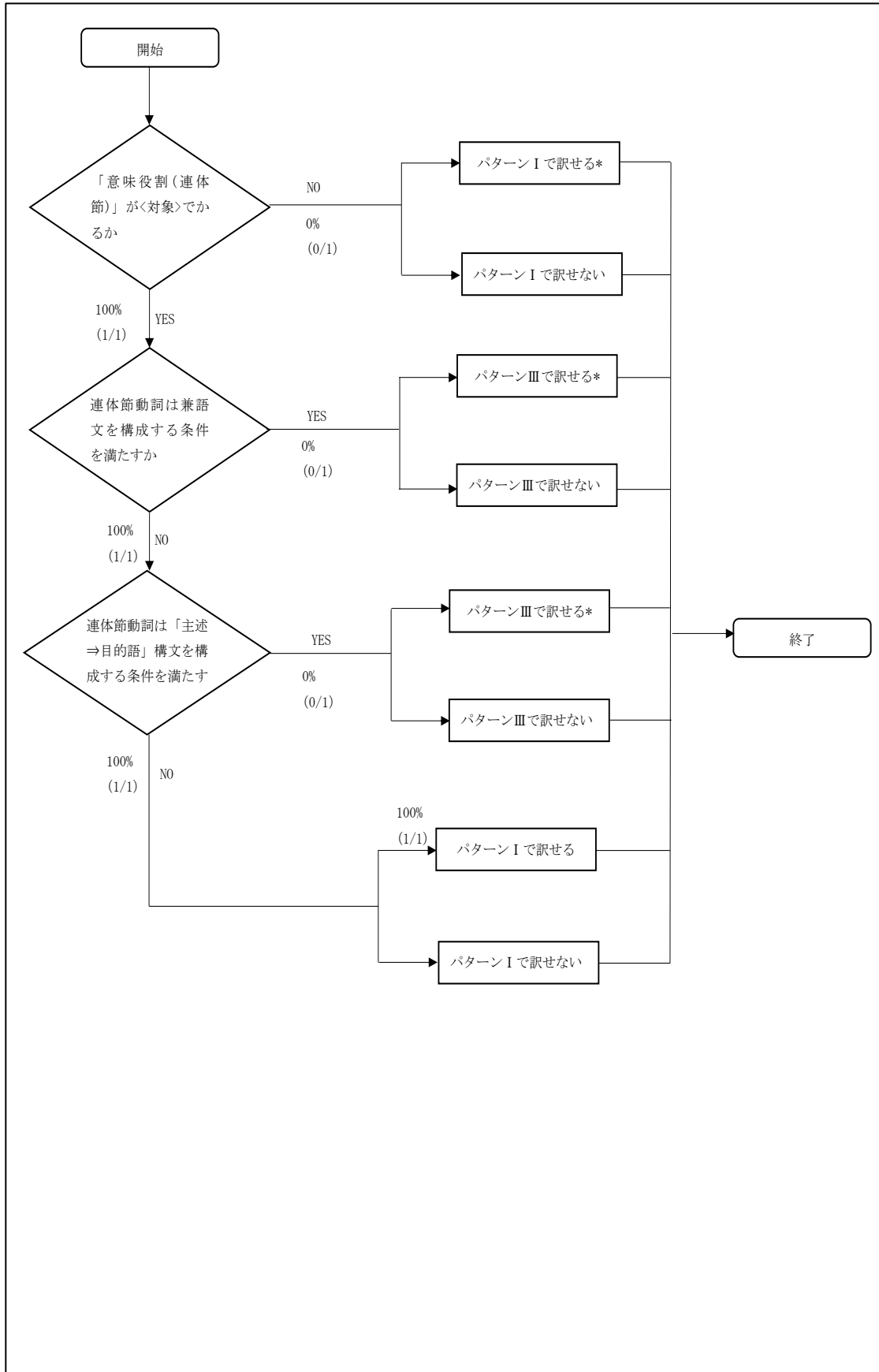


図3 内の関係連体節の中国語に訳すアプローチ (図1から続く)

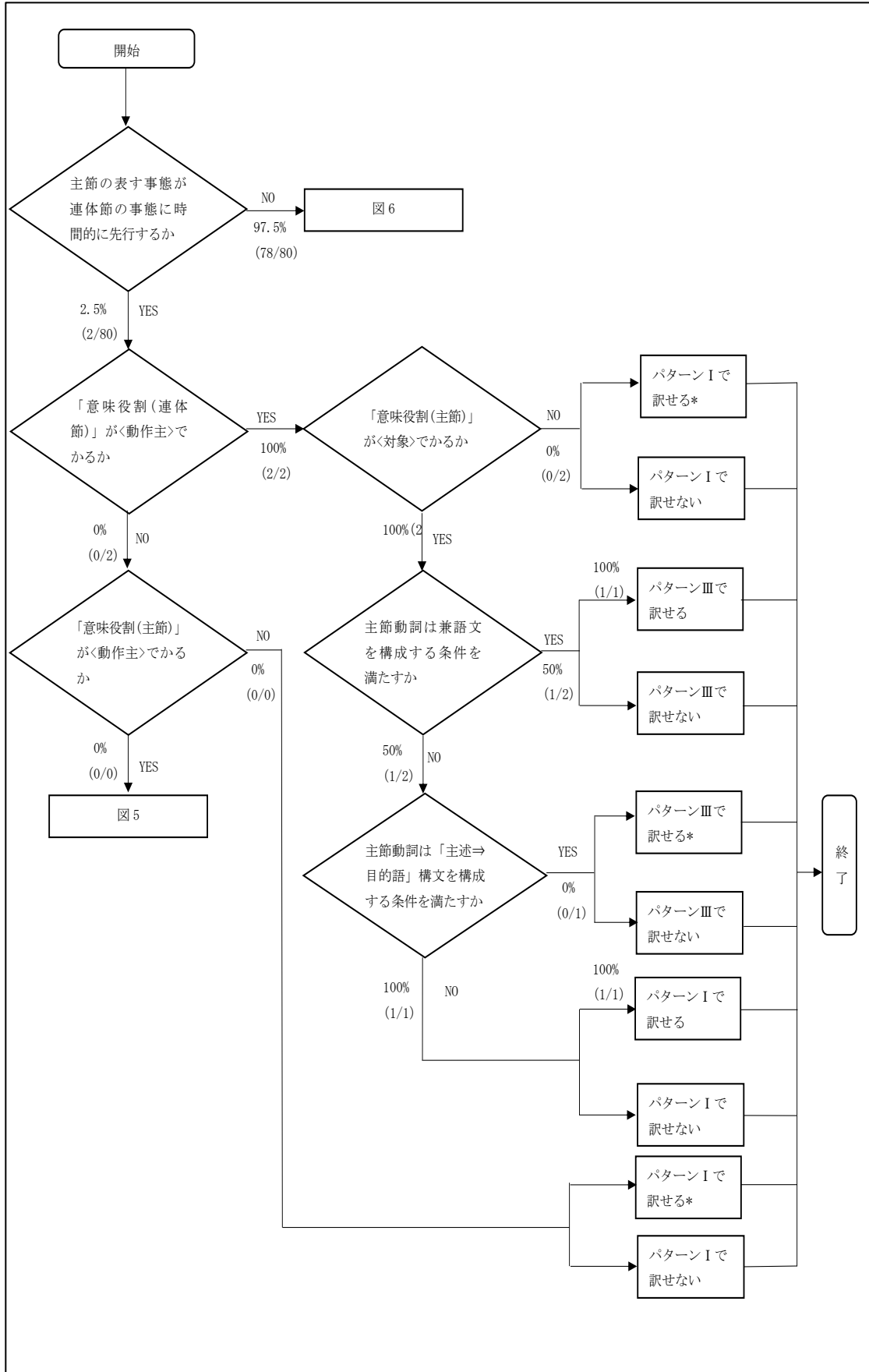


図 4 内の関係連体節の中国語に訳すアプローチ (図 1 から続く)

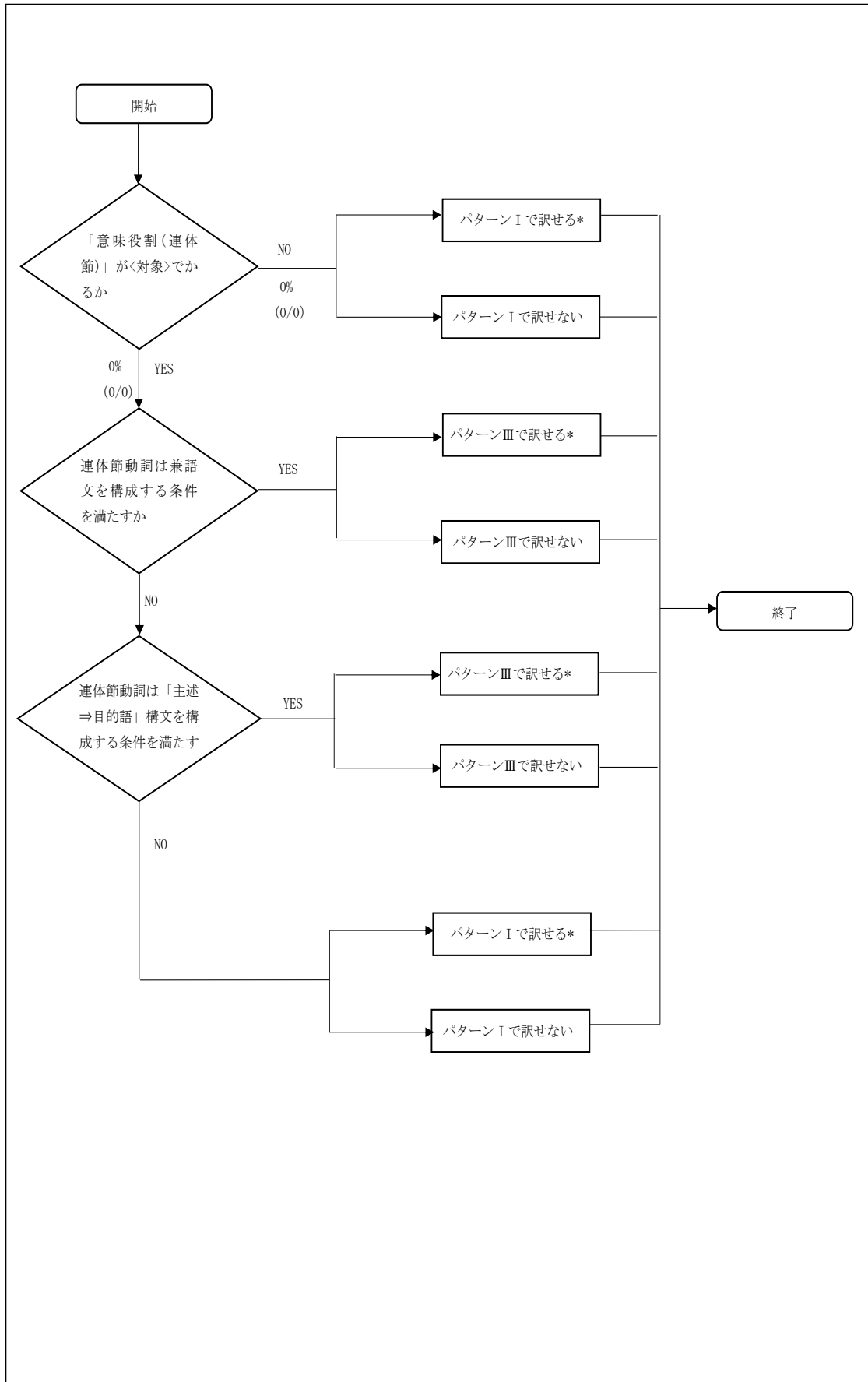


図5 内の関係連体節の中国語に訳すアプローチ (図4から続く)

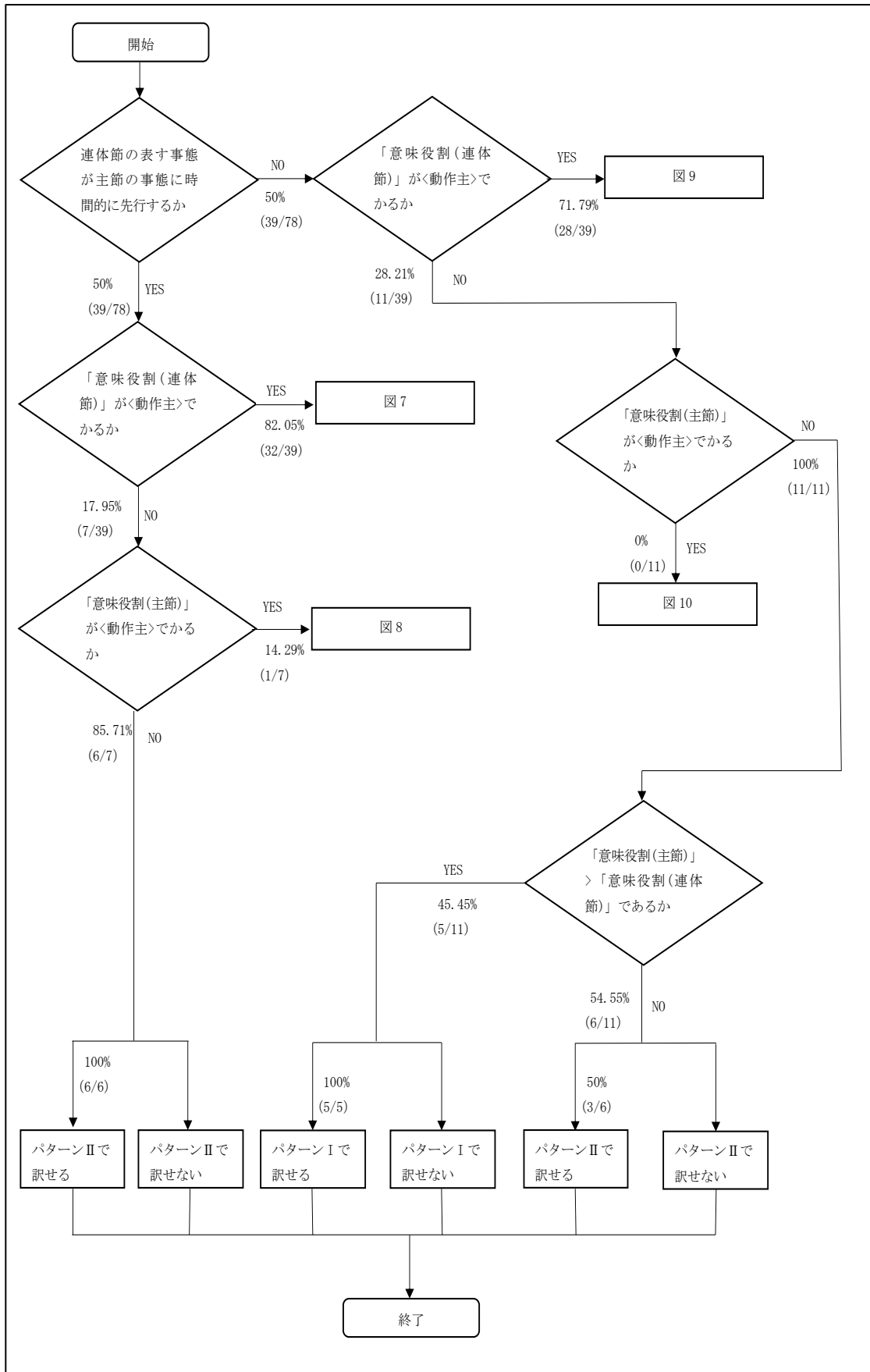


図 6 内の関係連体節の中国語に訳すアプローチ (図 4 から続く)

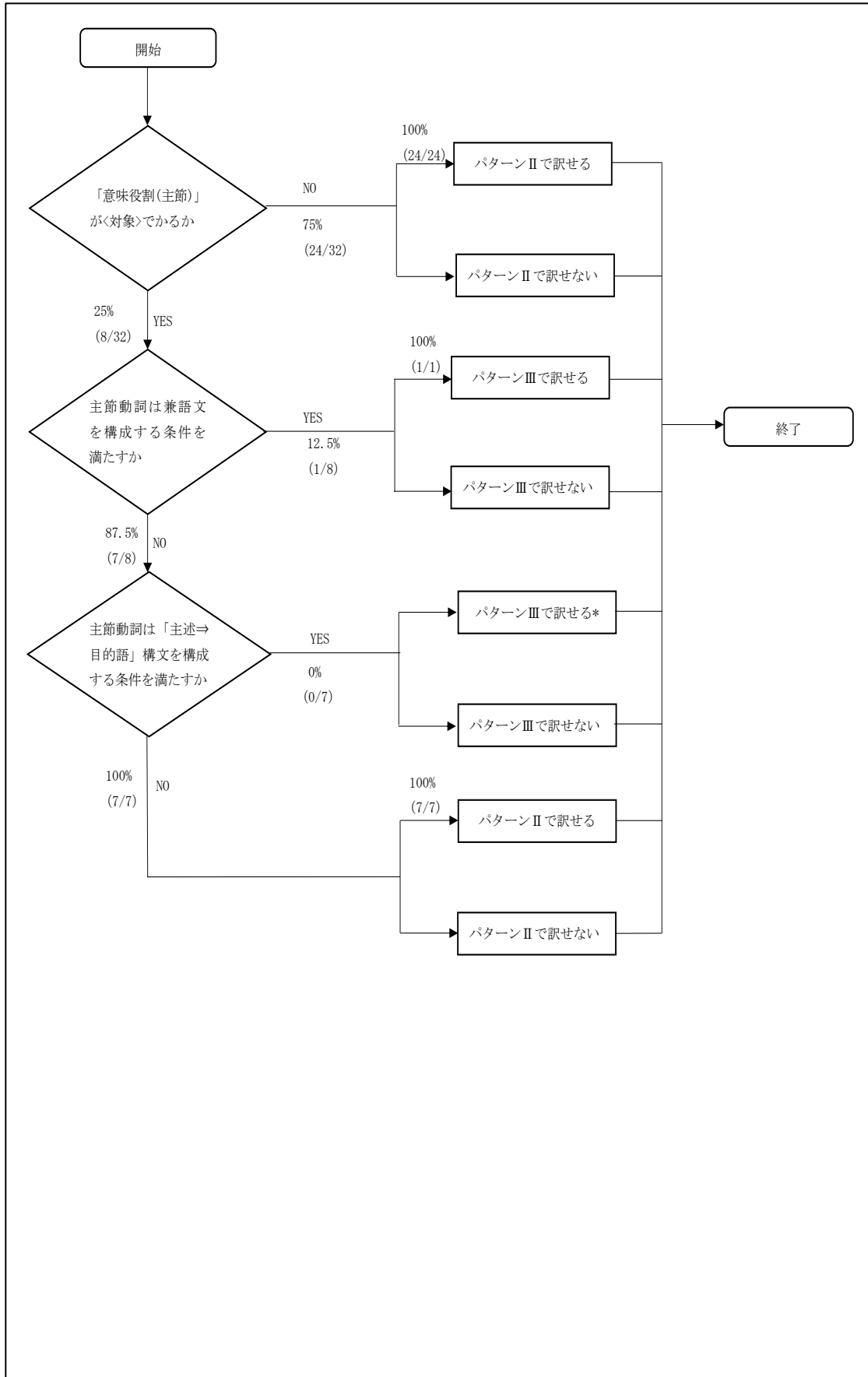


図7 内の関係連体節の中国語に訳すアプローチ (図6から続く)

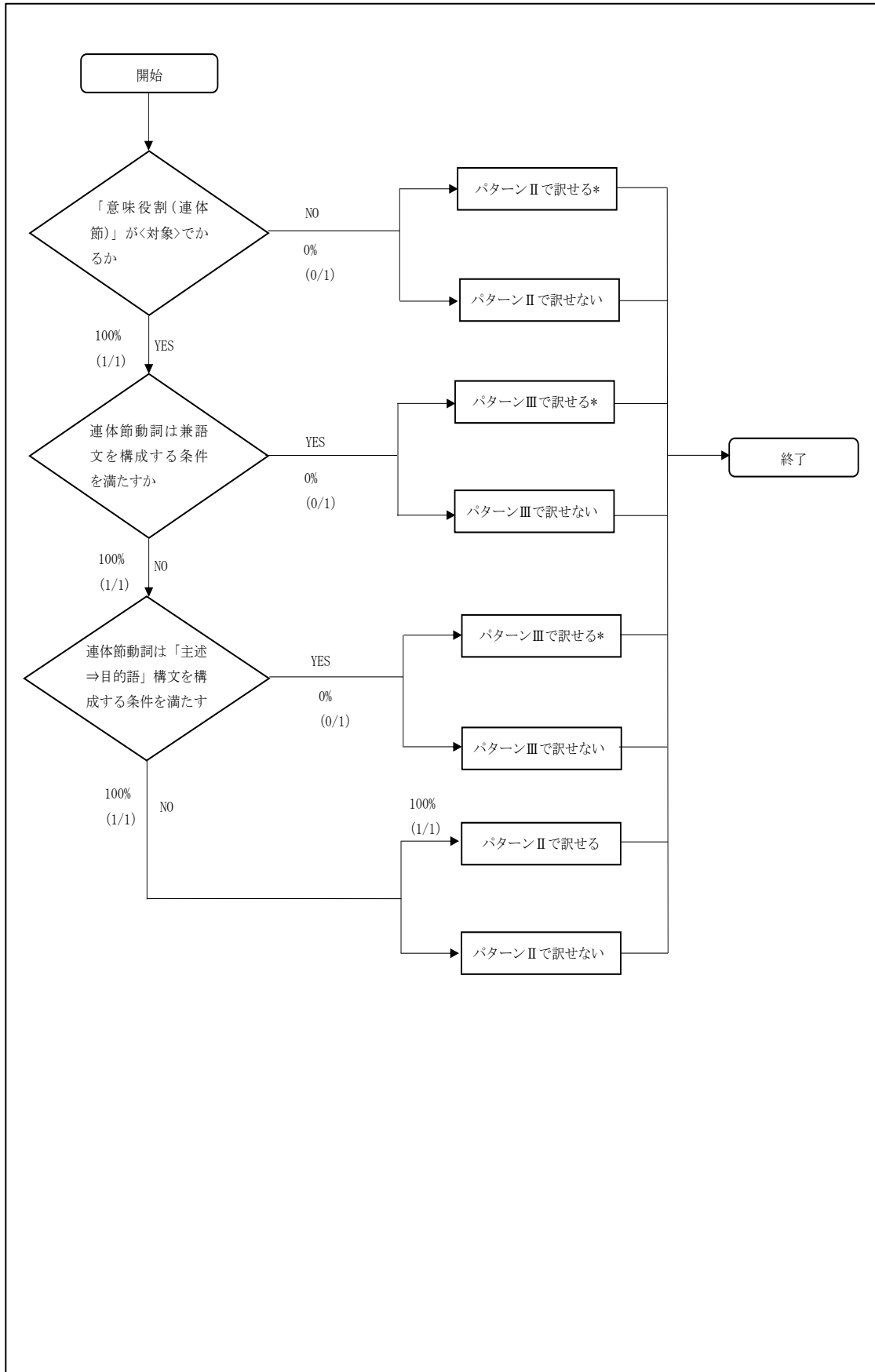


図8 内の関係連体節の中国語に訳すアプローチ (図6から続く)

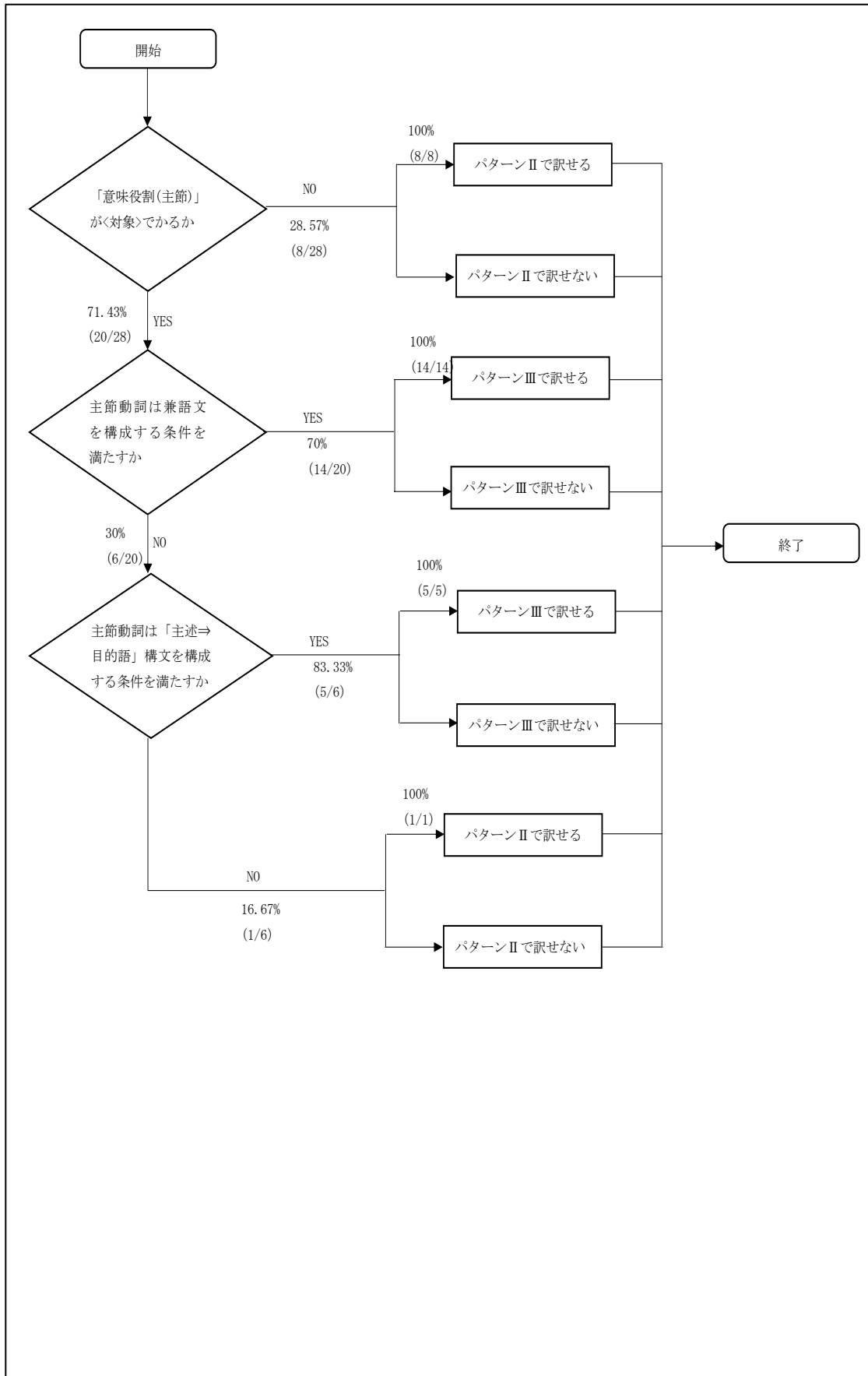


図9 内の関係連体節の中国語に訳すアプローチ (図6から続く)

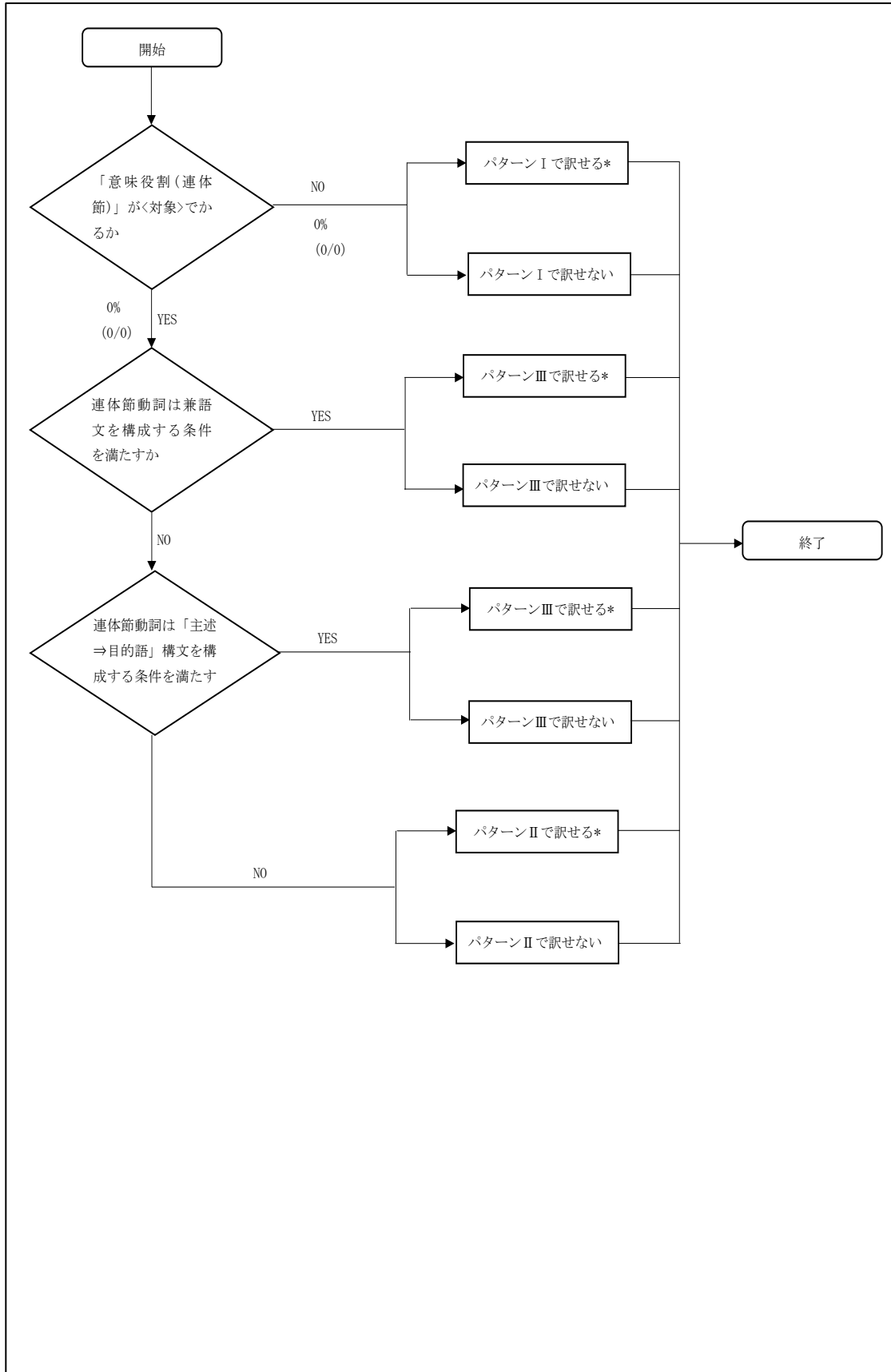


図 10 内の関係連体節の中国語に訳すアプローチ (図 6 から続く)

3.6 内の関係連体節の翻訳アプローチについての検証

本節では、3.5 節で提案した内の関係連体節の中訳アプローチの妥当性について、検証を行う。機械翻訳サイトで直接翻訳アプローチを検証することは、技術的な面で実現しにくいいため、ここでは翻訳アプローチをプリエディットアプローチに転換し、プリエディットアプローチによる訳文を評価するという方法を採用。すなわち、プリエディットされた日本語文の機械翻訳による訳文が、プリエディットされていない日本語文の機械翻訳による訳文より、品質が向上しているならば、プリエディットアプローチの有効性が立証されたということになる。また、プリエディットアプローチの有効性が証明されるならば、翻訳アプローチも有効であると認められる。

プリエディットは、訳文の品質を向上させるための1つの方法であり、所与の機械翻訳システムを用いて翻訳を行う前に起点テキスト（原文）を一定のルールに沿って、翻訳しやすいように書き換える作業である（宮田・藤田 2017）。

(111a) オリジナル起点テキスト：

同国は、前年の過剰輸出と、今年の減産によって、穀物不足に直面しており、大量の小麦輸入の計画を表明している。

(111b) 機械による訳文：

Excess exports in the previous year, and reduced production this year, is facing a shortage of grain, a large amount of wheat imports plan.

(112a) プリエディットを行った起点テキスト：

当年の減産と前年の過剰輸出による穀物の不足をふまえて、この国は小麦を大量に輸入する計画を表明している。

(112b) 機械による訳文：

Based on the shortage of grain due to production cuts in the current year and excessive exports last year, this country has announced plans to import a large amount of wheat.

(113a—114b いずれも宮田・藤田 2017 : 63)

(111b)は(111a)の機械による訳文であるが、明らかに英語としては不自然である。(111a)をあるルールに沿ってプリエディットしたものが(112a)である。起点テキストの機械による訳文は(112b)であり、(111b)と比べて自然なものであると言える。つまり、プリエディットされた後の起点テキストは、プリエディットされる前より、訳文の品質に向上が見られたということである。

本節では、3.5 節で提案した内の関係連体節を中国語に訳すアプローチをプリエディットアプローチに転換し、翻訳アプローチの有効性を検証する。具体的に言えば、翻訳アプローチをプリエディットアプローチに転換するとは、翻訳パターンをプリエディットパターンに転換するということである。すなわち、日本語の連体節構文を、ルールに沿って、各翻訳パターンが対応する訳文の構文に転換する。そのルールとは、これまでの検討を踏まえたプリエディットパターンとその適用条件ということになる。

内の関係連体節を中国語に訳す場合の翻訳パターン(分訳法)：

- (113) パターン I: {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)
⇒主節動詞&被修飾語/内の関係連体節動詞(&被修飾語) (中国語)
(再掲(11))
- (114) パターン II: {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)
⇒内の関係連体節動詞&被修飾語/主節動詞(&被修飾語) (中国語)
(再掲(12))
- (115) パターン III: {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)
⇒主節動詞&被修飾語&連体節動詞 (中国語)
(再掲(13))

内の関係連体節を中国語に訳す場合のプリエディットパターン(分訳法)：

- (116) パターン I' : {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)
⇒被修飾語&主節動詞/内の関係連体節動詞(&被修飾語)⁴⁶ (日本語)

⁴⁶ ここでの「()」は、場合によって、中の被修飾語が省略されることもあるということを示している。

(117) パターンⅡ' : {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒内の関係連体節動詞&被修飾語/主節動詞(&被修飾語)⁴⁷ (日本語)

(118) パターンⅢ' : {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒{被修飾語が連体節動詞}を主節動詞

あるいは、{被修飾語が主節動詞}を連体節動詞 (日本語)

パターンⅠ' は、被修飾語を主節動詞の持つ項に補い、内の関係連体節部分を独立した文として、主節の後ろに置くというものである。

(119a) 天井からはオレンジ色の硝子のフリルがついたランプが垂れ下がっている。

(再掲(9a))

(119b) {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 項: <対象>

(119c) 天井からはランプが垂れ下がっている。 (ランプの) 上にはオレンジ色の硝子のフリルがついた。

(119d) 被修飾語&主節動詞 項: <対象> / 連体節動詞 項: <着点> (& 被修飾語)

パターンⅡ' は、被修飾語を内の関係連体節の中に戻し、連体節動詞の持つ項に補った上で内の関係連体節部分を独立した文として主節の前に置くというものである。

(120a) 改めて一頁ずつ丹念に捲り返した赤い手帳に、少女のはにかんだ笑顔が貼ってあった。

(再掲(15a))

(120b) {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 項: <着点>

(120c) 改めて一頁ずつ丹念に赤い手帳を捲り返した。 (手帳の) 中には少女のはにかんだ笑顔が貼ってあった。

(120d) 連体節動詞 項: <対象> & 被修飾語/ 主節動詞 項: <着点> (& 被修飾語)

⁴⁷ここでの「()」は、場合によって、中の被修飾語が省略されることもあるということを示している。

パターンⅢ’は、被修飾語が連体節動詞の持つ<動作主>の項に補い、「被修飾語が連体節動詞」を全体として主節動詞の持つ<対象>の項に補い、あるいは、被修飾語を主節動詞の持つ<動作主>の項に補い、「被修飾語&主節動詞」を全体として連体節動詞の持つ<対象>の項に補うというものである。

(121a) 園長は、学校帰りの少女に話をかけた派手な服装の女を目撃していた。

(再掲(21a))

(121b) {内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 項：<対象>

(121c) 園長は、派手な服装の女が校帰りの少女に話をかけたのを目撃していた。

(121d) {被修飾語が連体節動詞}を主節動詞

以下では、日本語の内の関係連体節構文に対し、プリエディットパターンに従ってプリエディットを行う前後の訳文の品質変化について例示する。

(122a)はプリエディットを行う前の日本語文であり、(122b)は2つの機械翻訳サイト(「有道」と「TexTra」)による(124a)の訳文である。この2つの訳文は全て「非分訳法」で訳出されたものであり、自然な中国語文とは認められない。(122c)は、パターンⅡ’を適用し、(122a)に対しプリエディットを行った日本語文であり、(122d)は2つの機械翻訳サイト(「有道」と「TexTra」)による(122c)の訳文である。この2つの訳文は、パターンⅡで訳出された訳文(122e)と、構文が同じである。すなわち、構文から見れば、これらは自然であると言える。

(122a) オリジナル起点テキスト：

仕方なく、僕は背中合わせに本棚を見ているはずの彼女に反応してあげる。

(『君の臍臓を食べたい』)

(122b)機械による訳文⁴⁸：

？没办法，我只好答应本应该背靠背看着书架的她。（有道）

【逐語訳：仕方なく、僕は背中合わせに本棚を見ているはずの彼女に返事した。】

？没办法，我对她应该背着看书架的她做出反应。（TexTra）

【逐語訳：？仕方なく、僕は彼女が背中合わせに本棚を見ているはずの彼女に反応した。】

(122c)パターンⅡ' に沿ってプリエディットを行った起点テキスト：

彼女は僕と背中合わせにし、本棚を見ているはずだ。仕方なく、僕は彼女に反応してあげる。

(122d)機械による訳文⁴⁹：

她背对着我，看着书架。没办法，我只好答应她。（有道）

【逐語訳：彼女は僕と背中合わせにし、本棚を見ている。仕方なく、僕は彼女に返事した。】

她应该背对着我看书架。没办法，我对她有反应。（TexTra）

【逐語訳：彼女は僕と背中合わせにし、本棚を見ているはずだ。仕方なく、僕は彼女に反応した。】

(122e)パターンⅡで訳出した訳文：

她应该正背对着我看书架。没办法，我只好回应她。

【逐語訳：彼女は僕と背中合わせにして、本棚を見ているはずだ。仕方なく、僕は彼女に返事した。】

(122a)～(122d)に示したように、(116)～(118)のプリエディットパターンに沿って、日本語文に対しプリエディットを行うと、訳文は品質を向上させられる可能性があると考えられる。

⁴⁸ 2つの訳文はすべて2019年04月06日に得たものである。

⁴⁹ 訳文は2019年04月06日に得たものである。

また、プリエディットパターンⅠ'、Ⅱ'、Ⅲ'はそれぞれ翻訳パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲに対応するから、その適用条件も翻訳パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲの適用条件と同じである。それゆえ、日本語の内の関係連体節を中国語に訳すためのプリエディットアプローチは図11～図20の通りである。

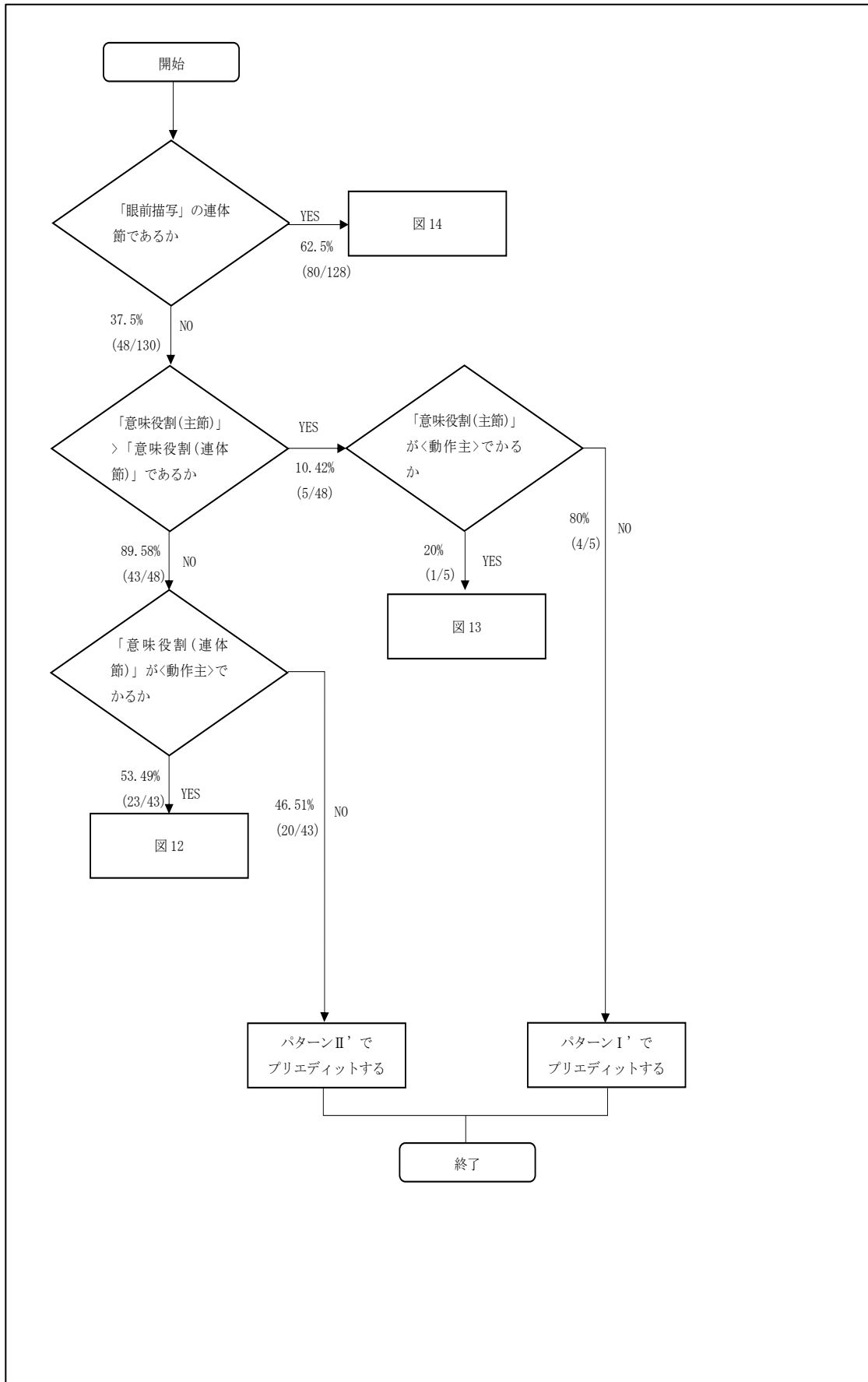


図 11 内の関係連体節の中国語に訳すためのプリエディットアプローチ

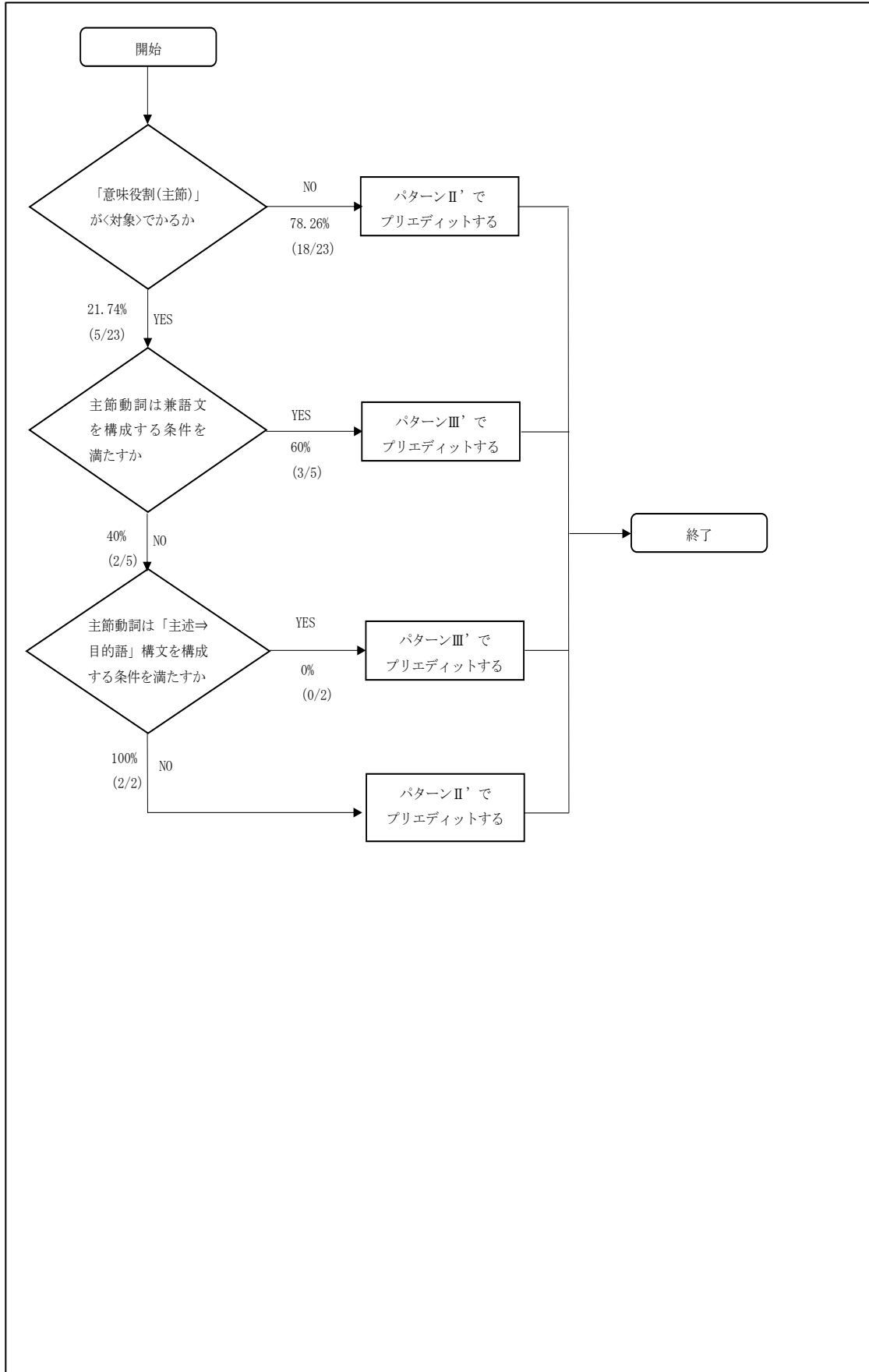


図 12 内の関係連体節の中国語に訳すためのプリエディットアプローチ(図 11 から続く)

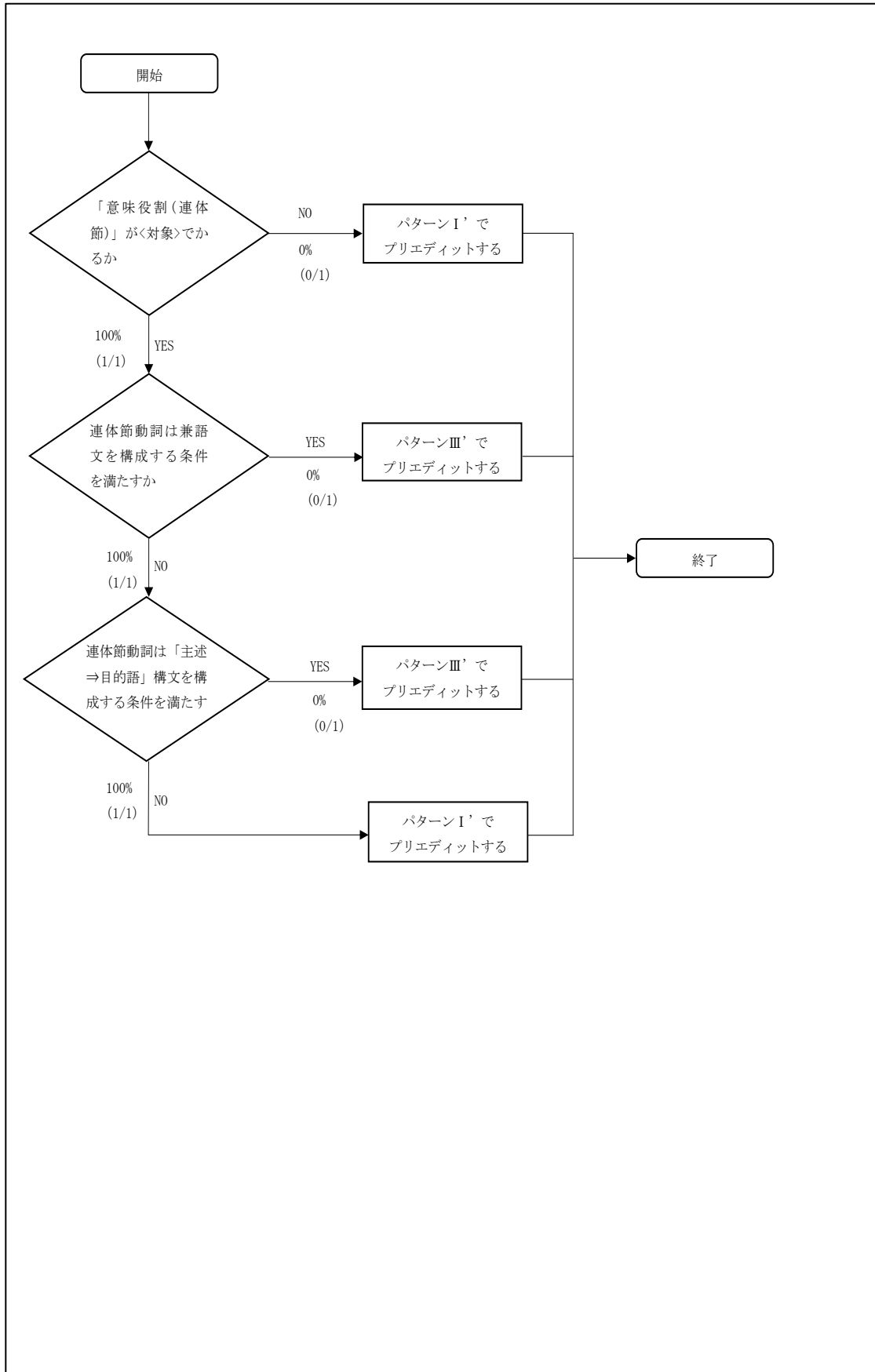


図 13 内の関係連体節の中国語に訳すためのプリエディットアプローチ(図 11 から続く)

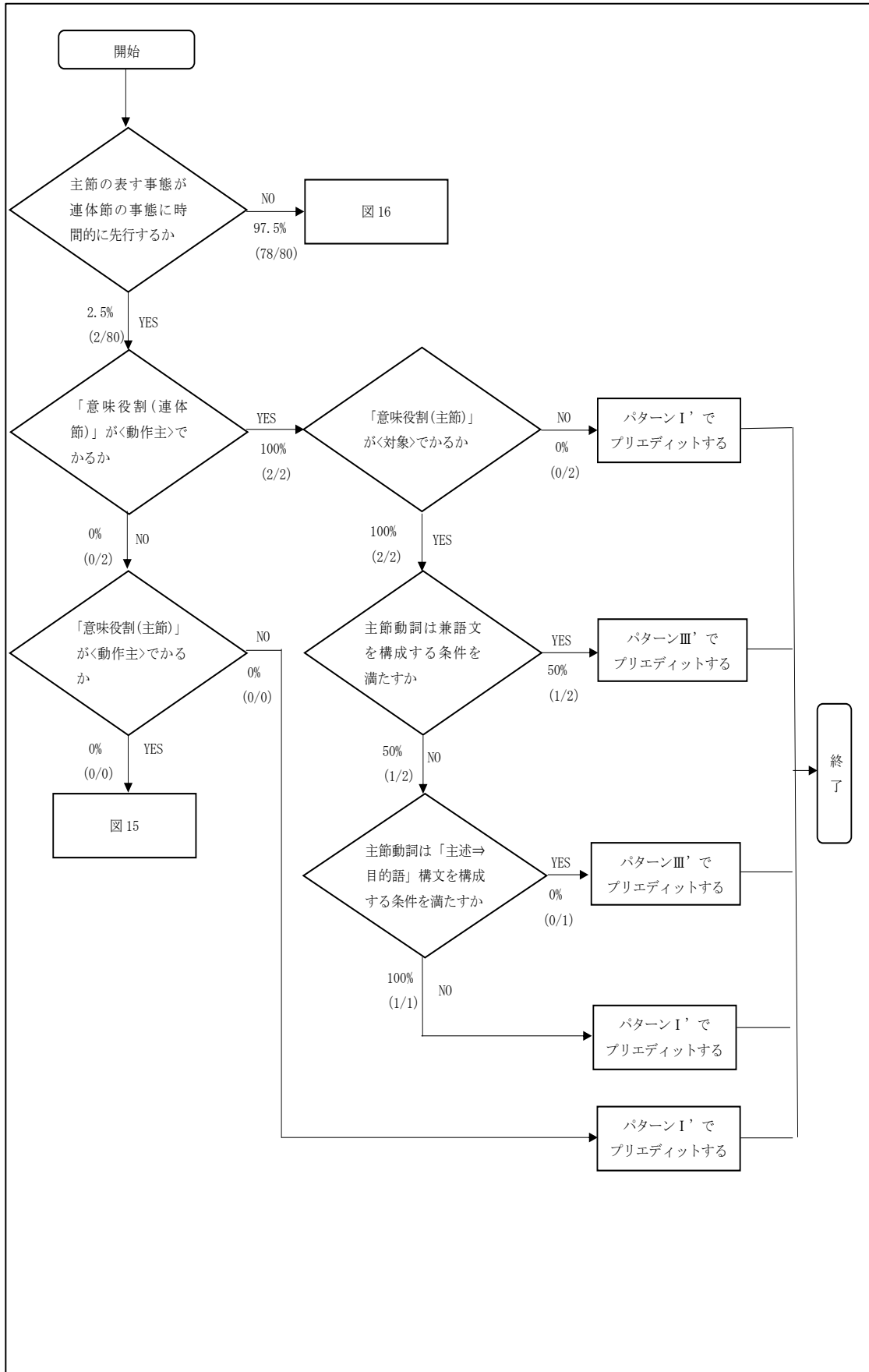


図 14 内の関係連体節の中国語に訳するためのプリエディットアプローチ(図 11 から続く)

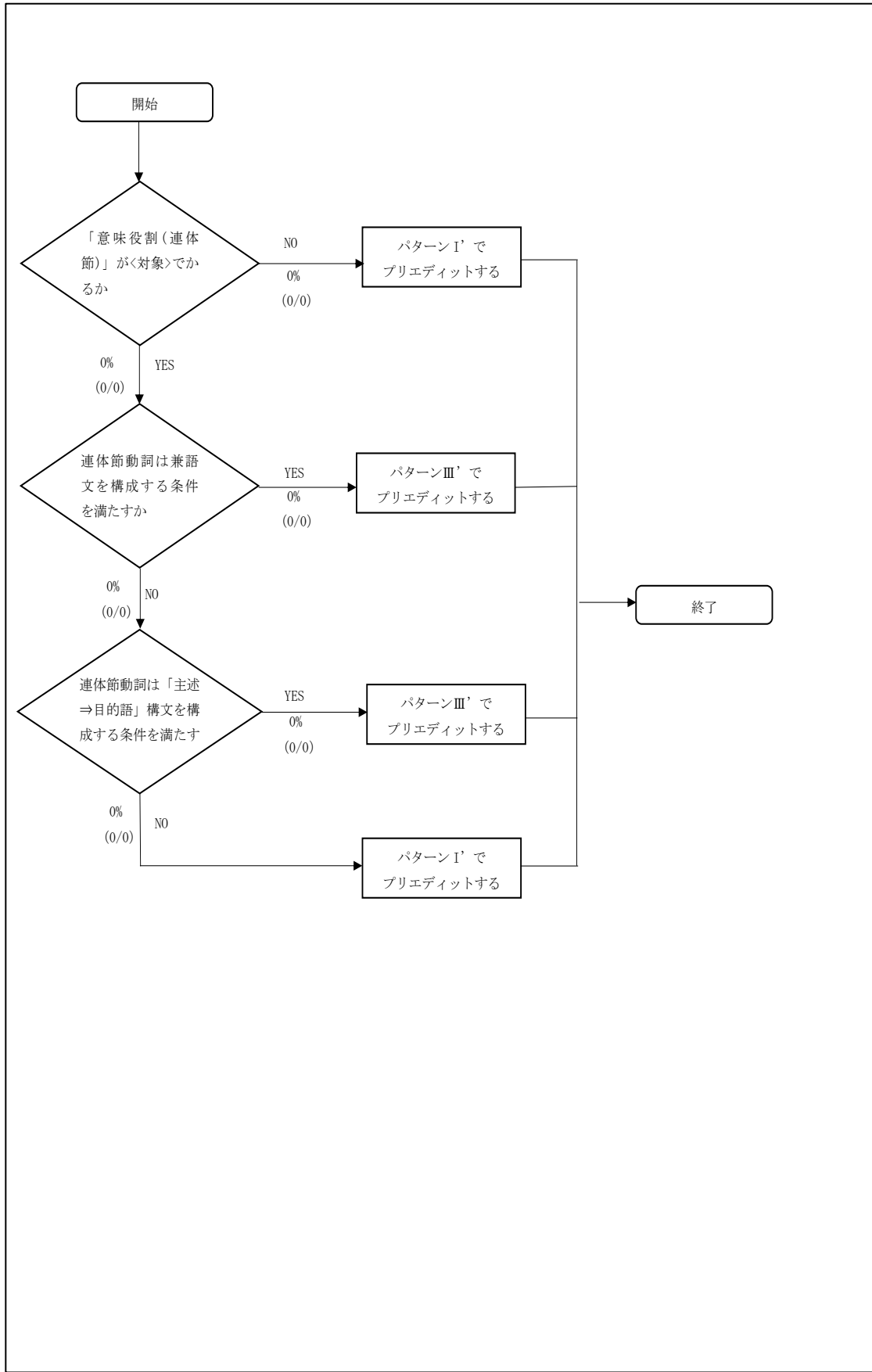


図 15 内の関係連体節の中国語に訳すためのプリエディットアプローチ(図 14 から続く)

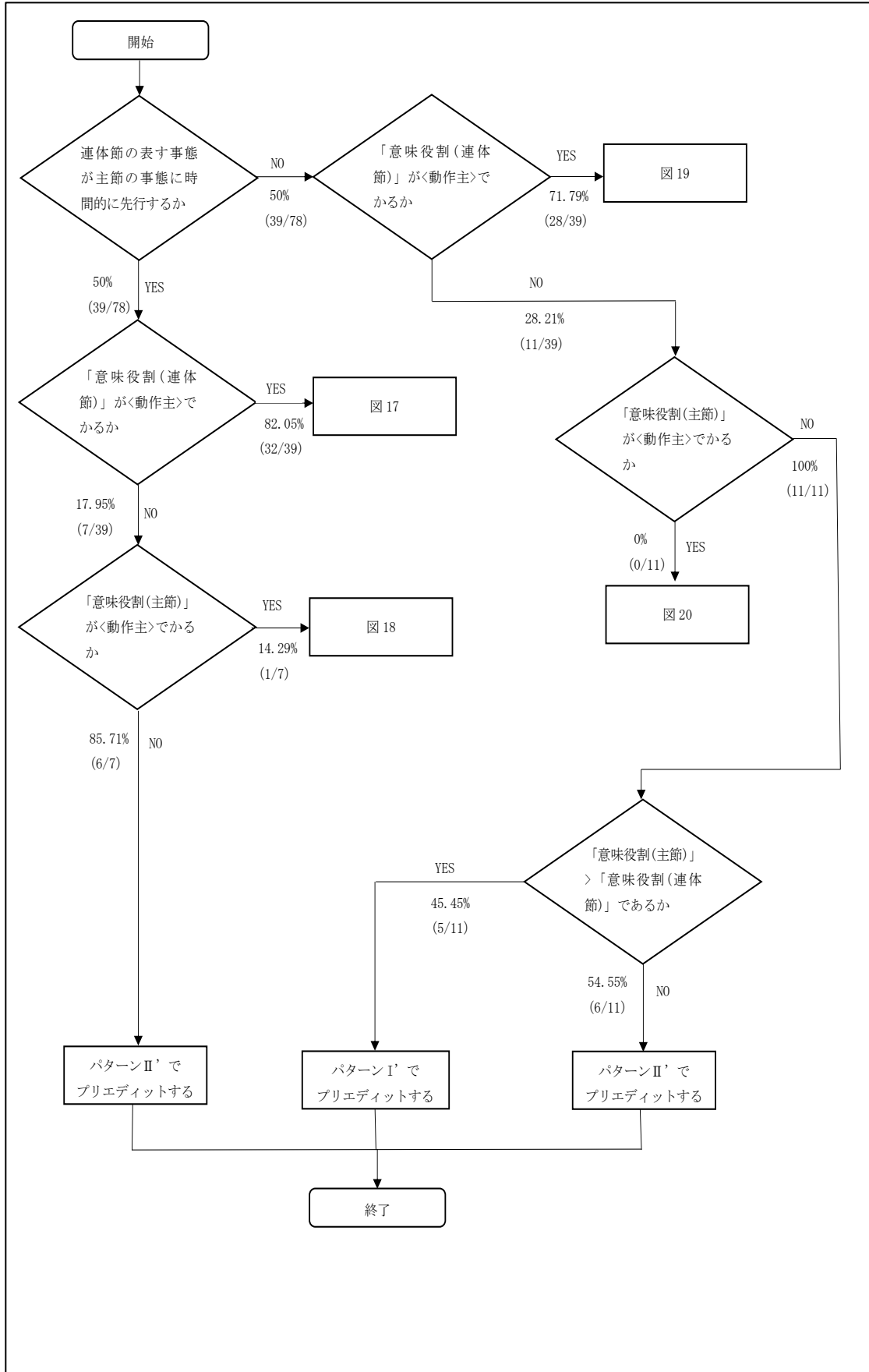


図 16 内の関係連体節の中国語に訳するためのプリエディットアプローチ(図 14 から続く)

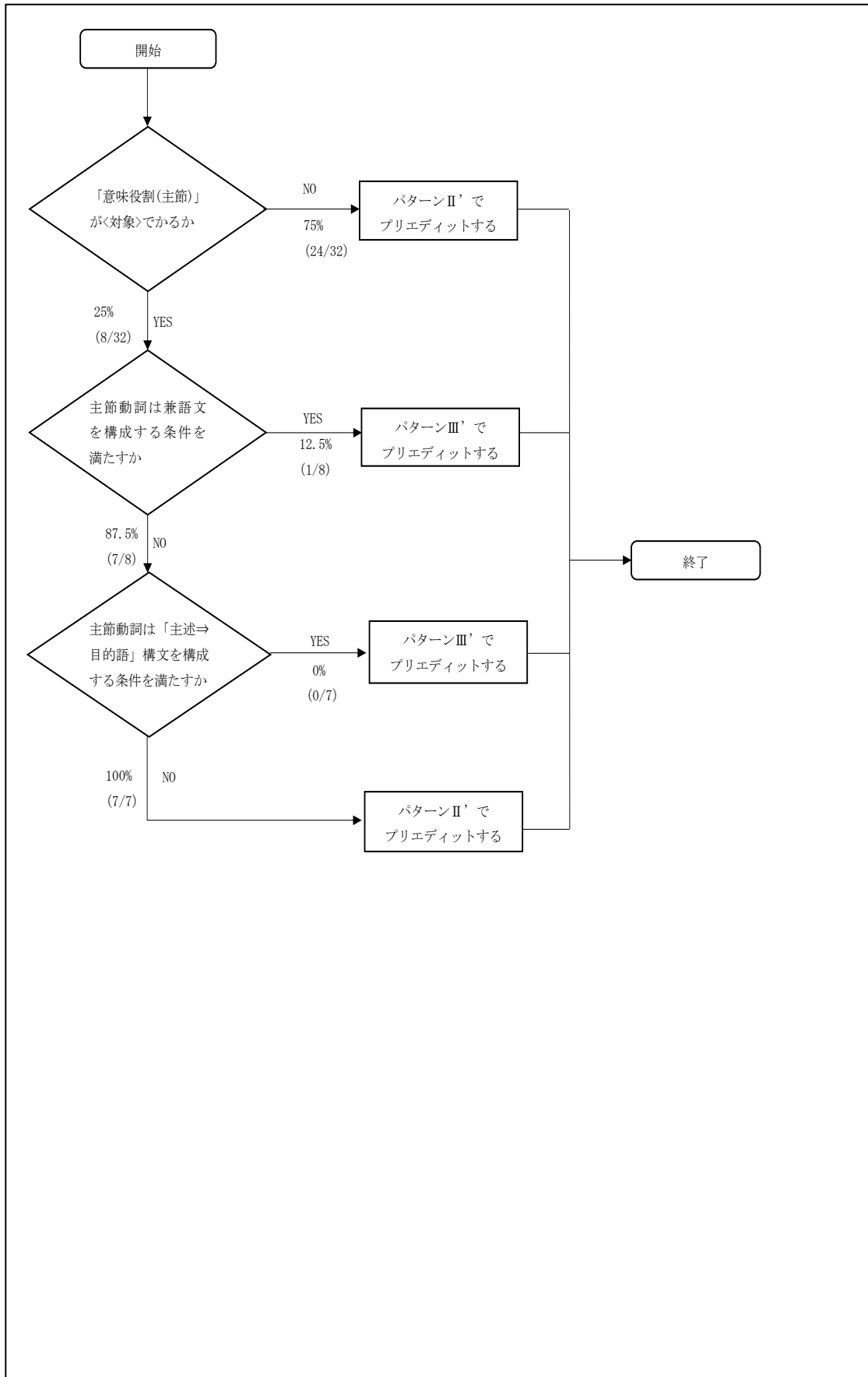


図 17 内の関係連体節の中国語に訳すためのプリエディットアプローチ(図 16 から続く)

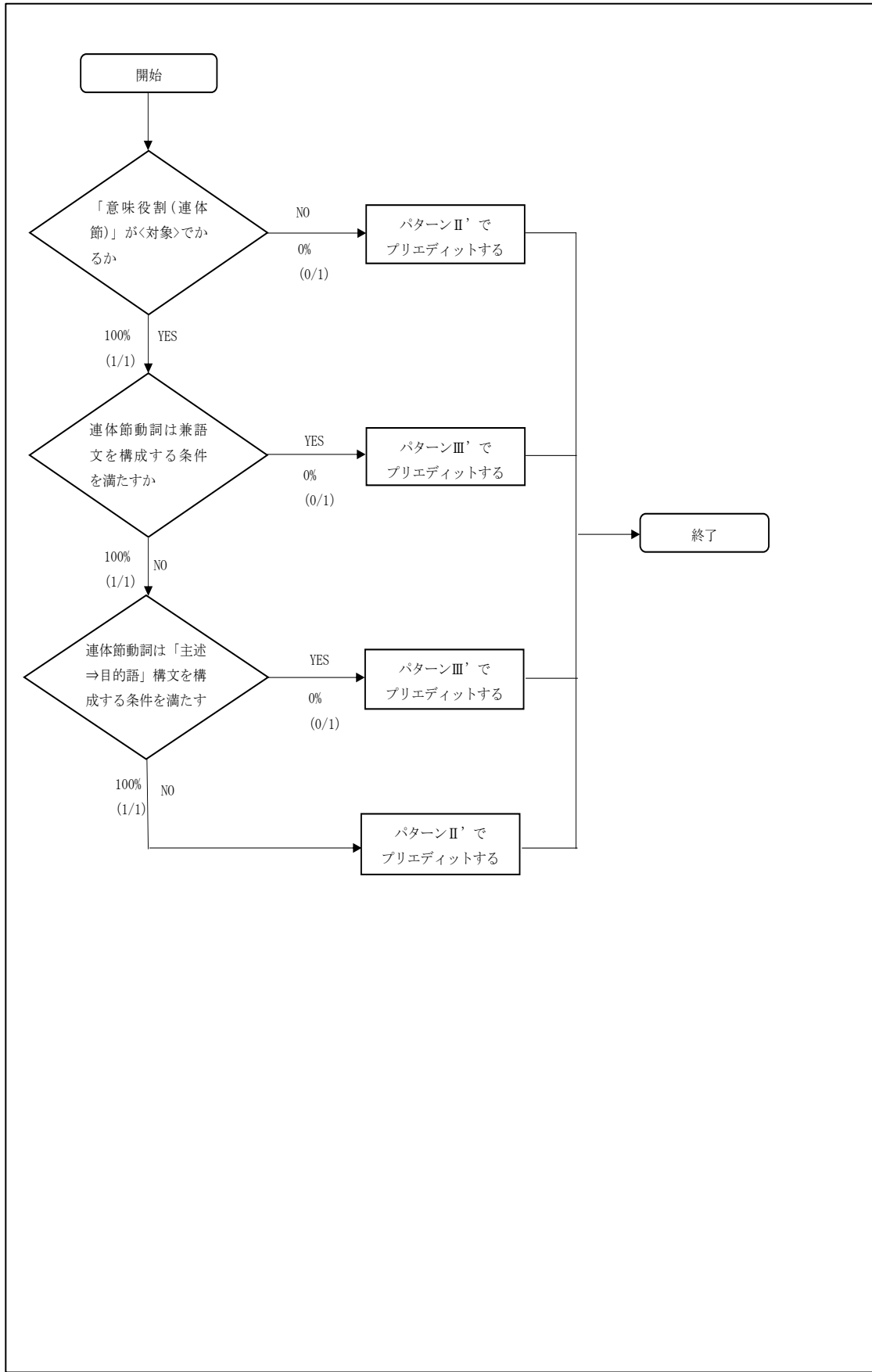


図 18 内の関係連体節の中国語に訳すためのプリエディットアプローチ(図 16 から続く)

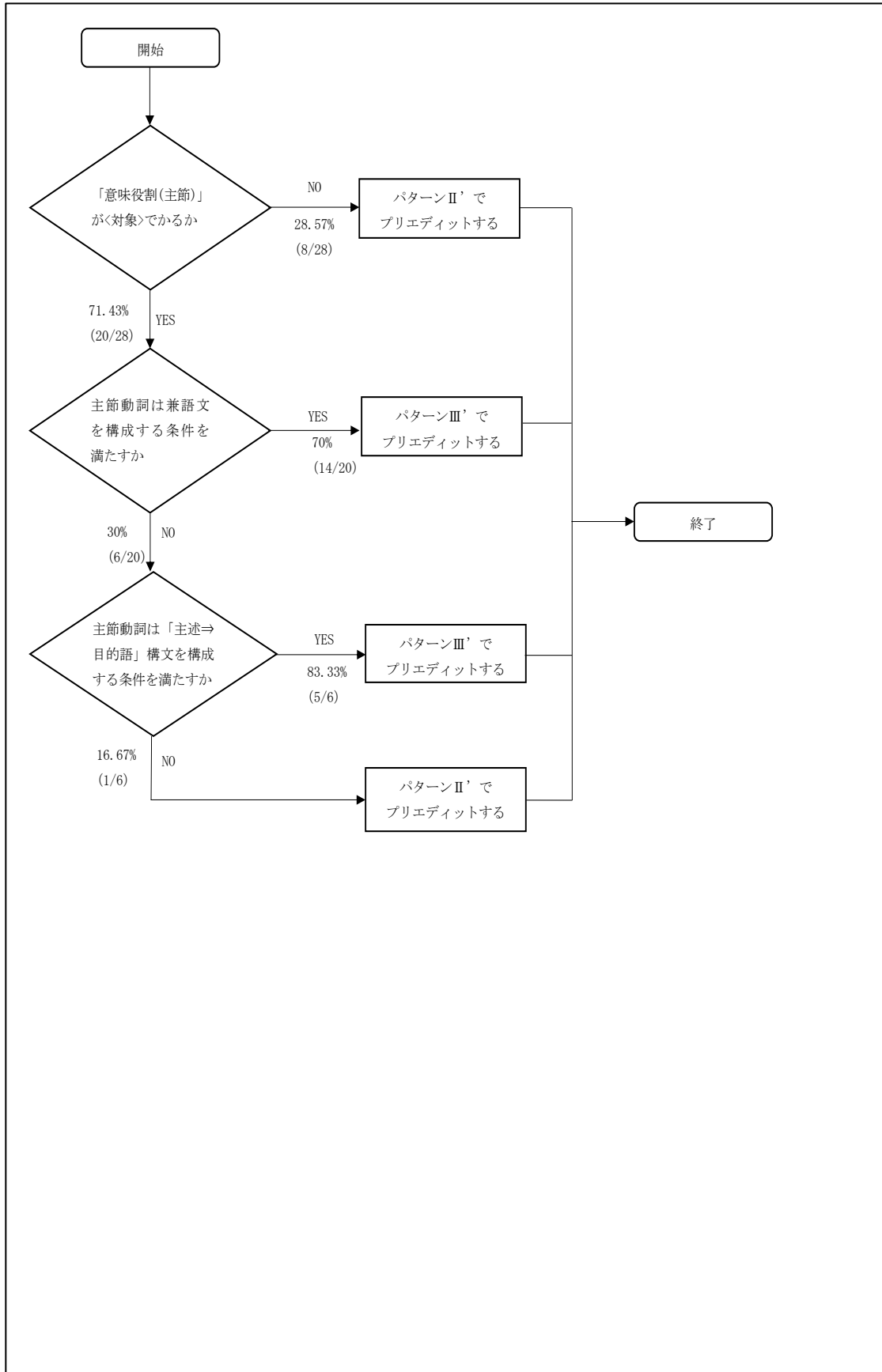


図 19 内の関係連体節の中国語に訳するためのプリエディットアプローチ(図 16 から続く)

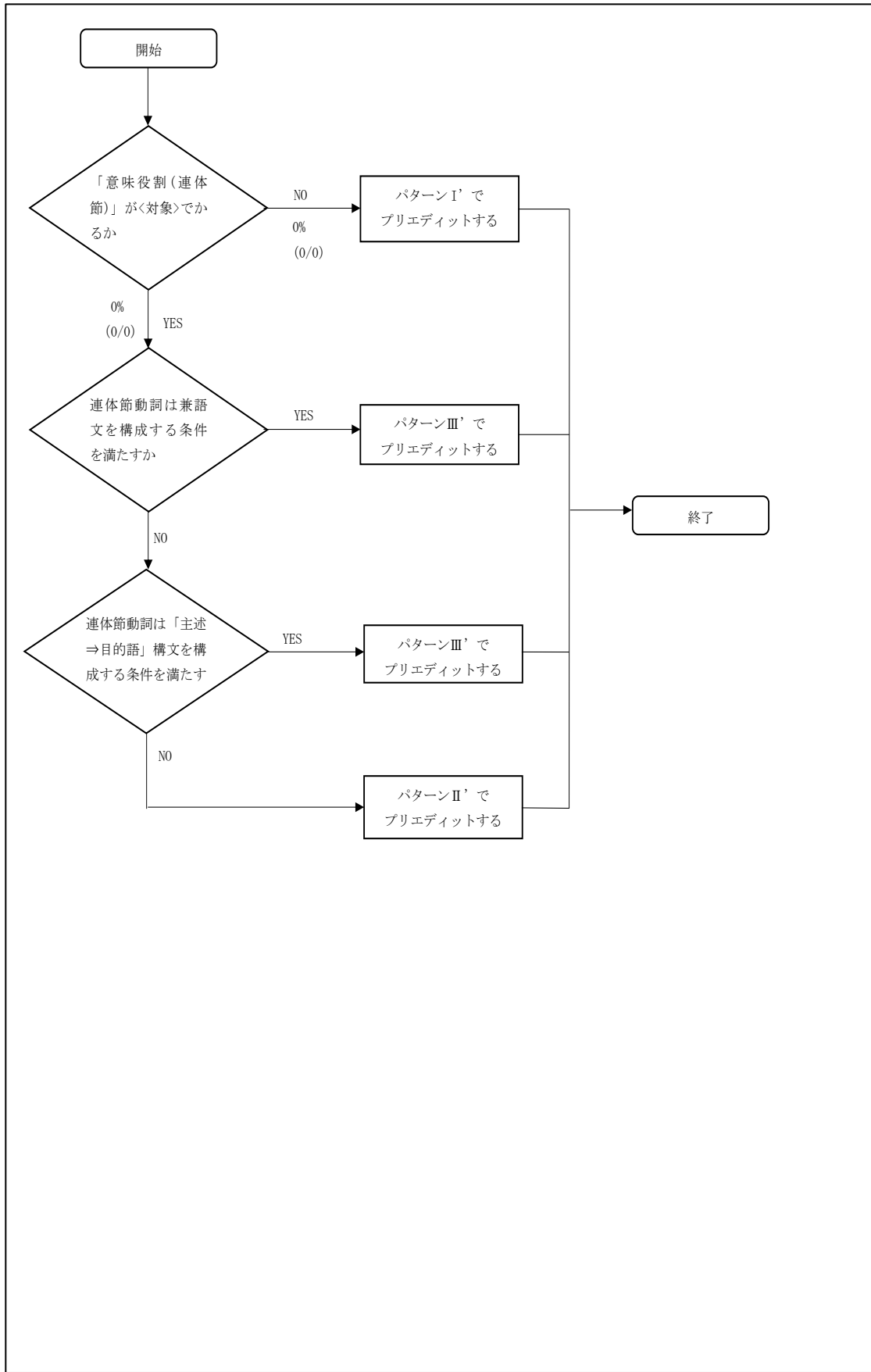


図 20 内の関係連体節の中国語に訳すためのプリエディットアプローチ(図 16 から続く)

上記のプリエディットアプローチを検証するために、小説『君の臍臓を食べたい』から、本章の考察対象となり得る内の関係連体節構文を 20 例抽出し、それらの機械による訳文の品質について評価した。その手順は以下の通りである。まず、20 例の内の関係連体節構文を 2 種類の日中機械翻訳システム(「有道」と「TexTra」)で訳し、20 例の訳文を得る(以下、「訳文(プリエディット前)」)。次に、その 20 例の内の関係連体節構文を上述のプリエディットアプローチに基づき、プリエディットを行う。プリエディットされた 20 例の内の関係連体節構文を 2 種類の日中機械翻訳システム(「有道」と「TexTra」)で訳し、20 例の訳文を得る(以下、「訳文(プリエディット後)」)。最後に宮田・藤田(2017)で提出された機械翻訳の訳文の品質評価基準(表 5)に従い、訳文(プリエディット前)と訳文(プリエディット後)の品質の変化を考察した。

表 5 機械翻訳の訳文の品質評価基準

| | |
|-----------------------|------------------------------------------------------|
| 5. Perfect | 原文の情報が完全に翻訳されている。訳文は文法誤りを含まない。母語話者からみても、語句の選択が自然である。 |
| 4. Good | 語句の選択がやや不自然であるが、原文の情報が完全に翻訳され、訳文は文法誤りを含まない。 |
| 3. Fair | 原文のあまり重要でない情報の翻訳に些細な誤りがあるが、原文の内容は容易に理解できる。 |
| 2. Acceptable | 重要な情報の一部が欠落したり、誤訳されたりしているが、原文の中核となる情報は何とか理解できる。 |
| 1. Incorrect/nonsense | 原文の意味は全く理解できない。 |

(宮田・藤田 2017 : 59)

以下では例に基づいて、5つの訳文の品質のレベルを説明する。(123b)の訳文は、レベル「1」と認められる。これは訳文を通じて、原文の意味を全く理解できないものである。(124b)の訳文は、レベル「2」と認められる。この訳文では、主節の情報が省略されているが、原文の表す情報の一部は理解できる。(125b)の訳文は、レベル「3」と認められる。この訳文には、原文のあまり重要でない情報の翻訳に些細な誤りがあり、構文も不自然であるが、原文の内容は容易に理解できると言える。(126b)の訳文は、レベル「4」と認められる。この訳文は、語彙の誤訳はあまりないが、構文は不自然である。(127b)の訳文は、レ

ベル「5」と認められる。この訳文は、語彙の誤訳はあまりなく、構文も自然であると言える。

(123a) まるでお金についての会話を断ち切りたかった彼女が、店員を呼び寄せたみたいだ
と思った。

(『君の臍臓を食べたい』)

(123b) ? 她以为想断绝关于金钱的对话, 好像是吸引了店员。

(TexTra)⁵⁰

【逐語訳：? 彼女はお金についての会話を断ち切りたかったと思い、店員を引きつけるらしい。】

(124a) 広い部屋の中、柔らかい光を放つシャンデリアの下で踊るように回った後、おかしなことを言った彼女を、僕はねめつけた。

(『君の臍臓を食べたい』)

(124b) ? 在宽敞的房间里, 像在散发着柔和光芒的吊灯下跳舞后, 她说了一个奇怪的事情。

(TexTra)⁵¹

【逐語訳：? 広い部屋の中、柔らかい光を放つようなシャンデリアの下で踊った後、彼女はおかしなことを言った。】

(125a) 全てのポジティブなことにいちいち反応する彼女は、カウンター内の椅子に座り早くもくつろいでいる。

(『君の臍臓を食べたい』)

(125b) ? 对所有积极的事情做出反应的她, 坐在吧台里的椅子上, 早早地放松着。

(TexTra)⁵²

【逐語訳：全てのポジティブなことに反応する彼女は、カウンター内の椅子に座り早くもくつろいでいる。】

⁵⁰ 訳文は2019年4月7日に得たものである。

⁵¹ 訳文は2019年4月7日に得たものである。

⁵² 訳文は2019年4月7日に得たものである。

(126a) 久しぶりに手に入れた一人の時間を、僕は文庫本を眺めながら満喫する。

(『君の臍臓を食べたい』)

(126b) 久违的时间, 我可以一边欣赏文库本书一边享受一个人的时间。

(TexTra)⁵³

【逐語訳：？久しぶりの時間、僕は文庫本を眺めながら一人の時間を満喫できる。】

(127a) 彼女に贈った言葉を心の中で反芻した。

(『君の臍臓を食べたい』)

(127b) 我在心里回想着送给她的话。

(有道)⁵⁴

【逐語訳：私は彼女に贈った言葉を心の中で反芻した。】

訳文(プリエディット前)と訳文(プリエディット後)の品質の評価について、3人の中国人日本語学習者はその訳文をチェックして、表5の標準に従い、各訳文の品質を評価した。

このように訳文を評価した結果は以下の表6～表10の通りである。

⁵³ 訳文は2019年4月7日に得たものである。

⁵⁴ 訳文は2019年4月7日に得たものである。

表6 日本語原文とその機械による訳文の品質評価(訳文(プリエディット前))⁵⁵

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) ⁵⁶ | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) ⁵⁷ | 品質 評価 |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|----------|---------------------------------------------|----------|
| 1. <u>彼女の命の価値の証として</u> 、 <u>たくさんの人の涙に包まれているのであろうお葬式にも</u> 、 <u>昨日の夜の通夜にも</u> 僕は行かなかった。 | 我没有参加她的葬礼，也没有参加昨天晚上晚上的守夜，这是她生命价值的证明。 | 1 | 作为她生命价值的证明，在被很多人的眼泪包围的葬礼上，我也没去过昨天晚上晚上的灵通守夜。 | 2 |
| 2. <u>カーテンを閉め切って蛍光灯の力で視力を得ていた</u> 僕は、 <u>時間の経過を携帯にかかってきた一本の電話によって</u> 知った。 | 我通过一通挂着窗帘靠日光灯的力量得到视力的电话，知道了经过一段时间。 | 1 | 我把窗帘关上，用日光灯的力量得到了视力，通过手机上的一个电话得知了时间的流逝。 | 3 |
| 3. 仕方なく、 <u>背中合わせに本棚を見ているはずの彼女</u> に反応してあげる。 | 没办法，我只好答应本应该背靠着看着书架的她。 | 3 | 没办法，我对她应该背着看着书架的她做出反应。 | 2 |
| 4. <u>全てのポジティブなこと</u> に <u>いちいち反応する彼女</u> は、 <u>カウンター内の椅子に座り早くもくつろいでいる</u> 。 | 对所有积极向上的事情一一做出反应的她，早早地坐在柜台内的椅子上休息了。 | 5 | 对所有积极的事情做出反应的她，坐在吧台里的椅子上，早早地放松着。 | 4 |
| 5. その証拠に、 <u>校門の方からサッカー部のユニフォームを着て走ってくる男子</u> が、 <u>歩く彼女の姿を見つけて</u> 表情を明るく咲かせた。 | 作为证据，从校门走来的穿着足球社制服的男子看到她走路的样子，露出了灿烂的笑容。 | 4 | 证据中，校门人穿着足球俱乐部制服跑过来的男子看到她的身影，露出了灿烂的表情。 | 2 |

⁵⁵ 表5における訳文の品質評価は3人の中国人日本語学習者による評価の平均値であり、その数値を小数第1位で四捨五入し、整数で表示する。

⁵⁶ 表6における訳文は2019年4月7日に得たものである。

⁵⁷ 表6における訳文は2019年4月7日に得たものである。

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----------|---------------------------------------------------------------|----------|
| 6. まるでお金についての会話を断ち切りたかった彼女が、店員を呼び寄せたみたいだと思った。 | 她想打断与金钱相关的对话，想叫来店员。 | 4 | 她以为想断绝关于金钱的对话，好像是吸引了店员。 | 2 |
| 7. なかなか変わった形のホルモンに手が伸びない僕を見かねて、彼女がおせっかいにもぶつぶつと穴の空いた白いものをこちらの小皿の上に載せた。 | 实在看不出我多变的荷尔蒙伸长不出，她多管无事地将一个洞白色的东西放在我的小碟子上。 | 1 | 看不到改变形状的荷尔蒙的我，看着我的手，把她放在了这个小碟子上。 | 1 |
| 8. 「気持ち悪い」と「苦しい」を連呼していた彼女もこの氷菓子の出現に息を吹き返し、爽やかな息吹を口内に招き入れてからは、嘘のようにまた騒ぎ始めた。 | 一直喊着“恶心”“难受”的她，也因为冰点点心的出现而回复了气息，之后把清爽的气息放进嘴里，又开始谎言般地骚动起来。 | 3 | 连喊“恶心”和“痛苦”的她，也回到了冰果个孩子的身上，把口气引向嘴里之后，就像谎言一样开始乱闹。 | 2 |
| 9. 「いい天気ー。こんな日に死のうかなー」というどういう風に反応してほしいのか全く分からない呟きが聞こえてきたので、ひとまず彼女に対する最も有効な手段としての無視を決め込んだ。 | “好天气啊，在这样的日子里死了啊”他听到他在不知如何回应的嘟囔，所以他决定暂时放弃这一最有效的手段。 | 2 | “好天气啊!这样的日子里，我听到了”死了吧”这样的反应，我听到了一句话，他听到了一句话，说:“这是一种对她最有效的手段。” | 1 |
| 10. 鼻歌交じりにロープ入りのバッグを振りまわす彼女と一緒にホームセンターを出る。 | 她一边哼着小曲，一边四处挥动挂满绳索的包，从家庭中心出发。 | 2 | 将装有鼻歌的包摆在一起，与她一起走出家居中心。 | 1 |

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|----------|-----------------------------------------------------|----------|
| 11. <u>でも一人の女子高生が発したとんでもない言葉に、ほんの少しでも興味を持った人間</u> は周りにいないようだった。 | 但是对一个女高中生说的荒唐的话,周围似乎没有人会对这句话稍微感兴趣。 | 3 | 但是,一个女高中生发出的荒唐的话语中,似乎没有人对自己感兴趣。 | 3 |
| 12. <u>僕に興味を持って</u> くれている理由も、怒っている理由も分からない。 | 也不知道对我感兴趣的理由,或是生气的理由。 | 4 | 对我感兴趣的理由也不知道愤怒的理由。 | 3 |
| 13. <u>怒っている人に最大の効力を発揮する行動</u> をとることを僕は厭いとわない。 | 我不讨厌对愤怒的人采取能发挥最大效果的行动。 | 4 | 我不愿意采取对愤怒的人发挥最大效力的行动。 | 2 |
| 15. <u>広い部屋の中、柔らかい光を放つシャンデリアの下で踊るように回った後、おかしなことを言った彼女を、僕はねめつけた。</u> | 在宽敞的房间里,她散发出柔和的光线,在枝形吊灯下舞动之后,我开始瞪她胡说八道。 | 2 | 在宽敞的房间里,像在散发着柔和光芒的吊灯下跳舞后,她说了一个奇怪的事情。 | 2 |
| 16. <u>五体投地を免れるも、やはり身の丈に合わない雰囲気</u> に落ち着かない僕は、手続きを彼女に任せて瀟洒なロビーのソファに座り、大人しく待つことにした。 | 即使避开五体投地,还是不满身高的气氛不平静的我,把手续托付给她坐在漂亮大厅的沙发上,乖乖地等待。 | 2 | 虽然避开5体投地,但我还是不符合自己的身材,我把手续交给了她的女朋友,坐在一个漂亮的沙发上,等待大人。 | 2 |
| 17. <u>彼女の表情で気がついた</u> のだろう、 <u>元々僕が座っていたはずの席に座る人物</u> もこちらを向いた。 | 通过她的表情注意到的吧,原本应该是我坐的位置上的人也面向这边。 | 3 | 也许是她的表情,本来我坐的座位上的人也朝着这个方向走。 | 2 |

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------|----------------------------------------------------------------------------|----------|
| 18. <u>彼女の</u> ことを、僕なんかよ <u>りずっと大切に思っている親</u> <u>友と一緒に最後の時間を分か</u> <u>ち合いながら過ごすという方</u> <u>が、価値があるのではないか</u> <u>と思った。</u> | 我觉得和比我更珍惜的朋 友一起分享最后时光,对 她来说才更有价值吧。 | 3 | 我认为,和我比我更重视 她的朋友一起分享最后 一个时间的人,更有价 值。 | 2 |
| 19. <u>美味しそうに、フォークに</u> <u>刺さったチョコレートケーキ</u> <u>を頬張る彼女</u> は、やはりもう すぐ死ぬ人間になんて見えな かった。 | 津津有味地吃着用叉子扎 起来的巧克力蛋糕的她,果 然还是不像快死了的人。 | 5 | 她看起来很好吃,咬着叉 子的巧克力蛋糕,她的脸 上还没见过什么。 | 1 |
| 20. <u>購買意欲をあおる絶妙な</u> <u>場所に設置された自動販売機</u> に負けるのは悔しかったけれ ど、喉の渇きという、生命に 直結したうずきが理性を飛ば した。 | 虽然输给设置在能够激起 人们购买欲望的绝妙场所 的自动售货机的行为让人 心痛,但渴望口渴的那种直 接关系到生命的行为却失 去了理性。 | 3 | 虽然输给了一个有着购 买欲望的绝妙场所的自 动售货机,但这一点令人 感到遗憾,但因口渴,直 接与生命息息相关的哭 声。 | 1 |

表7 日本語原文とその機械による訳文の品質評価(訳文(プリエディット後))⁵⁸

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) ⁵⁹ | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) ⁶⁰ | 品質 評価 |
|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------|-----------------------------------------------|----------|
| 1. <u>お葬式が彼女の命の価値の証として、たくさんの人の涙に包まれているのであろう。</u> <u>そのお葬式にも、昨日の夜の通夜にも僕は行かなかった。</u> | 葬礼作为她生命价值的证明,被很多人的眼泪所包围着吧。无论是葬礼,还是昨晚的守夜,我都没有去。 | 4 | 葬礼作为她生命价值的证明,被很多人的眼泪所包围。在那场葬礼上,我也没去过昨天晚上守夜。 | 3 |
| 2. <u>僕はカーテンを閉め切って蛍光灯の力で視力を得ていた。</u> 時間の経過を携帯にかかっていた一本の電話によって知った。 | 我闭上窗帘,靠日光灯的力量获得视力。从打到手机上的一通电话知道了经过的时间。 | 4 | 我把窗帘关断了,用日光灯的力量得到了视力。通过手机上的一个电话得知了时间的流逝。 | 4 |
| 3. <u>彼女は僕と背中合わせにし、本棚を見ているはずだ。</u> 仕方なく、僕は <u>彼女に</u> 反応してあげる。 | 她背对着我,看着书架。没办法,我只好答应她。 | 4 | 她应该背对着我看书架。没办法,我对她有反应。 | 4 |
| 4. <u>彼女は全てのポジティブなことにいちいち反応すし、カウンター内の椅子に座り早くもくつろいでいる。</u> | 她对所有积极向上的事情一一做出反应,早早坐在柜台内的椅子上休息。 | 5 | 她对所有积极的事情都做出了反应,坐在吧台里的椅子上,坐得很快。 | 3 |
| 5. その証拠に、 <u>男子が校門の方からサッカー部のユニフォームを着て走ってきて、歩く彼女の姿を見つけて表情を明るくさせた。</u> | 作为证据,该男子从校门方向穿着足球社的运动服跑来,看到她走路的身影,便露出灿烂的笑容。 | 5 | 在这个证据中,男子从校门的人身上穿着足球部的运动服跑过来,发现她的身影,露出了灿烂的表情。 | 3 |

⁵⁸ 表5における訳文の品質評価は3人の中国人日本語学習者による評価の平均値であり、その数値を小数第1位で四捨五入し、整数で表示する。

⁵⁹ 表7における訳文は2019年4月7日に得たものである。

⁶⁰ 表7における訳文は2019年4月7日に得たものである。

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------------------------------------|----------|
| 6. まるで <u>彼女がお金について</u> <u>の会話を断ち切りたくて</u> 、店 員を呼び寄せたみたいだと思 った。 | 仿佛是她想打断和钱有 关的对话，才叫来店员 的。 | 4 | 她想切断关于金钱的对 话,好像吸引了店员。 | 3 |
| 7. 彼女は、 <u>僕がなかなか変わ</u> <u>った形のホルモンに手が伸び</u> <u>ないのを見かねて</u> 、おせっか いにもぶつぶつと穴の空いた 白いものをこちらの小皿の上 に載せた。 | 她看不出我无法伸长形 状怪模怪样的荷尔蒙,多 管子便将一个破洞的白 色物体放在这边的小碟 子上。 | 2 | 她看不到我怎么改变了形 状的荷尔蒙,也在小碟子 上放了一个破开的白色东 西。 | 2 |
| 8. <u>彼女は「気持ち悪い」と「苦</u> <u>しい」を連呼していたが</u> 、こ の氷菓子の出現に息を吹き返 し、爽やかな息吹を口内に招 き入れてからは、嘘のように また騒ぎ始めた。 | 她虽然连连叫喊着“恶 心”和“难受”,但由于冰 点点心的出现而回复了 呼吸,把清爽的气息放进 嘴里之后,又开始骚动起 来。 | 4 | 她一直喊着“恶心”和“痛 苦”,但她回到了冰果个孩 子的身上,把口气吹回嘴 里后,就像谎言一样开始 乱闹。 | 3 |
| 9. 「いい天気ー。こんな日に 死のうかなー」という <u>呟き</u> が 聞こえてきたが、 <u>どういふ風</u> <u>に反応してほしいのか全く分</u> <u>からない</u> ので、ひとまず彼女 に対する最も有効な手段とし ての無視を決め込んだ。 | “好天气啊,在这样的日 子里死了啊~”他听到有 人在嘀咕,也不知道他想 要怎样的反应,所以他决 定暂时放弃这一最有效 的手段。 | 4 | “好天气啊!这天死了 吧”,但我完全不知道该怎 么反应,所以首先决定无 视对她最有效的手段。 | 3 |
| 10. <u>彼女は鼻歌交じりにロー</u> <u>プ入りのバッグを振りまわ</u> <u>す</u> 。 <u>彼女と一緒にホームセン</u> <u>ター</u> を出る。 | 她哼着小曲摇了摇有绳 子的包。我和她一起从家 庭中心出发。 | 4 | 她摆着一个装有鼻歌的 包。和她一起出家建材。 | 2 |

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|----------|------------------------------------------------------|----------|
| 11. <u>でも周りの人間は、一人の女子高生が発したとんでもない言葉に、ほんの少しでも興味を持たないようだった。</u> | 但是周围的人对一个女高中生说的话却一点兴趣都没有。 | 3 | 但是周围的人好像对一个女高中生发出的荒唐的语言毫不感兴趣。 | 5 |
| 12. <u>僕は理由がわからない。その理由で僕に興味を持ってきている。その理由で怒っている。</u> | 我不明白理由。因为那个理由对我产生了兴趣。我因为那个理由生气了。 | 2 | 我不知道理由。因为这个原因,我对我感兴趣。因为那个原因生气。 | 2 |
| 13. <u>その行動は怒っている人に最大の効力を発揮する。その行動をとることを僕は厭いとわない。</u> | 那个行动会对愤怒的人发挥最大的效力。我不讨厌这种行动。 | 5 | 这种行动对愤怒的人发挥最大的效力。 我不讨厌采取那种行动。 | 4 |
| 14. <u>梅酒の少し残ったコップにトランプの端が触れていた。立ったまま僕はそのトランプをめくる。</u> | 扑克牌的一端碰到了残留有少许梅酒的杯子。我站着翻那副扑克牌。 | 5 | 在梅酒杯的一个杯子里碰到了一个扑克牌的边缘。站着,我就翻了一个扑克牌。 | 3 |
| 15. <u>彼女は広い部屋の中、柔らかな光を放つシャンデリアの下で踊るように回った後、おかしなことを言った。その彼女を、僕はねめつけた。</u> | 她在宽敞的房间里,在散发柔和光线的吊灯下跳舞,并说出了令人发笑的话。我恨她。 | 3 | 她在宽敞的房间里,在散发出柔和光芒的吊灯下跳舞后,说了一个奇怪的事情。我把她打了。 | 3 |
| 16. <u>僕は、五体投地を免れるも、やはり身の丈に合わない雰囲気落ち着かないが、手続きを彼女に任せて瀟洒なロビーのソファに座り、大人しく待つことにした。</u> | 我即使避开五体投地,还是觉得不适合身高,但把手续托付给她坐在漂亮大厅的沙发上,乖乖地等待。 | 4 | 我虽然避开了5个投地,但还是不符合自己的身材,但把手续交给了她的女朋友,坐在了雅致的大厅沙发上等着大人。 | 2 |

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|----------|----------------------------------------------------|----------|
| 17. <u>ある人物は、元々僕が座っていたはずの席に座っている。</u> 彼女の表情で気がついたのだらう、 <u>あの人物も</u> こちらを向いた。 | 有人坐在我本来应该坐的位置上。大概是从她的表情注意到的吧，那个人也朝这边看过来了。 | 4 | 一位人坐在原本应该坐着的座位上。她的脸上看到了她的表情，那个人也朝着这个方向走了。 | 2 |
| 18. <u>親友は、彼女のことを、僕なんかよりずっと大切に思っている。</u> <u>その親友と一緒に最後の時間を分かち合いながら過ごすという方が、価値があるのではないか</u> と思った。 | 她的朋友把她看得比我还重要。我认为和那名朋友一起分享最后的时间才是有价值的。 | 4 | 挚友比我更重视她的事。我想和朋友一起分享最后一个时间，这才是值得一看的价值。 | 3 |
| 19. <u>彼女は美味しそうに、フォークに刺さったチョコレートケーキを頬張って、やはりもうすぐ死ぬ人間になんて見えなかった。</u> | 她津津有味地张大了插在叉子上的巧克力蛋糕，果然不像是快死掉的人了。 | 4 | 她看起来很好吃，把扎进叉子里的巧克力蛋糕弄得很好，果然还是看不见的人。 | 1 |
| 20. <u>自動販売機は購買意欲をあおる絶妙な場所に設置された。</u> <u>その自動販売機に負けるのは悔しかったけれど、喉の渇きという、生命に直結したうずきが理性を飛ばした。</u> | 自动贩卖机设置在煽动购买欲望的绝妙的地方。虽然败给自动贩卖机让我很后悔，但是因为口渴这种和生命直接相关的行为失去了理性。 | 4 | 自动贩卖机被设置在有利于购买欲的绝妙场所。虽然输给了那个自动售货机，但他的喉咙干渴，直接联系着生命。 | 2 |

表8 機械による訳文の品質表(訳文(プリエディット前))

| 機械翻訳サイト 訳文の品質 | 有道 | TexTra | 合計 | 百分率 |
|------------------|----|--------|----|-------|
| 1 | 3 | 6 | 9 | 22.5% |
| 2 | 4 | 11 | 15 | 37.5% |
| 3 | 7 | 2 | 9 | 22.5% |
| 4 | 4 | 1 | 5 | 12.5% |
| 5 | 2 | 0 | 2 | 5% |
| 合計 | 20 | 20 | 40 | 100% |

表9 機械による訳文の品質表(訳文(プリエディット後))

| 機械翻訳サイト 訳文の品質 | 有道 | TexTra | 合計 | 百分率 |
|------------------|----|--------|----|-------|
| 1 | 0 | 1 | 1 | 2.5% |
| 2 | 2 | 6 | 8 | 20% |
| 3 | 2 | 9 | 11 | 27.5% |
| 4 | 12 | 3 | 15 | 37.5% |
| 5 | 4 | 1 | 5 | 12.5% |
| 合計 | 20 | 20 | 40 | 100% |

表 10 訳文(プリエディット前)から訳文(プリエディット後)への品質の変化

| 機械翻訳サイト 訳文の品質変化 | 有道 | TexTra | 合計 | 百分率 |
|----------------------------|-----------------|-----------------|----|------|
| レベルが上がる | 15 | 15 | 30 | 75% |
| レベルが下がる | 2 ⁶¹ | 2 ⁶² | 4 | 10% |
| レベルが変わらない (品質レベルが「3」未満) | 0 | 3 | 3 | 7.5% |
| レベルが変わらない (品質レベルが「3」以上) | 3 | 0 | 3 | 7.5% |
| 合計 | 20 | 20 | 40 | 100% |

- ⁶¹ (11a)原文(プリエディット前)：僕に興味を持ってきている理由も、怒っている理由も分からない。
 (11b)訳文(プリエディット前)：也不知道对我感兴趣的理由，或是生气的理由。(品質レベル：4)
 (11c)原文(プリエディット後)：僕は理由がわからない。その理由で僕に興味を持ってきている。その理由で怒っている。
 (11d)訳文(プリエディット後)：我不明白理由。因为那个理由对我产生了兴趣。我因为那个理由生气了。(品質レベル：3)

品質が下がる理由：被修飾語である「理由」の特殊性

- (12a)原文(プリエディット前)：美味しそうに、フォークに刺さったチョコレートケーキを頬張る彼女は、やはりもうすぐ死ぬ人間になんて見えなかった。
 (12b)訳文(プリエディット前)：津津有味地吃着用叉子扎起来的巧克力蛋糕的她，果然还是不像快死了的人。(品質レベル：5)
 (12c)原文(プリエディット後)：彼女は美味しそうに、フォークに刺さったチョコレートケーキを頬張って、やはりもうすぐ死ぬ人間になんて見えなかった。
 (12d)訳文(プリエディット後)：她津津有味地张大了插在叉子上的巧克力蛋糕，果然不像是快死掉的人了。(品質レベル：4)

品質が下がる理由：語彙上の誤訳

- ⁶² (13a)原文(プリエディット前)：全てのポジティブなことにいちいち反応する彼女は、カウンター内の椅子に座り早くもくつろいでいる。
 (13b)訳文(プリエディット前)：对所有积极的事情做出反应的她，坐在吧台里的椅子上，早早地放松着。(品質レベル：4)
 (13c)原文(プリエディット後)：彼女は全てのポジティブなことにいちいち反応し、カウンター内の椅子に座り早くもくつろいでいる。
 (13d)訳文(プリエディット後)：她对所有积极的事情都做出了反应，坐在吧台里的椅子上，坐得很快。(品質レベル：3)

品質が下がる理由：語彙上の誤訳

- (14a)原文(プリエディット前)：僕に興味を持ってきている理由も、怒っている理由も分からない。
 (14b)訳文(プリエディット前)：对我感兴趣的理由也不知道愤怒的理由。(品質レベル：3)
 (14c)原文(プリエディット後)：僕は理由がわからない。その理由で僕に興味を持ってきている。その理由で怒っている。
 (14d)訳文(プリエディット後)：我不知道理由。因为这个原因，我对我感兴趣。因为那个原因生气。(品質レベル：2)

品質が下がる理由：被修飾語である「理由」の特殊性

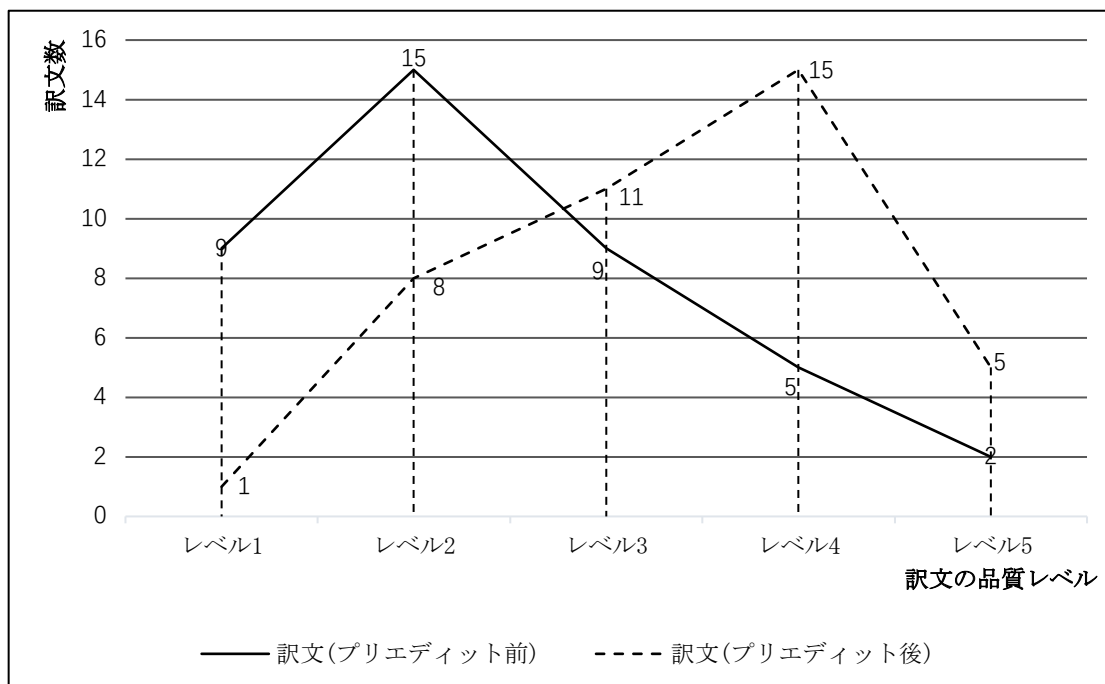


図21 訳文(プリエディット前)から訳文(プリエディット後)への品質の変化図

そもそも訳文は品質レベルが「3」以上であるならば、容易に理解できるものであることから、ここでは「3」を境目にして、「3」未満を不合格、「3」以上を合格とみなしている。表8に示すように、訳文(プリエディット前)において合格したものは16例(9+5+2例)であり、合格率は40%(16/40)であった。一方、表9では、訳文(プリエディット後)において合格したものが31例(11+15+5例)であり、合格率は40%から77.5%(31/40)まで増加した。また、表10のデータが示しているように、2つの機械翻訳システムにおいて、プリエディットを行った後に訳文の品質向上が認められたのは、40例中30例(75%)であった。また、図21の折れ線グラフに示すように、訳文(プリエディット前)の折れ線はレベル2でのピーク値に達して、一方、訳文(プリエディット後)の折れ線はレベル4でピーク値に達している。このようなピーク値の移動も訳文(プリエディット後)が、訳文(プリエディット前)より、品質が全体的に上がることを示している。

上記のとおり、本節で提示したルールに基づきプリエディットを行うことが訳文の品質向上に資することが言えると考えられる。

第4章 「分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について②：命題補充型連体節

4.0 本章概要

本章では、日本語の命題補充型連体節(外の関係)を対象に、分訳法で中国語に訳す場合の翻訳パターンと各パターンの適用条件について分析し、命題補充型連体節を分訳法によって中国語に訳すアプローチを提案する。4.1 では、機械翻訳サイトで日本語の命題補充型連体節を中国語に訳す場合の問題点を示す。4.2 では、本章での検討対象について述べる。4.3 では、命題補充型連体節を分訳法で中国語に訳す場合の3つの翻訳パターンを提出する。4.4 では、その3つの翻訳パターンについてそれぞれの適用条件を分析する。4.5 では、フローチャートの形で、命題補充型連体節を分訳法で中国語に訳すアプローチを提案する。4.6 では、前節で提出される翻訳アプローチを検証する。

4.1 はじめに

機械翻訳サイトを適用すると、(1a)、(1b)、(1c)に示した日本語の「連体節+被修飾語」構文は、(2a)、(2b)、(2c)のような中国語文に訳される。

(1a) 五日に自宅で自殺未遂を図ったという供述は真実に違いない。

(1b) 朝食を与えずに梶の取り調べを行なった疑いがあるからです。

(1c) 梶本人しか知らない「誰か」が存在する可能性は否定できない。

(いずれも『半落ち』)

(2a) 五日在自己家自杀未遂的陈述一定是真实的。

(2b) ?因为他们涉嫌不吃早餐, 进行了梶川的调查。

(2c) ?不能否定只有梶本人才知道的“谁”的存在。

(いずれも「有道」⁶³)

⁶³ (2a)、(2b)と(2c)の訳文は2018年12月25日に得られたものである。

このような「連体節＋被修飾語」構文は、従来「同格連体名詞」（奥津 1974）、「内容補充」の関係（寺村 1977）などと呼ばれてきた。すなわち、連体節と被修飾語は同格の関係を持っている、あるいは、連体節が被修飾語の内容を補充しているということである。しかし、(1a)、(1b)、(1c)の原文の構文は同じだが、訳文の構文は異なっている((3a)～(3c))。

(3a) 五日在自家自杀未遂的 陈述一定是真实的。

(再掲(2a))

五日に自宅で自殺未遂を図った 供述

(連体節＋被修飾語)

(3b) ?因为他们涉嫌 不吃早餐，进行了梶川の调查。

(再掲(2b))

疑い 朝食を食わずに梶の取り調べを行なった

(被修飾語、連体節の内容)

(3c) ? 不能否定只有梶本人才知道的“谁”的存在。

(再掲(2c))

梶本人しか知らない「誰か」が存在する

(連体節の内容のみ)

このことは同じ「内容補充」関係の「連体節＋被修飾語」構文であっても、機械翻訳サイトが異なる翻訳アプローチで訳しているということを示唆している。孔(2004)、遠藤ほか(1990)などの先行研究では、どのような場合にどのような翻訳アプローチで訳すのかという点は明らかにしていないことから、日本語における「内容補充」の関係の連体節を中国語に訳すパターンとその適用条件はさらに検討する必要がある。本章では、そのような連体節の翻訳パターンを提出し、連体節と被修飾語の意味関係の面から、各パターンの適用条件について検討を試みる。

4.2 考察対象

本章での検討対象は、(4)～(7)の4つの条件を満たす連体節とする。

(4) 外の関係の連体節

(5) 連体節と被修飾語の間に、「という」が介在の可能なもの

(6) 連体節における述語が動詞・動詞句である

(7) 主節における述語が動詞・動詞句である

(8a) 太郎が壊したテレビ(→太郎がテレビを壊した)

(8b) 太郎がテレビを壊した(という)可能性

(8c) 太郎がテレビを壊した後(母に叱られた)

(8c') ×太郎がテレビを壊したという後(母に叱られた)

(8d) 太郎が容疑者である可能性

(8e) 太郎がテレビを壊した可能性が高い

すなわち、(8a)のような「内の関係」の連体節は(4)によって、外の関係であっても(8c)のような内容補充の連体節ではないものは(5)によってそれぞれ対象から除かれる。また、(8d)のようなものは(6)によって、(8e)のようなものは(7)によってそれぞれ対象から除かれ、(8b)のように4つの条件を満たすものが本章の考察対象となる。

また、本論文において使われているデータは『半落ち』⁶⁴などの5冊の小説及び当該の小説の中国語版から収集した(4)～(7)の条件を満たすものである。その5冊の小説から、(4)～(7)の条件を満たす日本語の連体節を329例抽出し、当該の小説の中国語版における訳文の翻訳パターンについて考察した。まず、329例の例文から、非分訳や意識の方法で訳されたものを取り除き、212例の日本語の連体節を得た。

⁶⁴ 『半落ち』: 全書
『コンビニ人間』: 全書
『秘密』: 1～13章
『博士の愛した数式』: 1～4章
『翼のある闇』: 1～4章

以上の条件を満たす日本語の連体節構文は、寺村(1977)の用語では「内容補充」の関係を持つ連体節と呼ばれる。また、大島(2010)は、そのような内容補充の連体節を「命題補充の連体修飾構造」(以下、命題補充型連体節)と称している。

内容補充の連体節構文では、被修飾語は連体節に対する意味的な制約を与えている。この意味的な制約は被修飾語の語彙的情報の中に含まれており、「命題形式」と呼ばれている(大島 2010 : 6)。被修飾語の持つ命題形式にはスロットがあり、連体節の表すことがらはこのスロットにはめ込まれる(大島 2010 : 115)。更に「連体節+被修飾語」全体としてさらに大きな命題——「派生命題」——を形づくる(大島 2010 : 115)。

(9a)、(9b)、(9c)は命題補充型連体節、命題形式、派生命題の三者の関係を説明したものである。

(9a) 太郎が麻薬密売人と接触した事実が確認された。

(大島 2010:112)

(9b) 事実 <ある中立命題が真である>

【スロット】

(大島 2010:115)

(9c) <ある中立命題が真である> (命題形式)

↑

太郎が麻薬密売人と接触した (連体節の内容)

↓

太郎が麻薬密売人と接触した (こと) が真である (派生命題)

(大島 2010:116)

本章では、大島(2010)で検討されている命題補充型連体節を考察対象にし、中国語に訳すパターンと各パターンの適用条件について検討する。

4.3 命題補充型連体節の翻訳パターン

内の関係連体節と同じように、命題補充型連体節を中国語に訳す場合、翻訳パターンは大きく「非分訳法」と「分訳法」の2つのタイプに分けられるが、「分訳法」はさらに細分化する必要がある。

構文上の特徴から見れば、日本語の「命題補充型連体節+被修飾語」構文を中国語に訳す場合、翻訳パターンの選択には(10a)、(10b)の2つの要因が影響を与えるものと考えられる。

(10a) 訳文でも、日本語原文における被修飾語が残るか否か。

(以下要因 A を称する)

(10b) 訳文でも、日本語原文における被修飾語が名詞の役割を果たすか否か。

(以下要因 B を称する)

また、以下では訳文において日本語原文における被修飾語が残っている場合を A+ とし、省略されている場合を A- と記す。

同様に、訳文においても、日本語原文における被修飾語が名詞の役割を果たしている場合を B+ とし、品詞類が名詞以外に変わる場合を B- と記す。

A- と B+、A- と B-、A+ と A-、B+ と B- は相互排他的な関係であるため、A+、A-、B+、B- の組み合わせ(11)～(13)の通りである。

(11) A- : 訳文では、日本語原文における被修飾語が省略されている。

(12) A+B- : 訳文でも、日本語原文における被修飾語が残っているが、中国語の対訳語は名詞ではない。

(13) A+B+ : 訳文でも、日本語原文における被修飾語が残っており、中国語の対訳語は名詞である。

更に、(11)～(13)は(14)～(16)の3つの翻訳パターンに対応する。

(14) 日本語原文における被修飾語が省略される。

パターンⅠ：{命題補充型連体節+⁶⁵被修飾語}⁶⁶&⁶⁷主節動詞（日本語）

⇒命題補充型連体節の表すことがら&主節動詞（中国語）

(15) 日本語原文における被修飾語の対訳語が名詞ではない。

パターンⅡ：{命題補充型連体節+被修飾語}&主節動詞（日本語）

⇒主節動詞&{命題補充型連体節の表すことがら&被修飾語(非名詞)}（中国語）

(16) 日本語原文における被修飾語の対訳語が名詞である。

パターンⅢ：{命題補充型連体節+被修飾語}&主節動詞（日本語）

⇒被修飾語&主節/⁶⁸命題補充型連体節の表すことがら

あるいは、命題補充型連体節の表すことがら/被修飾語&主節（中国語）

パターンⅠは、日本語原文における被修飾語を省略するパターンである。命題補充型連体節部分は全体を名詞的成分として、主節動詞の支配する項に補う。

(17a) 情況を楽しんでいる様子が感じ取れる。

(『翼ある闇』)

{命題補充型連体節のことがら+被修飾語}&主節述語

(17b) 我感觉得出来，他乐在其中。

(《有翼之暗》)

主節述語&命題補充型連体節のことがら

【逐語訳：私は彼が状況を楽しんでいるのを感じ取れる。】

⁶⁵ 本論文では、「+」はその前後の成分が連体修飾関係を持っていることを示している。

⁶⁶ 本論文では、「{ }」はその中の内容が1つの名詞的成分として、主節動詞の項に補うことを示している。

⁶⁷ 本論文では、「&」はその前後の成分が格関係を持っていることを示している。

⁶⁸ 本論文では、「/」はその前後の成分が格関係を持っていないことを示している。

(17a)の原文では、「情況を楽しんでいる」ということがらを表す命題補充型連体節が修飾部分であり、「様子」は被修飾語である。「修飾部分+被修飾語」は主節述語「感じ取れる」の対象の項を補っている。(17b)の訳文では、原文の被修飾語「様子」に対応する表現がなく、原文における修飾部分に対応する“他乐在其中”は一つの名詞的成分として、主節述語“感觉”(「感じ取れる」)の対象の項を補っている。すなわち、原文の「被修飾語」は訳文で省略され、その役割は原文の「命題補充型連体節(ことがら)」に取って代わられている。

パターンⅡは、日本語原文における被修飾語が訳文で異なる品詞類に転換されるパターンである。すなわち、被修飾語は名詞ではなく、他の品詞として主節において構文的な機能を果たしている。「被修飾語(非名詞)&命題補充型連体節のことがら」は一つの塊として、主節動詞の支配する項を補っている。

(18a) 結婚式でこっそり会おうという約束を、ラプソディは忘れてしまったのかもしれない。

(『デスティニー』⁶⁹)

{命題補充型連体節：ことがら+被修飾語} & 主節動詞

(18b) 也许 Rhapsody 已经忘记了二人相约要再婚礼上偷偷见面。

主節動詞 & {動詞化された被修飾語 & 命題補充型連体節：ことがら}

【逐語訳：ラプソディは二人が結婚式でこっそり会おうと約束したのを忘れてしまったのかもしれない。】

(18a)の原文では、「結婚式でこっそり会おう」ということがらを表す命題補充型連体節が修飾部分であり、「約束」は被修飾語である。(18b)の訳文では、原文の被修飾語「約束」に対応する訳語“相约”は動詞である。原文における修飾部分に対応する“要再婚礼上偷偷见面”は“相约”の叙述部分である。「被修飾語(非名詞)&内容節のことがら」は全体として主節動詞“忘记了”(「忘れてしまった」)の<対象>の項を補っている。

パターンⅢでは、日本語原文における連体修飾関係は保っていないくても、被修飾語が残っており、訳文でも名詞として主節動詞の項を補うパターンである。命題補充型連体節は

⁶⁹ 用例は『NINJAL-LWP for BCCWJ コーパス』による。http://nlb.ninjal.ac.jp/

独立な文として、主節の前、あるいは後に置かれている。

(19a) どんな場合であれ、雇い主に対し質問に質問で答えてはならないという家政婦の鉄則を守り、私は問われたとおりのことを答えた。

(『博士が愛した数式』)

{命題補充型連体節：ことがら＋被修飾語} & 主節動詞

(19b) 无论在怎样的情形底下，面对雇主都不能用问题来回答问题。我遵照这一保姆铁律，按照他所问的作出回答。

(《博士的爱情算式》)

命題補充型連体節：ことがら / 主節動詞&被修飾語

【逐語訳：どんな場合であれ、雇い主に対し質問に質問で答えてはならない。私はその家政婦の鉄則を守り、問われたとおりのことを答えた。】

(19a)の原文では、「どんな場合であれ、雇い主に対し質問に質問で答えてはならない」ということがらを表す命題補充型連体節が修飾部分であり、「家政婦の鉄則」は被修飾語である。被修飾語は主節述語「守り」の動作主の項を補っている。(19b)の訳文では、原文の被修飾語「家政婦の鉄則」に対応する訳語“保姆铁律”は依然として名詞であり、主節述語“遵照”(「守り」)の動作主の項を補っている。原文における修飾部分に対応する“无论在怎样的情形底下，面对雇主都不能用问题来回答问题”は独立した文に訳され、主節の前に置かれている。すなわち、原文における「命題補充型連体節(ことがら)＋被修飾語(名詞)&主節述語」構文は、訳文で「独立文(ことがら)、主節述語&被修飾語(名詞)」に変わっている。

4.4 命題補充型連体節の翻訳パターンの適用条件について

本節では、「分訳法」に属しているパターンⅠ、パターンⅡ、パターンⅢの適用条件について検討を試みる。

4.3節で触れた通り、パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲの選択に影響する要因は「訳文でも、日本語原文における被修飾語が残るか否か」と「訳文でも、日本語原文における被修飾語が名詞の役割を果たすか否か」の2つである。ここでは、「事実」と「恐れ」を例として、この2つの要因が命題補充型連体節の翻訳パターンにどのような影響を与えるかという点について、具体的に分析する。

4.4.1 「訳文でも、日本語原文における被修飾語が残るか否か」を決定づける条件について

まず、「訳文でも、日本語原文における被修飾語が残るか否か」を決定づける条件について分析を行う。

日本語文における被修飾語が訳文に残らず、省略されるというのは、内容節のことがらの持つ語彙情報が被修飾語の持つ語彙情報に取って代わることができるということである。

命題補充型連体節において、被修飾語の意味的な役割は連体節の表すことがらに対して情報を付加するということである(大島 2010: 6)。この付加情報は大きく2つのタイプに分けられる。1つは「事実」をはじめ、連体節の表すことがらに対し、意味的に新しい付加情報を持たないタイプである。もう1つは「恐れ」をはじめ、連体節の表すことがらに対し、意味的に新しい情報を加えるタイプである。

(20a) 事実 <ある中立命題が真である>

(再掲(9b))

(20b) 恐れ <ある悪い事柄が起こるか否かを心配する>

日本語において、「断定」のモダリティを表す形態は無標であり、動詞のル・タ型で断定という意味が表される(庵功雄 2001: 9)。したがって、連体節が中立命題である場合には述語動詞は「だろう」などのモダリティ要素を含まないが(大島 2010: 5)、連体節の表す

ことがらに対し「断定」の意味が表されるという解釈が認められる。つまり、連体節自身は節の表すことがらが「真」であるという情報を持っている。すなわち、「事実」の命題形式は、連体節(「中立命題」)の表すことがらが真であるという情報を表しており、この情報は連体節自身も持っているから、新しい情報とは言えない。

(21a) 太郎が麻薬密売人と接触した。

(9a)による一部改変)

(21b) 太郎和毒販接触过。

(9a)による一部改変)

(22a) 太郎が麻薬密売人と接触した事実

(22b) 太郎和毒販接触过的事实

(23a) 太郎が麻薬密売人と接触した事実が確認された。

(再掲(9a))

(23b) ? 已经确认事实, 太郎和毒贩接触过。(パターンIII)

【逐語訳：?もう事実を確認されたが、太郎が麻薬密売人と接触した。】

(23c) 已经确认太郎和毒贩接触过。(パターンII)

【逐語訳：太郎が麻薬密売人と接触したのが確認された。】

(22a)は「事実」の命題形式により、連体節の表すことがら「太郎が麻薬密売人と接触した」が真であると判断できる。(21a)は「事実」のような「あることがらが真である」という情報を加える被修飾語がないが、述語動詞のタ型で「太郎が麻薬密売人と接触した」ということが真であるという意味が表されている。

したがって、(23a)では、被修飾語「事実」は命題補充型連体節の「太郎が麻薬密売人と接触した」に対して意味的に新しい情報を加えておらず、中国語に訳す場合には被修飾語を残すより(訳文(23b))、省略する(訳文(23c))の方がより簡潔であり、自然である。

一方、「恐れ」の持つ命題形式は、「ある悪い事柄が起こるか否かを心配する」であり、命題補充型連体節は悪い事柄というスロットにはめ込まれる。

(24a) 出入簿に記入された時間だって改竄される 恐れがある。

(『半落ち』)

(24b) 恐れ <ある悪い事柄が起こるか否かを心配する>

(再掲(20b))

(24c) <ある悪い事柄が起こるか否かを心配する> (命題形式)

↑

出入簿に記入された時間だって改竄される (連体節)

↓

出入簿に記入された時間だって改竄される (こと) が起こるか否かを心配する

(派生命題)

(24c)に示すように、「恐れ」の持つ命題形式は命題補充型連体節に「あることがらが起こるか否かを心配する」という新しい情報を付加している。このような命題補充型連体節に新情報を付加する被修飾語は省略すると、「命題補充型連体節+被修飾語」全体が表す意味が変わってしまう。

(25a) 出入簿に記入された時間だって改竄される。

((24a)による一部改変)

(25b) 连记在出入簿上的时间都会被篡改。

(26a) 出入簿に記入された時間だって改竄される 恐れ

(再掲(24a))

(26b) 担心连记在出入簿上的时间都会被篡改

【逐語訳：出入簿に記入された時間だって改竄されるのを恐れる】

(27a) のらりくらりやられているうちに、出入簿に記入された時間だって改竄される恐れがある。

(『半落ち』)

(27b) ? 在被拖住的这段时间里，连记在出入簿上的时间都会被篡改。(パターン I)

【逐語訳：のらりくらりやられているうちに、出入簿に記入された時間だって改竄される。】

(27c) 在被拖住的这段时间里，我担心连记在出入簿上的时间都会被篡改。(パターン II)

【逐語訳：のらりくらりやられているうちに、私は出入簿に記入された時間だって改竄することを恐れる。】

(26a)では「恐れ」の命題形式により、話者は連体節の表すことから「出入簿に記入された時間だって改竄される」が起こるか否かを心配していると判断できる。つまり、話者にとって、このことがらの生起はまだ不確定である。(25a)では、述語動詞のル型で「出入簿に記入された時間だって改竄される」ということが発生するという意味が表されている。つまり、話者にとって、このことがらの生起は確定である。すなわち、「恐れ」があるか否かということによって(25a)と(26a)の表す意味が異なっている。したがって、(27a)の命題補充型連体節を中国語に訳す場合には被修飾語の「恐れ」を省略することはできない(訳文(27c))。もし省略してしまうと、訳文の表す意味が原文の意味と変わってしまう(訳文(27b))。

このような観察に基づき、「訳文でも、日本語原文における被修飾語が残るか否か」を決定づける条件については、(28)のような結論が得られる。

(28) 日本語の命題補充型連体節を中国語に訳す場合、被修飾語の命題形式が連体節の表すことがらに対する新しい付加情報を持たないならば、訳文で被修飾語を省略できる。すなわち、パターン I を適用する。また、被修飾語の命題形式は連体節の表すことがらに対する新しい付加情報を持つならば、訳文で被修飾語を省略することはできない。すなわち、パターン I を適用しない。

4.4.2 「訳文でも、日本語原文における被修飾語が名詞の役割を果たすか否か」を決定づける条件について

本節では、「訳文でも、日本語原文における被修飾語が名詞の役割を果たすか否か」を決定づける条件について分析を行う。そもそも日本語において名詞である単語が、中国語における対訳語で名詞になるとは限らないという点には注意する必要がある。

(29a) 恐れ：①怖いと感ずること。「死への恐れを克服した」

②よくないことが起こるのではないかという懸念。心配。「強風の恐れがある」

③敬いもったいなく感ずること。畏敬。「神に恐れを感ずる」

(『明鏡』⁷⁰：240、一部省略)

(29b) 恐れ：①害怕，恐怖。「死への恐れを克服した/克服了对死亡的恐惧」

②忧虑，担心。担心会发生不好的事情。「強風の恐れがある/弄不好会刮大风」

③害怕，恐怖。威严，敬畏。过分地尊敬。「神に恐れを感ずる/对神感到敬畏」

(《明鏡》⁷¹：201、一部省略)

まず、「恐れ」という語についての『明鏡国語辞典第二版』とこれに対応する《明鏡日汉词典》の記述を(29)に示した。(29a)に挙げた「恐れ」の②番目の語釈「よくないことが起こるのではないかという懸念。心配」を例にすると、これに対応する語釈は(29b)の②番目の“忧虑，担心。担心会发生不好的事情”である。このように、悪いことがらが生起するか否かを心配するという意味を表す「恐れ」は、中国語において対訳語が“忧虑”(「憂慮する」)、“担心”(「心配する」)となるものと考えられる。

しかし、《现代汉语学习词典》によると、“忧虑”(「憂慮する」)と“担心”(「心配する」)は動詞であり、名詞ではない。だから、悪いことがらが生起するか否かを心配するという意味を表す「恐れ」は非名詞的な対訳語のみを持っているものであるということである。中国語において、動詞は文の主語や目的語の役割を果たす場合、連体修飾を受けることもあるが、それらは概ね所有の関係を表す連体修飾であり、命題補充型連体節を受ける例は

⁷⁰ 以下では北原保雄(編)(2010)『明鏡国語辞典第二版』(大修館書店)を『明鏡』と記す。

⁷¹ 以下では北原保雄(編)于日平、徐一平(主編)(2012)《明鏡日汉词典》(高等教育出版社)を《明鏡》と記す。

極めて少ない。以下、“担心”（「心配する」）を例に、『中国国家語言文字工作委员会現代漢語コーパス』⁷²を利用し、「命題補充型連体節+“担心(心配する)”」構文と「“担心”（「心配する」）+補文(ことがら)」構文の分布について検討する。

表1 「命題補充型連体節+担心」構文と「“担心”+補文(ことがら)」構文の分布

| | 例文数 | 「命題補充型連体節+ “担心”」構文数 | 「“担心”+補文(こと がら)」構文数 |
|------|------|------------------------|------------------------|
| “担心” | 462 | 1 | 282 |
| 百分率 | 100% | 0.22% | 61.04% |

“担心”（「心配する」）が含まれる462例の文の中に、「命題補充型連体節+“担心”」構文は僅か1例である。一方、「“担心”+補文(ことがら)」構文は282例で、「命題補充型連体節+“担心”」構文より、割合が圧倒的に高い。このことは、日本語の「命題補充型連体節+恐れ」構文を中国語に訳す場合には元の連体修飾関係を保つのではなく、「“担心”+補文(ことがら)」構文に訳す方が訳文が自然になるということを示している。

(30a) のらりくらりやられているうちに、出入簿に記入された時間だって改竄される恐れがある。

(再掲(27a))

(30b) 在被拖住的这段时间里，我担心连记在出入簿上的时间都会被篡改。（パターンII）

【逐語訳：のらりくらりやられているうちに、私は出入簿に記入された時間だって改竄することを恐れる。】

(30b)は(30a)の「命題補充型連体節+被修飾語」構文をパターンIIで訳して得られた訳文である。(30b)では、被修飾語の「恐れ」の対訳語である“担心”（「心配する」）は動詞として、述語の役割を果たしており、日本語文における命題補充型連体節は“担心”（「心配する」）の補文に訳されている。

⁷² <http://corpus.zhonghuayuwen.org/index.aspx>

このような観察に基づき、「訳文でも、日本語原文における被修飾語が名詞の役割を果たすか否か」を決定づける条件については(31)のような結論が得られる。

(31) 日本語の命題補充型連体節を中国語に訳す場合、被修飾語は非名詞的な対訳語のみを持っているならば、パターンⅡを適用する。

4.4.3 パターンⅠの適用条件について

連体節の表すことがらに加える情報の新しさにより、命題補充型連体節を受ける被修飾語は(32)、(33)の2種類に分けられる。

(32) 「命題形式」に、命題補充型連体節が表すことがらに対する新しい情報がある。(以下、「新情報保有タイプ」)

(33) 「命題形式」に、命題補充型連体節が表すことがらに対する新しい情報がない。(以下、「非新情報保有タイプ」)

前節で触れたように、命題補充型連体節を取る被修飾語の意味的な役割は、連体節の表すことがらに情報を加えるということである。また、被修飾語は連体節の表すことがらに対する新しい情報を持たない場合において訳文において省略できるのに対し、被修飾語は連体節の表すことがらに対して何らかの新しい情報を加える命題形式を持っている場合には、訳文において省略できない。つまり、被修飾語が「非新情報保有タイプ」タイプならば、パターンⅠを適用でき、被修飾語が「新情報保有タイプ」タイプならば、パターンⅠは適用できないということになる。これゆえ、当該の「命題補充型連体節＋被修飾語」構文がパターンⅠで訳せるか否かを判断するためには、被修飾語が「新情報保有タイプ」か「非新情報保有タイプ」かを先に判断しなければならない。

「非新情報保有タイプ」の被修飾語となるのは「事実」の他に、「ケース」、「事件」、「姿」、「動作」など「あることがらが真である」、「ある様態を現れる」という情報を持っている名詞が挙げられる。

(34a) 栗田は部長室に首を突っ込んだ恰好で動きを止めていた。

(『半落ち』)

(34b) 恰好 <ある様態が現れる>

(34c) <ある様態が現れる> (命題形式)

↑

部長室に首を突っ込んだ (連体節)

↓

部長室に首を突っ込んだ (様態) が現れる (派生命題)

(34d) 栗田は部長室に首を突っ込んだ。

((34a)による一部改変)

(35a) 栗田は部長室に首を突っ込んだ恰好で動きを止めていた。

(再掲(34a))

(35b) 栗田把头伸进部长室后就不动了。(パターン I)

【逐語訳: 栗田は部長室に首を突っ込んだ後、動きを止めていた。】

(35c) ? 栗田把头伸进部长室, 他以这种状态, 不动了。(パターン III)

【逐語訳: 栗田は部長室に首を突っ込み、その恰好で動きを止めていた。】

(34a)では、「恰好」の命題形式により、栗田が「部長室に首を突っ込んだ」という様態が現れると判断できる。一方、(34d)には「恰好」のような「ある様態が現れる」という情報を加える被修飾語がないが、この文を読むならば、読者は、この文を書いた方が栗田が「部長室に首を突っ込んだ」という様態が現れるという状況を見たと判断できる。すなわち、(34a)における「恰好」の命題形式は連体節に新情報を付加していないということになる。

(35a)では、被修飾語「恰好」は命題補充型連体節の「部長室に首を突っ込んだ」について意味的に新しい情報を加えないから、中国語に訳す場合、被修飾語を残すよりも(訳文(35b))、省略する(訳文(35c))の方がより簡潔であり、自然である。

ただし、被修飾語が「新情報保有タイプ」である「命題補充型連体節+被修飾語」構文であっても、パターン I で訳す場合がある。

(36a) 市郊外の駐在所に名物巡査長がいるという話

(『半落ち』)

(36b) 話 <あることがらを他の人から聞く>

(36c) <あることがらを他の人から聞く> (命題形式)

↑

市郊外の駐在所に名物巡査長がいる (連体節)

↓

市郊外の駐在所に名物巡査長がいる (こと) を他の人から聞く (派生命題)

(36d) 市郊外の駐在所に名物巡査長がいる。

((36a)による一部改変)

(36a)では、被修飾語の「話」を持つ命題形式は「あることがら他の人から聞く」であり、連体節の「市郊外の駐在所に名物巡査長がいる」はスロット(ことがら)にはめ込まれている。これは被修飾語が連体節に「他の人から聞く」という情報を加えているということである。すなわち、話者は連体節の表すことがらについて、他の人から聞いたという情報を付加している。仮に被修飾語の「話」を省略すると、(36d)になるが、これを見ると、話者が「市郊外の駐在所に名物巡査長がいる」ということがらを知ったのは、自分の経験によってなのか、他の人から聞いたからなのか判断できないものとなる。したがって、(36a)における被修飾語の「話」は「新情報保有タイプ」であり、省略されると、訳文の表す意味は変わってしまう。(28)の結論によって、このような「新情報保有タイプ」の被修飾語を修飾する命題補充型連体節はパターンIを適用できないということになる。しかし、(37b)、(39b)に示すように、被修飾語が「新情報保有タイプ」であるならば、必ずパターンIを適用できないと言えない。

(37a) (中尾は)市郊外の駐在所に名物巡査長がいるという話は以前から耳にしていた。

(『半落ち』)

(37b) 中尾以前就听说过市郊的派出所有一位有名的巡査长。(パターンI)

【逐語訳：中尾は以前から市郊外の駐在所に名物巡査長がいるというのは耳にしていた。】

(37c) ? 中尾以前就听到据说市郊的派出所有一位有名的巡查长。(パターンⅡ)

【逐語訳：？中尾は以前から市郊外の駐在所に名物巡查長がいると聞き、耳にしていた。】

(37a)では、主節動詞の「耳にしていた」は「あることがらを他の人から聞く」という意味を持ち、被修飾語の「話」の命題形式の意味情報と重なっている。それゆえ、被修飾語の「話」の命題形式は連体節の表すことがらに新情報を付加していないと理解できる。もし訳文に被修飾語の「話」が残されると、同一の語彙情報を持つ成分が2つ出てくることになるから、訳文が不自然になってしまう。つまり、主節動詞と同一の語彙情報を持つ被修飾語は、「新情報保有タイプ」であっても、訳文で省略されてしまうということである。

(38a) 一週間後に迫った梶事件の第二回公判の前に、面倒なことを片づける気持ち

(『半落ち』)

(38b) 気持ち <あることがらをしようと思う>

(38c) <あることがらをしようと思う> (命題形式)

↑

一週間後に迫った梶事件の第二回公判の前に、
面倒なことを片づける (連体節)

↓

一週間後に迫った梶事件の第二回公判の前に、面倒なことを片づける (と
いう行為) をしようと思う (派生命題)

(38d) 一週間後に迫った梶事件の第二回公判の前に、面倒なことを片づける。

((38a)による一部改変)

(38a)では、被修飾語の「気持ち」の持つ命題形式が「あることがらをしようと思う」であり、連体節の「一週間後に迫った梶事件の第二回公判の前に、面倒なことを片づけておきたい」はスロット(ことがら)にはめ込まれており、被修飾語は連体節に「しようと思う」という情報を加えている。すなわち、話者は連体節の表すことがらに対する態度が「しよう」という「意志」である。この被修飾語の「気持ち」を省略すると、(38d)になるが、これを見ると、話者の「一週間後に迫った梶事件の第二回公判の前に、面倒なことを片づけ

る」ということがらに対するモダリティは「断定」であり、(38a)の意味とは異なってしま
う。したがって、(38a)における被修飾語の「気持ち」は「新情報保有タイプ」であり、省
略されると、訳文の表す意味が変わってしまうということになる。

(39a) 隣の大学教授がスピッツのように吠えてうるさいし、それに、一週間後に迫った梶事
件の第二回公判の前に、面倒なことを片づけておきたいという気持ちもあった。

(『半落ち』)

(39b) 隔壁的の大学教授像斯皮兹狗一样狂吠个不停，并且，他也想赶在一周后梶案第二
次开庭公审之前把碍手碍脚的事情全部解决掉。(パターン I)

(《半落》)

【逐語訳：隣の大学教授がスピッツのように吠えてうるさいし、それに、一週間後に
迫った梶事件の第二回公判の前に、面倒なことを片づけておきたい】

(39c) ? 隔壁的の大学教授像斯皮兹狗一样狂吠个不停，并且，他也打算想赶在一周后梶案第
二次开庭公审之前把碍手碍脚的事情全部解决掉。(パターン II)

【逐語訳：? 隣の大学教授がスピッツのように吠えてうるさいし、それに、一週間後
に迫った梶事件の第二回公判の前に、面倒なことを片づけることをしたいというこ
とをしたい。】

(39a)では、連体節動詞の「片づけておきたい」は「たい」という「意志」のモダリティ
を表す形式を持つから、「あることがらを片づけようと思う」という意味を持ち、被修飾語
の「気持ち」の命題形式の意味情報と重なっている。それゆえ、被修飾語の「気持ち」の
命題形式は連体節の表すことがらに新情報を付加しないと理解できる。もし訳文に被修飾
語の「気持ち」が残されると、同一の語彙情報を持つ成分が2つ出てくることになるから、
訳文は不自然になってしまう。つまり、連体節動詞のモダリティと同一の語彙情報を持つ
被修飾語は、「新情報保有タイプ」であっても、訳文では省略されることになる。

このように、4.4.1 節の結論(28)を修正し、パターン I の適用条件は(40)～(42)の通り
である。

- (40) 日本語の命題補充型連体節を中国語に訳す場合には、被修飾語が「非新情報保有タイプ」であるならば、パターン I を適用する。
- (41) 日本語の命題補充型連体節を中国語に訳す場合には、被修飾語が「新情報保有タイプ」であるにも拘らず、被修飾語の連体節に対する付加情報が連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重なるならば、パターン I を適用する。
- (42) 日本語の命題補充型連体節を中国語に訳す場合には、被修飾語が「新情報保有タイプ」であるにも拘らず、被修飾語の連体節に対する付加情報が主節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重なるならば、パターン I を適用する。

4.4.4 パターンIIとパターンIIIの適用条件について

既に述べた通り、中国語において、日本語の名詞の対訳語は必ずしも名詞になるとは限らない。対訳語の品詞類によって、日本語文における被修飾語を(43a)～(43c)の3種類に分けている。

- (43a) 被修飾語(日本語文)が名詞類の対訳語(中国語文)のみを持つ。
- (43b) 被修飾語(日本語文)が非名詞類の対訳語(中国語文)のみを持つ。
- (43c) 被修飾語(日本語文)が名詞類と非名詞類の対訳語(中国語文)両方とも持つ。

(43b)のような場合の例として(44a)を挙げた。

(44a) 生い茂った緑のために、人に覗かれる心配もないので、日が暮れてからもずっとカーテンを閉めずにいると、二人の横顔がガラスに映り、潤んで見えた。

(『博士の愛した数式』)

(44b) 由于绿叶繁茂，不必担心被人窥探，因此如果太阳下山后也一直不拉窗帘，两个人的脸就会映在玻璃窗上，看上去很湿润。(パターン II)

(44c) ? 由于绿叶繁茂，没有被人窥探的担心，因此如果太阳下山后也一直不拉窗帘，两个人的脸就会映在玻璃窗上，看上去很湿润。(パターン I)

また、「心配」について『明鏡』を引くと(45)のように2つの語釈が掲げられている。

(45) 心配：①現在の状態、これから先のことなどが気がかりで、心を悩ませること。

「この有様では将来は心配だ。」

②心にかけて世話をすること。配慮。「就職の心配をしてもらおう」

(『明鏡』：883、一部省略)

(44a)における「心配」は(45)の②番目の語釈に当てはまる。また、(45)の②番目の解釈は、中国版の『明鏡』である《明鏡》には、以下のように述べられている。

(46) 担心、挂念、牵挂、忧虑。为现在的状态和将来等担心、忧虑。

「この有様では将来は心配だ/就现在这个样子，其将来真让人担心」

(《明鏡》：750、一部省略)

(45)の②と(46)を対照し、中国語における「心配」の対訳語は“担心”、“挂念”、“牵挂”、“忧虑”であることが認められる。《现代汉语学习词典》によれば、“担心”、“挂念”、“牵挂”、“忧虑”はいずれも名詞ではなく、動詞である。既に述べた通り、中国語では、動詞は命題補充型連体節を受けにくい。それゆえ、被修飾語が「心配」のような、非名詞類の対訳語のみを持っている名詞である命題補充型連体節は、一般的にパターンⅡで訳す。つまり、日本語における「命題補充型連体節＋被修飾語」構文を、中国語の「主節動詞&{命題補充型連体節の表すことがら&被修飾語(非名詞)}」構文に訳出する。

また、(43c)のような場合の例として(47a)と(48a)を挙げた。

(47a) はるか昔に読んだ記憶があるが、たしか、手紙を隠す場所の話だったな。

(『翼のある闇』)

(47b) 我记得老早以前读过，好像是一个关于藏信地点的故事。(パターンⅡ)

(《有翼之暗》)

【逐語訳：私のはるか昔に読んだことを覚えたが、たしか、手紙を隠す場所の話だっ

たな。】

(47c) ? 我有老早以前读过的记忆，好像是一个关于藏信地点的故事。(非分訳法)

(48a) 頭にはるか昔に彼と一緒にディズニーに行こうと約束した記憶が浮かんできた。

((47a)による一部改変)

(48b) 脑海中浮现出一段记忆——我很久之前和他约定要一起去迪士尼。

(パターンⅢ)

【逐語訳：頭にある記憶が浮かんできて——私ははるか昔に彼と一緒にディズニーに行こうと約束した。】

(48c) ? 脑海中浮现出很久之前和他约定要一起去迪士尼的记忆。(非分訳法)

『明鏡』では、「記憶」の語釈は(49)に示した2つである。

(49) 記憶：①過去に経験した事柄を忘れずにおぼえていること。また、その内容。

「記憶に新しい出来事」

②コンピューターに、データを保存しておくこと。「記憶装置」

(『明鏡』：401、一部省略)

(47a)における「記憶」は(49)①の語釈に当てはまる。また、(49)①の語釈は、中国版の『明鏡』である《明鏡》には、以下のように述べられている。

(50) 记忆。过去经历的事情没有忘记，依然记得，也指记得的事情。

「記憶に新しい出来事/记忆犹新的事情」

(《明鏡》：340、一部省略)

(49)①と(50)を対照すると、中国語における「記憶」の対訳語は“记忆”、“记得”であることが認められる。《現代汉语学习词典》によれば、“记忆”(「記憶」)は名詞であり、“记得”(「覚える」)動詞である。「記憶」は名詞類と非名詞類の対訳語(中国語文)両方とも持つものである。

“记忆”(「記憶」)は名詞であるから、理論的には命題補充型連体節を受けることができるはずである。

ここでは『中国国家語言文字工作委员会現代漢語コーパス』を適用し、「命題補充型連体節＋“记忆”」構文の分布について検討する。

表2 「命題補充型連体節＋“记忆”（「記憶」）」構文の分布

| | 例文数 | 「命題補充型連体節＋“记忆”（「記憶」）」構文数 |
|------------|------|--------------------------|
| “记忆”（「記憶」） | 687 | 2 |
| 百分率 | 100% | 0.29% |

“记忆”（「記憶」）が含まれる 687 例の文の中に、「命題補充型連体節＋“记忆”（「記憶」）」構文はわずか 2 例であり、全体の 0.29%を占めている。これは、中国語の“记忆”（「記憶」）」は名詞でありながら、命題補充型連体節を受けにくいことを示している。つまり、日本語の「命題補充型連体節＋記憶」構文を中国語に訳す場合には、(47c)、(48c)のように、非分訳法で訳すと訳文が不自然になってしまう。

また、(47b)は(47a)をパターンⅡで訳出した訳文であり、(48b)は(48a)をパターンⅢで訳出した訳文である。(47b)と(48b)に示したように、「記憶」のような名詞類と非名詞類の対訳語(中国語文)両方とも持っている名詞が被修飾語になる場合には、パターンⅡとパターンⅢのいずれも適用する。

以上の観察をまとめると、パターンⅡの適用条件は(51)あるいは(52)のいずれかの場合ということになる。

(51) 日本語の命題補充型連体節を中国語に訳す場合には、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、その被修飾語が中国語において非名詞類の対訳語のみを持っているならば、パターンⅡを適用する。

(52) 日本語の命題補充型連体節を中国語に訳す場合には、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、その被修飾語が中国語において名詞類と非名詞類の対訳語両方とも持っているが、非名詞類の対訳語を選定するならば、パターンⅡを適用する。

次に、パターンIIIの適用条件について検討する。

パターンIは訳文で日本語文における被修飾語を省略するパターンであり、パターンIIIは訳文で日本語文における被修飾語を残すパターンであるから、パターンIIIの適用条件はパターンIのそれと正反対のものであると考えられる。また、パターンIIは訳文で日本語文における被修飾語が非名詞的な成分として構文上の役割を果たすパターンであり、パターンIIIは訳文で日本語文における被修飾語が名詞的な成分として構文上の役割を果たすパターンであるから、パターンIIIの適用条件はパターンIIのそれと正反対のものであると考えられる。したがって、パターンIIIの適用条件は(53)～(54)のいずれか満たす場合である。

(53) 命題補充型連体節をとる被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、主節動詞・連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報が、被修飾語の付加する新情報に重ならない。また、その被修飾語(日本語文)が名詞類の対訳語(中国語文)のみを持っているならば、パターンIIIを適用する。

(54) 命題補充型連体節をとる被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、主節動詞・連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報が、被修飾語の付加する新情報に重ならない。また、その被修飾語(日本語文)が名詞類と非名詞類の対訳語(中国語文)両方とも持っているが、名詞類の対訳語を選定するならば、パターンIIを適用する。

4.5 命題補充型連体節の翻訳アプローチ

第4.4節では、「分訳法」で日本語における命題補充型連体節を中国語に訳す場合の翻訳パターンと各パターンの適用条件について検討した。各パターンとその適用条件を改めて簡潔にまとめると以下のようになる。

パターンⅠは、中国語の訳文で日本語原文における被修飾語が省略されるパターンである。被修飾語が「非新情報保有タイプ」である命題補充型連体節構文は、パターンⅠで訳せる。また、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、被修飾語が連体節のことがらに付加する新情報が、主節動詞・連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報に重なっている命題補充型連体節構文は、パターンⅠで訳せる。

パターンⅡは、中国語の訳文で日本語原文における被修飾語が非名詞的な品詞に変わるパターンである。被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、非名詞類の対訳語のみを持っている命題補充型連体節構文は、パターンⅡで訳せる。または、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、非名詞類の対訳語と名詞類の対訳語両方とも持っている命題補充型連体節構文は、非名詞類の対訳語を選定するならば、パターンⅡで訳せる。

パターンⅢは、被修飾語を主節動詞の持つ項に補い、連体節が独立文として訳されるパターンである。「新情報保有タイプ」である被修飾語が連体節のことがらに付加する新情報が、主節動詞・連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報に重ならず、名詞類の対訳語のみを持っている命題補充型連体節構文は、パターンⅢで訳せる。また、「新情報保有タイプ」である被修飾語が連体節のことがらに付加する新情報が、主節動詞・連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報に重ならず、非名詞類の対訳語と名詞類の対訳語両方とも持っている命題補充型連体節構文は、名詞類の対訳語を選定するならばパターンⅢで訳せる。

これらの3つの翻訳パターンの適用条件に基づき、以下では日本語における命題補充型連体節を中国語に訳すアプローチを提案する。

アプローチにおける割合は4.2節で触れた分訳法で訳された212例の日本語の命題補充型連体節構文を、翻訳アプローチの各条件に従って得たものである。

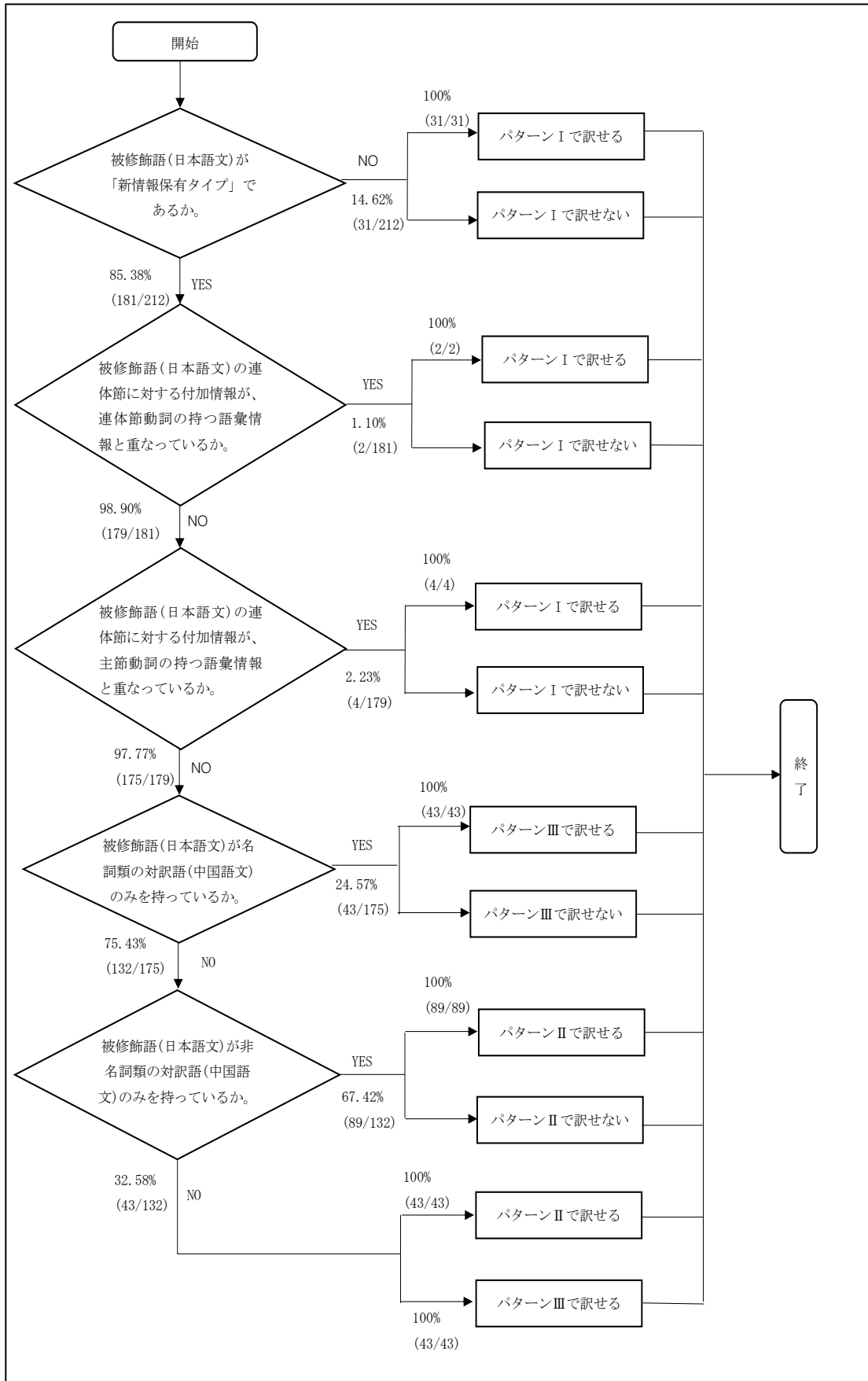


図1 命題補充型連体節の中国語に訳すアプローチ (分訳法)

4.6 命題補充型連体節の翻訳アプローチについての検証

本節では、4.5 節で提案した命題補充型連体節の中訳アプローチの妥当性について、3.6 節と同様の流れで検証を行う。すなわち、4.5 節で提案した命題補充型連体節を中国語に訳すための翻訳アプローチをプリエディットアプローチに転換し、翻訳アプローチの有効性を検証するということである。

命題補充型連体節を中国語に訳す場合の翻訳パターン(分訳法)：

(55) 日本語原文における被修飾語が省略される。

パターンⅠ：{命題補充型連体節+被修飾語}&主節動詞（日本語）

⇒命題補充型連体節の表すことがら&主節動詞（中国語）

（再掲(14)）

(56) 日本語原文における被修飾語の対訳語が名詞ではない。

パターンⅡ：{命題補充型連体節+被修飾語}&主節動詞（日本語）

⇒主節動詞&{命題補充型連体節の表すことがら&被修飾語(非名詞)}（中国語）

（再掲(15)）

(57) 日本語原文における被修飾語の対訳語が名詞である。

パターンⅢ：{命題補充型連体節+被修飾語}&主節動詞（日本語）

⇒被修飾語&主節/命題補充型連体節の表すことがら

あるいは、命題補充型連体節の表すことがら/被修飾語&主節（中国語）

（再掲(16)）

命題補充型連体節を中国語に訳す場合のプリエディットパターン(分訳法)：

(58) パターンⅠ'：「命題補充型連体節＋被修飾語」&主節（日本語）

⇒命題補充型連体節の表すことがら&主節動詞（日本語）

(59) パターンⅡ'：「命題補充型連体節＋被修飾語」&主節（日本語）

⇒主節動詞&{命題補充型連体節の表すことがら&被修飾語(非名詞)}（日本語）

(60) パターンⅢ'：「命題補充型連体節＋被修飾語」&主節（日本語）

⇒被修飾語&主節/命題補充型連体節の表すことがら

あるいは、命題補充型連体節の表すことがら/被修飾語&主節（日本語）

パターンⅠ'は、被修飾語を省略し、命題補充型連体節部分を全体として名詞化して、主節動詞の支配する項に補うというものである。

(61a) 私は彼が状況を楽しんでいる様子が感じ取れる。

(再掲(17a))

{命題補充型連体節のことがら＋被修飾語}&主節述語

(61b) 私は彼が状況を楽しんでいるのを感じ取れる。

((61a)による一部改変)

名詞化された命題補充型連体節のことがら&主節述語

パターンⅡ'は、被修飾語を意味情報が類似している他の品詞類に属する単語に転換し、「被修飾語(非名詞)&命題補充型連体節のことがら」を一つの塊として、主節動詞の支配する項に補うというものである。

(62a) 結婚式でこっそり会おうという約束を、ラブソディは忘れてしまったのかもしれない。

(再掲(18a))

{命題補充型連体節のことがら＋被修飾語}&主節述語

(62b) ラプソディは二人が結婚式でこっそり会おうと約束したのを忘れてしまったのかも
しれない。

((62a)による一部改変)

{動詞化された被修飾語&命題補充型連体節のことがら} & 主節動詞

パターンⅢ' は、連体修飾関係を保つのではなく、被修飾語を主節動詞の項に補い、命題補充型連体節は独立した文として、主節の前、あるいは後に置くというものである。

(63a) どんな場合であれ、雇い主に対し質問に質問で答えてはならないという家政婦の鉄
則を守り、私は問われたとおりのことを答えた。

(再掲(19a))

{命題補充型連体節のことがら+被修飾語} & 主節述語

(63b) どんな場合であれ、雇い主に対し質問に質問で答えてはならない。私はその家政婦
の鉄則を守り、問われたとおりのことを答えた。

((63a)による一部改変)

命題補充型連体節：ことがら / 主節動詞&被修飾語

以下では日本語の命題補充型連体節構文に対し、プリエディットパターンに従ってプリエディットを行う前後の訳文の品質の変化について例示する。

(64a)はプリエディットを行う前の日本語文であり、(64b)は2つの機械翻訳サイト(「有道」と「TexTra」)による(64a)の訳文である。この2つの訳文はいずれも日本語の語順そのままに訳出されており、自然な中国語文とは認められない。(64c)は、パターンⅡ'を適用し、(64a)に対しプリエディットを行った日本語文であり、(64d)は2つの機械翻訳サイト(「有道」と「TexTra」)による(64c)の訳文である。この2つの訳文は、パターンⅢで訳出された訳文(64e)と比べ、構文が同じであり、構文から見れば、自然であると言える。

(64a) オリジナル起点テキスト：

ほこりっぽい空間で本棚に並べられた書籍達の順番が正しいものか確認するという、図書委員としての任務を忠実にこなしている最中に、山内桜良がおかしな告白をしてきた。

(『君の臍臓を食べたい』)

(64b) 機械による訳文⁷³：

？在灰土的空间里，为确认书架上的书籍的顺序是否正确，担任图书委员的工作，山内桜良做了一个奇怪的告白。

(有道)

【逐語訳：？ほこりっぽい空間で、本棚に並べられた書籍達の順番が正しいものか確認するために、図書委員の仕事を担当し、山内桜良がおかしな告白をした。】

？在确认书架上摆放的书籍们的顺序是否正确的前提下，作为图书委员的任务正在如实地进行。

(TexTra)

【逐語訳：？本棚に並べられた書籍達の順番が正しいものか確認する状況で、図書委員としての任務が忠実に進行している。】

(64c) パターンⅢ’ に沿ってプリエディットを行った起点テキスト：

図書委員としての任務はほこりっぽい空間で本棚に並べられた書籍達の順番が正しいものか確認するということだ。その任務を忠実にこなしている最中に、山内桜良がおかしな告白をしてきた。

(64d) 機械による訳文⁷⁴：

作为图书委员的任务是确认书架上书籍的顺序是否正确。在认真完成这个任务的过程中，山内桜良做出了一个奇怪的告白。

(有道)

【逐語訳：図書委員としての任務は本棚に並べられた書籍達の順番が正しいものか確認することだ。その任務を真面目にこなしている最中に、山内桜良がおかしな告白を

⁷³ 2つの訳文はすべて2019年04月07日に得たものである。

⁷⁴ 2つの訳文は2019年04月07日に得たものである。

した。】

？作为图书委员的任务是确认在灰尘空间中书架上摆放的书籍们的顺序是否正确。在忠实地完成这项任务的过程中，山内樱良发出了奇怪的忏悔声。

(TexTra)

【逐語訳：図書委員としての任務はほこりっぽい空間で、本棚に並べられた書籍達の順番が正しいものか確認することだ。その任務を忠実にこなしている最中に、山内桜良がおかしな懺悔する声をした。】

(64e) パターンⅢで訳出した訳文：

图书委员的工作是在灰尘满布的空间里，检查书架上的书籍排列顺序是否正确。正认真地执行图书委员的任务时，山内樱良突然说了这句奇怪的表白。

【逐語訳：図書委員としての任務はほこりっぽい空間で、本棚に並べられた書籍達の順番が正しいものか確認することだ。その任務を忠実にこなしている最中に、山内桜良がおかしな告白をした。】

(64a)～(64d) が示すように、(58)～(60)のプリエディットパターンに沿って、日本語文に対しプリエディットを行うと、訳文の品質を向上させられる可能性があることが示唆される。

また、プリエディットパターンⅠ'、Ⅱ'、Ⅲ' はそれぞれ翻訳パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲに対応するから、その適用条件も翻訳パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲの適用条件と同じである。それゆえ、日本語の命題補充型連体節構文を中国語に訳すためのプリエディットアプローチは図2のようになる。

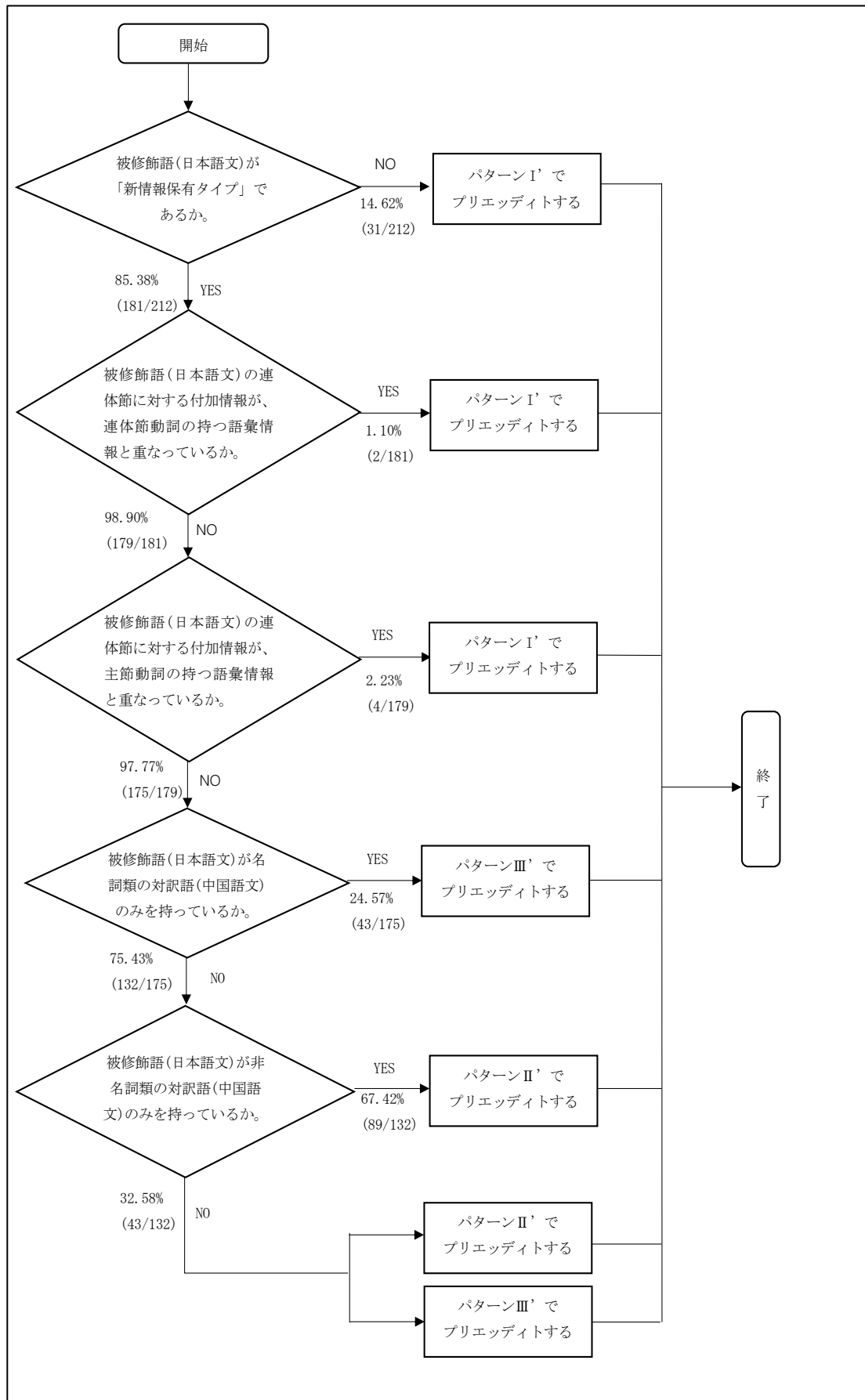


図2 命題補充型連体節の中国語に訳するためのプリエディットアプローチ

上記のプリエディットアプローチを検証するために、小説『君の臍臓を食べたい』から、本章の考察対象となり得る命題補充型連体節構文を 20 例抽出し、機械による訳文の品質について評価した。評価の手順は以下の通りである。まず、20 例の命題補充型連体節構文を 2 種類の日中機械翻訳システム(「有道」と「TexTra」)で訳し、20 例の訳文を得る(以下、訳文(プリエディット前))。次に、当該の 20 例の命題補充型連体節構文を上述のプリエディットアプローチに基づき、プリエディットを行う。プリエディットされた 20 例の命題補充型連体節構文を 2 種類の日中機械翻訳システム(「有道」と「TexTra」)で訳し、20 例の訳文を得る(以下、訳文(プリエディット後))。最後に宮田・藤田 (2017) で提出された機械翻訳の訳文の品質評価基準(表 4)に従い、訳文(プリエディット前)と訳文(プリエディット後)の品質の変化について評価した。

訳文(プリエディット前)と訳文(プリエディット後)の品質の評価について、3 人の中国人日本語学習者はその訳文をチェックして、表 3 の標準に従い、各訳文の品質を評価した。このように訳文を評価した結果は以下の表 4～表 8 の通りである。

表 3 機械翻訳の訳文の品質評価基準

| | |
|-----------------------|------------------------------------------------------|
| 5. Perfect | 原文の情報が完全に翻訳されている。訳文は文法誤りを含まない。母語話者からみても、語句の選択が自然である。 |
| 4. Good | 語句の選択がやや不自然であるが、原文の情報が完全に翻訳され、訳文は文法誤りを含まない。 |
| 3. Fair | 原文のあまり重要でない情報の翻訳に些細な誤りがあるが、原文の内容は容易に理解できる。 |
| 2. Acceptable | 重要な情報の一部が欠落したり、誤訳されたりしているが、原文の中核となる情報は何とか理解できる。 |
| 1. Incorrect/nonsense | 原文の意味は全く理解できない。 |

(宮田・藤田 2017 : 59)

表4 日本語原文とその機械による訳文の品質評価(訳文(プリエディット前))⁷⁵

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) ⁷⁶ | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) ⁷⁷ | 品質 評価 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------------------|----------|
| 1. 「君の算段の中には、 <u>僕が</u> <u>膵臓を必要としてるって可能</u> <u>性はないの？」</u> 」 | “你的算计中，我不可能 每天都需要胰脏？” | 2 | “在你的算术中，我没 有可能需要胰腺吗？” | 3 |
| 2. <u>僕</u> の了承なんて最初から必 要ないという調子で、彼女は 手を振りながら僕の帰路とは 反対側に歩いていった。 | 一开始就不需要我的谅 解，她一边挥手一边朝我 归途的另一边走去。 | 3 | 从一开始就不需要我 的同意，她一边挥手， 一边走到我的回路。 | 2 |
| 3. つまり、人は <u>また人として</u> <u>生きる時間を延ばす能力</u> を得 た。 | 也就是说，人获得了再次 作为人活着的时间延长 的能力。 | 3 | 也就是说，人还获得了 延长人生时间的能力。 | 3 |
| 4. <u>クラスメイト</u> が声をかけて <u>きたことにだけ関心を持った</u> <u>という顔</u> を作って、彼女の言 葉を待つと、僕の薄っぺらい 期待を嘲あざ笑わらうみたい に彼女は手を差し出した。 | 他做出只对同班同学的 关心的表情，等待她的 话，用嘲讽我的浅薄期待 的表情，她伸出手。 | 1 | 她的脸上露出了一种 对同学们的意见，等待 她的话语，她就像嘲笑 我的脸一样。 | 1 |
| 5. 当時、彼女とほとんど会話を をしたことのなかった僕は、 彼女について <u>自分とは正反対</u> <u>の明るく潑刺としたクラスメ</u> <u>イト</u> という <u>情報</u> しか持ってい なかった。 | 当时，几乎没有和她对话 过的我，只知道她是与我 完全相反的开朗活泼的 同学。 | 4 | 当时，我和她几乎没有 交谈过，她只拿着与她 完全相反的性格开朗 的同学。 | 2 |

⁷⁵ 表3における訳文の品質評価は3人の中国人日本語学習者による評価の平均値であり、その数値を小数第1位で四捨五入し、整数で表示する。

⁷⁶ 表4における訳文は2019年4月7日に得たものである。

⁷⁷ 表4における訳文は2019年4月7日に得たものである。

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------|--------------------------------------------------|----------|
| 6. <u>この人本当にもうすぐ死ぬのか?</u> という <u>疑念</u> が湧いてくるけれど、以前に色々と正式な紙を見せてもらったので、 <u>疑いの余地</u> はない。 | 这个人是不是真的快死了?虽然这个疑问不断,但他以前已经看过很多正式的报纸,所以没有怀疑的余地。 | 3 | 虽然有人怀疑这种人真的已经死了,但以前让我看了很多正式的纸,所以没有怀疑的余地。 | 2 |
| 7. 「 <u>人に食べてもらおうと魂がその人の中で生き続けるって</u> <u>いう信仰</u> も外国にあるらしいよ。」 | “外国人似乎也有这种让人吃下灵魂会一直活在那个人之中的信仰。” | 3 | “让人吃的话,灵魂在那个人中生存下去的信仰好像也在外国。” | 3 |
| 8. 当然最初から自分の食べられる分だけしか注文していないので、彼女のように <u>サイドメニュー</u> で <u>テーブル</u> を埋めるという <u>愚行</u> は犯さない。 | 当然因为从一开始就只订了能吃的量,所以不会犯下像她那样用边菜单填桌子的愚蠢行为。 | 2 | 当然从一开始就只点自己能吃的东西,所以不会像她这样的用侧面菜单把桌子埋在桌子上的愚蠢行为。 | 2 |
| 9. 「小学生くらいからかな、僕には <u>友達</u> っていうのがいた <u>記憶</u> がない」 | “大概是小学生吧,我记得是朋友。” | 1 | “从小学生开始,我记得我有个朋友叫我” | 1 |
| 10. 彼らはつまり、 <u>あの明朗快活</u> で <u>元気潑刺</u> 、 <u>クラスの人気者の彼女</u> が、 <u>クラス随一の地味</u> で根暗な少年と休みの日にお茶をしていた <u>謎</u> を解き明かしたいらしかった。 | 他们也就是说,希望解开那个明朗活泼、活泼、受欢迎的女孩和班里第一名朴素、忧郁的少年在休息日喝茶的谜团。 | 3 | 他们也想解开那些开朗活泼、活力十足、班级受欢迎的她在班里一个档次的朴素的少年和休息日喝茶的谜团。 | 2 |
| 11. 事態は、ひとまず <u>図書委員会</u> の <u>打ち合わせ</u> か何かだろうという <u>方向性</u> でまとまったかに見えた。 | 看来,事态的方向是先与图书委员会商讨还是其他问题。 | 2 | 看来,事态暂且是图书委员会磋商或什么问题的方向。 | 3 |

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|----------|----------------------------------------------------------------|----------|
| 12. 四時間目までの試験を終えて、 <u>今回もクラス平均より少し上くらいの点数を上手く取れているだろうという予感</u> を得てから、僕は特に誰とコミュニケーションをとることもなく掃除をし、帰りの準備をした。 | 第四节考试结束后,我预感到这次的成绩会比班级平均成绩稍好一些,所以我在没有和任何人沟通的情况下,开始打扫房间,为回家做准备。 | 4 | 到第4个小时为止的考试结束后,他的预感也比等级平均稍微高一点,之后我也没有特别的和谁交流的事情,做了扫除,准备了回家的准备。 | 2 |
| 13. 「 <u>臍臓やっちゃったら意味ない嘘ついていいっていうルールはないからね</u> 」 | “因为没有臍脏走了就会撒弥天大谎的规则。” | 1 | “因为我没有一个规则说:我不会骗你,我不会说谎。” | 1 |
| 14. 善し悪しの問題ではなく、(僕は) <u>彼女がじっと小説を読んでいる姿が想像できなかった。</u> | 不是好坏的问题,我无法想象她一直在读小说的样子。 | 5 | 不好的问题,我想象不到她看小说的样子。 | 2 |
| 15. <u>明日友達と遊ぶ約束</u> はあるよ。 | 明天有和朋友玩的约会哦。 | 3 | 明天有和朋友约会的约定。 | 4 |
| 16. 僕は、 <u>クラスメイトが近くで湯浴みをしている現状</u> に一体どうして辿り着いたのか、己の意思と行動の反省も含め思い返す。 | 我想,同学们在附近洗澡的时候到底为什么会到达这个地步,包括自己的想法和行为的反省。 | 2 | 我回忆道,同学在附近洗澡的现状究竟怎么回事,也包括自己的想法和行为的反省。 | 3 |
| 17. <u>十回が終わったら、もう二度と彼女がゲームと称する bodiesの知れないものには参加しないという誓い</u> は既にたてた。 | 十次结束后,他已经发誓不再参加她以游戏为身份的活动了。 | 2 | 10次结束后,已经有一次誓言,她不再参加被称为游戏的不知道的东西。 | 3 |

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------------|----------|
| 18. 僕は <u>演技力を鍛える決意</u> をする。 | 我决心锻炼演技。 | 4 | 我决心锻炼演技。 | 4 |
| 19. 僕は <u>今回の旅行中の支払いを絶対返済の条件付きで彼女に任せるという協定</u> を結んでいた。 | 我签下了这次旅行中必须支付给她们一定偿还条件的协定。 | 2 | 我在此次旅行中, 签订了绝对偿还条件。 | 2 |
| 20. <u>ほこりっぽい空間で本棚に並べられた書籍達の順番が正しいものか確認する</u> という、 <u>図書委員としての任務</u> を忠実にこなしている最中に、山内桜良がおかしな告白してきた。 | 在灰土的空间里, 为确认书架上的书籍的顺序是否正确, 担任图书委员的工作, 山内樱良做了一个奇怪的告白。 | 2 | 在确认书架上摆放的书籍的顺序是否正确的情况下, 作为图书委员的任务正在如实地进行。 | 1 |

表5 日本語原文とその機械による訳文の品質評価(訳文(プリエディット後))⁷⁸

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) ⁷⁹ | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) ⁸⁰ | 品質 評価 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------------------------------|----------|
| 1. 「君の算段の中には、 <u>僕が 膵臓を必要としてるかもしれ ないのではないの?</u> 」 | “在你的计算中，我难道 不需要胰脏吗?” | 4 | “你的算盘里有我可 能需要我的胰腺吗?” | 3 |
| 2. 彼女は、 <u>僕のを承なんて最 初から必要なくて、手を振り ながら僕の帰路とは反対側に 歩いていった。</u> | 她根本就不需要我的谅 解，一边挥手一边走到我 归途的另一边。 | 3 | 她从一开始就不需要 我的同意，一边挥手， 一边走到我的回路一 边走。 | 3 |
| 3. つまり、人はある <u>能力</u> を得 た。それはまた人として生き る時間を延ばすということ だ。 | 也就是说，人得到了某种 能力。那就是再延长作为 人的生存时间。 | 4 | 也就是说，人得到了某 种能力。那是延长人生 的时间。 | 4 |
| 4. <u>クラスメイトが声をかけて きたことにだけ関心を持っ た。僕は<u>そのような顔</u>を作っ て、彼女の言葉を待つと、僕 の薄っぺらい期待を嘲あざ笑 わらうみたいに彼女は手を差 し出した。</u> | 我只对同学们的声音感 兴趣。我做出那样的表 情，等她的话，用嘲讽的 笑容把我的浅薄期待送 上手。 | 2 | 他只关心了同学们 的声音。我做了这样的 脸，等待她的话，她就 像嘲笑我的期待一样， 伸出了手。 | 3 |
| 5. あのクラスメイトは <u>自分と は正反対の明るく澁刺とした 人だ</u> 。当時、彼女とほとんど 会話をしたことのなかった僕 は、彼女についてその <u>情報</u> し か持っていなかった。 | 那个同学是一个与自己 完全相反的开朗活泼的 人。当时几乎没有和她交 谈过的我，只有那份关于 她的信息。 | 3 | 那位同学是和自己截 然相反的性格开朗的 人。当时我和她几乎没 有交谈过，她只拿了她 的信息。 | 2 |

⁷⁸ 表3における訳文の品質評価は3人の中国人日本語学習者による評価の平均値であり、その数値を小数第1位で四捨五入し、整数で表示する。

⁷⁹ 表5における訳文は2019年4月7日に得たものである。

⁸⁰ 表5における訳文は2019年4月7日に得たものである。

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------------------------|----------|
| 6. <u>この人本当にもうすぐ死ぬのか？</u> <u>その疑念</u> が湧いてくるけれど、以前に色々と正式な紙を見せてもらったので、疑いの余地はない。 | 这个人真快死了吗?虽然那份疑惧心理在涌上来,但因为之前已经看过很多正式的报纸,所以没有怀疑的余地。 | 4 | 这个人真的已经死了吗?虽然出现了这种疑问,但以前让我看了很多正式的纸,所以没有怀疑的余地。 | 3 |
| 7. 「外国では、 <u>人に食べてもらうと魂がその人の中で生き続けると信じるらしいよ</u> 」 | “在外国,人们相信吃下灵魂会活在那个人之中” | 3 | 在外国,如果有人吃的话,相信灵魂会继续在那个人中生存下去。 | 3 |
| 8. <u>サイドメニューでテーブルを埋めるは愚行だ</u> 。当然最初から自分の食べられる分だけしか注文していないので、彼女のようにその <u>愚行</u> は犯さない。 | 用边菜单填桌子是愚蠢的行为。当然因为从一开始就只订了能吃的份,所以不会像她那样做出愚蠢的行为。 | 4 | 在侧面菜单上填上桌子是愚蠢的行为。当然从一开始就只点自己能吃的东西,所以不会像她那样犯法。 | 3 |
| 9. 「小学生くらいからかな、僕には <u>友達ってというのがいたのをおぼえていない</u> 」 | “大概是小学生吧,我不记得以前是朋友。” | 2 | “我记得从小学到我的朋友。” | 1 |
| 10. <u>あの明朗快活で元気潑刺、クラスの人気者の彼女が、クラス随一の地味で根暗な少年と休みの日にお茶をしていた</u> 。彼らはつまり、 <u>その謎</u> を解き明かしたいらしかった。 | 那个开朗活泼、活泼、受欢迎的班级女孩,在放假的日子里和一位素色、忧郁的少年喝着茶。他们似乎想要解开这个谜题。 | 3 | 她的开朗活泼、活力十足、班上的人气人,在班里的一个朴素的少年和一个休息的日子里喝茶。他们也想解开那个谜团。 | 3 |
| 11. <u>図書委員会の打ち合わせか何かだろう</u> 。事態は、ひとまず <u>そういう方向性</u> でまとまったかに見えた。 | 是与图书委员会的会面吧。看来事态已经在这一方向上告一段落了。 | 4 | 是图书委员会的碰头会什么的吧。事态似乎是以这种方向性进行整理的。 | 3 |

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 12. <u>今回もクラス平均より少し</u> <u>上くらいの点数を上手く取れ</u> <u>ているだろう</u> 。四時間目までの 試験を終えて、 <u>その予感</u> を得て から、僕は特に誰とコミュニケ ーションをとることもなく掃 除をし、帰りの準備をした。 | 这次的分数也会比班级 平均值好一些吧。考完第 四节课的考试，有了这样 的预感，我在没有和任何 人沟通的情况下，开始打 扫房间，为回家做准备。 | 4 | 这次也能取得比班级 平均水平稍高的分数。 直到第4个小时的考试 结束后，我才得到预 感，我没有和任何人交 流，而是做了扫除，准 备了回家的准备。 | 3 |
| 13. 「 <u>膀胱</u> や <u>ちや</u> ったら意味 <u>ない嘘</u> ついていい。 <u>そういうル</u> <u>ール</u> はないからね」 | “如果膀胱走了，就尽情 地撒谎也行，因为没有这 样的规则。” | 3 | “如果你做了什么，我 就不会撒谎了，因为没 有这样的规则。” | 2 |
| 14. 善し悪しの問題ではなく、 (僕は) <u>彼女がじつと小説を讀</u> <u>んでいるのが想像できなかつ</u> た。 | 不是好坏的问题，我无法 想象她一直在看小说。 | 4 | 不好的问题，我想象不 到她在读小说。 | 2 |
| 15. <u>明日友達と遊ぶと約束した</u> よ | 约定了明天和朋友玩哦。 | 4 | 我约定明天和朋友一 起玩。 | 5 |
| 16. 僕は、 <u>クラスメイトが近く</u> <u>で湯浴みをしているのに一体</u> どうして辿り着いたのか、己の 意思と行動の反省も含め思い 返す。 | 我回忆着，同学们明明在 附近洗澡，为什么会到达 目的地，自己的想法和行 为的反省。 | 2 | 我回想起了同学们在 附近洗澡的时候到底 怎么赶到的，也包括自 己的想法和行为的反 省。 | 3 |
| 17. <u>十回が終わったら、もう二</u> <u>度と彼女がゲームと称する得</u> <u>体の知れないものには参加し</u> <u>ない</u> 。 <u>その誓い</u> は既にたてた。 | 十回结束了，她将不再参 加任何所谓的“游戏”的 莫名其妙的活动。那个誓 言已经立下了。 | 3 | 10次结束后，也不再 参加她称之为游戏的 不知道的东西了。 誓言已经做好了。 | 3 |

| 日本語原文 | 訳文(「有道」) | 品質 評価 | 訳文(「TexTra」) | 品質 評価 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----------|------------------------------------------------------------------|----------|
| 18. 僕は <u>演技力を鍛えると決める</u> 。 | 我决定加强演技。 | 4 | 我决定锻炼演技。 | 4 |
| 19. <u>今回の旅行中の支払いを絶対返済の条件付きで彼女に任せる</u> 。僕は <u>そういう協定を結んでいた</u> 。 | 我把这次旅行中支付的钱作为一定偿还的条件交给了她。我签署了这一协定。 | 2 | 这次旅行中的支付将以绝对偿还条件交给她。我签订了这样的协定。 | 2 |
| 20. <u>図書委員としての任務はほこりっぽい空間で本棚に並べられた書籍達の順番が正しいものか確認する</u> ということだ。その任務を忠実にこなしている最中に、山内桜良がおかしな告白をしてきた。 | 作为图书委员的任务是确认书架上书籍的顺序是否正确。在认真完成这个任务的过程中，山内樱良做出了一个奇怪的告白。 | 4 | 作为图书委员的任务是确认在灰尘空间中书架上摆放的书籍们的顺序是否正确。在忠实地完成这项任务的过程中，山内樱良发出了奇怪的忏悔声。 | 4 |

表 6 機械による訳文の品質表(訳文(プリエディット前))

| 機械翻訳サイト 訳文の品質レベル | 有道 | TexTra | 合計 | 百分率 |
|---------------------|----|--------|----|-------|
| 1 | 3 | 4 | 7 | 17.5% |
| 2 | 7 | 8 | 15 | 37.5% |
| 3 | 6 | 6 | 12 | 30% |
| 4 | 3 | 2 | 5 | 12.5% |
| 5 | 1 | 0 | 1 | 2.5% |
| 合計 | 20 | 20 | 40 | 100% |

表 7 機械による訳文の品質表(訳文(プリエディット後))

| 機械翻訳サイト 訳文の品質レベル | 有道 | TexTra | 合計 | 百分率 |
|---------------------|----|--------|----|-------|
| 1 | 0 | 1 | 1 | 2.5% |
| 2 | 4 | 4 | 8 | 20% |
| 3 | 6 | 11 | 17 | 42.5% |
| 4 | 10 | 3 | 13 | 32.5% |
| 5 | 0 | 1 | 1 | 2.5% |
| 合計 | 20 | 20 | 40 | 100% |

表8 訳文(プリエディット前から訳文(プリエディット後)への品質変化

| 機械翻訳サイト 訳文の品質変化 | 有道 | TexTra | 合計 | 百分率 |
|----------------------------------|-----------------|--------|----|-------|
| レベルが上がる | 11 | 10 | 21 | 52.5% |
| レベルが下がる | 2 ⁸¹ | 0 | 2 | 5% |
| レベルが変わらない (品質レベルが「3」以下) | 2 | 4 | 6 | 15% |
| レベルが変わらない (品質レベルが「3」および「3」以上) | 5 | 6 | 11 | 27.5% |
| 合計 | 20 | 20 | 40 | 100% |

⁸¹ (15a) 原文(プリエディット前)：当時、彼女とほとんど会話をしたことのなかった僕は、彼女について自分とは正反対の明るく澁刺としたクラスメイトという情報しか持っていなかった。

(15b) 訳文(プリエディット前)：当时，几乎没有和她对话过的我，只知道她是与我完全相反的开朗活泼的同学。(品質レベル：4)

(15c) 原文(プリエディット後)：あのクラスメイトは自分とは正反対の明るく澁刺とした人だ。当時、彼女とほとんど会話をしたことのなかった僕は、彼女についてその情報しか持っていなかった。

(15d) 訳文(プリエディット後)：那个同学是一个与自己完全相反的开朗活泼的人。当时几乎没有和她交谈过的我，只有那份关于她的信息。(品質レベル：3)

品質が下がる理由：語順が不自然である。

(16a) 原文(プリエディット前)：善し悪しの問題ではなく、(僕は)彼女がじっと小説を読んでいる姿が想像できなかった。

(16b) 訳文(プリエディット前)：不是好坏的问题，我无法想象她一直在读小说的样子。(品質レベル：5)

(16c) 原文(プリエディット後)：善し悪しの問題ではなく、(僕は)彼女がじっと小説を読んでいるのが想像できなかった。

(16d) 訳文(プリエディット後)：不是好坏的问题，我无法想象她一直在看小说。(品質レベル：4)

品質が下がる理由：動詞“想象「想像する」”の持っている<対象>の項に補う場合には、補文より、名詞の方が一層自然になる。

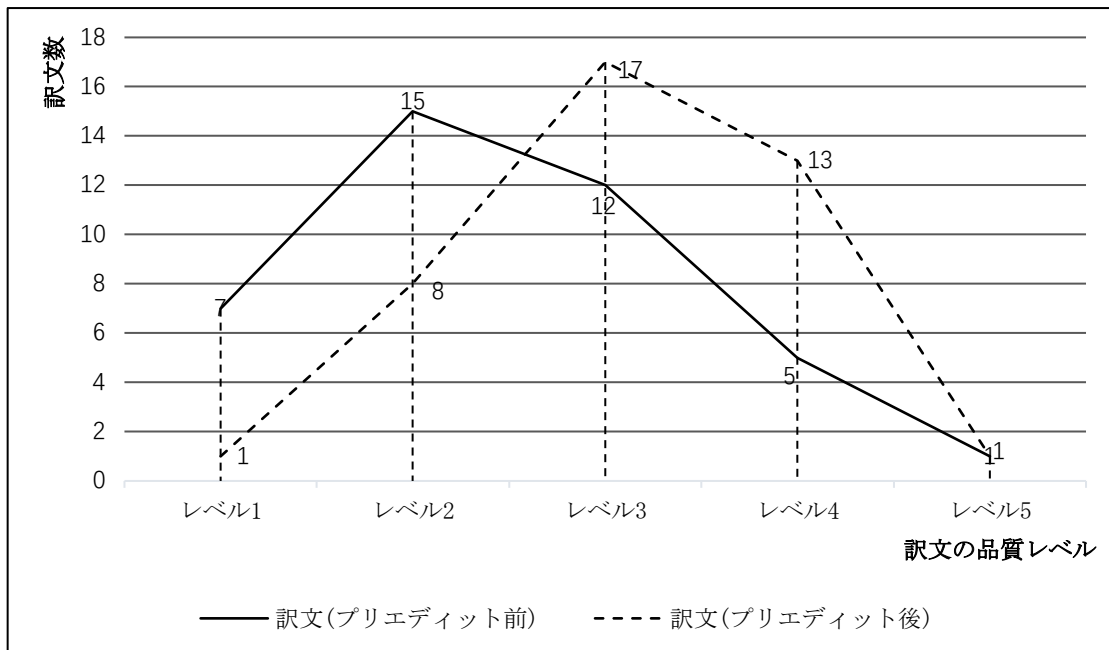


図3 訳文(プリエディット前)から訳文(プリエディット後)への品質の変化図

訳文は品質レベルが「3」以上であるならば、容易に理解できることから、ここでは「3」を境目にして、「3」未満を不合格とし、「3」以上を合格であるとみなしている。表6に示すように、訳文(プリエディット前)において合格となったものは40例中18例であり、合格率は45%であった。一方、表7では、訳文(プリエディット後)において合格となったものが40例中31例であり、合格率は45%から77.5%まで増加した。また、表8のデータが示しているように、2つの機械翻訳システムについて、プリエディットを行った後に訳文の品質向上が認められたのは、21例(52.5%)であった。また、図3の折れ線グラフに示すように、訳文(プリエディット前)の折れ線はレベル2でのピーク値に達して、一方、訳文(プリエディット後)の折れ線はレベル3でピーク値に達している。このようなピーク値の移動も訳文(プリエディット後)が、訳文(プリエディット前)より、品質が全体的に上がるということを示している。

上記のとおり、本節で提示したルールに基づきプリエディットを行うことが訳文の品質向上に資すると言えると考えられる。

第5章 「非分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について

5.0 本章概要

本章では、日本語の内の関係連体節と命題補充型連体節(外の関係)を対象に、非分訳法で中国語に訳す場合の翻訳パターンと各パターンの適用条件について分析する。5.1では、機械翻訳サイトで日本語の内の関係連体節と命題補充型連体節を中国語に訳す場合の問題点を示す。5.2では、節長(連体節の長さ)の面から、非分訳法の適用条件について述べる。5.3では、被修飾語の連体節動詞に対する意味役割の面から、非分訳法の適用条件について述べる。

5.1 はじめに

第2章で触れた通り、日本語の連体節を中国語に訳す場合、その翻訳方法は「非分訳法」と「分訳法」の2つに大きく分けられる。

- (1)非分訳法：日本語の内容節構文における連体修飾関係を変えずに中国語に訳す。また、日本語文における自立語の増減なしで中国語に訳す。
- (2)分訳法：日本語の内容節構文における連体修飾関係を保たず、中国語訳文では連体修飾関係が存在しない。また、日本語文における自立語の増減なしで中国語に訳す。

非分訳パターンとは、日本語の連体修飾関係を変えずに中国語に訳す翻訳パターンであり、(3b)に示すように、“血”(「血」)と“从颈根流出的”(「首根の切断面から流れ出した」)は日本語文と同じく連体修飾関係を持ち、「内の関係連体節+被修飾語」という一つの名詞的な成分として、主節動詞に支配されている。

(3a) 首根の切断面から流れ出した血は絨毯にも染みこんでいる。

(『翼ある闇』)

(3b) 从颈根流出的血沾染了地毯。

(《有翼之暗》)

また、非分訳パターンで中国語に訳せる日本語の連体節もあるが、(4b)と(5b)のように訳せない例もある。

(4a) 山田さんが二百万円を貸した男は行方不明になった。

(4b) ? 山田借给 200 万日元的男人失踪了。

(5a) この日夜勤明けで、午前八時ちょうどに帰宅した平介は、四畳半の和室に入るなり、
テレビのスイッチを入れた。

(『秘密』)

(5b) ? 这一天值完夜班，回到家刚好是早上八点的平介，一走近四畳大小的和室，便打开了
电视。

本章では、連体節の節長(節の長さ)と被修飾語の連体節動詞に対する格関係等の面から、「非分訳法」で訳せる日本語の連体節の特徴について検討を試みる。

5.2 日本語における連体節の節長と非分訳法の適用条件について

ここではまず、日本語における連体節の節長と非分訳法の適用条件との関係を論じた先行研究をまとめて(6)～(9)に示す。

(6) 不长的连体语，一般仍译为定语结构。连体语虽长，但各项的排列顺序和汉语相仿，为维持原文修饰色彩，仍可译为紧张型定语。(長くない日本語の連体節は、一般的に、中国語の連体節に訳す。日本語の連体節は長くても、日本語文の風格を残すため、連体修飾関係を変えず、そのまま中国語に訳す。(筆者訳))

(周 1984 : 129)

(7) 長い連体修飾語をそのまま訳して中国語でも長い連体修飾語とする。(中略)長い連体修飾語は中国語になじまないが、原文の風格を保つとか表現上の必要から、こういうふう処理することもある。

(遠藤紹徳 1990 : 65)

(8) 就短的定语来说，日语语序与汉语语序没有什么不同，都可以放在被修饰的体言(名词)前面，翻译时也可以不变词序直接照译。(短い連体節を訳す場合、その修飾関係を変えず、そのまま中国語に訳す。(筆者訳))

(孔 2004 : 86)

(9) 为了保持原文风格，或者为了汉语行文需要，(较长的定语) 有时不需改变定语与其被修饰语的语序，可以基本按照原文的语序直接译下去(時には、日本語文の風格を残すため、連体修飾関係を変えず、そのまま中国語に訳す。(筆者訳))

(孔 2004 : 133)

(6)～(9)の先行研究はいずれも共通性する見方を示している。それは日本語の連体節の節長が非分訳法の選択可否と関係があるということである。すなわち、節長は短いならば、非分訳法を適用しやすく、節長が長いならば、非分訳法を適用しにくいということである。

しかし、短い節と長い節の境目が何語程度であるのかという点については先行研究ではまだ明らかにされていない。本節では、その境目が何語程度であるのかという点について調査を試みる。

5.2.1 コーパス構成

本節では「日本語原文」、「中国語原文」、「日本語原文（小説）」とそれを中国語に訳した「中国語訳文（小説）」という4種類のコーパスデータを扱う。これらのうち、「日本語原文」と「中国語原文」はペアで、「比較コーパス」を構成している。また、「日本語原文（小説）」と「中国語訳文（小説）」はペアで、「パラレルコーパス」を構成している。それぞれのデータの詳細は以下の通りである。

まず、「日本語原文」については、「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ-NT)」⁸²における全国紙、白書・法律、社会科学・自然科学（書籍）、小説（書籍）という4つのジャンルから抽出された約7万字のデータからなる「日本語原文」サブコーパスである。各ジャンルの割合はそれぞれ25%である。

次に、「中国語原文」については、「北京大学中国語学研究中心(CCL)コーパス」⁸³における全国紙、白書・法律、社会科学・自然科学（書籍）、小説（書籍）という4つのジャンルから抽出された約7万字のデータからなる「中国語原文」サブコーパスである。各ジャンルの割合はそれぞれ25%である。

また、小説『ナミヤ雑貨店の奇跡』と『半落ち』から、それぞれ2.5万字強、合計5万字強の言語データを抽出し、「日本語原文（小説）」サブコーパスを構成した。なお、「日本語原文（小説）」と「日本語原文」に含まれるデータには重複がない。

同様に、小説《解忧杂货店》（『ナミヤ雑貨店の奇跡』中国語訳版）と《半落》（『半落ち』中国語訳版）から、「日本語原文（小説）」サブコーパスの内容と対応している部分を抽出し、「中国語訳文（小説）」サブコーパスを構成した。

コーパスのテキスト、「連体節+被修飾語」構文の数についての詳細は表1、表2に示す通りである。

⁸² 現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ-NT) : <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

⁸³ 北京大学中国語学研究中心(CCL)コーパス : http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index

表1 パラレルコーパスの構成

| | 日本語原文 | 中国語訳文 |
|---------------------|-------|-------|
| テキスト数 | 5 | 5 |
| 連体節の数 ⁸⁴ | 499 | 152 |

表2 比較コーパスの構成

| | 日本語原文 | 中国語原文 |
|-------|-------|-------|
| テキスト数 | 80 | 80 |
| 連体節の数 | 1006 | 769 |

5.2.2 日中連体節の節長の傾向と非分訳法の適用条件

本節では、非分訳法の適用条件と日本語における連体節の節長との関係について、調査を試みる。

語数（形態素の数）の判定には中国語では北京師範大学中国語情報処理研究所で開発された“语料库在线”⁸⁵（「コーパスオンライン」）を利用し、日本語では奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科松本研究室で開発された「ChaSen(茶筌)⁸⁶」を利用し、それぞれ形態素解析を行なった。更に、機械による解析の精度は100%ではないため、手作業によって分ち書きと形態素の誤りに対する修正を施した。表3に、日本語原文と中国語原文の連体節の数、連体節の平均語数、標準偏差を示す。

⁸⁴ 日本語「連体節＋被修飾語」構文を中国語「連体修飾部分＋被修飾語」に分訳せずに訳す(非分訳法)と、訳文の連体修飾部分が厳密には節として認められない場合もあるが、「中国語訳文」での連体節数を計算する場合には、このようなタイプの連体修飾も含まれていることを注記する。

⁸⁵ 詳しくは <<http://www.aihanyu.org/encorpus/index.aspx>> を参照されたい。

⁸⁶ 詳しくは <<http://chasen.naist.jp/hiki/ChaSen/>> を参照されたい。

表3 日本語原文と中国語原文の連体節総数、平均語数、標準偏差表

| | 日本語原文 | 中国語原文 |
|----------|-------|-------|
| 連体節の数 | 1006 | 769 |
| 連体節の平均語数 | 9.91 | 6.71 |
| 標準偏差 | 7.33 | 4.33 |

表3から、中国語文は日本語文より、連体節の平均語数が短く、長さのばらつきも小さいことがわかる。連体節の節長について、中国語文は日本語文より短く、また中国語文における連体節の語数は平均語数の付近に集中しているという傾向が見られる。

「日本語原文（小説）」と「中国語訳文（小説）」から抽出された499例の「連体節＋被修飾語」構文のうち、非分訳法で中国語の「連体修飾＋被修飾語」構文に訳されているものは153例（30.66%）である。日本語原文の平均語数（10語）を境目にして、連体節の数と非分訳法で訳されている連体節の数をそれぞれ集計すると表4の通りである。

表4 連体節の数と非分訳法で訳された連体節の数

| | 日本語連体節の語数が平均語数未満 | 日本語連体節の語数が平均語数以上 |
|----------------|------------------|------------------|
| 連体節の数 | 438 | 61 |
| 非分訳法で訳された連体節の数 | 147(33.56%) | 6(9.84%) |

表3、表4のデータを分析した結果、(10)、(11)の2点が明らかになった。

(10) 節長が平均語数以下の「連体節＋被修飾語」構文が非分訳法で訳されていた割合は33.56%であり、平均語数以上の非分訳法で訳されていた「連体節＋被修飾語」構文の割合(9.84%)より高い。これは非分訳法を適用する日本語連体節が「語数」の制限、すなわち、「節長」の制限を受けることを示していると考えられる。

(11) 66.44% (1-33.56%)の「短い(平均語数以下)」「連体節＋被修飾語」構文は非分訳法では訳されなかった。また、9.84%の「長い(平均語数以上)」「連体節＋被修飾語」構文は非分訳法によって訳されていた。したがって、「節長」は非分訳法によって中国語に訳せるか否かに関わってはいるが、これだけが決定的な要素ではないと言える。

5.3 被修飾語の連体節動詞に対する意味役割と非分訳法の適用条件

5.3.1 連体節の形成の可能性に関する格の順位について

日本語の連体節は、被修飾語との関係により、内の関係連体節と外関係の連体節の2種類に大きく分けられる。そのうち、内の関係連体節の成立は被修飾語と連体節動詞との格関係に関わりがある。

Keenan & Comrie(1972)は、世界の諸言語を考察し、名詞句の関係節(本論文で「内の関係連体節」と称する)形成の可能性は「主格>直接目的格⁸⁷>間接目的格⁸⁸>前置詞の目的格>所有格>比較格⁸⁹」という格の順位(Noun Phrase Accessibility)に従うと指摘した。ある言語において、格の順位の低位の名詞句は連体節が形成できれば、上位のすべての名詞句も連体節が形成できるという。

井上(1976)はKeenan & Comrie(1972)の論じた格順位に基づき、日本語における内の関係連体節の形成を制限する格の順位を提出し、日本語においては理由格まで内の関係連体節が成立できると述べた。

(12) 主格>直接目的格>間接目的格>位置格「に」>位置格「を」>目標格「に」または「へ」
>位置格「で」>助格「で」>基準格「で」>奪格>所有格>起点格>随格>理由格>比較格
(井上 1976 : 188)

(13a) 莫大な奨学金を寄付した佐藤氏【主格】

(13b) 佐藤氏が莫大な奨学金を寄付した。

(井上 1976 : 175)

(14a) ジュンが打電したニュース【対象格】

(14b) ジュンがニュースを打電した。

(井上 1976 : 169)

⁸⁷ 本論文で、「対象格」と称する。

⁸⁸ 本論文で、「与格」と称する。

⁸⁹ この格の順位の日本語訳は井上(1976)によるもの。

(15a) 彼が援助を求めた人々【与格】

(15b) 彼が人々に援助を求めた。

(井上 1976 : 169)

(16a) お寺がたくさんある町【位置格「に」】

(16b) 町にお寺がたくさんある。

(井上 1976 : 169)

(17a) 私が出た大学【位置格「を」】

(17b) 私はその大学を出た。

(齋藤 2002 : 56)

(18a) ジョンが車でかけつけた駅【目標格】

(18b) ジョンが車で駅へかけつけた。

(井上 1976 : 171)

(19a) ジョンが学生時代を過ごした町【位置格「で」】

(19b) ジョンが(ある)町で学生時代を過ごした。

(井上 1976 : 170)

(20a) ジョンが庭を掃いた帚【助格「で」】

(20b) ジョンが帚で庭を掃いた。

(井上 1976 : 170)

(21a) 可否を判断した基準【基準格「で」】

(21b) その基準で可否を判断した。

(齋藤 2002 : 56)

(22a) ジョンが金を盗んだ銀行【奪格】

(22b) ジョンが銀行から金を盗んだ。

(井上 1976 : 171)

(23a) 奥さんが事故にあった人【所有格】

(23b) その人の奥さんが事故にあった。

(齋藤 2002 : 56)

(24a) ジョンがそこからヨーロッパへ旅立った空港【起点格】

(24b) ジョンが(ある) 空港ヨーロッパへ旅立ったから。

(井上 1976 : 173)

(25a) ジュンが結婚したメアリー 【随格】

(25b) ジョンがメアリーと結婚した。

(井上 1976 : 171)

(26a) ジュンが申しこみを取り消した理由 【理由格】

(26b) ジョンが(ある)理由で申しこみを取り消した。

(井上 1976 : 171)

(27a) ? この野菜がカロリーが高い果物 【比較格】

(27b) この野菜は果物よりカロリーが高い。

(井上 1976 : 189)

一方、中国語の内の関係連体節の成立条件は日本語のより制限が厳しい。Keenan & Comrie (1972) の提出した内の関係連体節を成立できる格の順位について、中国語の内の関係連体節は「所有格」が成立しにくいとの指摘がある(孫 2009、楊 2011、下地 2014)。つまり、所有格の前にある格関係はすべて内の関係連体節が成立し得るということである。すなわち、日本語における被修飾語が内の関係連体節との間に持つ格関係が、その順位に照らして所有格の前にあるならば、非分訳法で中国語に訳せると推論できる。しかし、実際にはその推論は成立しない。

(28a) 莫大な奨学金を寄付した佐藤氏 【主格】

(再掲(13a))

(28b) 佐藤捐贈了巨额的奖学金

(29a) ジュンが打電したニュース 【対象格】

(再掲(14a))

(29b) 约翰打电报发送的新闻

(30a) 彼が援助を求めた人々 【与格】

(再掲(15a))

(30b) ? 他寻求帮助的人们

- (31a) お寺がたくさんある町【位置格「に」】
(再掲(16a))
- (31b) 有很多寺庙的小镇
- (32a) 私が出た大学【位置格「を」】
(再掲(17a))
- (32b) 我毕业的大学
- (33a) ジョンが車でかけつけた駅【目標格】
(再掲(18a))
- (33b) 约翰开车赶往的车站
- (34a) ジョンが学生時代を過ごした町【位置格「で」】
(再掲(19a))
- (34b) 约翰度过学生时代的小镇
- (35a) ジョンが庭を掃いた帚【助格「で」】
(再掲(20a))
- (35b) 约翰清扫庭院的扫帚
- (36a) 可否を判断した基準【基準格「で」】
(再掲(21a))
- (36b) 判断好坏的标准
- (37a) ジョンが金を盗んだ銀行【奪格】
(再掲(22a))
- (37b) 约翰盗窃货币的银行

(38a) 奥さんが事故にあった人【所有格】

(再掲(23a))

(38b) ?妻子遭遇事故的人

(39a) ジュンがそこからヨーロッパへ旅立った空港【起点格】

(再掲(24a))

(39b) ?约翰从那里出发去欧洲旅行的机场

(40a) ジュンが結婚したメアリー【随格】

(再掲(25a))

(40b) ?约翰结婚的玛丽

(41a) ジュンが申しこみを取り消した理由【理由格】

(再掲(26a))

(41b) 约翰取消申请的理由

(28a/b)～(41a/b)は、井上(1976)が提出した日本語における内の関係連体節が成立し得る格の順位による日本語文、と非分訳法で訳せられた訳文である。(28a)～(37a)における格順位は、所有格の前にあり、非分訳法で中国語に訳せるはずだが、「与格」関係の訳文(15c)は自然な中国語文と認められない。また、(38a)～(41a)における格順位は、所有格の後にあり、非分訳法では中国語に訳せないはずだが、「理由格」関係の訳文(41b)は自然な中国語文と認められる。

これらの観察に基づき、(42)の結論が得られる。

(42) 日本語の内の関係連体節について、非分訳法で中国語に訳せるか否かは、被修飾語と連体節の格関係に関わりがある。その格関係が「主格」、「対象格」、「位置格」、「目標格」、「助格」、「基準格」、「理由格」である日本語の内の関係連体節は、非分訳法で中国語に訳せる。

つまり、格関係が「主格」、「対象格」、「位置格」、「目標格」、「助格」、「基準格」、「理由格」である短い日本語の内の関係連体節は、以下の翻訳パターンで中国語に訳せる。

(43) パターン I :

連体節＋被修飾語（日本語）

⇒連体節＋被修飾語（中国語）

パターン I で訳せる中国語の訳文は、被修飾語と連体節の格関係が日本語の原文と同じであり、原文の連体節の持っていない被修飾語の代用名詞句を加えることもなく、日本語における「連体節＋被修飾語」構文をそのまま中国語における「連体節＋被修飾語」構文に訳すパターンである。

格関係が「与格」と「随格」である短い日本語の内の関係連体節はパターン I では訳せないが、非分訳法で中国語に訳せるという点には変わりがない。詳細は 5.3.2.1 節と 5.3.2.2 節において述べることとする。

また、格関係が「起点格」と「所有格」である短い日本語の内の関係連体節は、「非分訳法」で訳せず、「分訳法」で訳されなければならない。その翻訳パターンと各パターンの適用条件は第 3 章に述べた通りである。

5.3.2 短い内の関係連体節構文の翻訳パターンについて

5.3.1 節では、被修飾語の連体節との格関係が「主格」、「対象格」、「位置格」、「目標格」、「助格」、「基準格」、「理由格」である短い日本語の内の関係連体節がパターン I で訳せると述べた。5.3.2 節では被修飾語の連体節との格関係が「与格」、「随格」、「起点格」、「所有格」である短い日本語の内の関係連体節が適用できる翻訳パターンについて検討を試みる。

5.3.2.1 与格関係の内の関係連体節構文について

前節では、被修飾語の連体節との格関係が「与格」である短い日本語の連体節構文はパターン I では中国語に訳せないと述べた。本節では、その訳せない原因および適用できる翻訳パターンについて、検討する。

結合価の観点から見れば、与格の項を取る動詞は、三価動詞と呼ばれる。Lucien Tesnière (1966) では一つあるいは複数の従属部を支配する支配部が結節(nœud)と呼ばれる。行為項(actant)は動詞結節が表す過程に関与する物事である。動詞が支配できる行為項の数がその動詞の結合価(valence)と呼ばれる。Lucien Tesnière (1966) では行為項の構文的な意味について、以下のように述べた。

行為項は序数で区別し、第 1 行為項(prime actant)、第 2 行為項(second actant)、第 3 行為項(tiers actant)と表す。

意味的な観点から言えば、第 1 行為項は行為を行う (fait l' action) ものである… (中略) 伝統文法では主語という名で知られる。

第 2 行為項は行為を受ける (supporte l' action) ものである… (中略) 伝統文法では直接補語という名で知られる。

第 3 行為項は行為かなされる時の利益 (benefice) にあずかるものである… (中略) 伝統文法では間接補語という名で知られる。

(Lucien Tesnière 著、小泉監訳 2007:109-111)

本論文では、第 1 行為項を主格の項、第 2 行為項を対格の項、第 3 行為項を与格の項と呼ぶ。主格の項、対格の項、与格の項を 3 つ取れる動詞は、三価動詞である。三価動詞は、基本的には伝達動詞と授受動詞である (Lucien Tesnière 著、小泉監訳 2007:290)。つまり、三価動詞が支配する 3 つの行為項の間に、「送り手→情報・物→受け手」という関係がある。このうち、主格の項は送り手に、対格の項は情報・物に、与格の項は受け手に対応する。

(44a) 私が中国語を教えた学生

【私が(ある)学生に中国語を教えた】

(44b)「送り手」が「情報・物」を教えた「受け手」

(44c) ? 我教中文的学生

(44d) 「送り手」教(V)「情報・物」的「受け手」

(45a) 李さんがバラを贈った女性

【李さんが(ある)女性にバラを贈った】

(45b)「送り手」が「情報・物」を贈った「受け手」

(45c) ? 小李送玫瑰花的姑娘

(45d) 「送り手」送(V)「情報・物」的「受け手」

(44a)と(45a)に示したように、日本語において、被修飾語を連体節動詞の持つ与格の項に補う場合、連体節には、代用名詞句等の被修飾語と連体節動詞の関係を表す成分がない。これを非分訳法で中国語に訳しても当然ながら訳文には、その関係を明示する成分はない。訳文が不自然になる原因はその点にある。

袁(2010)は、伝達動詞と授受動詞である三価動詞について、(46)の14種類の中国語文型を提案した。

(46) 主格の項-A ; 与格の項-D ; 対格の項-O ; 動詞-V

文型1 : A+V+ (“给”) D+O

文型2 : A+ “向” D+V+O

文型3 : A+ “有” O+V+D

文型4 : A+ “为了” O+V+D

文型5 : A+ “把” O+V+ (“给”) D

文型6 : A+V+O+ “给” D

文型7 : A+ “给” D+V+O

文型8 : A+ “从” D+V+O

文型9 : D+ “被” A+V “了” +O

文型10 : D+V+O

文型 11 : D + “由” A + V + O

文型 12 : O + A + V + (“给”) D

文型 13 : O + “被” A + V + (“给”) D

文型 14 : O + “由” A + V + (“给”) D

更に、動詞 (V) と与格の項 (D)、対格の項 (O) の位置関係により、この 16 の文型を 2 種類に分けた。

(47) ア. 動詞が与格の前に置かれる。(文型 1、3、4、5、12、13、14)

イ. 動詞が対格の前に置かれる。(文型 2、6、7、8、9、10、11)

少数の特殊動詞を除き⁹⁰、動詞が対格の前に置かれる場合には主格あるいは与格の前に必ず“被、给、从、向、由”など動作の方向性を示す前置詞が付いている。被修飾語给与格の項に補うと、連体節動詞は必ず対格の前に置かれる。したがって、被修飾語给与格の項に補う中国語の連体節では、主格あるいは与格の前に“被、给、从、向、由”など動作の方向性を示す前置詞を付ける必要がある。

(48a) 江老师送了大林一本词典

【逐語訳：江先生は大林に辞書を贈った。】

(48b) ? 江老师送了一本词典的大林

【逐語訳：江先生が辞書を贈った大林】

(48c) 送り手 + “送(V)” + 情報・物 + “的” + 受け手

(48d) 江老师送给他一本词典的大林

【逐語訳：? 江先生が辞書を彼に贈った大林】

(48e) 送り手 + “送(V)” + “给 代用名詞句 + 情報・物 + “的” + 受け手

(48b) では、被修飾語の“大林”(「大林」)は連体節動詞の“送了”(「贈った」)の与格の項を補っている。連体節には連体節動詞と被修飾語の与格関係を提示するものがない

⁹⁰ これに該当するのは“奖励”“分配”“分(分给)”“发(分发、发放)”である。

から、不自然な文と認められる。一方、(48d)では、(48b)と比較して、連体節に、「“給” +代用名詞句」という与格関係を提示するものが付加されている。

被修飾語と連体節動詞が与格関係を持つ中国語の連体節には、その与格関係を明示するものが必要であることから、与格関係の日本語の連体節を中国語に訳す際には代用名詞句でその与格関係を表すようにしなければならない。

(49a) 私が中国語を教えた学生

(再掲(44a))

(49b) 「送り手」が「情報・物」を教えた「受け手」

(49e) 我教他中文的学生

【逐語訳：？私が彼に中国語を教えた学生】

(49f) 「送り手」教（V） +代用名詞句“他”「情報・物」的「受け手」

(50a) 李さんがバラを贈った女性

(再掲(45a))

(50b) 「送り手」が「情報・物」を贈った「受け手」

(50e) 小李送她玫瑰花的姑娘

【逐語訳：？李さんが彼女にバラを贈った女性】

(50f) 「送り手」送（V） +代用名詞句“她”「情報・物」的「受け手」

(49a)の連体節には、被修飾語と連体節動詞の与格関係を提示するものがないため、この関係を変えずに中国語の連体節構文に訳すならば、連体節に与格関係を明示する被修飾語の代用名詞句を加える必要がある。

つまり、格関係が「与格」である日本語の内の関係連体節は、以下の翻訳パターンで中国語に訳せる。

(51) パターンⅡ:

連体節＋被修飾語（日本語）

⇓

(主格＋対象格＋述語動詞)

⇒連体節＋被修飾語（中国語）

⇓

(主格＋述語動詞＋被修飾語の代用名詞句＋対象格)

パターンⅡで訳せる中国語の訳文は、被修飾語と連体節の格関係が日本語の原文と同じであり、原文の連体節の持っていない被修飾語の代用名詞句を加える必要があるということである。

5.3.2.2 随格関係の内の関係連体節構文について

中国語では格順位において、所有格およびそれよりも後ろにある格関係は内の関係連体節が成立しにくいことが知られる（孫 2009、楊 2011、下地 2014）。本節では、井上(1976)が提出した日本語における格順位の枠の中では、「所有格」よりも後ろにある「随格」の短い内の関係連体節の翻訳パターンについて、検討する。

(52a) 私が結婚した伊東昌輝は、半年前に新鷹会へ入っていて、この時も同席していたらしい。

（『極楽とんぼの飛んだ道』⁹¹）

(52b) 私が結婚した伊東昌輝 ⇒ 私が伊東昌輝と結婚した。

(52a)における連体節は、「私が結婚した」であり、語数が5で平均語数以下であるから、短い連体節と認められる。また、(52b)に示したように、連体節と被修飾語「伊東昌輝」の格関係は「随格」である。

⁹¹ 用例は『NINJAL-LWP for BCCWJ コーパス』による。http://nlb.ninjal.ac.jp/

(52c) ? 我结婚的伊东昌辉, 在半年前加入了新鷹会, 当时好像也在现场。(パターンⅠ)

(52d) ? 我和他结婚的伊东昌辉, 在半年前加入了新鷹会, 当时好像也在现场。(パターンⅡ)

【逐語訳: ? 私が彼と結婚した伊東昌輝は、半年前に新鷹会へ入っていて、この時も同席していたらしい。】

(52e) 与我结婚的伊东昌辉, 在半年前加入了新鷹会, 当时好像也在现场。

【逐語訳: 私と結婚した伊東昌輝は、半年前に新鷹会へ入っていて、この時も同席していたらしい。】

(52c)、(52d)、(52e) の3つとも「連体節+被修飾語」構文ではあるが、同じものとは言えない。(52c)はパターンⅠで訳されたものである。この訳文においては、被修飾語と連体節の格関係は日本語の原文と同じであるが、原文の連体節の持っていない被修飾語の代用名詞句は加えていない。(52d)はパターンⅡで訳されたものである。この訳文においては、被修飾語と連体節の格関係は日本語の原文と同じであるが、原文の連体節の持っていない被修飾語の代用名詞句を加えたものである。(52e)は、「連体節+被修飾語」構文ではあるが、被修飾語と連体節との格関係は原文の格関係と異なっており、「随格」から「主格」に変更してある。

(52e)に示したように、被修飾語の連体節との格関係を「随格」から「主格」に変更すると、「連体節+被修飾語」構文の形で中国語に訳せる。つまり、格関係が「随格」である短い日本語の内の関係連体節は、以下の翻訳パターンで中国語に訳せる。

(53) パターンⅢ:

連体節+被修飾語 (日本語)

⇓

(主格+述語動詞)

⇒ 連体節+被修飾語 (中国語)

⇓

(“和・与「と」”+主格+述語動詞)

パターンⅢで訳せる中国語の訳文は、被修飾語と連体節との格関係を原文の格関係と異なり、「随格」から「主格」に変更する。

第6章 日本語連体修飾節の翻訳アプローチの検証 ——内の関係連体節と命題補充型連体節について——

6.0 本章概要

本章では、日本語の内の関係連体節と命題補充型連体節(外の関係)を対象に、直訳法(非分訳法と分訳法)で中国語に訳す場合の翻訳パターンと各パターンの適用条件についてまとめる。6.1 では、翻訳パターンと各パターンの適用条件をまとめ、フローチャートの形で、日本語の内の関係連体節と命題補充型連体節(外の関係)を直訳法(非分訳法と分訳法)で中国語に訳すアプローチを提案する。6.2 では、前節で提出される翻訳アプローチを検証する。

6.1 日本語連体修飾節の翻訳アプローチ

第3章、第4章では、分訳法という枠組みの中で、「内の関係連体節」と「命題補充型連体節」を中国語に訳す翻訳アプローチを提案した。本章では、「非分訳法」も含め、この2つのタイプの連体節の翻訳アプローチを提案し、その妥当性を検証する。

第3章では、日本語の内の関係連体節を中国語に訳すパターンを(1)～(3)の3種類に分けた(以下、「内の関係」パターンⅠ、「内の関係」パターンⅡ、「内の関係」パターンⅢと称する)。

(1) パターンⅠ:

{内の関係連体節+被修飾語}&主節動詞(日本語)

⇒主節動詞&被修飾語/内の関係連体節動詞(&被修飾語)(中国語)

(2) パターンⅡ:

{内の関係連体節+被修飾語}&主節動詞(日本語)

⇒内の関係連体節動詞&被修飾語/主節動詞(&被修飾語)(中国語)

(3) パターンⅢ:

{内の関係連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒主節動詞&被修飾語&連体節動詞 (中国語)

第4章では、日本語の命題補充型連体節を中国語に訳すパターンを(4)～(6)の3種類に分けた(以下、「命題補充」パターンⅠ、「命題補充」パターンⅡ、「命題補充」パターンⅢと称する)。

(4) パターンⅠ:

{命題補充型連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒命題補充型連体節の表すことがら&主節動詞 (中国語)

(5) パターンⅡ:

{命題補充型連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒主節動詞&{命題補充型連体節の表すことがら&被修飾語(非名詞)} (中国語)

(6) パターンⅢ:

{命題補充型連体節+被修飾語} & 主節動詞 (日本語)

⇒被修飾語&主節/命題補充型連体節の表すことがら

あるいは、命題補充型連体節の表すことがら/被修飾語&主節 (中国語)

第5章では、日本語の連体節を非分訳法で中国語に訳す場合の翻訳パターンを(7)～(9)の3種類に分けた(以下、「非分訳」パターンⅠ、「非分訳」パターンⅡ、「非分訳」パターンⅢと称する)。

(7) パターンⅠ:

連体節+被修飾語 (日本語)

⇒連体節+被修飾語 (中国語)

(8) パターンⅡ:

連体節＋被修飾語（日本語）

⇓

（主格＋対象格＋述語動詞）

⇒連体節＋被修飾語（中国語）

⇓

（主格＋述語動詞＋被修飾語の代用名詞句＋対象格）

(9) パターンⅢ:

連体節＋被修飾語（日本語）

⇓

（主格＋述語動詞）

⇒連体節＋被修飾語（中国語）

⇓

（“和「と」”＋主格＋述語動詞）

第3章、第4章で述べた分訳法に属している各翻訳パターンの適用条件、および第5章で分析した非分訳法に属している各翻訳パターンの適用条件をまとめると、(10)～(33)のような翻訳規則が得られる。

(10) 連体節が、短い内の関係連体節⁹²であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「位置格」、「目標格」、「助格」、「基準格」、「理由格」のいずれかである場合、「非分訳」パターンⅠで訳す。

(11) 連体節が、短い内の関係連体節であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「与格」である場合、「非分訳」パターンⅡで訳す。

(12) 連体節が、短い内の関係連体節であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「随格」である場合、「非分訳」パターンⅢで訳す。

⁹² 本論文では、語数が平均語数未満の内の関係連体節のことを指す。

- (13) 連体節が短い内の関係連体節であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「主格」である場合、連体節動詞に対する被修飾語の意味役割が<動作主・経験者>であり、主節動詞に対する被修飾語の意味役割が<対象>であり、日本語文における主節動詞の対訳語が「兼語文」構文あるいは「主述フレーズ⇒目的語」構文の主動詞(動詞 1)の要求を満たすならば、「内の関係」パターンⅢで訳す。
- (14) 連体節が短い内の関係連体節であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「対象格」である場合、連体節動詞に対する被修飾語の意味役割が<対象>であり、主節動詞に対する被修飾語の意味役割が<動作主・経験者>であり、日本語文における連体節動詞の対訳語が「兼語文」構文あるいは「主述フレーズ⇒目的語」構文の主動詞(動詞 1)の要求を満たすならば、「内の関係」パターンⅢで訳す。
- (15) 連体節が、短い内の関係連体節であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「所有格」、「起点格」のいずれかであり、かつ連体節が「眼前描写」の機能を果たし、主節が連体節に時間的に先行する事態を表す場合、「内の関係」パターンⅠで訳す。
- (16) 連体節が、短い内の関係連体節であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「所有格」、「起点格」のいずれかであり、かつ連体節が「非眼前描写」の機能を果たし、被修飾語の主節動詞に対する従属度合が連体節動詞に対するものよりレベルが強い場合、「内の関係」パターンⅠで訳す。
- (17) 連体節が、短い内の関係連体節であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「所有格」、「起点格」のいずれかであり、かつ連体節が「眼前描写」の機能を果たし、連体節が主節に時間的に先行する事態を表す場合、「内の関係」パターンⅡで訳す。
- (18) 連体節が、短い内の関係連体節であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「所有格」、「起点格」のいずれかであり、かつ連体節が「非眼前描写」の機能を果たし、被修飾語の主節動詞に対する従属度合が連体節動詞に対するものよりレベルが強くない場合、「内の関係」パターンⅡで訳す。
- (19) 連体節が、短い内の関係連体節であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「所有格」、「起点格」のいずれかであり、かつ連体節が「眼前描写」の機能を果たし、主節と連体節の事態が同時に生起し、被修飾語の主節動詞に対する従属度合は連体節動詞に対するものよりレベルが強い場合、「内の関係」パターンⅠで訳す。
- (20) 連体節が、短い内の関係連体節であり、被修飾語と連体節動詞の格関係が「所有格」、「起点格」のいずれかであり、かつ連体節が「眼前描写」の機能を果たし、主節と連

体節の事態が同時に生起し、被修飾語の主節動詞に対する従属度合は連体節動詞に対するものよりレベルが強くない場合、「内の関係」パターンⅡで訳す。

- (21) 連体節が短い命題補充型連体節⁹³であり、被修飾語が「非新情報保有タイプ」である場合、「命題補充」パターンⅠで訳す。
- (22) 連体節が短い命題補充型連体節であり、被修飾語が「新情報保有タイプ」であるにも拘らず、被修飾語の連体節に対する付加情報が連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重なるならば、「命題補充」パターンⅠで訳す。
- (23) 連体節が短い命題補充型連体節であり、被修飾語が「新情報保有タイプ」であるにも拘らず、被修飾語の連体節に対する付加情報が主節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重なるならば、「命題補充」パターンⅠで訳す。
- (24) 連体節が短い命題補充型連体節であり、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、被修飾語の連体節に対する付加情報が主節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重っていない場合、その被修飾語(日本語文)が非名詞類の対訳語(中国語文)のみを持っているならば、「命題補充」パターンⅡで訳す。
- (25) 連体節が短い命題補充型連体節であり、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、被修飾語の連体節に対する付加情報が主節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重っていない場合、その被修飾語(日本語文)が名詞類の対訳語(中国語文)のみを持っているならば、「非分訳」パターンⅠで訳す。
- (26) 連体節が短い命題補充型連体節であり、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、被修飾語の連体節に対する付加情報が主節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重っていない場合、その被修飾語(日本語文)が非名詞類と名詞類の対訳語(中国語文)両方とも持っているならば、「命題補充」パターンⅡと「命題補充」パターンⅢのいずれも適用する。
- (27) 連体節が、長い内の関係連体節⁹⁴であり、「眼前描写」の機能を果たし、主節が連体節に時間的に先行する事態を表す場合、主節動詞あるいは連体節動詞が兼語文構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たさないならば、「内の関係」パターンⅠで訳す。

⁹³ 本論文では、語数が平均語数未満の命題補充型連体節のことを指す。

⁹⁴ 本論文では、語数が平均語数以上の内の関係連体節のことを指す。

- (28) 連体節が、長い内の関係連体節であり、「眼前描写」の機能を果たし、主節と連体節の事態が同時に生起し、被修飾語の主節動詞に対する従属度合は連体節動詞に対するものよりレベルが強い場合、主節動詞あるいは連体節動詞が兼語文構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たさないならば、「内の関係」パターンⅠで訳す。
- (29) 連体節が、長い内の関係連体節であり、「非眼前描写」の機能を果たし、被修飾語の主節動詞に対する従属度合は連体節動詞に対するものよりレベルが強い場合、主節動詞あるいは連体節動詞が兼語文構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たさないならば、「内の関係」パターンⅠで訳す。
- (30) 連体節が、長い内の関係連体節であり、「眼前描写」の機能を果たし、主節に時間的に先行する事態を表している場合、主節動詞あるいは連体節動詞が兼語文構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たさないならば、「内の関係」パターンⅡで訳す。
- (31) 連体節が、長い内の関係連体節であり、「眼前描写」の機能を果たし、主節の事態と同時に生起し、被修飾語の連体節動詞に対する従属度合は主節動詞に対するものよりレベルが強い場合、主節動詞あるいは連体節動詞が兼語文構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たさないならば、「内の関係」パターンⅡで訳す。
- (32) 連体節が、長い内の関係連体節であり、「眼前描写」の機能を果たし、主節の事態と同時に生起し、被修飾語の連体節動詞に対する従属度合は主節動詞に対するものとレベルが同じである場合、主節動詞あるいは連体節動詞が兼語文構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たさないならば、「内の関係」パターンⅡで訳す。
- (33) 連体節が、長い内の関係連体節であり、「非眼前描写」の機能を果たし、被修飾語の連体節動詞に対する従属度合は主節動詞に対するものよりレベルが強い場合、主節動詞あるいは連体節動詞が兼語文構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たさないならば、「内の関係」パターンⅡで訳す。
- (34) 連体節が、長い内の関係連体節であり、「非眼前描写」の機能を果たし、被修飾語の連体節動詞に対する従属度合は主節動詞に対するものとレベルが同じである場合、主節動詞あるいは連体節動詞が兼語文構文・「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たさないならば、「内の関係」パターンⅡで訳す。

- (35) 連体節が、長い内の関係連体節であり、連体節動詞に対する被修飾語の意味役割が<動作主・経験者>であり、主節動詞に対する被修飾語の意味役割が<対象>である場合、主節動詞が兼語文構文(あるいは「主述フレーズ⇒目的語」構文)における主動詞の条件を満たすならば、「内の関係」パターンⅢで訳す。
- (36) 連体節が、長い内の関係連体節であり、連体節動詞に対する被修飾語の意味役割が<対象>であり、主節動詞に対する被修飾語の意味役割が<動作主・経験者>である場合、連体節動詞が兼語文構文(あるいは「主述フレーズ⇒目的語」構文)における主動詞の条件を満たすならば、「内の関係」パターンⅢで訳す。
- (37) 連体節が長い命題補充型連体節⁹⁵であり、被修飾語が「非新情報保有タイプ」である場合、「命題補充」パターンⅠで訳す。
- (38) 連体節が長い命題補充型連体節であり、被修飾語が「新情報保有タイプ」であるにも拘らず、被修飾語の連体節に対する付加情報が連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重なるならば、「命題補充」パターンⅠで訳す。
- (39) 連体節が長い命題補充型連体節であり、被修飾語が「新情報保有タイプ」であるにも拘らず、被修飾語の連体節に対する付加情報が主節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重なるならば、「命題補充」パターンⅠで訳す。
- (40) 連体節が長い命題補充型連体節であり、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、被修飾語の連体節に対する付加情報が主節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重っていない場合、その被修飾語(日本語文)が非名詞類の対訳語(中国語文)のみを持っているならば、「命題補充」パターンⅡで訳す。
- (41) 連体節が長い命題補充型連体節であり、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、被修飾語の連体節に対する付加情報が主節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重っていない場合、その被修飾語(日本語文)が名詞類の対訳語(中国語文)のみを持っているならば、「命題補充」パターンⅢで訳す。
- (42) 連体節が長い命題補充型連体節であり、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、被修飾語の連体節に対する付加情報が主節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報と重っていない場合、その被修飾語(日本語文)が非名詞類と名詞類の対訳語(中国語文)両方とも持っているならば、「命題補充」パターンⅡと「命題補充」パターンⅢのい

⁹⁵ 本論文では、語数が平均語数以上の命題補充型連体節のことを指す。

ずれも適用する。

(10)～(42)の翻訳規則に基づき、フローチャートの形で、以下の日本語の連体節構文(内の関係連体節と命題補充型連体節)に関する日中翻訳のアプローチを提案する。

翻訳アプローチにおける割合は『コンビニ人間』(全書)、『翼のある闇』(1～4章)から抽出した358例の日本語の連体節構文(内の関係連体節:261例、命題補充型連体節:97例)を、翻訳アプローチの各条件に従って得たものである。

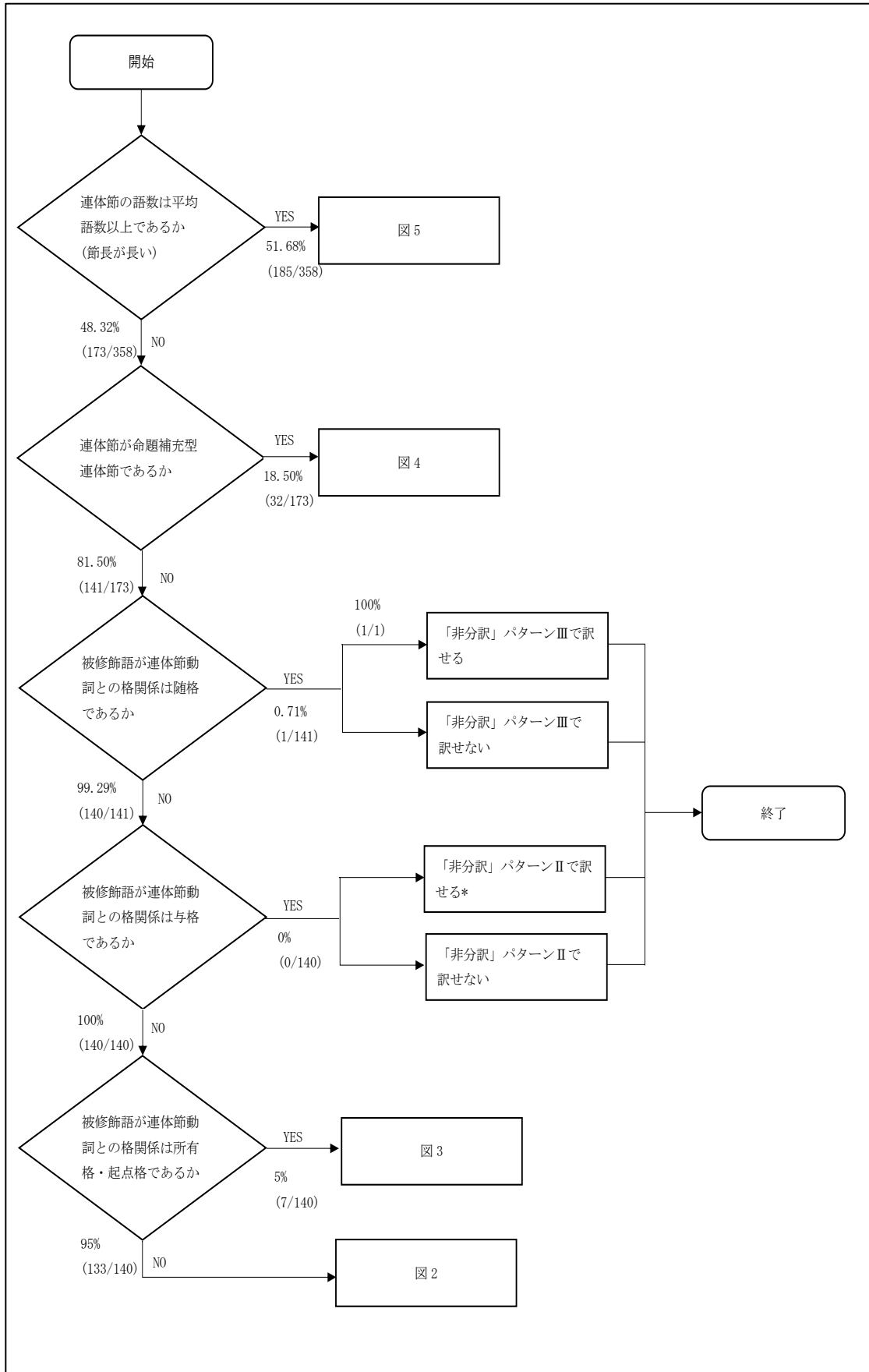


図 1 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ

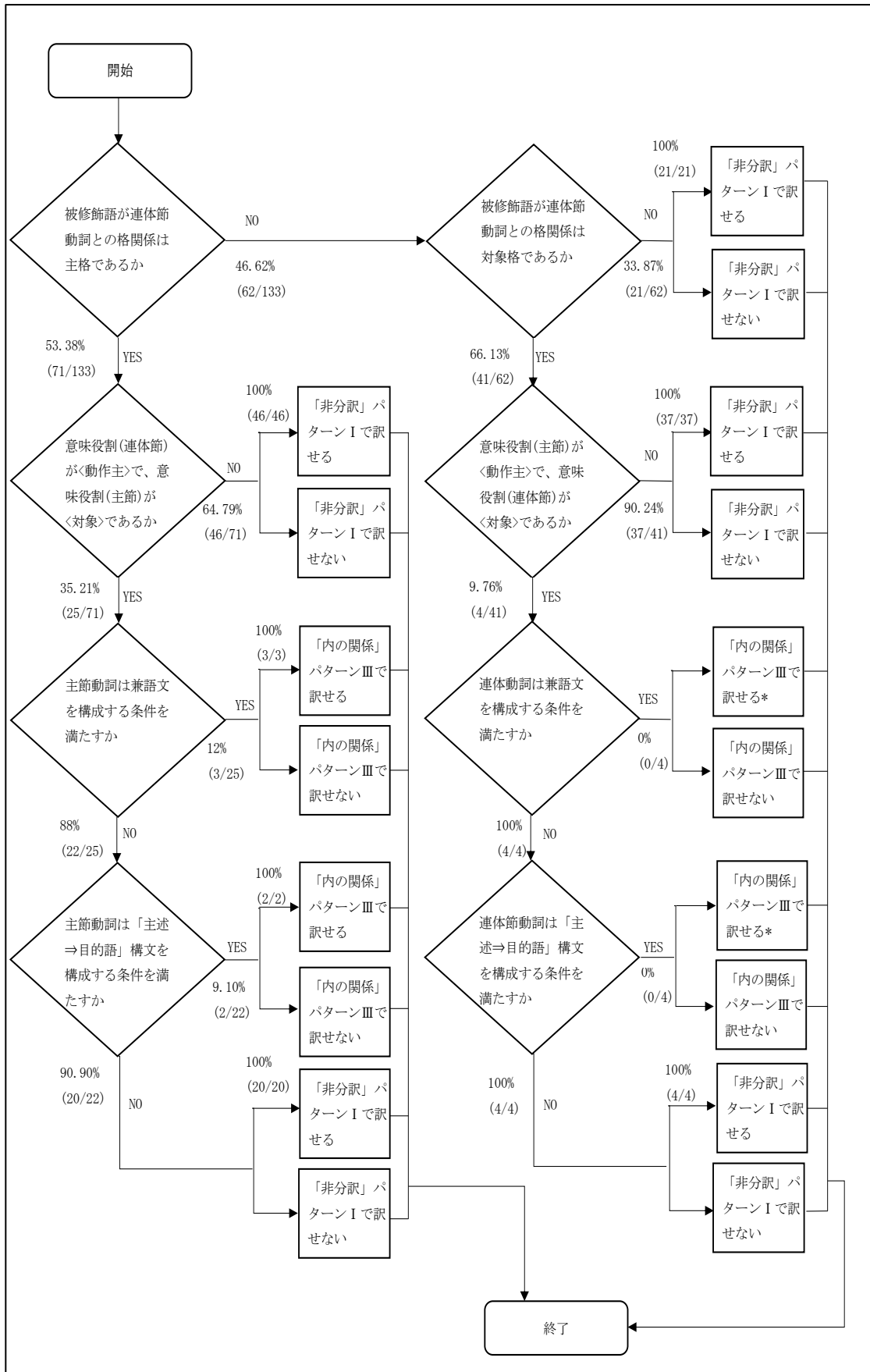


図2 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図1から続く)

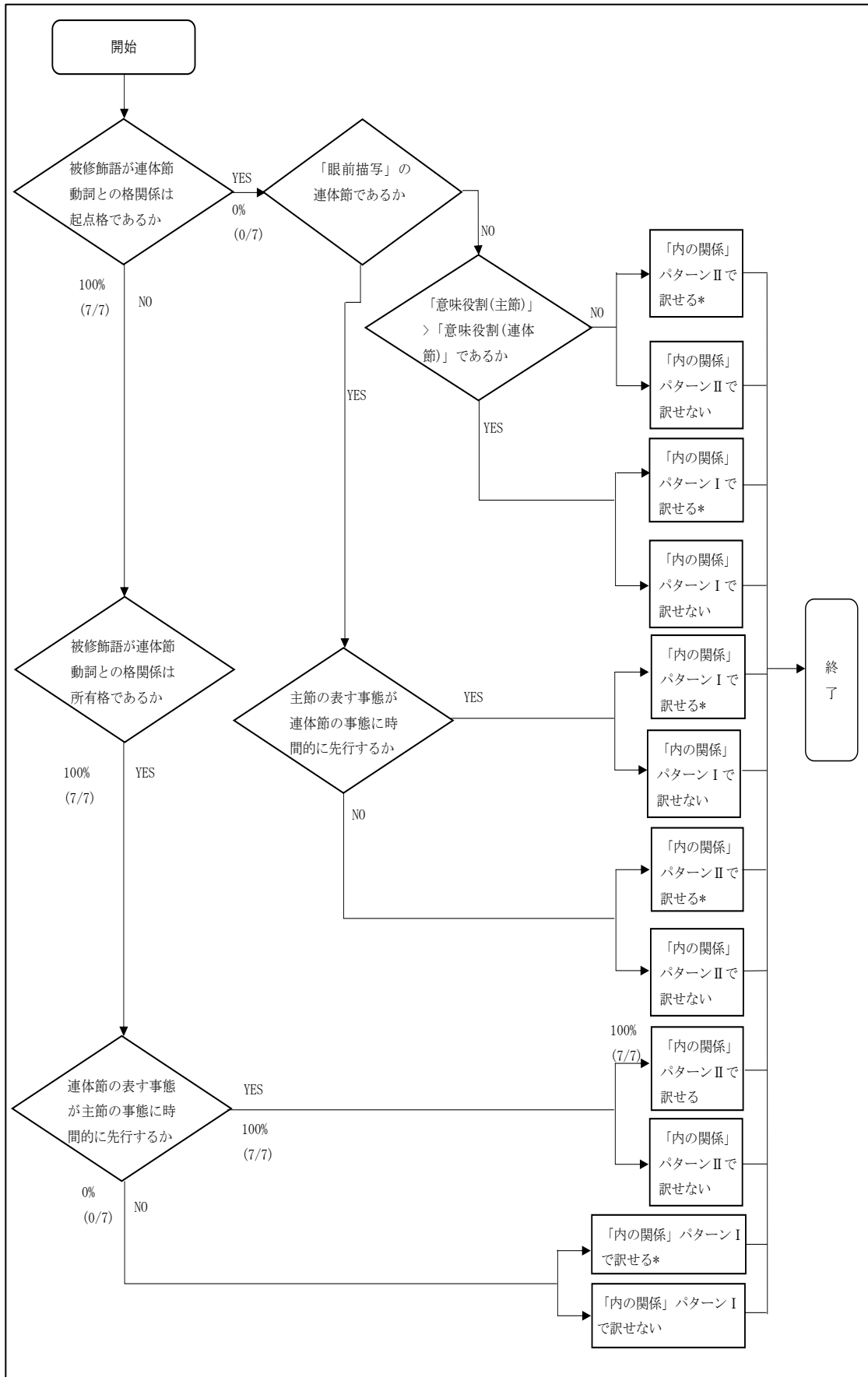


図3 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図1から続く)

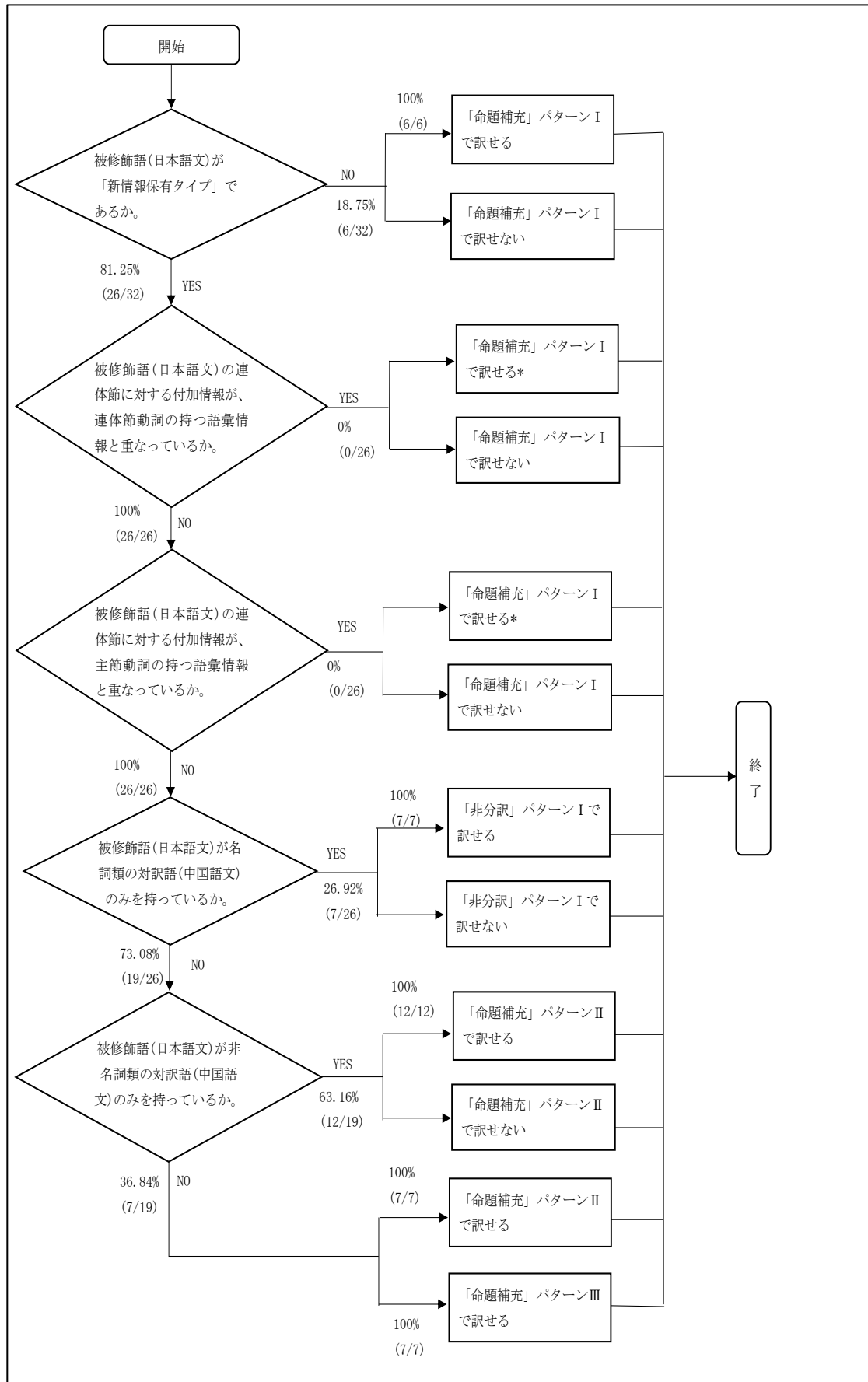


図4 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図1から続く)

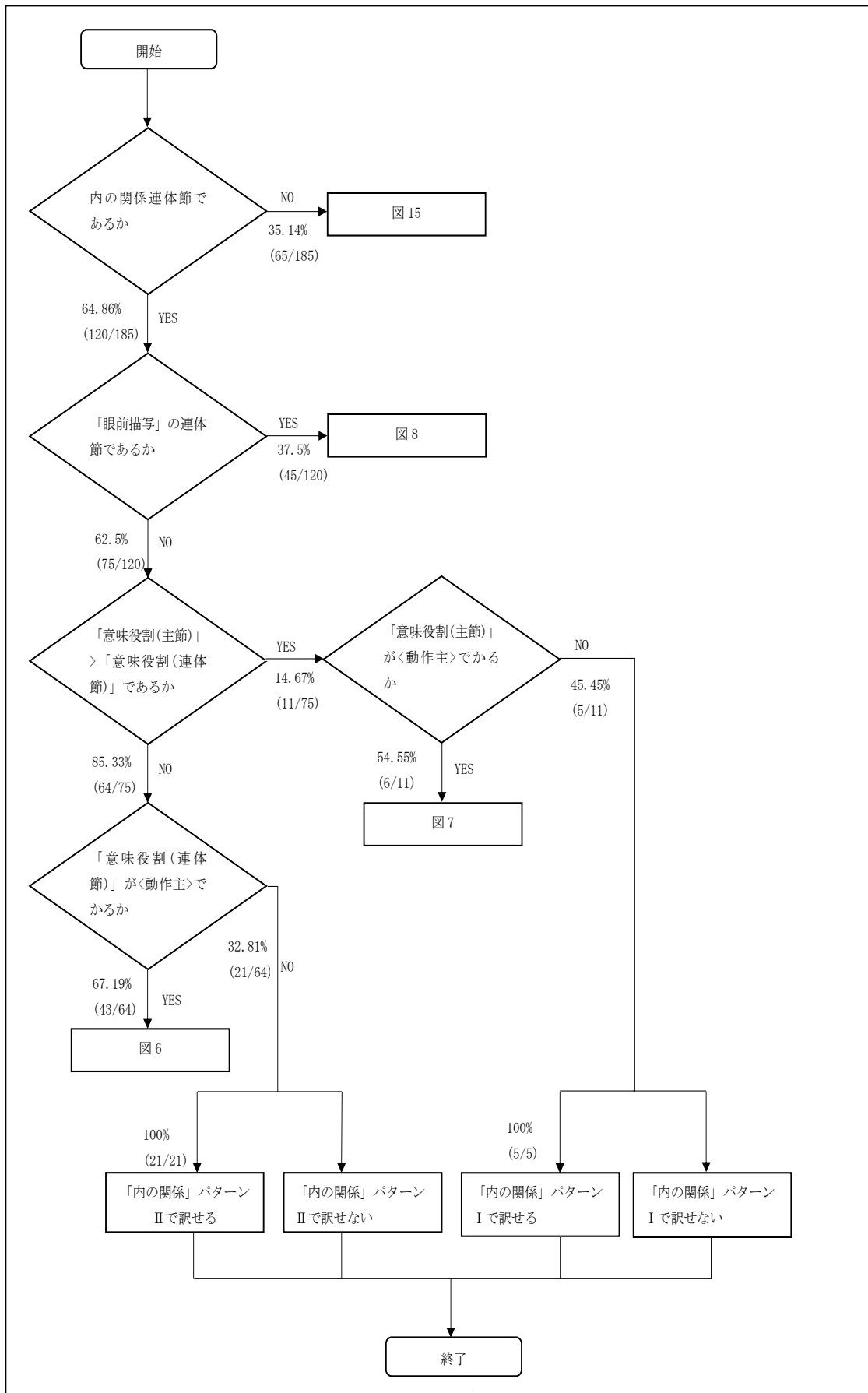


図 5 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図 1 から続く)

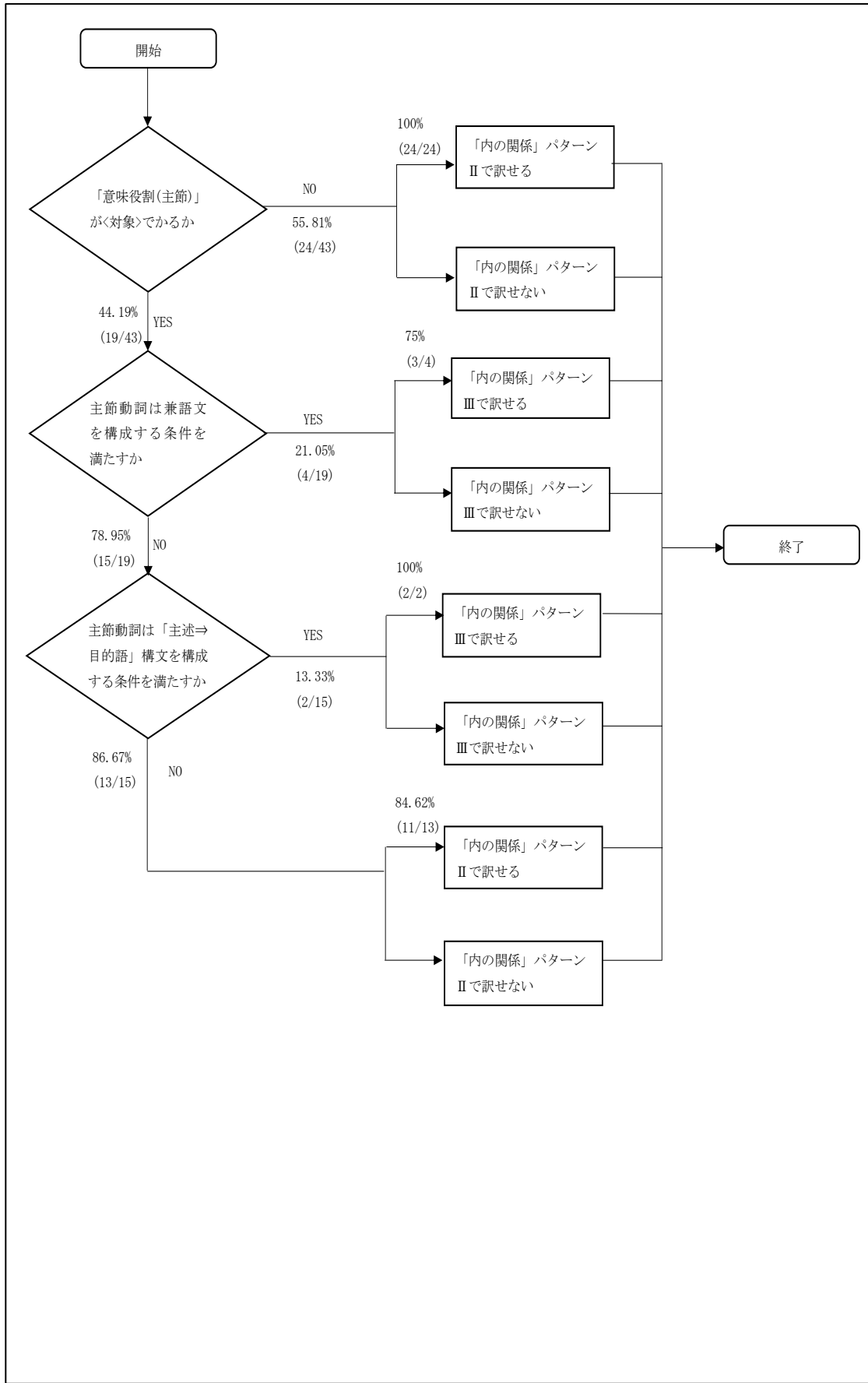


図6 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図5から続く)

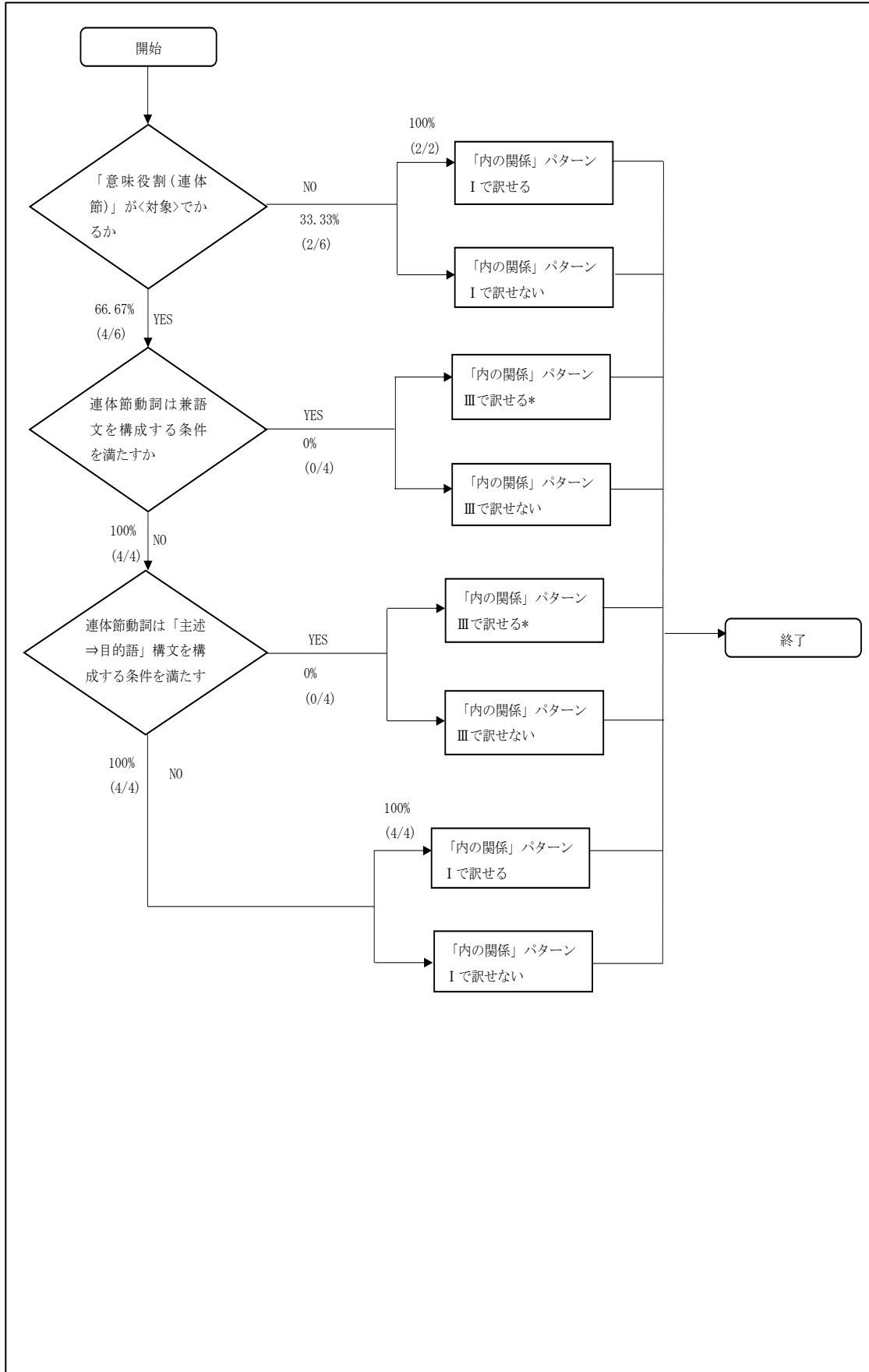


図7 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図5 から続く)

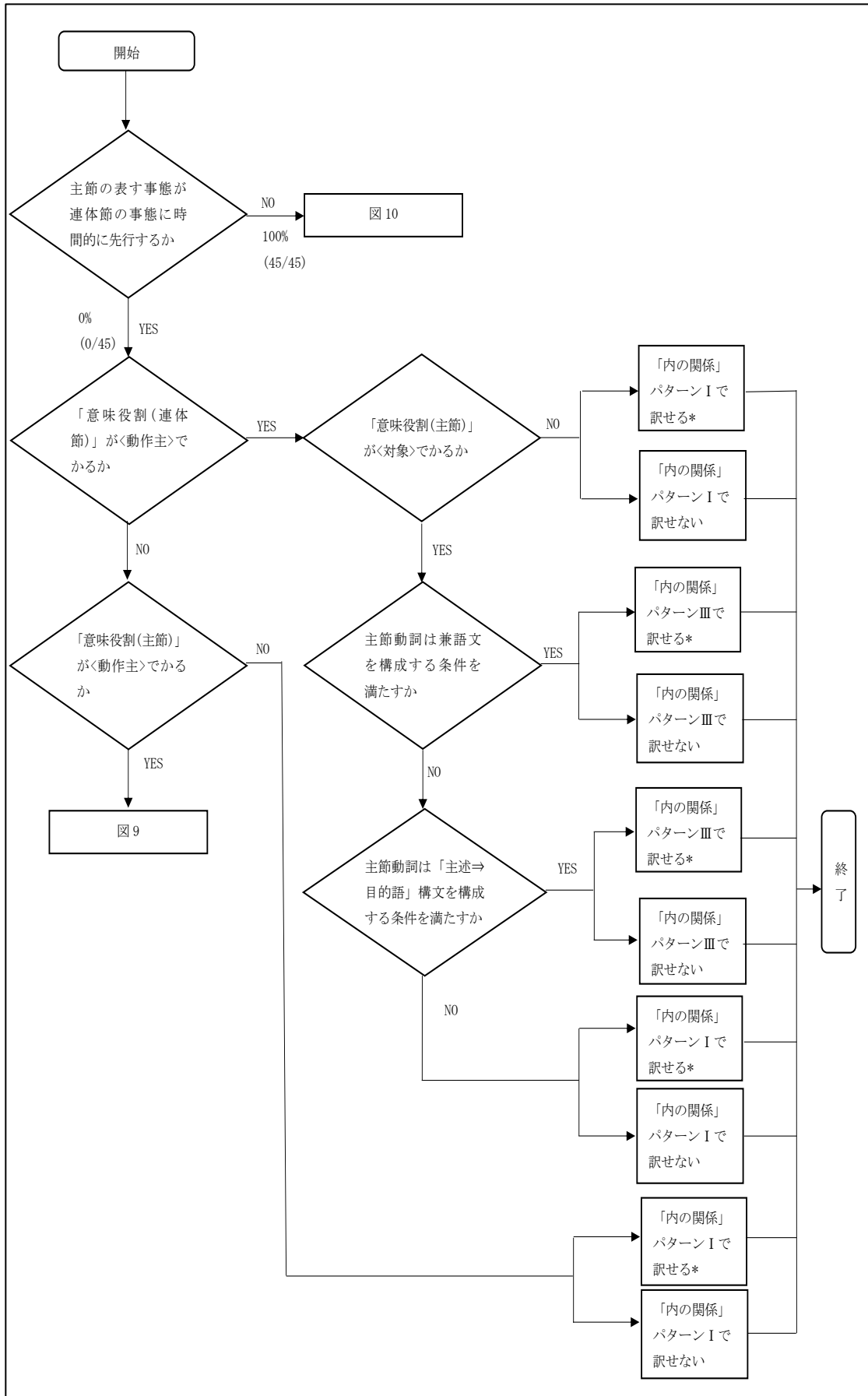


図 8 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図 5 から続く)

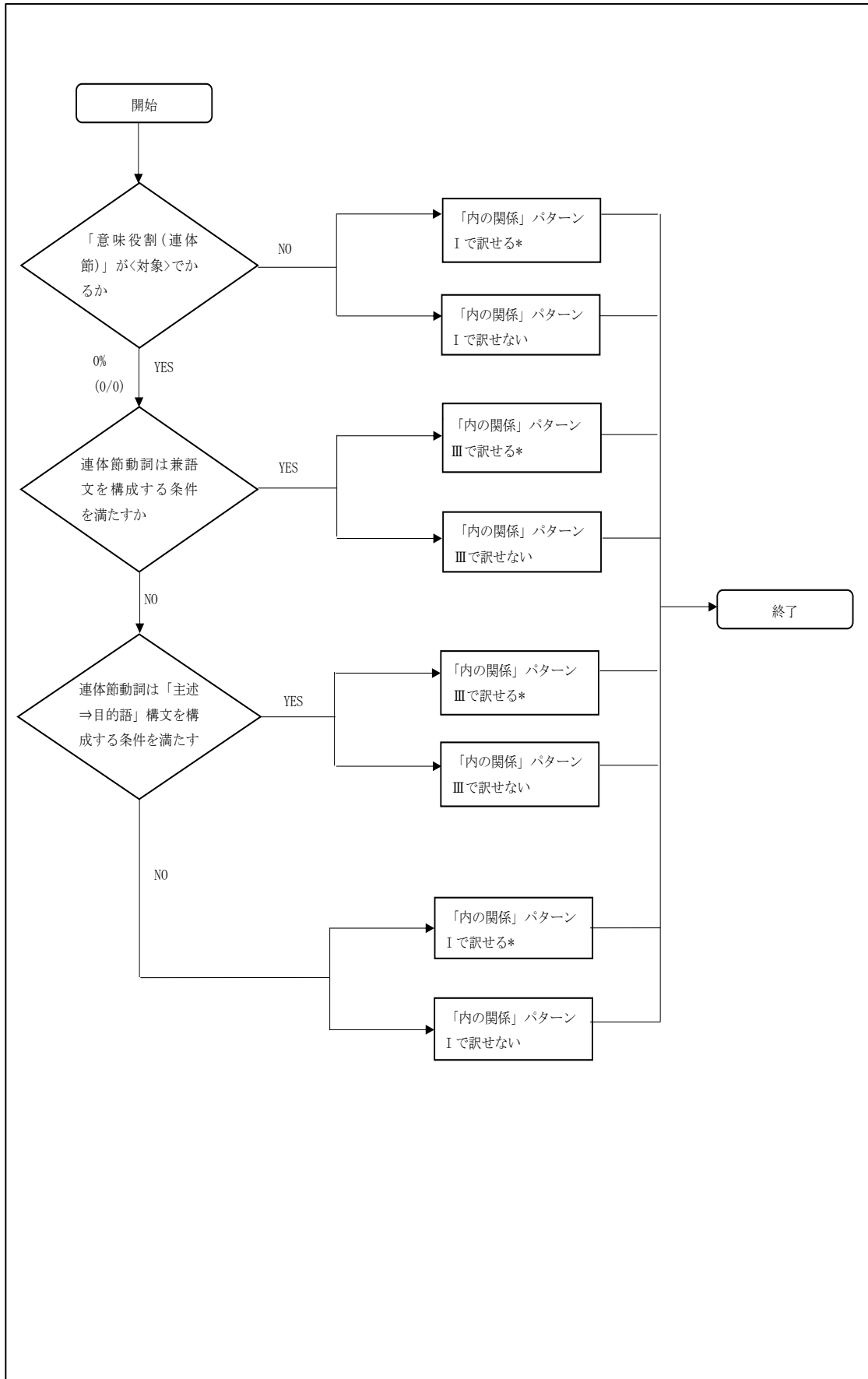


図9 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図8から続く)

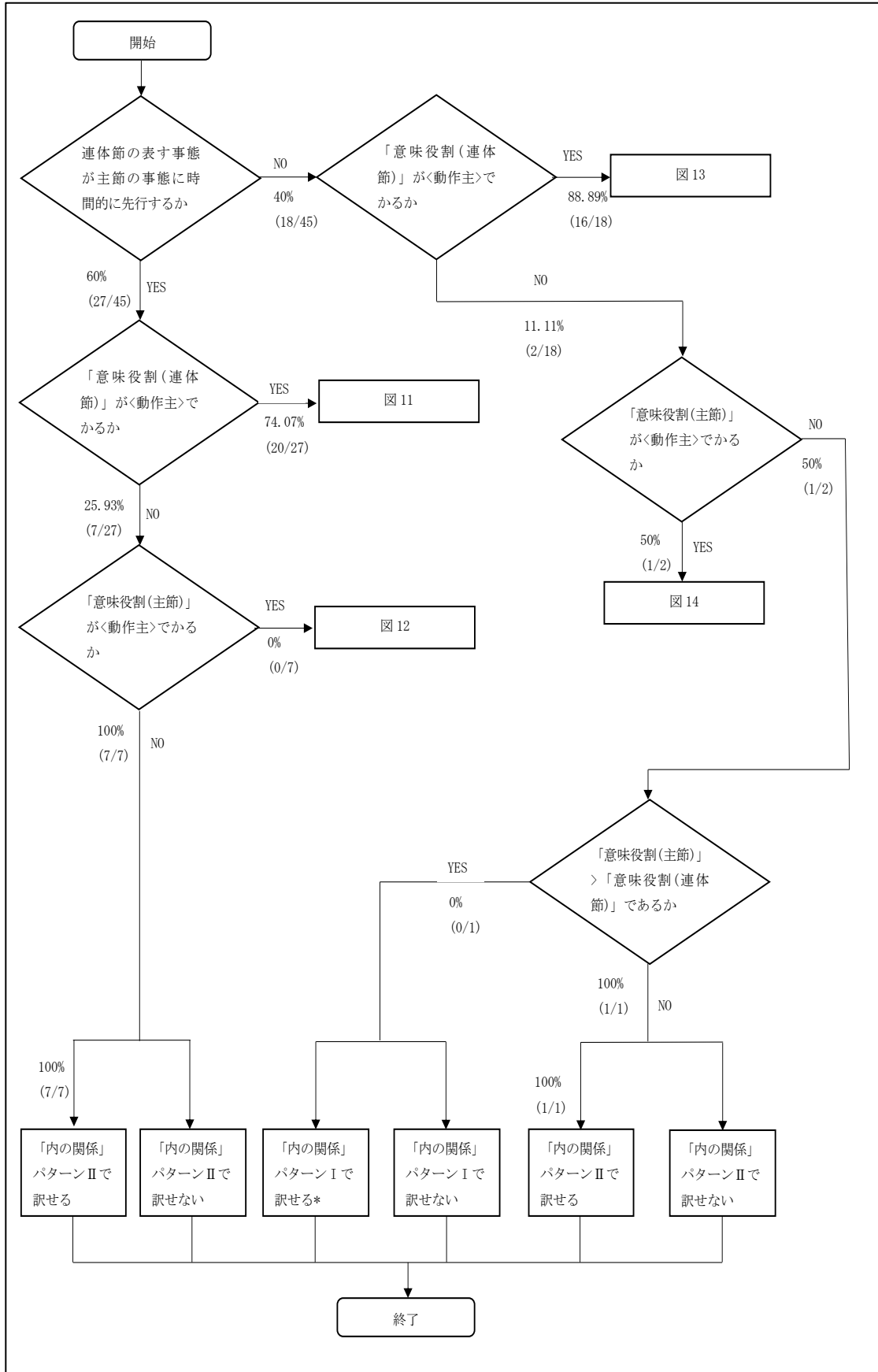


図 10 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図 8 から続く)

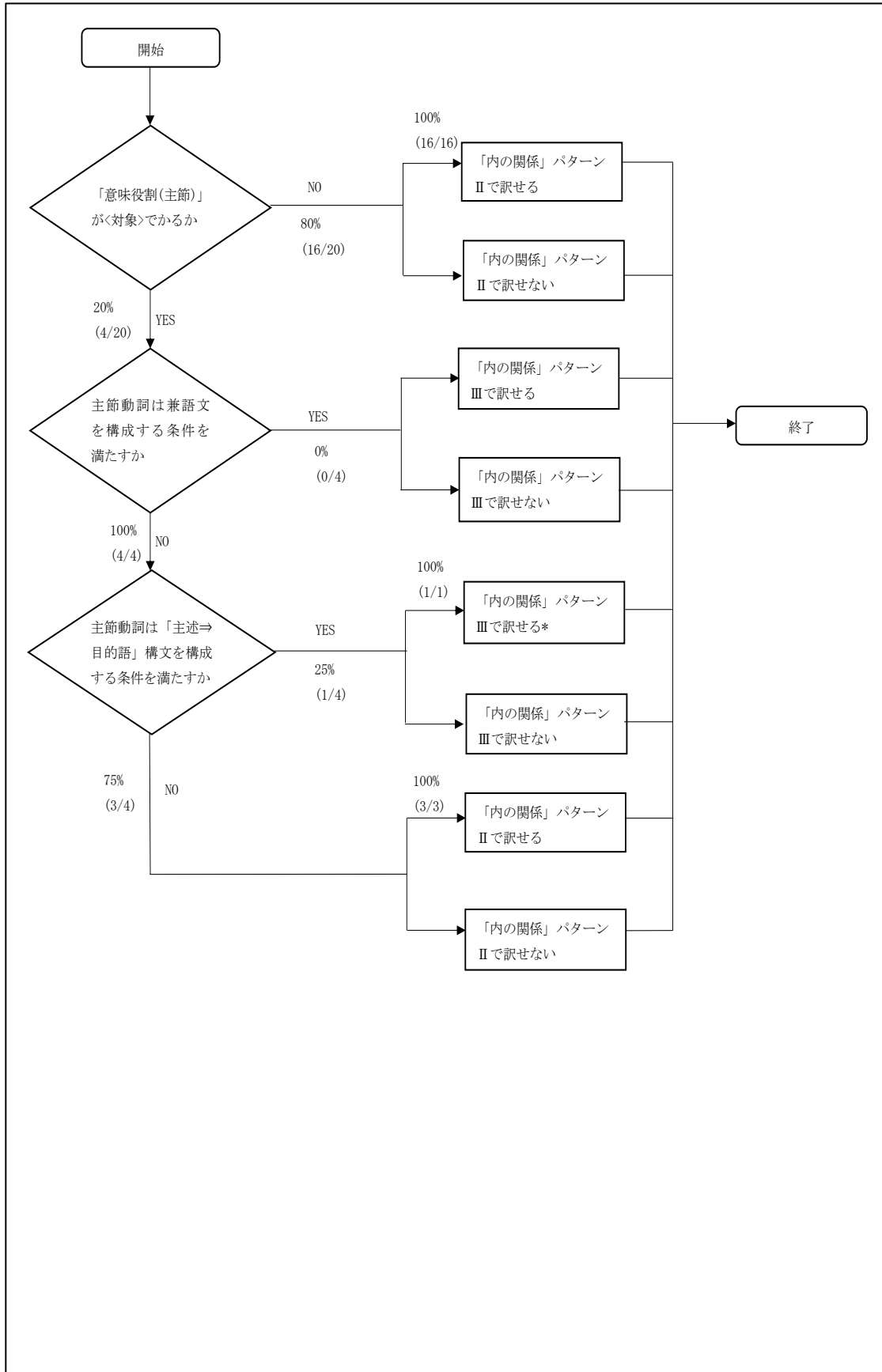


図 11 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図 10 から続く)

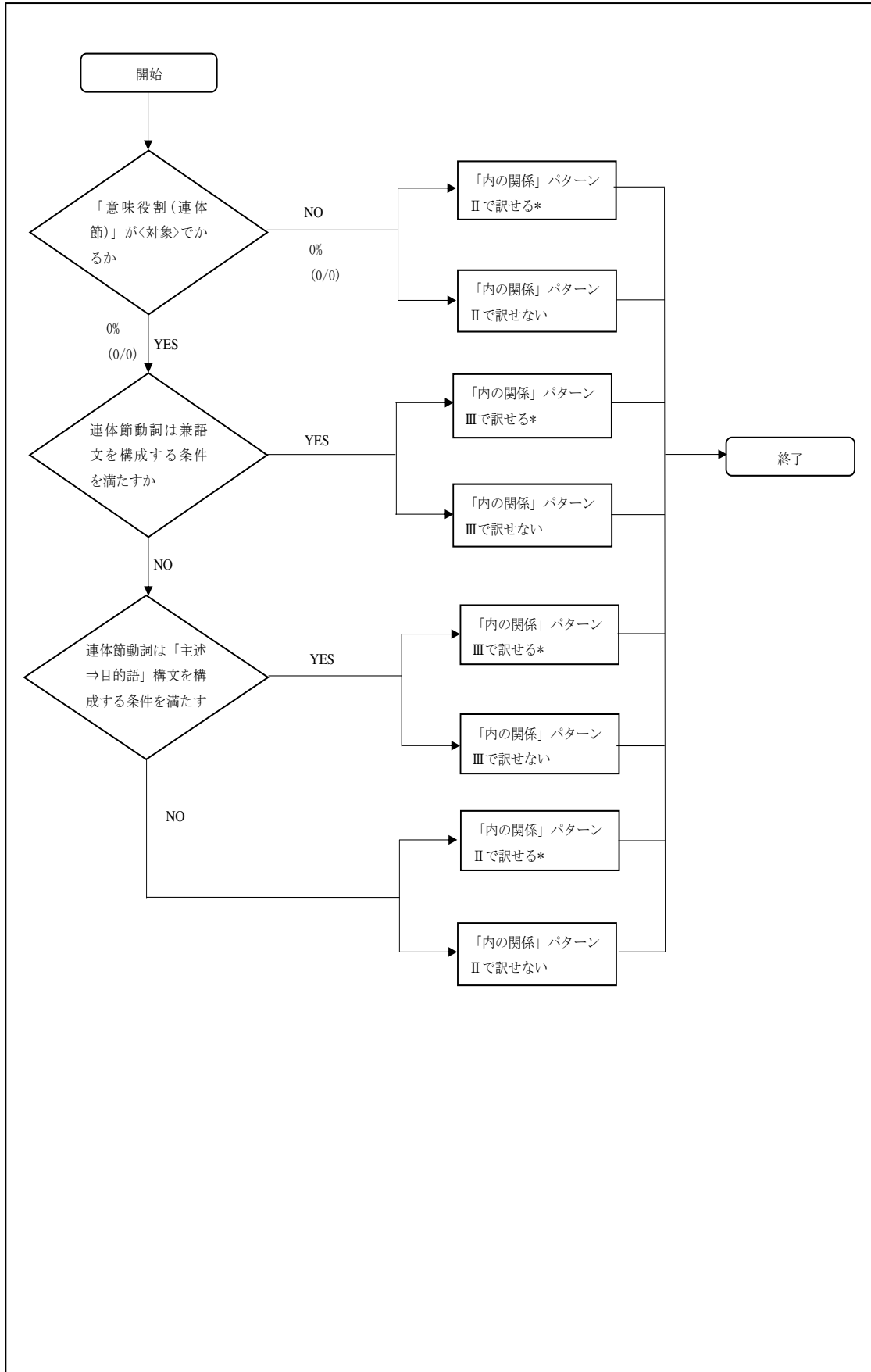


図 12 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図 10 から続く)

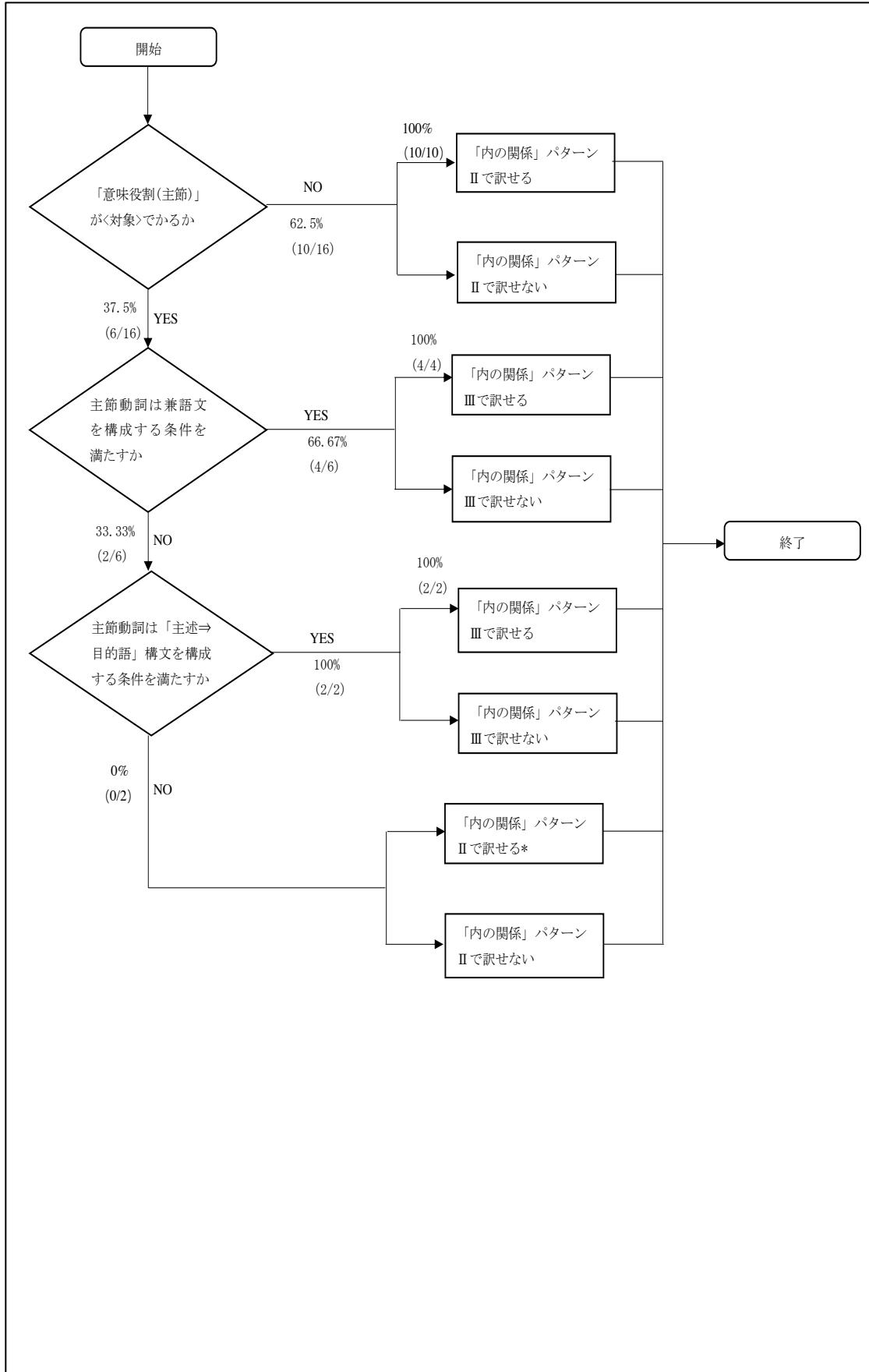


図 13 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図 10 から続く)

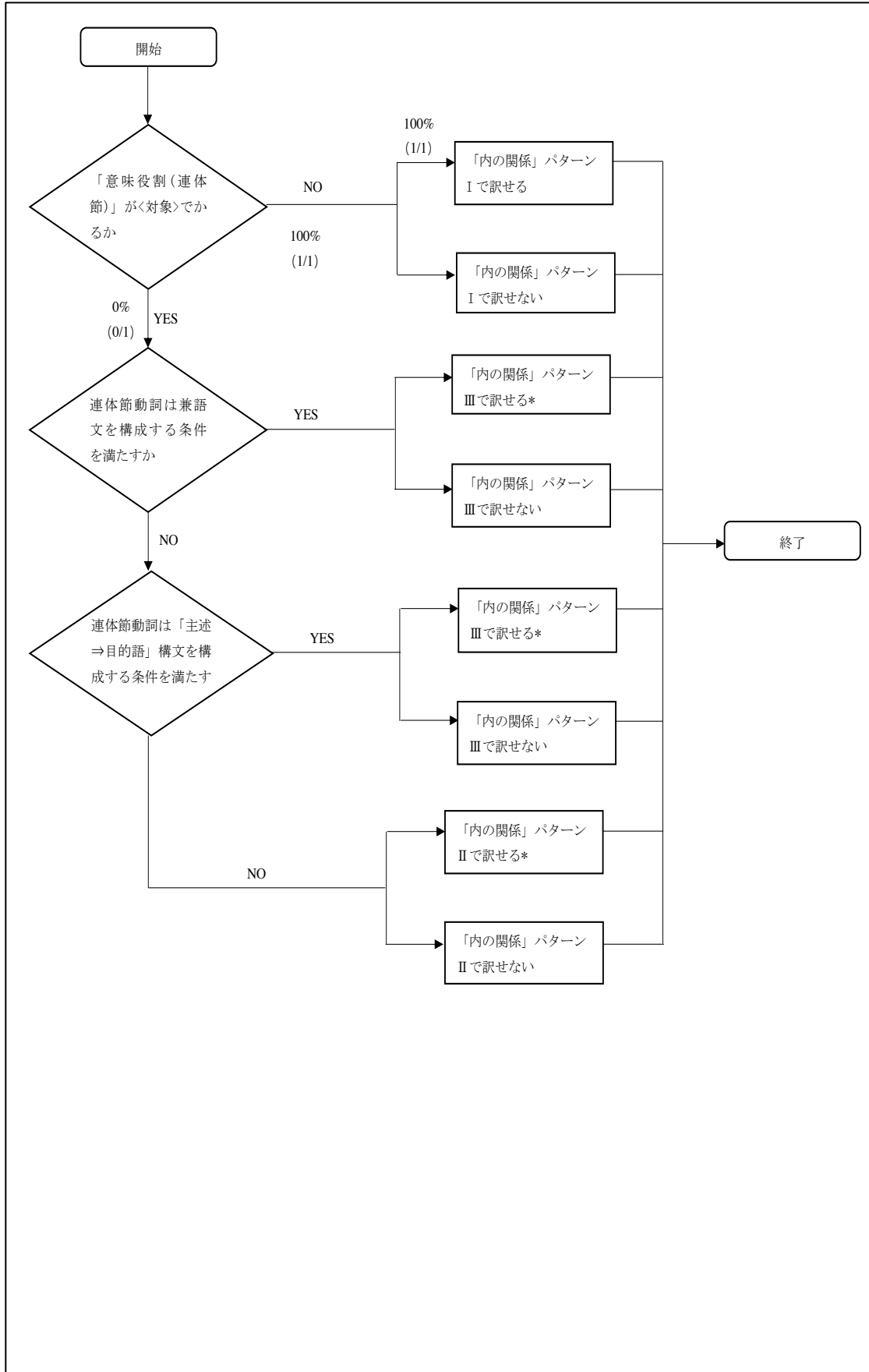


図 14 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図 10 から続く)

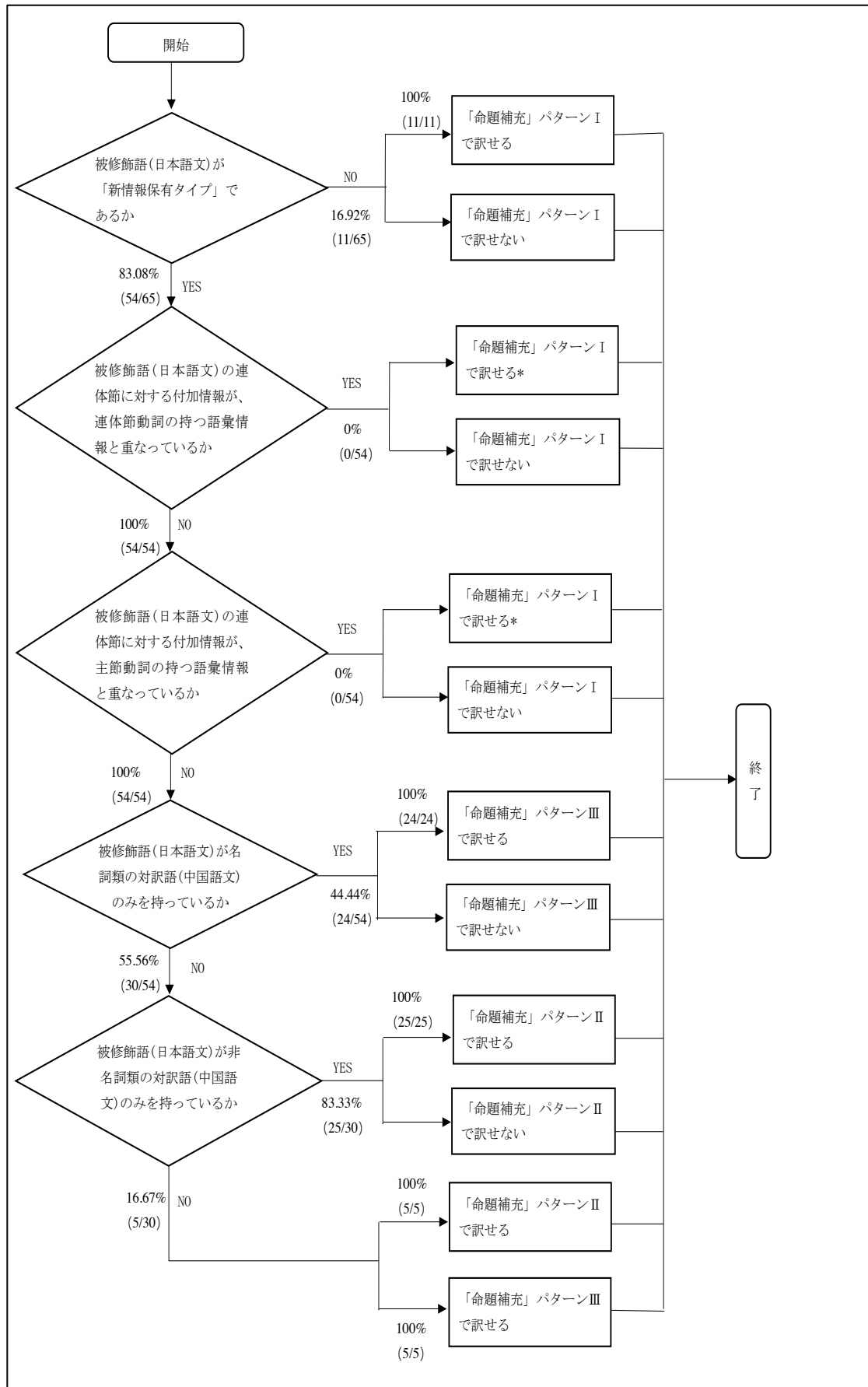


図 15 日本語の連体節構文の日中翻訳のアプローチ (図 5 から続く)

6.2 日本語連体節修飾節の翻訳アプローチについての検証

6.1 節で提出した翻訳アプローチを検証するために、小説『君の臍臓を食べたい』からランダムに内の関係連体節構文を 25 例、命題補充型連体節構文を 25 例抽出し、計 50 例の日本語連体節構文を 6.1 節の翻訳アプローチに基づき、中国語に翻訳した。また、11 人の中国語母語話者に表 1 の基準に従って各訳文の品質を評価するように依頼した。その結果を以下の表 2 と表 3 に示す。

表 1 訳文の品質評価基準

| | |
|-----------------------|---------------------------------------------------------|
| 4. Good | 母語話者からみても、構文と語句の選択が自然である。 |
| 3. Fair | 語彙の選択がやや不自然であるが、その不自然さが許容範囲内である。 構文上が特に問題がない。 |
| 2. Acceptable | 構文あるいは語句の選択が不自然であり、その不自然さが許容範囲を超える。しかし、文の表す意味は何とか理解できる。 |
| 1. Incorrect/nonsense | 構文あるいは語句の選択が不自然であり、その不自然さが許容範囲を超える。そして、原文の意味は全く理解できない。 |

表 2 日本語連体節構文の訳文の品質評価の結果(例文数)

| 日本語連体節の種類 訳文の品質レベル | 内の関係連体節 | 命題補充型連体節 | 合計 |
|-----------------------|---------|----------|-----|
| 4. Good | 177 | 202 | 379 |
| 3. Fair | 67 | 61 | 128 |
| 2. Acceptable | 26 | 6 | 32 |
| 1. Incorrect/nonsense | 5 | 6 | 11 |
| 合計 | 275 | 275 | 550 |

表3 日本語連体節構文の訳文の品質評価の結果(割合)

| 日本語連体節の種類 訳文の品質レベル | 内の関係連体節 | 命題補充型連体節 | 内の関係連体節+命題 補充型連体節 |
|-----------------------|---------|----------|----------------------|
| 4. Good | 64.37% | 73.46% | 68.91% |
| 3. Fair | 24.36% | 22.18% | 23.27% |
| 2. Acceptable | 9.45% | 2.18% | 5.82% |
| 1. Incorrect/nonsense | 1.82% | 2.18% | 2% |
| 合計 | 100% | 100% | 100% |

なお、本論文で検討してきた日本語連体節構文の中訳アプローチは、構文の面での訳文の自然さを検討したものであり、語彙の選択は扱わない。したがって、母語話者に「Good」と「Fair」と認められた訳文は、構文上の問題がないということであるから、ここでは「自然な訳文」と見なしている。

表2と表3に示すように、550例(50例×11人)の訳文のうち、自然な訳文は507例(379例+128例)であり、これは全体の92.18%(68.91%+23.27%)を占めているから、本論文で提出した日本語連体節構文に関する日中翻訳規則及び日本語連体節構文の中国語に訳すアプローチの有効性は妥当なものであることを示している。

また、50例の訳文(内の関係連体節構文を25例、命題補充型連体節構文を25例)のうち、過半数(6人以上)の中国語母語話者に自然な訳文と認められたものは49例であり、これは全体の98%(49/50)を占めている。一方、過半数(6人以上)の中国語母語話者に不自然な訳文と認められたものは1例であり、これは全体の2%(1/50)を占めている。この1例の訳文は6人の中国語母語話者に「Acceptable」というラベルを付けられ、「構文について違和感が感じているが、その文の表す意味が理解できる」と評価されている。また、残りの5人の中国語母語話者はその訳文は自然な訳文と認められている(2「Good」、3「Fair」)。つまり、この訳文の構文の許容度は、45.45%ということであり、この例文についても半数近くは許容しているということが明らかになった。すなわち、以上の検証の結果、本論文で提出した日本語連体節構文に関する日中翻訳規則及び日本語連体節構文の中国語に訳すアプローチの有効性は裏付けられたものと言える。

第7章 終章

本章では、第3章～第7章に至る各章の主張の概略を述べた上で、第1章で示した問題提起に対し、どのような答えが与えられたのかを示す。本論文の目的は、「日本語の連体節構文を中国語に訳すパターンについて、これまでの研究において明らかにされてこなかった点を補完する」と「各翻訳パターンの適用条件を分析し、日本語の連体節構文の中国語に訳すアプローチを提案する」の2点である。前者については、主に被修飾語の連体節動詞・主節動詞の支配する項に補う優先順位(内の関係連体節)、被修飾語の訳文での省略可否(命題補充型連体節)と被修飾語の訳文での品詞の変化(命題補充型連体節)を判断条件にして、「分訳法」の下位分類を補完した。後者については、主に被修飾語の連体節動詞・主節動詞に対する意味役割、被修飾語の持つ語彙情報の面から分析を行った。以上のような成果により、本論文は、「日本語連体節構文の機械翻訳による訳文の品質向上に対する貢献」、「日本語連体節構文の中国語への翻訳法の研究に対する貢献」、「被修飾語を中心に翻訳パターンを選択する」という観点の導入」という3点において、大きな学術的な貢献を有する論考になっていると考える。

1. 本論文のまとめ

本論文における第3章以降の主張を、ここで改めて振り返っておく。

・第3章 「分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について①：内の関係連体節

日本語の内の関係連体節を中国語に訳す場合、翻訳方法は「非分訳法」と「分訳法」の2つに大きく分けられる。このうちの「分訳法」を、被修飾語の連体節動詞・主節動詞の支配する項に補う優先順位により、さらに3つのパターンに分けた。また、各翻訳パターンの適用の可否は、被修飾語の連体節動詞・主節動詞に対する従属の度合と被修飾語の連体節動詞・主節動詞に対する意味役割と密接的な関係があると主張した。

(1) 被修飾語を主節動詞の項に優先的に補う。

パターンⅠ：{内の関係連体節＋被修飾語} & 主節動詞（日本語）

⇒主節動詞&被修飾語/内の関係連体節動詞(&被修飾語)（中国語）

（再掲第3章(11)）

(2) 被修飾語を連体節動詞の項に優先的に補う。

パターンⅡ：{内の関係連体節＋被修飾語} & 主節動詞（日本語）

⇒内の関係連体節動詞&被修飾語/主節動詞(&被修飾語)（中国語）

（再掲第3章(12)）

(3) 被修飾語を主節動詞の項にも連体節動詞の項にも補う。

パターンⅢ：{内の関係連体節＋被修飾語} & 主節動詞（日本語）

⇒主節動詞&被修飾語&連体節動詞（中国語）

（再掲第3章(13)）

それぞれのパターンの適用条件を改めて整理すると以下のようになる。

まず、パターンⅠの適用条件は(4)～(6)の3つである。

(4) 連体節が「眼前描写」の連体節であり、主節は連体節に時間的に先行する事態を表している。

(5) 連体節が「眼前描写」の連体節であり、主節と連体節の事態が同時に生起し、被修飾語の主節動詞に対する従属度合は連体節動詞に対するものよりレベルが強い。

(6) 連体節が「非眼前描写」の連体節であり、被修飾語の主節動詞に対する従属度合は連体節動詞に対するものよりレベルが強い。

（再掲第3章(101)～(103)）

次に、パターンⅡの適用条件は(7)～(11)の5つである。

(7) 連体節が「眼前描写」の連体節であり、主節に時間的に先行する事態を表している。

(8) 連体節が「眼前描写」の連体節であり、主節の事態と同時に生起し、被修飾語の連体節動詞に対する従属度合は主節動詞に対するものよりレベルが強い。

(9) 連体節が「眼前描写」の連体節であり、主節の事態と同時に生起し、被修飾語の連体節

動詞に対する従属度合は主節動詞に対するものとレベルが同じである。

(10)連体節は「非眼前描写」の連体節であり、被修飾語の連体節動詞に対する従属度合は主節動詞に対するものよりレベルが強い。

(11)連体節は「非眼前描写」の連体節であり、被修飾語の連体節動詞に対する従属度合は主節動詞に対するものとレベルが同じである。

(再掲第3章(104)～(108))

最後に、パターンⅢの適用条件は(12)～(15)の4つである。

(12)連体節動詞に対する被修飾語の意味役割が<動作主・経験者>であり、主節動詞に対する被修飾語の意味役割が<対象>である。且つ、主節動詞は兼語文構文における主動詞の条件を満たす。

(13)連体節動詞に対する被修飾語の意味役割が<動作主・経験者>であり、主節動詞に対する被修飾語の意味役割が<対象>である。且つ、主節動詞は「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たす。

(14)連体節動詞に対する被修飾語の意味役割が<対象>であり、主節動詞に対する被修飾語の意味役割が<動作主・経験者>である。且つ、連体節動詞は兼語文構文における主動詞の条件を満たす。

(15)連体節動詞に対する被修飾語の意味役割が<対象>であり、主節動詞に対する被修飾語の意味役割が<動作主・経験者>である。且つ、連体節動詞は「主述フレーズ⇒目的語」構文における主動詞の条件を満たす。

(再掲第3章(109)～(112))

・第4章 「分訳法」に属する翻訳パターンと各パターンの適用条件について②：命題補充型連体節

日本語の命題補充型連体節を中国語に訳す場合、翻訳方法は「非分訳法」と「分訳法」の2つに大きく分けられる。このうちの「分訳法」を、被修飾語の訳文での省略可否および被修飾語の訳文での品詞類型により、さらに3つのパターンに分けた。また、各翻訳パターンの適用の可否は、被修飾語の持つ命題形式および被修飾語の対訳語の品詞類型と密接的な関係があると主張した。

(16) 日本語原文における被修飾語が省略される。

パターンⅠ：{命題補充型連体節+被修飾語}&主節動詞（日本語）

⇒命題補充型連体節の表すことがら&主節動詞（中国語）

（再掲第4章(14)）

(17) 日本語原文における被修飾語の対訳語が名詞ではない。

パターンⅡ：{命題補充型連体節+被修飾語}&主節動詞（日本語）

⇒主節動詞&{命題補充型連体節の表すことがら&被修飾語(非名詞)}（中国語）

（再掲第4章(15)）

(18) 日本語原文における被修飾語の対訳語が名詞である。

パターンⅢ：{命題補充型連体節+被修飾語}&主節動詞（日本語）

⇒被修飾語&主節/命題補充型連体節の表すことがら

あるいは、命題補充型連体節の表すことがら/被修飾語&主節（中国語）

（再掲第4章(16)）

各パターンとその適用条件を改めて簡潔にまとめると以下ようになる。

パターンⅠは、中国語の訳文で日本語原文における被修飾語が省略されるパターンである。被修飾語が「非新情報保有タイプ」である命題補充型連体節構文は、パターンⅠで訳せる。また、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、被修飾語が連体節のことがらに付加する新情報が、主節動詞・連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報に重なっている命題補充型連体節構文は、パターンⅠで訳せる。

パターンⅡは、中国語の訳文で日本語原文における被修飾語が非名詞的な品詞に変わるパターンである。被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、非名詞類の対訳語のみを持っている命題補充型連体節構文は、パターンⅡで訳せる。または、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、非名詞類の対訳語と名詞類の対訳語両方とも持っている命題補充型連体節構文は、パターンⅡで訳せる。

パターンⅢは、被修飾語を主節動詞の持つ項に補い、連体節が独立文として訳されるパターンである。被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、被修飾語が連体節のことがらに付加する新情報が、主節動詞・連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報に重なっていない、名詞類の対訳語のみを持っている命題補充型連体節構文は、パターンⅢで訳せる。また、被修飾語が「新情報保有タイプ」であり、被修飾語が連体節のことがらに付加

する新情報が、主節動詞・連体節動詞(モダリティを含める)の持つ語彙情報に重なって
なく、非名詞類の対訳語と名詞類の対訳語両方とも持っている命題補充型連体節構文は、
パターンⅢで訳せる。

・第5章 「非分訳法」に属する翻訳パターンと適用条件について

日本語の命題補充型連体節を中国語に訳す場合、翻訳方法は「非分訳法」と「分訳法」
の2つに大きく分けられる。このうちの「非分訳法」については従来「短い日本語連体節
は非分訳法で中国語に訳す」という観点が主流である。本節では、非分訳法を適用するこ
との可否が、連体節の節長と密接な関係を持っているのではなく、被修飾語の連体節動詞
に対する格関係、被修飾語の持つ命題形式、被修飾語の対訳語の統語的特徴と直接的関わ
っていると主張した。

非分訳法を適用することの可否を判断するにあたって、まずは連体節の節長が長い
か短い
かを判断する。節長が平均語数以上ならば、長いものと認められ、「分訳法」で訳す。
節長が平均語数未満ならば、短いものと認められる。短い内の関係連体節は、被修飾語と連
体節動詞との格関係が「主格」、「対象格」、「位置格」、「目標格」、「助格」、「基準格」、「理
由格」であるならば、非分訳法で訳すことができる。

(19) 被修飾語と連体節との格関係が「主格」、「対象格」、「位置格」、「目標格」、「助格」、「基
準格」、「理由格」である短い連体節である。

パターンⅠ：

連体節＋被修飾語（日本語）

⇒連体節＋被修飾語（中国語）

（再掲第5章(43)）

(20) 被修飾語と連体節との格関係が「与格」である短い連体節である。

パターンⅡ：

連体節＋被修飾語（日本語）

⇩

(主格＋対象格＋述語動詞)

⇒連体節＋被修飾語（中国語）

⇩

(主格＋述語動詞＋被修飾語の代用名詞句＋対象格)

(再掲第5章(51))

(21) 被修飾語と連体節との格関係が「随格」である短い連体節である。

パターンⅢ：

連体節＋被修飾語（日本語）

⇩

(主格＋述語動詞)

⇒連体節＋被修飾語（中国語）

⇩

(“和「と」”＋主格＋述語動詞)

(第5章(53)の再掲)

第6章 日本語連体修飾節の翻訳アプローチの検証

——「内の関係連体節」と「命題補充型連体節」を中心に——

第6章では、「内の関係連体節」と「命題補充型連体節」を中心に、日本語連体節構文の中国語に訳す翻訳規則をまとめ、フローチャートの形で中訳アプローチを提案した。また、中国語母語話者を対象としたアンケート調査の形で、その翻訳アプローチの有効性を検証した。

2. 今後の課題と展望

本論文で論じきれなかった主な課題として、以下の3点を挙げておきたい。これらはまた同時に本論文の枠組みにおいて今後発展的に取り組むべき問題でもある。

・ 翻訳の通時的研究と文化的側面の情報について⁹⁶

翻訳学は訳者の経験に基づいた経験科学(empirical science)である⁹⁷(劉 2005: 15)から、翻訳アプローチを構築する場合には、翻訳の歴史を分析する通時的な研究も重要な位置を占めるものであり、このような観点からも検討されることが必要であるということが挙げられる。

言語は永遠に変わらないものではなく、時代につれて変容するものである。目標言語は翻訳作業により、起点言語の影響を受け、変容することがあるから、この百年の翻訳を通時的に見渡し、同一の作家の翻訳がどのように変遷したかを見ることで、日本語をどのように翻訳してきたかを知ることが出来る。(22a)～(22h)は芥川龍之介『羅生門』における連体修飾節が、どのように訳し分けられてきたかの一例である。

(22a)原文：下人はとうとう、老婆の腕を掴んで、無理にそこへねじ倒した。丁度、鶏の脚のような、骨と皮ばかりの腕である。

(22b)魯迅訳(1921)：家将终于抓住了老奴的臂膊，硬将伊捻倒了。是只剩着皮骨，宛然鸡脚一般的臂膊。

(22c)楼適夷訳(1980)：家将终于揪住老婆子的胳膊，把她按倒在地，那胳膊瘦嶙嶙地皮包骨头，同鸡脚骨一样。

(22d)林少華訳(1997)：仆人终于抓起老太婆的手腕，用力将她扳倒。那手腕瘦得皮包骨，同鸡爪无异。

(22e)文潔若訳(2003)：仆役终于抓住老奴的胳膊，硬是把她按倒在地。那胳膊活像鸡脚，简直是皮包骨。

(22f)高慧勤訳(2006)：家丁抓住老婆子的手腕，将她扭到在地。那手腕简直如同鸡爪，瘦骨嶙峋。

⁹⁶ この部分の内容については、直接の御指導を戴いた文教大学文学部中国語中国文学科教授白井啓介先生に深謝する。

⁹⁷ 翻訳学是一门经验科学(empirical science)，建基于翻译实践(translation experience)(劉 2005: 15)。

(22g) 王軼超訳(2013) : 家将抓住她像鸡爪子一样瘦骨嶙峋的手臂，将她按倒在地。

(22h) 趙玉皎訳(2015) : 仆役拧着老妇的手腕，蛮横地把她按倒在地。老妇的手腕像鸡爪一样瘦骨嶙峋。

(王 2019 : 77-78)

(22a)～(22h)に示したように、1921年に魯迅は「非分訳法」で訳したが、1980年代以降の訳者は明瞭に「分訳法」に移行していることが分かる。王軼超訳(2013)のように「非分訳法」に近い方策を取り入れている事例も見られ、完全に「分訳法」に統一されたともいえないが、「分訳法」の採用が主流であるというのが現在の中国日本文学翻訳界の現状である。また、現在の中国の日本語教育、翻訳教育界では、「分訳法」が主流で、これを教育伝授することが常態化しているが、必ずしもそれが唯一絶対の方策ではないということでもある。本論文では触れていないが、今後の研究の展開として、こうした通時的観点に立った訳文の変遷、「分訳法」と「非分訳法」の相対性という歴史的事実を視野に置くことも必要であると考えられる。

また、翻訳は起点テキストにおける「言語学的な情報」と「文化的な情報」の両方ともを目標テキストに転換する作業である。本論文で提出した翻訳アプローチは、「言語学的な情報」のみに注目し、翻訳における「文化的な情報」については留保しており、これは今後の課題にしたい。

・「眼前描写」の連体節の判断条件

「眼前描写」の連体節であるか「非眼前描写」の連体節であるかという点は、日本語内の関係連体節を中国語に訳す場合にいずれの翻訳パターンで訳すかという問題を解決するための適用条件の一つである。

「眼前描写」の連体節であるか否かを決定づける条件については 3.4.3.2 節において言及した((23)、(24))。

(23) 連体節の示す内容は、主名詞の持つ恒常的な属性ではなく、当該場面で新たに生起した一時的な事態であり、また

(24) 連体節は主節と密接な関係をもって、一つの場面を構成する。

(ソムキヤット 2002:103)

ただし、(25)のように(23)、(24)の2つの条件によっては判断しにくい曖昧な場合がある。

(25) 産院でもらったへその緒を入れた木箱に、私は一枚だけ残していた彼の父親の写真を、
小さく折り畳んで仕舞った。

(『博士の愛した数式』)

(25)では、明確な時間名詞がないことから、連体節の表す事態が主節の表す事態と密接な関係をもって、一つの場面を構成するか否かという問題について、(23)、(24)によって、判断しにくい。「木箱をもらって、すぐ写真を小さく折り畳んで入れる」という密接な関係を持つ可能性もあり、「木箱をもらって、何日を経て、写真を小さく折り畳んで入れる」という密接な関係を持たない可能性もある。本論文では、そのような明確な時間名詞がない連体節について、主節の表す事態と密接な関係を持たない、すなわち、「非眼前描写」の連体節と認めているが、機械翻訳の支援アプローチとして更なる改善を期すならば、一層具体的で、客観的な「眼前描写」の連体節であるか否かを決定づける条件が必要となる。この点に関する本論文の考察は十全なものとは言えない。

・被修飾語の接続助詞化と助動詞化について

寺村(1992)は、主節での機能により、被修飾語を「普通名詞」、「接続助詞化の名詞」、「助動詞化の名詞」という3種類に分けている。

(26)接続助詞化の名詞：名詞の中に本来副詞的な要素を含んでいるものがあるとき、その副詞性を利用して、前接する修飾節もろとも副詞節つまり連用修飾節として後の(主)節にかからせる場合に見られる。典型的なものは「…トキ」「…タメ」のようなものだ。

(27)助動詞化の名詞：底の名詞(被修飾語)が、文末で、「ダ、アル、ナイ、スル、ナル」など、これまた実質的意義の乏しい動詞や助動詞と一体化して、前接する「コト」に対する話し手の心的態度(ムード)を表現する場合である。典型的なものは「ツモリ」「ハズ」のようなものだ。

(寺村 1992:298, 308)

本論文では、被修飾語が「普通名詞」、「接続助詞化の名詞」、「助動詞化の名詞」のいずれであるかという点については特に区別せずに翻訳アプローチを検討してきた。ただし、(28a)のような被修飾語が接続助詞化の名詞である日本語の連体節(外の関係)は、第4章で提出した翻訳アプローチで訳すと、訳文が不自然になってしまう。

(28a) でもそれには、彼がその娘を不思議な見方であまりに見つめ過ぎた結果、彼自らの感傷が多分に加わってのことかもしれない。

(『雪国』)

(28b) 也许是因为他用过分好奇的目光盯住这个姑娘，所以增添了自己不少的感伤。

(《雪国》)

【逐語訳：彼がその娘を不思議な見方であまりに見つめ過ぎたから、彼自らの感傷が多分に加わってのことかもしれない。】

(28c) ? 也许是他用过分好奇的目光盯住这个姑娘，增添了自己不少的感伤。

(「命題補充」パターンⅠ)

【逐語訳：彼がその娘を不思議な見方であまりに見つめ過ぎ、彼自らの感傷が多分に加わってのことかもしれない。】

(28d) ? 结果他用过分好奇的目光盯住这个姑娘，或许增添了自己不少的感伤。

(「命題補充」パターンⅡ)

【逐語訳：結果は彼がその娘を不思議な見方であまりに見つめ過ぎた。彼自らの感傷が多分に加わってのことかもしれない。】

(28e) ? 他用过分好奇的目光盯住这个姑娘，这个结果也许增添了自己不少的感伤。

(「命題補充」パターンⅢ)

【逐語訳：彼がその娘を不思議な見方であまりに見つめ過ぎた。この結果は彼自らの感傷が多分に加わってのことかもしれない。】

(28c)～(28e)に示した通り、被修飾語が接続助詞化・助動詞化になる場合には、命題補充型連体節の適用する翻訳アプローチが不適切になってしまう。(28a)のように被修飾語が接続助詞化・助動詞化である日本語の連体節を中国語に訳す場合にも適用できる翻訳アプローチ、及び本論文で言及されていない相対的補充型連体節については、今後の研究に委ねたい。

付録 1 翻訳アプローチの有効性を検証するために用いた日本語原文とその訳文

| 番号 | 日本語原文 | 中国語訳文 |
|----|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 1 | <u>上靴を履いた親友さん</u> はそのまま行ってくれるかと思いきや、もう一度僕の目を見て、また同じように鼻を鳴らした。 | 我本以为穿上了鞋的闺蜜同学会直接走开，但她却看着我的眼睛，又同刚才一般哼了我一声。 |
| 2 | その中、たとえ敵意を持っていたとしても、 <u>僕に挨拶をしてくれた彼女</u> に敬意を表したい。 | <u>她向我打了招呼</u> 。就算其中带着敌意，我也想向她表示敬意。 |
| 3 | でも <u>一人の女子高生が発したとんでもない言葉</u> に、ほんの少しでも興味を持った人間は周りにいないようだった。 | 但是，周围好像没有人对一个女高中生说出的惊人之语产生丁点儿兴趣。 |
| 4 | <u>彼女を取り巻くクラスメイト達</u> がひそひそざわざわとして中、僕は早々に彼らに注意を向けるのをやめた。 | 围着她的同学们叽叽喳喳窃窃私语，我早就决定不去注意她们。 |
| 5 | 僕は、 <u>梅酒の少し残ったコップに端が触れていたトランプ</u> を、めくる。 | 一张扑克牌的边缘碰到了还剩了一点儿梅酒的杯子，我掀开了那张扑克牌。 |
| 6 | 運良くゴミ箱には <u>上靴を汚すようなゴミ</u> は入っていませんでしたので、僕は取り出した上靴を大人しく履いて教室に戻った。 | 幸好，垃圾桶里没有会弄脏鞋子的垃圾。 |
| 7 | 前の方で親友さんと試験の結果についてはしゃいでいた彼女と、一瞬目が合った。 | 她和闺蜜在我前面兴高采烈地说着考试的结果，我与她有一瞬间视线相交。 |
| 8 | 彼女の行動に気がついた親友さんが困惑の表情を浮かべていたので、僕は彼女から目を逸らした。 | 闺蜜注意到了她的举动，露出困惑的表情。于是我将视线从她身上移开。 |
| 9 | <u>広い部屋の中、柔らかい光を放つシャンデリアの下で踊るように回った後、おかしなことを言った彼女</u> を、僕は睨みつけた。 | <u>宽敞的房间里，水晶吊灯散发出柔和的光，她在灯下像跳舞一样旋转，旋转之后又说了奇怪的话</u> 。我狠狠瞪了她一眼。 |
| 10 | <u>教室の前に立つ僕ら</u> にそれなりの数の視線が向いていると分かったけど、やっぱり無視した。 | 我知道有好几个人正看着站在教室前的我们，但我不予理会。 |

| 番号 | 日本語原文 | 中国語訳文 |
|----|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 11 | 彼女が僕に興味を持ってきている理由も分からない。 | 我不知道理由。 <u>她对我感兴趣。</u> |
| 12 | そういえば君を捜しにきたクラスメイトがいたよ。 | 说起来，有同学来找过你呢。 |
| 13 | 昨日、男の子から愛の告白を受けた私にそんなこと言っているのかな。 | 昨天还有男同学向我告白了。你对我说这种话合适吗？ |
| 14 | まぶたと口を大きく開いた彼女を見て、僕は満足する。 | 我看到她目瞪口呆，感到心满意足。 |
| 15 | 購買意欲をあおる絶妙な場所に設置された自動販売機に負けるのは悔しかった。 | 自动售货机被摆放在刺激购买欲的绝妙地点，我败给了它很不甘心。 |
| 16 | 呪いの言葉をかけてくる彼女をねめつけると、彼女は唇を歪めて変な顔をした。 | 我狠狠瞪了一眼 <u>诅咒我的她</u> ，她嘴角一歪露出奇怪的表情。 |
| 17 | ふらっと立ちあがった彼女は本棚に近づいた。 | 突然起身的她走向了书架。 |
| 18 | ベッドの上に散らばった将棋の駒を拾いながら外を見ると、まだ激しい雨が降っていた。 | 我边捡着散落在床上的棋子，边向窗外望去，发现外面仍旧下着大雨。 |
| 19 | 人が行き交う駅の中を、大股で歩く彼女について行く。 | 她在人来人往的车站里大步往前走，我跟在她身后。 |
| 20 | 宿をともにし、部屋に上がり込んだ僕が勘違いをして彼女に恋すると、もしかして彼女はそれを危惧していたのだろうか。 | 我跟她一起过了夜、还进了她的房间，难道她是在担心我可能因此会错意，喜欢上她了吗？ |
| 21 | 内臓の中に沈んだ感情は、なかなか消えてくれることはなかった。 | <u>沉淀在内脏中的感情</u> 怎么都消散不去。 |
| 22 | 彼女の命の価値の証として、たくさんの人の涙に包まれているのであろうお葬式にも、昨日の夜の通夜にも僕は行かなかった。 | 她的葬礼应该会被众人的泪水包围，证明她生命的价值。无论是葬礼还是昨晚的守灵，我都没有去。 |
| 23 | 困った笑顔のままこちらをちらちらと窺っていた彼女に、僕はなんとはなしに頷いてみせた。 | 她带着为难的笑容瞥向这边，我不由自主地冲她点点头。 |

| 番号 | 日本語原文 | 中国語訳文 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 25 | 「僕の小さな内臓に、 <u>君を救うなんていう重荷</u> は背負わせられないな」 | 我小小的内脏，没法背负 <u>拯救你的重任</u> 啦。 |
| 26 | 僕らはいつものように先生と世間話をして、お 茶とお菓子をいただきながら <u>明日から二週間は</u> <u>学校に来なければならない不遇</u> を嘆いて、下校 することにした。 | 我们跟平常一样和老师闲聊，喝着茶吃着点 心，哀叹一下 <u>悲惨的命运</u> ——从明天开始两 <u>星期都必须天天来学校</u> ，然后就离开了。 |
| 27 | 彼女は、 <u>人間の量にまいつている様子もなく元</u> 気そのものだった。 | 她全然不 <u>在意人潮汹涌</u> ，精神极了。 |
| 28 | 君は <u>僕と会話しようっていう気</u> があるの？ | 你 <u>打算和我说话</u> 吗？ |
| 29 | <u>コントローラのボタンを押すだけで画面の中の</u> <u>人間が簡単に相手を傷つけ、傷つけられる様を</u> 楽しむ。 | 我享受这样的 <u>状态</u> ： <u>只需要按下遥控器的按</u> <u>钮，画面中的人物就可以轻易地伤害对方，</u> <u>或被对方伤害。</u> |
| 30 | 世の中には <u>大病を治すのではなく、寄り添うと</u> <u>いう闘病法</u> があるというのはどこかで聞いたこ とがあった。 | 我曾听说过世上有一种 <u>和疾病斗争的方法</u> ， <u>不是治疗重病，而是与它共存。</u> |
| 31 | 「【仲良し】くんはさ、 <u>彼女作る気</u> はないの？」 | “交情好的同学”，你不 <u>打算交女朋友</u> 吗？ |
| 32 | 「私を彼女にする <u>気</u> は、何があってもないよ ね？」 | 不管发生了什么，你都不 <u>打算让我当你的女</u> <u>朋友</u> 对吗？ |
| 33 | <u>くすり、彼女が笑った気</u> がする。 | 我 <u>感觉她轻笑</u> 了一声。 |
| 34 | <u>ほこりっぽい空間で本棚に並べられた書籍達の</u> <u>順番が正しいものか確認</u> するという、 <u>図書委員</u> <u>としての任務</u> を忠実にこなしている最中に、山 内桜良がおかしな告白をしてきた。 | <u>图书委员的工作，就是在灰尘满布的空间里，</u> <u>检查书架上的书籍排列顺序是否正确。</u> 我正 认真地执行图书委员的任务时，山内樱良突 然说了句奇怪的话。 |
| 35 | 「小学生くらいからかな、僕には <u>友達</u> って <u>いう</u> <u>のがいた記憶</u> がない」 | 大概是从小学的时候开始吧，我就不记得 有过朋友。 |
| 36 | 僕の下承なんて最初から必要ないという調子 で、彼女は手を振りながら僕の帰路とは反対側 に歩いていった。 | 她从一开始就不需要我的同意。她挥了挥手， 朝着与我相反的方向走去。 |

| 番号 | 日本語原文 | 中国語訳文 |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 37 | つまり、人はまた人として生きる時間を延ばす能力を得た。 | 也就是说，人类获得了一种能力，能够延长人像人一样活着的时间。 |
| 38 | 四時間目までの試験を終えて、今回もクラス平均より少し上くらいの点数を上手く取れているだろうという予感を得てから、僕は特に誰とコミュニケーションをとることもなく掃除をし、帰りの準備をした。 | 第四堂考试结束后，我预感这次应该也能考到一个略高于全班平均分的分数。我没有和任何人说话，打扫了教室，准备回家。 |
| 39 | 「人に食べてもらおうと魂がその人の中で生き続けるって信仰も外国にあるらしいよ」 | 外国好像也有人相信，一个人吃掉另一个人，亡者的灵魂便会继续活在他的体内。 |
| 40 | 当然最初から自分の食べられる分だけしか注文していないので、彼女のようにサイドメニューでテーブルを埋めるという愚行は犯さない。 | 当然，我最开始时就只点了自己吃得下的份量，所以不会像她一样，犯下点了满桌子配菜的蠢事。 |
| 41 | この人本当にもうすぐ死ぬのか？ という疑念が湧いてくるけれど、以前に色々と正式な紙を見せてもらったので、疑いの余地はない。 | 我心生疑念——这个人真的马上就要死了吗？不过她之前让我看过各种正式的文件，确实毫无怀疑的余地。 |
| 42 | 「臍臓やっちゃったら意味ない嘘ついていいっていうルールはないからね」 | 没人规定臍脏坏掉了就可以随便说谎吧！ |
| 43 | 善し悪しの問題ではなく、(僕は) 彼女がじっと小説を読んでいる姿が想像できなかった。 | 这不是好坏的问题，而是我无法想像她在静静地看着小说。 |
| 44 | 明日友達と遊ぶ約束はあるよ | 明天我跟朋友约好了出去玩儿呢。 |
| 45 | 「それに君の病気がばれないようにっていう配慮もあったんだから、君のように意味のない嘘をついたわけじゃない。褒められこそすれ怒られる筋合いはないよ」 | 会这么说也是考虑到要替你保守生病的秘密，跟你所说的那种毫无意义的谎言不一样。 |
| 46 | 十回が終わったら、もう二度と彼女がゲームと称する得体の知れないものには参加しないという誓いは既にたてた。 | 我已经立下誓言，十次结束后，再也不和她玩儿这种不知所谓的游戏了。 |
| 47 | 僕は演技力を鍛える決意をする。 | 我决定要锻炼演技。 |

| 番号 | 日本語原文 | 中国語訳文 |
|----|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 48 | 僕は今回の旅行中の支払いを絶対返済の条件付きで彼女に任せるという協定を結んでいた。 | 我与她缔结了协定：这次旅行都听她的，但是之后我一定要还给她旅行的开销。 |
| 49 | 彼らつまり、あの明朗快活で元気潑刺、クラスの人気者の彼女が、クラス随一の地味で根暗な少年と休みの日にお茶をしていた謎を解き明かしたいらしかった。 | 也就是说，他们都想解开一个谜题：那个开朗活泼、精神百倍、在班上大受欢迎的女生，为什么会和班上最最阴郁、平凡的少年在假日一起去喝咖啡。 |
| 50 | 「というか私、君のことなんにも知らない気がする」 | 如此说来，我感觉好像对你一无所知。 |

付録2 母語話者による各訳文の品質評価

| 番号 | Good(人) | Fair(人) | Acceptable(人) | Incorrect(人) |
|----|---------|---------|---------------|--------------|
| 1 | 1 | 8 | 1 | 1 |
| 2 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | 6 | 5 | 0 | 0 |
| 4 | 8 | 3 | 0 | 0 |
| 5 | 8 | 2 | 1 | 0 |
| 6 | 5 | 5 | 1 | 0 |
| 7 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 8 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | 4 | 5 | 2 | 0 |
| 10 | 8 | 3 | 0 | 0 |
| 11 | 7 | 2 | 2 | 0 |
| 12 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 13 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 14 | 9 | 0 | 1 | 1 |
| 15 | 5 | 5 | 1 | 0 |
| 16 | 3 | 6 | 2 | 0 |
| 17 | 2 | 3 | 6 | 0 |
| 18 | 9 | 2 | 0 | 0 |
| 19 | 9 | 1 | 1 | 0 |
| 20 | 6 | 4 | 0 | 1 |
| 21 | 4 | 4 | 3 | 0 |
| 22 | 2 | 4 | 5 | 0 |
| 23 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 24 | 5 | 4 | 0 | 2 |
| 25 | 10 | 1 | 0 | 0 |
| 26 | 7 | 4 | 0 | 0 |

| 番号 | Good(人) | Fair(人) | Acceptable(人) | Incorrect(人) |
|----|---------|---------|---------------|--------------|
| 27 | 7 | 4 | 0 | 0 |
| 28 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 29 | 10 | 1 | 0 | 0 |
| 30 | 8 | 1 | 2 | 0 |
| 31 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 32 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 33 | 9 | 2 | 0 | 0 |
| 34 | 5 | 6 | 0 | 0 |
| 35 | 7 | 4 | 0 | 0 |
| 36 | 9 | 2 | 0 | 0 |
| 37 | 2 | 4 | 2 | 3 |
| 38 | 9 | 2 | 0 | 0 |
| 39 | 7 | 3 | 0 | 1 |
| 40 | 4 | 6 | 1 | 0 |
| 41 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 42 | 8 | 3 | 0 | 0 |
| 43 | 10 | 1 | 0 | 0 |
| 44 | 10 | 1 | 0 | 0 |
| 45 | 9 | 1 | 1 | 0 |
| 46 | 6 | 4 | 0 | 1 |
| 47 | 9 | 2 | 0 | 0 |
| 48 | 4 | 6 | 0 | 1 |
| 49 | 9 | 2 | 0 | 0 |
| 50 | 9 | 2 | 0 | 0 |
| 合計 | 379 | 128 | 32 | 11 |

参考文献

日本語の文献：

- 庵功雄(2001)『新しい日本語学入門:ことばのしくみを考える』東京:スリーエーネットワーク
- 井上和子(1976)『変形文法と日本語(上):統語構造を中心に』東京:大修館書店
- 遠藤紹徳(1989)『中日翻訳表現文法:中文日訳・日文中訳の原点とテクニック』東京:バベル・プレス
- 遠藤紹徳、武吉次朗編著(1990)『新編・東方中国語講座(翻訳編)』東京:東方書店
- 王唯斯(2019)「芥川龍之介『羅生門』と『鼻』の中国語訳について—魯迅訳と1970年代以降の翻訳成果の懸隔」『言語文化研究科紀要』第5号 pp.77-78 東京:文教大学大学院
- 大島資生(2008)「連体修飾節と主節の時間的關係について」『日本語文法』第8巻1号
東京:くろしお出版
- 大島資生(2010)『日本語連体修飾節構造の研究』東京:ひつじ書房
- 大島資生(2011)「日本語連体修飾節構造の時制解釈について——修飾節・主節がともにタ形述語ももつ場合——」『日本語文法』第11巻1号 東京:くろしお出版
- 奥津敬一郎(1974)『生成日本文法論—名詞句の構造』東京:大修館書店
- 奥津敬一郎(2007)『連体即連用?—日本語の基本構造と諸相』東京:ひつじ書房
- 加藤重広(2003)『日本語修飾構造の語用論的研究』東京:ひつじ書房
- 北原保雄編(2010)『明鏡国語辞典 第二版』東京:大修館書店
- 金水敏(1986)「連体修飾成分の機能」『松村明教授古稀記念国語研究論集』東京:明治書院
- 小泉保(2007)『日本語の格と文型—結合価理論にもとづく新提案』東京:大修館書店
- 国立国語研究所(1997)『日本語における表層格と深層格の対応関係』東京:三省堂
- 斎藤浩美(2002)「連体修飾節の習得に関する研究の動向」『言語文化と日本語教育. 増刊特集号 第二言語習得・教育の研究最前線』pp. 45-69 東京:お茶の水女子大学日本言語文化学会
(https://teapot.lib.ocha.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=40595&item_no=1&page_id=64&block_id=115)
- 譙俊凱(2016)『日本語の授受補助動詞構文に関する日中翻訳規則の作成』筑波大学博士(言語学) 学位論文

- 下地早智子(2014)「中国語の連体修飾節の構造と意味」『日本語複文構文の研究』pp. 591-615 東京：ひつじ書房
- Jeremy Munday 著、鳥飼玖美子監訳(2009)『翻訳学入門』 東京：みすず書房
- 小学館国語辞典編集部(2000)『日本国語大辞典(第二版)』 東京：小学館
- 周振、Alastair Butler、吉本啓(2016)「中国語連体修飾節構文の解析」『言語処理学会第22回年次大会 発表論文集』 pp. 809-812
(https://www.anlp.jp/proceedings/annual_meeting/2016/pdf_dir/B5-1.pdf)
- ソムキャット チャウエンギジワニッシュ(1997)「連体修飾節の機能「限定」「非限定」について」『筑波応用言語学研究 4』 茨城：筑波大学応用言語学研究室
- ソムキャット チャウエンギジワニッシュ(2002)『「限定」「非限定」の連体修飾節の研究：日本語とタイ語の対照』筑波大学博士(言語学) 学位論文
- 孫海英(2009)『日本語と中国語の動詞句連体修飾節の構文と機能』黒龍江：黒龍江人民出版社
- 高村大也(2010)『言語処理のための機械学習入門』 東京：コロナ社
- 寺村秀夫(1992)『寺村秀夫論文集 I』 東京：くろしお出版(寺村(1977)、寺村(1983)を収録する)
- 鄧敏君(2008)「日本語・中国語間の翻訳テキストにおける文長の傾向—双方向パラレルコーパスを用いた翻訳行為の特徴の分析—」『翻訳研究への招待』No. 2pp. 133-146
(http://honyakukenkkyu.sakura.ne.jp/shotai_vol2/09_vol2_Teng.pdf)
- 仁田義雄(1980)『語彙論的統語論』 東京：明治書院
- 仁田義雄、村木新次郎、柴田方良、矢澤真人(2000)『文の骨格』 東京：岩波書店
- 堀江薫・Prashant Pardeshi (2009)『言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ—』 東京：研究社
- 益岡隆志(1995)「連体節の表現と主名詞の主題性」『日本語の主題と取り立て』pp. 139-153
東京：くろしお出版
- 益岡隆志(1997)『複文』 東京：くろしお出版
- 益岡隆志(2000)『日本語文法の諸相』 東京：くろしお出版
- 益岡隆志(2010)「連体節表現の構文と意味」『言語』38巻1号 pp. 18-25 東京：大修館書店
- 宮田玲、藤田篤(2017)「機械翻訳向けプリエディットの有効性と多様性の調査」『通訳翻訳研究への招待』No. 18, pp. 53-72

(http://honyakukenkyu.sakura.ne.jp/shotai_vol118/No_18-003-Miyata-Fujita.pdf)

- 劉月華、潘文娛、故鞏著、相原茂監訳(1991)『現代中国語文法総覧』くろしお出版
- Lucien Tesnière 著、小泉保監訳(2007)『構造統語論要説』東京：研究社
- 山田留里子(1999)『日中両国語の連体修飾に関する比較研究』北京：北京大学出版社
- 楊凱榮(2011)「日中連体修飾節の相違に関する考察」《漢日対比言語学論丛》第2輯
北京：北京語言大学出版社

中国語の文献：

- 北原保雄編、于日平、徐一平主編(2012)《明鏡日漢詞典》北京：高等教育出版社
- 程書秋(2013)《現代漢語多項式定中短語優先序列研究》北京：中國社會科學出版社
- 崔宓賢(2002)《現代漢語定語的語序認知研究》北京：中國社會科學出版社
- 孔繁明(2004)《日漢翻譯要義》北京：中國對外翻譯出版公司
- 劉穎編著(2014)《統計語言學》北京：清華大學出版社
- 劉月華、潘文娛、故鞏(2004)《實用現代漢語語法》北京：外語教學與研究出版社(劉月華、
潘文娛、故鞏(1983)を収録する)
- 劉星光主編(2015)《中國機器翻譯研究述評：問題與對策》北京：科學出版社
- 劉丹青主編(2012)《名詞性短語的類型學研究》北京：商務印書館
- 劉宓慶(2005)《新編當代翻譯理論》北京：中國對外翻譯出版公司
- 商務印書館辭書研究中心(編)(2010)《現代漢語學習詞典》北京：商務印書館
- 袁毓林(2010)《漢語配價語法研究》北京：商務印書館
- 朱德熙(1980)《現代漢語語法研究》北京：商務印書館
- 朱德熙(1984)《定語和狀語》上海：上海教育出版社
- 周明主編(1984)《日漢翻譯教程》上海：上海外語教育出版社

英語の文献：

- Keenan E. L. & Comire B. (1977). "Noun Phrase Accessibility and Universal Grammar." *Linguistic Inquiry* Vol. 8 (1). pp. 63-99. Massachusetts: The MIT Press (Keenan & Comire (1972) を収録する)
- Venuti Lawrence (1998). *The Scandals of Translation: Towards an Ethics of Difference*. London & New York: Routledge.

Wang Luming & Horie Kaoru & Prashant Pardeshi (2009). "Toward a Functional Typology of Noun Modifying Constructions in Japanese and Chinese: A Corpus-Based Account." *Studies in Language Sciences* 8. pp. 213-228. Tokyo: Kurosio Publishers.

例文出典：

川端康成(1948)『雪国』東京：新潮文庫

小川洋子(2003)『博士の愛した数式』東京：新潮社

住野よる(2017)『君の臍臓を食べたい』東京：双葉文庫

東野圭吾(1998)『秘密』東京：文藝春秋

東野圭吾(2014)『ナミヤ雑貨店の奇跡』東京：角川文庫

前川知大(2017)『散歩する侵略者』東京：角川文庫

麻耶雄嵩(1993)『翼ある闇』東京：講談社

三浦しをん(2015)『舟を編む』東京：光文社

村田沙耶香(2016)『コンビニ人間』東京：文藝春秋

横山秀夫(2002)『半落ち』東京：講談社

川端康成著、葉渭渠訳(2009)《雪国》江蘇：訳林出版社

小川洋子著、李建云訳(2011)《博士的爱情算式》北京：人民文学出版社

東野圭吾著、章程訳(2013)《秘密》北京：化学工業出版社

東野圭吾著、李盈春訳(2014)《解忧杂货店》海南：南海出版公司

麻耶雄嵩著、張舟訳(2014)《有翼之暗》北京：新星出版社

村田沙耶香著、吳曦訳(2018)《人間便利店》湖南：湖南文藝出版社

横山秀夫著、王維幸訳(2013)《半落》海南：南海出版公司

各章と既発表論文の関係

第1章 新規執筆

第2章 新規執筆

第3章

谷文詩 (2019) 「被修飾語の意味役割から見る日本語関係節の翻訳—翻訳パターンとブリエディットルールの作成—」『筑波日本語研究』第23号

谷文詩 (2018) 「主節における被修飾語の構文機能から見る日本語関係節の機械翻訳」第十屆漢日對比語言學研討會，蘇州大學（中國）。

谷文詩 (2017) 「日中連体修飾節構文の対応関係と翻訳規則—「内の関係」の連体修飾節を中心に—」日本通訳翻訳学会第18回年次大会，愛知大学

第4章

谷文詩 (2018) 「連体修飾節と被修飾語の意味関係から見る日本語内容節の翻訳アプローチ—機械翻訳を中心に—」日本通訳翻訳学会第19回年次大会，関西大学

谷文詩 (査読中) 《日语被修饰名词的结构・语义功能与“内容节+被修饰名词”的翻译模式选择——以“事实”和“恐れ”为例》《日语学习与研究》(中国)

第5章

谷文詩 (2018) 《日语三价动词定语从句的机器翻译现状分析》《汉日语言对比研究论丛》第9辑

谷文詩 (2018) 「動詞の結合価と日本語連体修飾節の中訳方法について—伝聞・伝達動詞を中心に—」韓國日本言語文化學會 2018 年度春季國際學術大會，光云大學校（韓國）

谷文詩 (2017) 《中日长定语结构特征对比研究》第九屆漢日對比語言學研討會，北方工業大學（中國）

第6章 新規執筆

第7章 新規執筆